

一次設計用

S 造、RC 造建築物の一環計算プログラム

# BST-G.TM3

入力偏 第1版(暫定版)

## はじめに

この説明書はパブリックユースプログラムとして開発した、ビルタイプ建築物一貫計算プログラム『BST-G89T』について説明したものです。

本書は、『BST-G89T』の入力項目についての説明書です。

## 注意

1. 本書内容の一部あるいは全部の無断転載および複写を禁じています。
2. 本書内容は予告なく変更することがありますが、予めご了承ください。
3. 本書内容につきましては万全を期していますが、万が一お気づきの点がございましたら弊社までお問い合わせください。
4. 運用に際しましては、事前に表記されている内容の技術的な前提条件を充分ご理解ください。
5. 建築基準法、同施行令の改正または各地域による行政庁ごとの指導等によりプログラムの一部に機能不備等が発生しましても、弊社は一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。
6. 本プログラムの使用によって生ずる利益もしくは損失について、弊社は一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。
7. 『BST-G89T』として提供される媒体に収録されているプログラム、データファイルおよび説明書、資料等一切の著作権、所有権および販売権は全て株式会社エー・エス・ディーに帰属します。貴殿は弊社から許諾を受けた使用権に基づき、このパッケージプログラムを指定装置においてのみ使用することができます。

# 目 次

1.	入力	1
1.1	一般入力	1
1.2	工事名等入力	1
1.3	コマンド入力	1
1.4	表示	3
1.5	荷重	4
1.6	省略時解釈	5
1.7	注意	5
2.	準備計算	7
2.1	概要	7
2.2	入力データ制限	7
2.3	入力データ内容	19
3.	剛性計算	149
3.1	概要	149
3.2	入力データ制限	149
3.3	入力データ内容	152
4.	応力計算	177
4.1	概要	177
4.2	入力データ制限	177
4.3	入力データ内容	179
5.	断面計算	189
5.1	概要	189
5.2	入力データ制限	189
5.3	入力データ内容	200

# 1. 入力

## 1. 1 一般入力

各項目のデータを入力し $\square$ キーを押します。表示されているデータと同じ場合は、置数なしで $\square$ キーだけを押します。(以降「空打」とします。)  
キーを押し間違えた場合は、BSまたは DELキーを押すと1文字つづ消されます。

## 1. 2 工事名等入力

工事名等の入力は、文字入力とします。  
漢字の入力方法については、使用する漢字辞書により異なります。NECDICを使用する場合は、ユーザズマニュアルの日本語処理を参照してください。表示されている工事名等と同じ場合は、「空打」入力が行えます。

## 1. 3 コマンド入力

コマンドは、下記に示すファンクションキーに登録されている7種類と、矢印キー、ROLL UP およびROLL DOWN キーがあります。

f・1	〔先頭〕
概要	入力中の項目の最初の行に戻ります。
動作	f・1を押すと、入力中の最初の行の入力に戻ります。
f・2	〔表示〕
概要	入力されているデータを指定された行番号からディスプレイに表示します。
動作	f・2を押すと、表示させたい行番号nの入力に移ります。 行番号nを入力すると、ディスプレイに行番号nよりディスプレイに表示できる行分表示され、行番号nの入力に移ります。
f・3	〔挿入〕
概要	カーソルがある行に新しい行を挿入します。
動作	f・3を押すと、カーソルがある行に新しい行を挿入し、その行の入力に移ります。
f・4	〔削除〕
概要	カーソルがある行を削除し、後のデータを前に詰めます。
動作	f・4を押すと、カーソルがある行を削除し後のデータを前に詰め、その行の入力に移ります。
f・5	〔複写〕
概要	カーソルがある行に指定された行のデータを複写します。
動作	f・5を押すと、複写元の行番号nの指定となります。行番号なしで $\square$ のみの場合は、前の行を複写します。



f・6 [中止]	
概要	入力されたデータを全て無効とし、項目選択へ戻る。
動作	f・6を押すと、その項目の入力を終了しデータの記録をしないで、項目選択に戻ります。
f・10 [終了]	
概要	入力されたデータを記録し、項目選択へ戻る。
動作	f・10を押すと、その項目の入力を終了しデータの記録を行い、項目選択に戻ります。
⇒	
概要	次の項に移る。
動作	⇒を押すと、次の項にカーソルが移動します。
⇐	
概要	前の項に移る。
動作	⇐を押すと、前の項にカーソルが移動します。
↑	
概要	前の行に移る。
動作	↑を押すと、前の行にカーソルが移動します。
↓	
概要	次の行に移る。
動作	↓を押すと、次の行にカーソルが移動します。
ROLL UP	
概要	前の入力画面に移る。
動作	ROLL UP を押すと、前の入力画面に移ります。
ROLL DOWN	
概要	次の入力画面に移る。
動作	ROLL DOWN を押すと、次の入力画面に移ります。

表 1.1 コマンド一覧表

\*注意 項目によっては、使用出来ないコマンドがあります。  
ディスプレイに表示されていないコマンドは、使用できません。

## 1. 4 表示

層 : スラブ上端面、はり上端面または、はりを配置した水平面を指し、最下層を1層とし、上層へ順次2層3層... とします。

階 : 層から層の間を指し、最下階を1階とし上階へ順次2階3階... とします。

フレーム : はり、柱で構成されるラーメン一面を指します。

軸 : フレームに対して直行方向のフレーム番号を指します。

スパン : 軸から軸の間を指します。

フレーム番号としては、X方向1~31 Y方向 101~131 の番号を付けます。番号を付けていく方向は、X方向は手前から向こう側へ、Y方向は左側から右側へとします。フレームを見る方向はX方向フレームは手前側から、Y方向フレームは右側からとします。

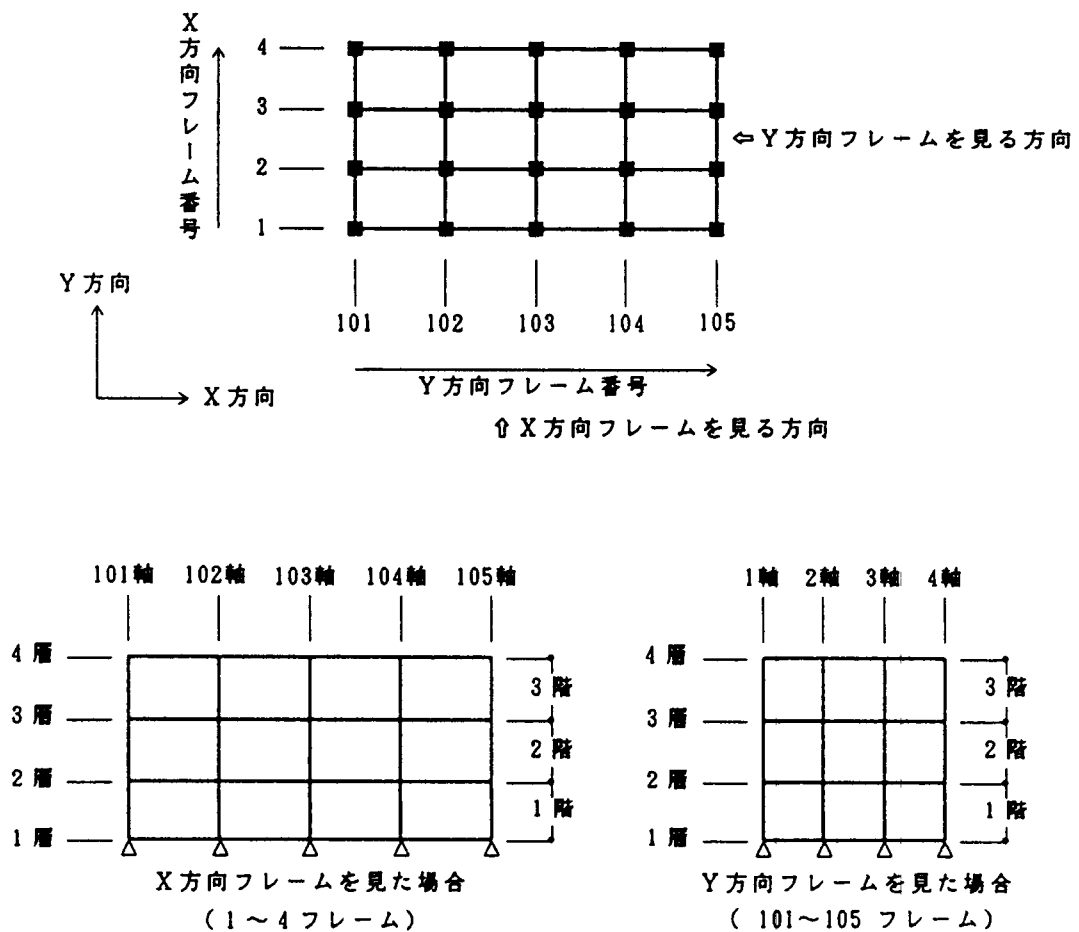


図 1.1 表示

### 1. 5 荷重

荷重の符号は、下図に示す方向を⊕とします。

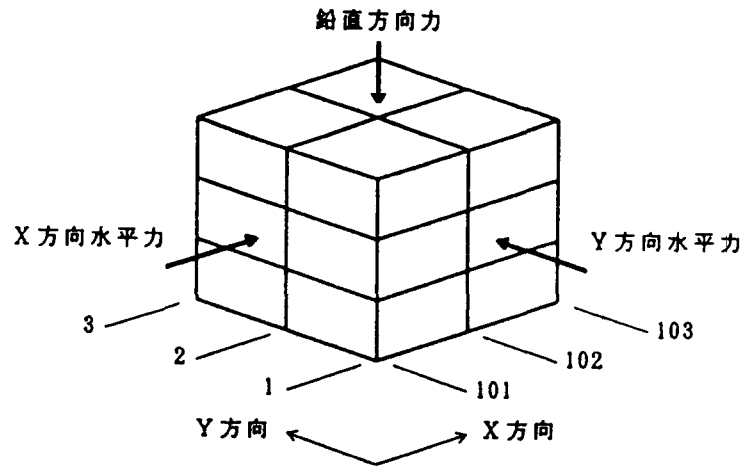


図 1.2 荷重符号

はりおよび柱の応力符号について下図に示します。

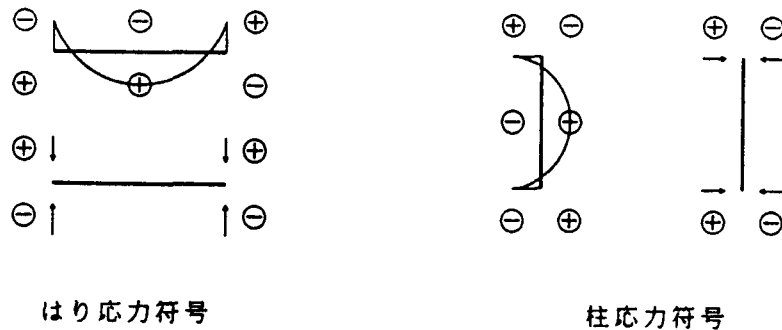


図 1.3 部材応力符号

## 1. 6 省略時解釈

省略時解釈とは、入力値が「0」の場合の内部での解釈値を示します。

## 1. 7 注意

繰り返しデータを入力する項目（例えば、はり配置等）については、1データ目が「0」以前のデータが有効となり、それ以降のデータは無効となります。



## 2 . 準 備 計 算

### 2. 1 概要

建築物の計算に必要な、部材データおよび建築物形状データの入力項目の説明です。

### 2. 2 入力データ制限

入力データの単位および桁数の制限を表 2.1に示します。(D:入力値)

項 目 名	項 目		単 位	入 力 値 制 限		
				範 囲	整 数 部	小 数 部
P- 1 一般事項	1	工事名	文 字			
	2	建築場所	文 字			
	3	建築面積	m <sup>2</sup>	0 ≤ D	6	2
	4	延床面積	m <sup>2</sup>	0 ≤ D	6	2
	5	設計者	文 字			
	6	備考	文 字			
P- 2 建物規模	1	X方向スパン数		1 ~ 30	2	—
	2	Y方向スパン数		1 ~ 30	2	—
	3	全階数		1 ~ 20	2	—
	4	塔屋階数		1 ~ 20	2	—
	5	地下階数		1 ~ 20	2	—
	6	X方向構造種別			2	—
	7	Y方向構造種別			2	—
P- 3 階名称	1	階名称	文 字			
	2	層名称	文 字			
P- 4 軸名称	1	X方向	文 字			
	2	Y方向	文 字			
P- 5 階高	1	階高	m	0 < D	2	3
	2	構造階高 X方向	m	0 ≤ D	2	3
	3	構造階高 Y方向	m	0 ≤ D	2	3
P- 6 スパン長さ	1	X方向	m	0 < D	2	3
	2	Y方向	m	0 < D	2	3
P- 7 節点の鉛直移動指定	1	層			2	—
	2	層			2	—
	3	フレーム			3	—
	4	フレーム			3	—
	5	軸			3	—
	6	軸			3	—
	7	一般	m		2	3
	8	X構造	m		2	3
	9	Y構造	m		2	3

P- 8 最外周斜め軸 指定	1	左下 X1	m		2	3
	2	Y1	m		2	3
	3	右下 X2	m		2	3
	4	Y2	m		2	3
	5	左上 X3	m		2	3
	6	Y3	m		2	3
	7	右上 X4	m		2	3
	8	Y4	m		2	3
P- 9 節点の水平移 動指定	1	フレーム			3	-
	2	軸			3	-
	3	軸			3	-
	4	L1	m		2	3
	5	L2	m		2	3
P-10 斜め柱指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	軸			3	-
	5	軸			3	-
	6	L	m		2	3
P-11 フレーム角度 指定	1	フレーム			3	-
	2	角度	°		2	3
P-12 仮定層指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	分担率		$0 \leq D \leq 1$	1	3
P-13 各階床面積	1	階			2	-
	2	階			2	-
	3	床面積	m <sup>2</sup>	$0 < D$	6	2
P-14 コンクリート 材料	1	材料NO.			2	-
	2	材種		0 ~ 5	1	-
	3	Fc	kg / cm <sup>3</sup>	0 W D	3	-
	4	G, C	t / m <sup>3</sup>	0 W D	2	3
	5	S, CG, W	t / m <sup>3</sup>	0 W D	2	3
	6	E	t / cm <sup>2</sup>	0 W D	4	3
	7	G	t / cm <sup>2</sup>	0 W D	4	3
P-15 コンクリート 材料配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	材料NO.			2	-
P-16 標準剛度	1	KoX	kg/cm	0 W D	4	-
	2	KoY	kg/cm	0 W D	4	-

P-17 地震データ	1	地域係数		0 ~ D	1	3
	2	地盤種別		0 ~ 3	1	1
	3	CoX		0 ~ D	1	3
	4	CoY		0 ~ D	1	3
	5	応力用塔屋CiX		0 ~ D	1	3
	6	塔屋CiY		0 ~ D	1	3
	7	断面用塔屋CiX		0 ~ D	1	3
	8	塔屋CiY		0 ~ D	1	3
	9	GL層CiX		0 ~ D	1	3
	10	GL層CiY		0 ~ D	1	3
	11	Tの計算方法		0 ~ 2	1	1
	12	TX	秒	0 ~ D	1	3
	13	TY	秒	0 ~ D	1	3
	14	$\alpha X$		0 ~ D ~ 1	1	3
	15	$\alpha Y$		0 ~ D ~ 1	1	3
	16	HX	m	0 ~ D	2	3
	17	HY	m	0 ~ D	2	3
	18	hx	m		2	3
	19	hy	m		2	3
	20	判別高さ (X)	m	0 ~ D	2	3
	21	判別高さ (Y)	m	0 ~ D	2	3
	22	地下への (X)	m	0 ~ D	1	3
	23	伝達率 (Y)	m	0 ~ D	1	3
P-18 層せん断力係数直接指定	1	CiX		0 ~ D	1	3
	2	CiY		0 ~ D	1	3
P-19 積載荷重	1	積載NO.		51~99	2	1
	2	スラブ用	kg/m <sup>2</sup>		4	1
	3	小ばり用	kg/m <sup>2</sup>		4	1
	4	ラーメン用	kg/m <sup>2</sup>		4	1
	5	地震用	kg/m <sup>2</sup>		4	1
P-20 荷重計算指定	1	積載低減処理		0 ~ 2	1	1
	2	最下層処理		0 ~ 2	1	1
	3	積雪荷重		0 ~ 2	1	1
	4	風荷重		0 ~ 2	1	1
	5	$\alpha 1$		0 ~ D	1	3
	6	$\alpha 2$		0 ~ D	1	3
	7	$\alpha 3$		0 ~ D	1	3
	8	$\alpha 4$		0 ~ D	1	3
P-21 べた基礎の指定	1	層			2	1
	2	7L-4			3	1
	3	7L-4			3	1
	4	軸			3	1
	5	軸			3	1
P-22 速度圧	1	低減率 X		0 ~ D	1	3
	2	低減率 Y		0 ~ D	1	3
	3	処理		0 ~ 4	1	1
	4	速度圧 X	kg/m <sup>2</sup>	0 ~ D	3	1
	5	速度圧 Y	kg/m <sup>2</sup>	0 ~ D	3	1
P-23 風力係数	1	係数NO.		1 ~ 99	2	1
	2	係数 1			1	3
	3	係数 2			1	3



P-24 風力係数配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7V-A			3	-
	4	7V-A			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	係数NO.		1 ~ 99	2	-
P-25 はり仕上げ重量	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	RC, SRC	kg/m <sup>2</sup>		3	-
	4	S	kg/m		3	-
P-26 柱仕上げ重量	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	RC, SRC	kg/m <sup>2</sup>		3	-
	4	S	kg/m		3	-
P-27 鋼材形状	1	鋼材NO.		3001 ~ 3500	4	-
	2	TYP		1 ~ 11	2	-
	3	P1	mm		4	1
	4	P2	cm <sup>2</sup>		4	1
	5	P3	cm		4	1
	6	P4	°		4	1
	7	P5			4	1
P-28 はり形状 (S)	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	TBL NO.			4	-
	3	Wo	kg/m		3	-
	4	L JCD	tm/rad	0 W D	5	3
	5	R JCD	tm/rad	0 W D	5	3
	6	φ		0 W D	2	3
P-29 はり形状 (RC, SRC)	1	形状NO.		101 ~ 299	3	-
	2	BC	cm	0 < D	3	1
	3	DC	cm	0 < D	3	1
	4	BL	cm	0 W D	3	1
	5	DL	cm	0 W D	3	1
	6	BR	cm	0 W D	3	1
	7	DR	cm	0 W D	3	1
	8	HL	cm	0 W D	3	1
	9	HR	cm	0 W D	3	1
	10	TL	cm	0 W D	2	1
	11	TR	cm	0 W D	2	1
	12	Wo	kg/m <sup>2</sup>		3	-
	13	L JCD	tm/rad	0 W D	5	3
	14	R JCD	tm/rad	0 W D	5	3
	15	φ		0 W D	2	3
	16	β		0 W D	1	3
	17	κ		0 W D	1	3

P-30 柱形状 (S)	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	TBL NO.			4	-
	3	DIR		0 ~ 2	1	-
	4	Wo	kg/m		3	-
	5	接合状態 TX	tm/rad	0 ≦ D	4	3
	6	TY	tm/rad	0 ≦ D	4	3
	7	BX	tm/rad	0 ≦ D	4	3
	8	BY	tm/rad	0 ≦ D	4	3
	9	φ X		0 ≦ D	2	3
	10	φ Y		0 ≦ D	2	3
P-31 柱形状 (RC, S RC)	1	形状NO.		101 ~ 299	3	-
	2	DX	cm	0 < D	3	1
	3	DY	cm	0 ≦ D	3	1
	4	Wo	kg/m <sup>2</sup>		3	-
	5	接合状態 TX	tm/rad	0 ≦ D	4	3
	6	TY	tm/rad	0 ≦ D	4	3
	7	BX	tm/rad	0 ≦ D	4	3
	8	BY	tm/rad	0 ≦ D	4	3
	9	φ X		0 ≦ D	2	3
	10	φ Y		0 ≦ D	2	3
	11	β X		0 ≦ D	1	3
	12	β Y		0 ≦ D	1	3
	13	κ X		0 ≦ D	1	3
	14	κ Y		0 ≦ D	1	3
P-32 壁形状 (CB, ALC 等)	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	W	kg/m <sup>2</sup>		3	-
	3	処理		0 ~ 3	1	-
P-33 壁形状 (RC)	1	形状NO.		101 ~ 199	3	-
	2	壁厚	cm	0 < D	2	1
	3	W	kg/m <sup>2</sup>		3	-
	4	処理		0 ~ 3	1	-
	5	β		0 ≦ D	1	3
	6	κ		0 ≦ D	1	3
P-34 壁開口形状	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	Wo	kg/m <sup>2</sup>		3	-
	3	SL	cm	0 ≦ D	3	1
	4	SH	cm	0 ≦ D	3	1
	5	処理		0 ~ 2	1	-
	6	TYP		1 ~ 20	2	-
	7	開口		0 ~ 5	1	-
	8	L1	m	0 ≦ D	2	3
	9	L2	m	0 ≦ D	2	3
	10	L3	m	0 ≦ D	2	3
	11	L4	m	0 ≦ D	2	3
P-35 プレース形状	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	TYP		0 ~ 4	1	-
	3	BA1	cm <sup>2</sup>	0 < D	3	3
	4	BA2	cm <sup>2</sup>	0 ≦ D	3	3

P-36 雑壁	1	階	m m cm cm ° cm <sup>2</sup> cm <sup>2</sup> cm <sup>2</sup>	1, 2	2	-	
	2	階			2	-	
	3	方向			1	-	
	4	LX			3	3	
	5	LY			3	3	
	6	t			0 ≦ D	2	1
	7	l			0 ≦ D	3	1
	8	θ			0 ≦ D	3	1
	9	n			0 ≦ D	2	3
	10	壁量			0 ≦ 3	1	-
	11	Aw1			0 ≦ D	5	-
	12	Aw2			0 ≦ D	5	-
	13	Ac			0 ≦ D	5	-
P-37 小ばり形状 (S)	1	形状NO.	kg/m	1 ~ 99	2	-	
	2	TBL NO.		4	-		
	3	Wo		3	-		
P-38 小ばり形状 (RC)	1	形状NO.	cm cm kg/m <sup>2</sup>	101 ~ 199	3	-	
	2	B		0 < D	3	1	
	3	D		0 < D	3	1	
	4	Wo		3	-		
P-39 スラブ形状 (基本)	1	形状NO.	cm kg/m <sup>2</sup> kg/m <sup>2</sup>	1 ~ 99	2	-	
	2	DIR		0 ~ 3	1	-	
	3	t		0 ≦ D	3	1	
	4	Wo		4	-		
	5	LL		1 ~ 99	2	-	
	6	Ws		4	-		
	7	WX NO.		2	-		
	8	WY NO.		2	-		
P-40 スラブ形状 (一次まで)	1	形状NO.	m	101 ~ 199	3	-	
	2	DIR		1, 2	1	-	
	3	方法		0 ~ 2	1	-	
	4	N		2	-		
	5	S		2	-		
	6	L		0 ≦ D	2	3	
	7	B		3	-		
	8	W		2	-		
P-41 スラブ形状 (二次まで)	1	形状NO.	m	201 ~ 299	3	-	
	2	DIR		1, 2	1	-	
	3	方法		0 ~ 2	1	-	
	4	N		2	-		
	5	S		3	-		
	6	L		0 ≦ D	2	3	
	7	B		3	-		
	8	W		2	-		

P-42 スラブ形状 (その他)	1	形状NO.		301~399	3	-
	2	TYP		1, 2	1	-
	3	N1		1~9	1	-
	4	N2		0~9	1	-
	5	N3		0~9	1	-
	6	S NO.			2	-
	7	B1			3	-
	8	B2			3	-
	9	B3			3	-
P-43 片持ちばり形 状 (S)	1	形状NO.		1~99	2	-
	2	TBL			4	-
	3	Wo	kg/m		3	-
	4	L	m	0 < D	2	3
	5	L1	m	0 ≧ D	2	3
	6	P	t		3	3
	7	L2	m	0 ≧ D	2	3
	8	L3	m	0 ≧ D	2	3
	9	W	t/m		3	3
	10	W NO.			2	-
P-44 片持ちばり形 状 (RC, SRC)	1	形状NO.		101~299	3	-
	2	B	cm	0 < D	3	1
	3	D1	cm	0 < D	3	1
	4	D2	cm	0 ≧ D	3	1
	5	Wo	kg/m <sup>2</sup>		3	-
	6	L	m	0 < D	2	3
	7	L1	m	0 ≧ D	2	3
	8	P	t		3	3
	9	L2	m	0 ≧ D	2	3
	10	L3	m	0 ≧ D	2	3
	11	W	t/m		3	3
	12	W NO.			2	-
P-45 片持ちスラブ 形状	1	形状NO.		1~99	2	-
	2	TYP		1~6	1	-
	3	DIR		0~3	1	-
	4	B NO.		1~4	1	-
	5	S NO.			2	-
	6	LX	m	0 ≧ D	2	3
	7	LY	m	0 ≧ D	2	3
	8	L1	m	0 ≧ D	2	3
	9	L2	m	0 ≧ D	2	3
	10	W	t/m		3	3
	11	B1			3	-
	12	n		0~9	1	-
	13	B2			3	-
	14	Gc			3	-
P-46 パラペット 形状	1	形状NO.		1~99	2	-
	2	t	cm		3	1
	3	h	cm		3	1
	4	Wo	kg/m <sup>2</sup>		3	-
	5	係数NO.			2	-

P-47 はり配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-ム			3	-
	4	7レ-ム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			3	-
P-48 柱配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-ム			3	-
	4	7レ-ム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			3	-
P-49 壁配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-ム			3	-
	4	7レ-ム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			4	-
P-50 壁開口配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-ム			3	-
	4	7レ-ム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			3	-
P-51 ブレース配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-ム			3	-
	4	7レ-ム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			4	-
P-52 壁量配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-ム			3	-
	4	7レ-ム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	Aw1	壁		5	-
	8	Aw2	壁		5	-
	9	Ac	壁		5	-
P-53 スラブ配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-ム			3	-
	4	7レ-ム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			4	-

P-54 片持ちばり配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	DIR		1 ~ 4	1	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			3	-
P-55 片持ちスラブ配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	DIR			2	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			4	-
P-56 パラベット配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			2	-
P-57 はり特殊荷重(1)	1	荷重NO.		1 ~ 99	2	-
	2	L /TL			1	3
	3	LL/L			1	3
	4	E /TL			1	3
	5	S /TL			1	3
	6	W1/TL			1	3
	7	W2/TL			1	3
	8	TYP			2	-
	9	P1			3	3
	10	P2			3	3
	11	P3			3	3
	12	P4			3	3
	13	P5			3	3
	14	P6			3	3
P-58 はり特殊荷重(2)	1	荷重NO.		1 ~ 99	2	-
	2	L /TL			1	3
	3	LL/L			1	3
	4	E /TL			1	3
	5	S /TL			1	3
	6	W1/TL			1	3
	7	W2/TL			1	3
	8	ML	tm		3	3
	9	MR	tm		3	3
	10	QL	t		3	3
	11	QR	t		3	3
	12	Mo	tm		3	3
	13	QLo	t		3	3
	14	QLo	t		3	3

P-59 はり特殊荷重 配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7 $\nu$ - $\Delta$			3	-
	4	7 $\nu$ - $\Delta$			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	荷重NO.			3	-
	8	処理		0 ~ 2	1	-
P-60 柱特殊荷重 (1)	1	荷重NO		1 ~ 99	2	-
	2	L /TL			1	3
	3	S /TL			1	3
	4	W1/TL			1	3
	5	W2/TL			1	3
	6	TYP			2	-
	7	P1			3	3
	8	P2			3	3
	9	P3			3	3
	10	P4			3	3
	11	P5			3	3
	12	P6			3	3
P-61 柱特殊荷重 (2)	1	荷重NO.		1 ~ 99	2	-
	2	L /TL			1	3
	3	S /TL			1	3
	4	W1/TL			1	3
	5	W2/TL			1	3
	6	MB	tm		3	3
	7	MT	tm		3	3
	8	QB	t		3	3
	9	QT	t		3	3
	10	Mo	tm		3	3
	11	QB <sub>0</sub>	t		3	3
	12	QT <sub>0</sub>	t		3	3
P-62 柱特殊荷重配 置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7 $\nu$ - $\Delta$			3	-
	4	7 $\nu$ - $\Delta$			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	荷重NO.			3	-
	8	処理		0 ~ 2	1	-
P-63 柱追加荷重	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7 $\nu$ - $\Delta$			3	-
	4	7 $\nu$ - $\Delta$			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	PD	t		3	3
	8	PL	t		3	3
	9	PE	t		3	3
	10	PS	t		3	3
	11	WX1	t		3	3
	12	WX2	t		3	3
	13	WY1	t		3	3
	14	WY2	t		3	3

P-64 任意点追加荷重	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	LX	m		3	3
	4	LY	m		3	3
	5	PL	t		3	3
	6	PE	t		3	3
P-65 層追加荷重	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	EX	t		3	3
	4	EY	t		3	3
	5	WX1	t		3	3
	6	WX2	t		3	3
	7	WY1	t		3	3
	8	WY2	t		3	3
P-66 はり位置	1	UDX	cm	$0 \leq D$	3	1
	2	UDY	cm	$0 \leq D$	3	1
P-67 はり位置部分指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レベル			3	-
	4	7レベル			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	UD	cm	$0 \leq D$	3	1
P-68 小ばり計算出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レベル			3	-
	4	7レベル			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
P-69 片持ちスラブ出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	DIR			2	-
	4	7レベル			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
P-70 片持ちばり計算出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	DIR		1 ~ 4	1	-
	4	7レベル			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
P-71 はり計算出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レベル			3	-
	4	7レベル			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-



P-72 柱計算出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
P-73 はり剛性出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
P-74 柱剛性出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
P-75 壁剛性出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
P-76 出力省略指定	1	指定		0 ~ 4	1	-

表 2.1 入力データ制限表

## 2. 3 入力データ内容

以下、準備計算データ内容を項目別に説明します。

P-1 一般事項

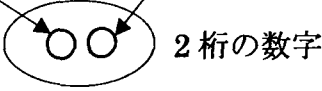
工事名等を入力します。

項 目		説 明	単 位
1	工事名	工事名 ( 50 文字以内)	
2	建築場所	建築場所 ( 50 文字以内)	
3	建築面積	建築面積	m <sup>2</sup>
4	延床面積	延床面積	m <sup>2</sup>
5	設計者	設計者または事務所名 ( 50 文字以内)	
6	備考	備考 ( 50 文字以内)	

- (1) 1項は、出力の際に表紙および各頁の頭に、5項は表紙に出力されます。  
また、1,6項は、入力データの保存をする時に、そのデータの表題として使用します。
- (2) 本項は、参考出力とし内部でのチェックには使用していません。

P-2 建物規模

構造種別および建物規模を入力します。

項 目		説 明																		
1	X 方向スパン数	X 方向のスパン数 (30 スパン以下)																		
2	Y 方向スパン数	Y 方向のスパン数 (30 スパン以下)																		
3	全 階数	地下階と塔屋階と一般階を含む全階数 (20 階以下)																		
4	塔屋階数	塔屋の階数 (≦全階数-地下階数)																		
5	地下階数	地下の階数 (≦全階数-塔屋階数)																		
6	X 方向 構造種別	<p>X 方向の構造種別を 2 桁の数字で入力します。</p> <p>十の位 一の位            地下階および GL 層の指定 地上階</p>  <table border="1" data-bbox="715 918 1241 1317"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>構造種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>S 造</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>RC 造</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SRC 造</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>S 造+RC 造</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>S 造+SRC 造</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>RC 造+SRC 造</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>S 造+RC 造+SRC 造</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	構造種別	0	なし	1	S 造	2	RC 造	3	SRC 造	4	S 造+RC 造	5	S 造+SRC 造	6	RC 造+SRC 造	7	S 造+RC 造+SRC 造
入力値	構造種別																			
0	なし																			
1	S 造																			
2	RC 造																			
3	SRC 造																			
4	S 造+RC 造																			
5	S 造+SRC 造																			
6	RC 造+SRC 造																			
7	S 造+RC 造+SRC 造																			
7	Y 方向 構造種別	<p>Y 方向の構造種別を 2 桁の数字で入力します。</p> <p>入力についての詳細は 6 項の X 方向構造種別を参照してください。</p>																		
8	地表面粗土区分	地表面粗土区分を 1～4 の整数で入力します。																		
9	V <sub>0</sub>	国土交通大臣が定める風速 (m/秒)																		

(1) 1, 2, 3 項は、組み合わせによって制限があります。下式を満足する規模以内とします。

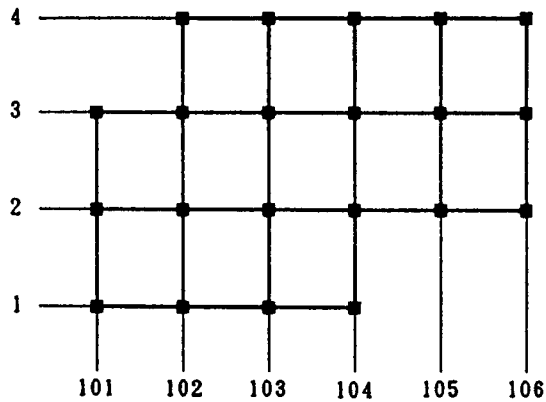
$$(X+1) \times (Y+1) \times (Z+1) \leq 2000$$

X : X方向スパン数 (1項)

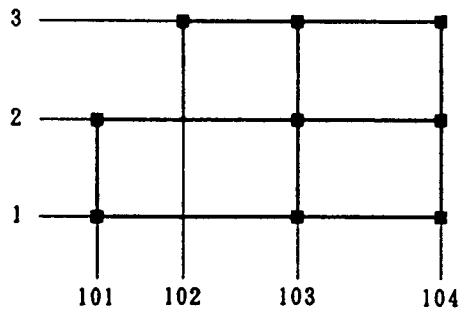
Y : Y方向スパン数 (2項)

Z : 全階数 (3項)

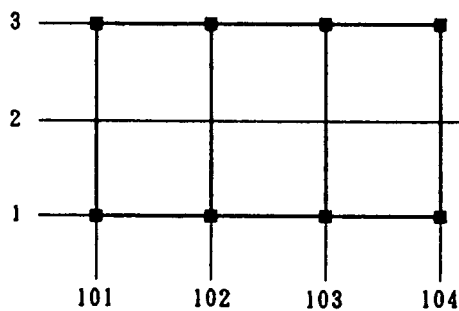
(2) 1 ~ 5 項は、下記の様に入力します。



X方向スパン数 : 5  
Y方向スパン数 : 3



X方向スパン数 : 3  
Y方向スパン数 : 2



X方向スパン数 : 3  
Y方向スパン数 : 2

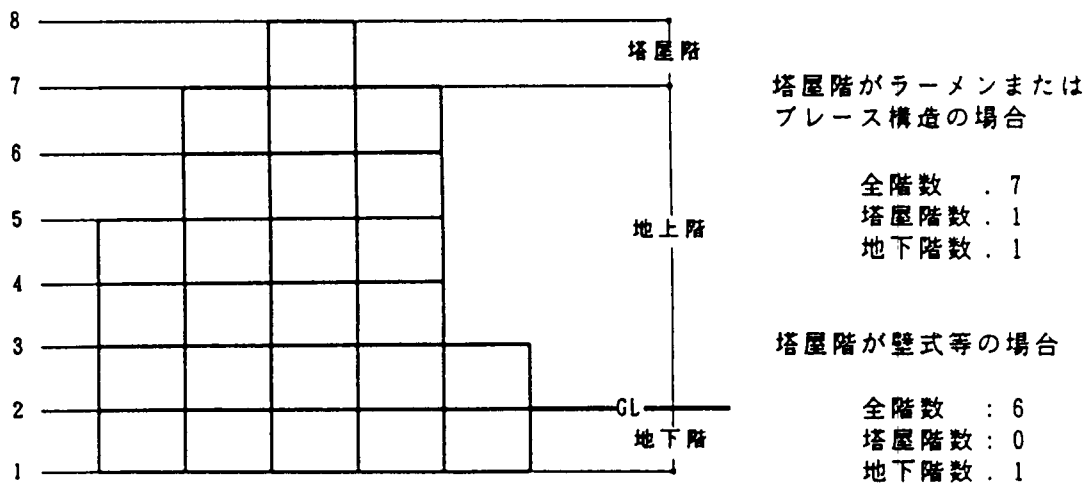


図 2.1 建物規模

- (3) 6.7 項は、ルート判別の際に使用されます。入力部材によつての構造種別の判断は行っていません。  
また、地上階が S造と他の構造 (RC造または SRC造) の混合構造の場合は、ルート判別は行いません。よつてルート表は出力されません。

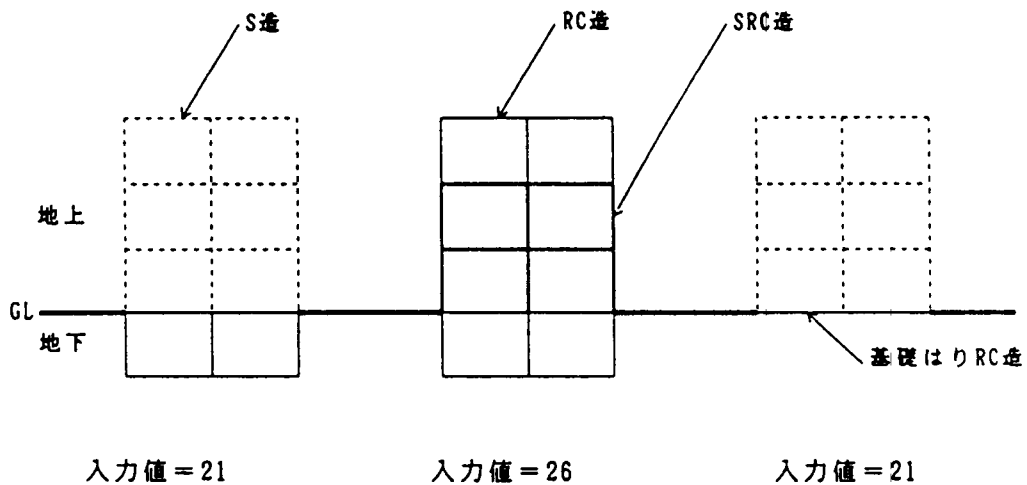


図 2.2 構造種別

P - 3 階名称

階および層の名称を入力します。

項 目		説 明
1	階名称	階の名称 (4文字以内)
2	層名称	層の名称 (4文字以内)

- (1) 本項は、出力際にのみ使用します。よって、部材の配置等には使用できません。
- (2) 本項を入力しない場合は、「1.4 表示」に示す様になります。

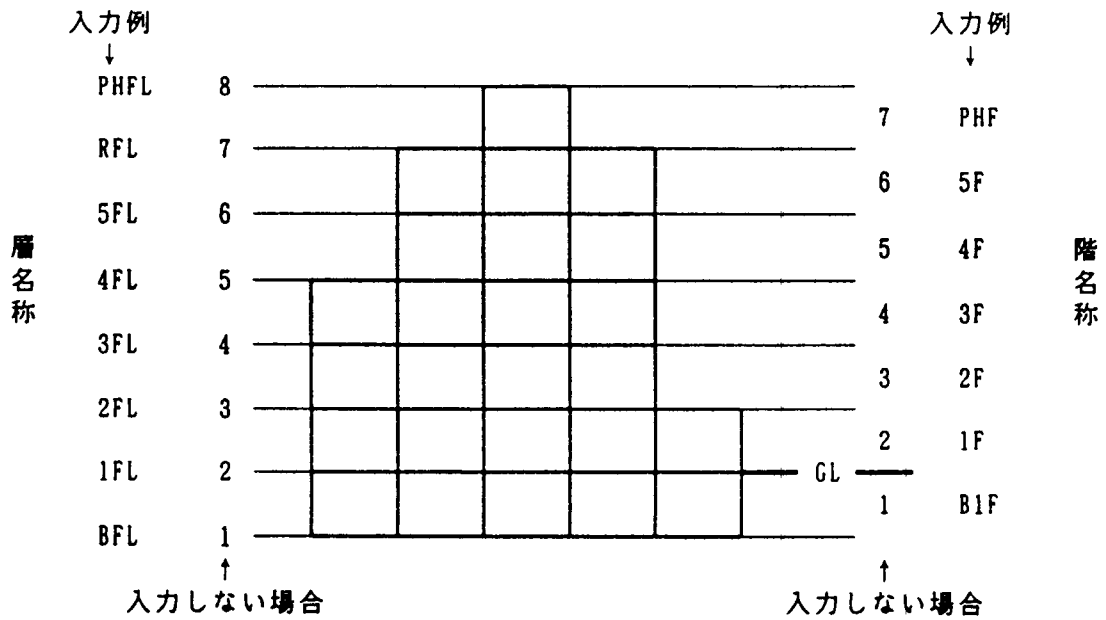


図 2.3 階, 層名称

P - 4 軸名称

X, Y方向の軸の名称を入力します。

項 目		説 明
1	X方向	X方向フレームの名称 (4文字以内)
2	Y方向	Y方向フレームの名称 (4文字以内)

- (1) 本項は、出力際にのみ使用します。よって、部材の配置等には使用できません。
- (2) 本項を入力しない場合は、「1.4表示」に示すようになります。

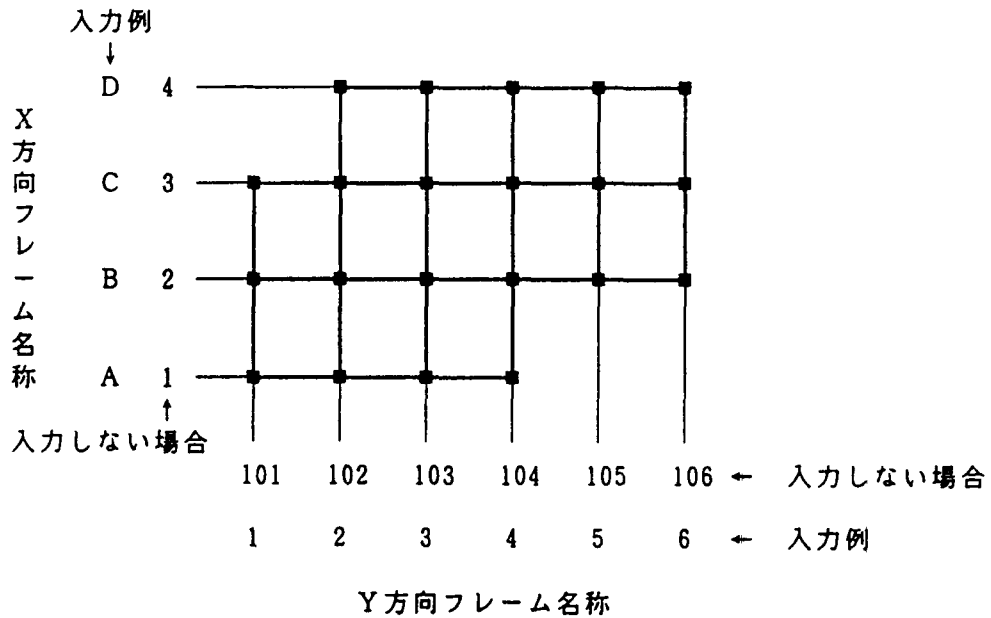


図 2.4 軸名称



P-5 階高

各階の重量計算用の階高と剛性計算用の構造階高と第 87 条による風圧力計算用の建物高さ、軒高さを入力します。

項目		説明		単位
1	階高	重量計算用階高		m
2	構造階高	X 方向	X 方向構造階高	下記(3)参照 m
3		Y 方向	Y 方向構造階高	
4	建物高さ	X 方向	風圧力算出用 X 方向建物高さ	第 87 条による風 圧力を計算する 時にのみ使用さ れる m
5		Y 方向	風圧力算出用 Y 方向建物高さ	
6	軒高さ	X 方向	風圧力算出用 X 方向軒高さ	m
7		Y 方向	風圧力算出用 Y 方向軒高さ	

- (1) 1 項は重量拾い等の荷重集刑事に使用され、X 方向、Y 方向とも同じ値を使用します。
- (2) 2 項、3 項は合成計算、応力計算、断面計算時に使用されます。
- (3) 2 項が 0 の場合は、1 項で入力した階高と同値として処理されます。
- (4) 3 項が 0 の場合は、2 項と同値として処理されます。
- (5) フーム単位または部分的に階高が異なる場合は、本稿で階高を入力し、その後「P-7 接点の鉛直移動指定」で補正入力をしてください。
- (6) 4 項、5 項で入力された階高および 6 項、7 項で入力された軒高さは第 87 条による風圧力を算出するためにのみ使用され、それ以外での処理では一切使用されません。

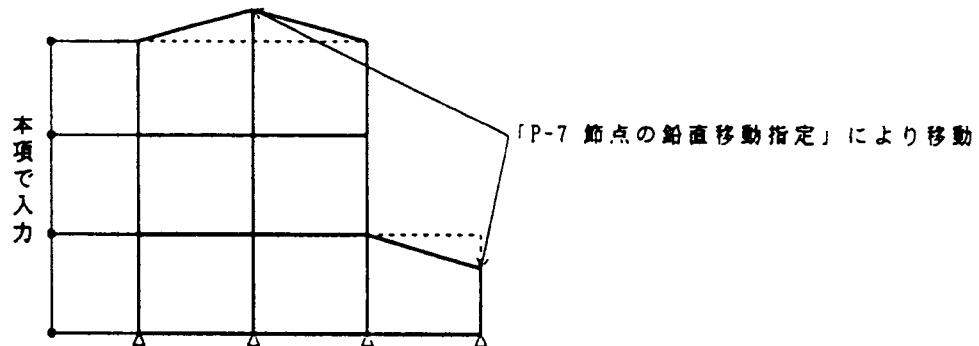
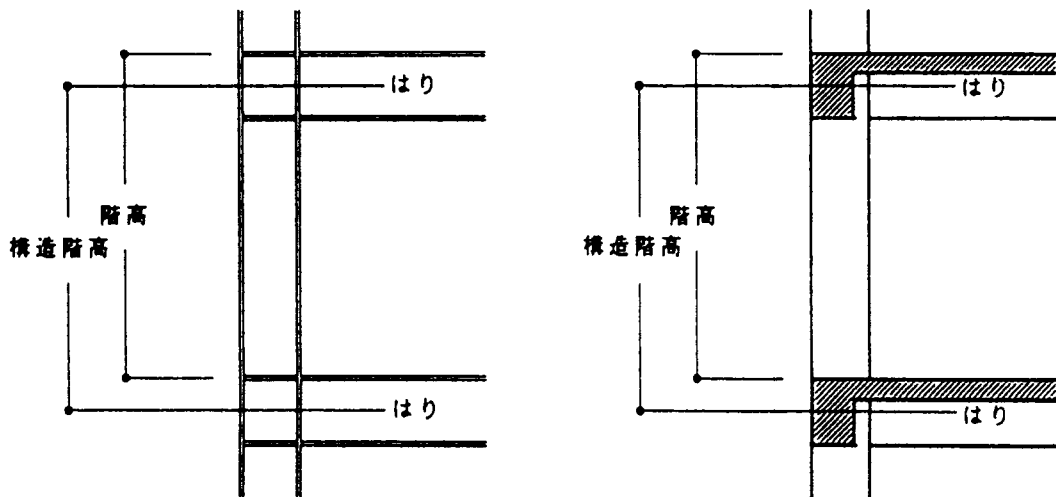


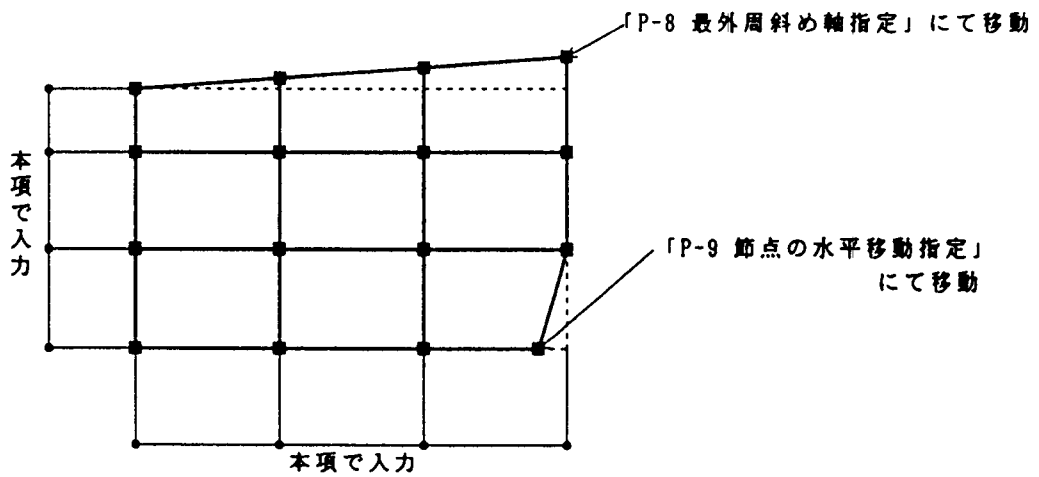
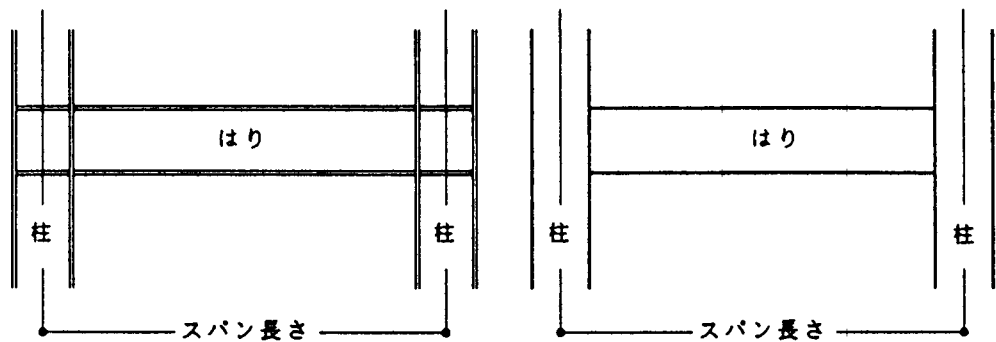
図 25 階高

P-6 スパン長さ

各スパン長さを入力します。

項目	説明	単位
1 X方向	X方向スパン長さ	m
2 Y方向	Y方向スパン長さ	m

- (1) 入力されたスパン長さは軸心から軸心までの距離として、全階共通とします。
- (2) 部分的にスパン長さが異なる場合（斜め軸等）は、「P-8 最外周斜め軸指定」「P-9 節点の水平移動指定」または「P-10 斜め柱指定」により移動します。



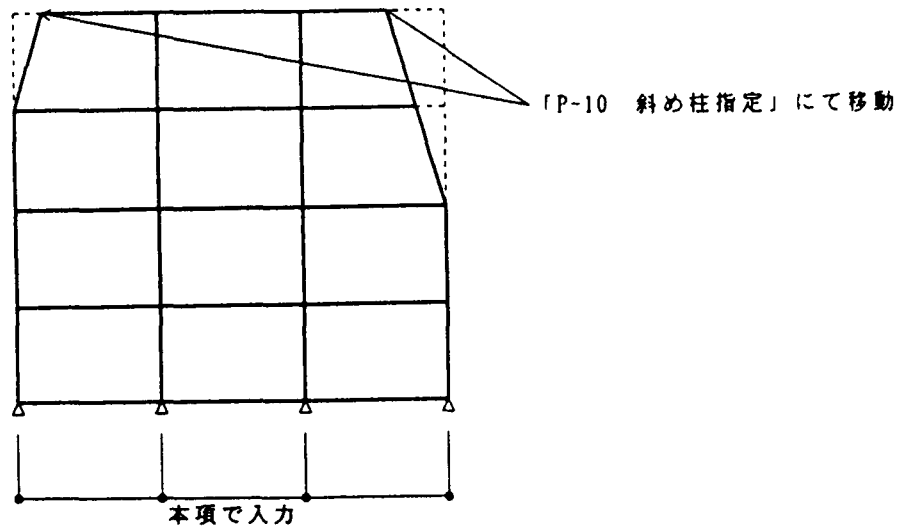


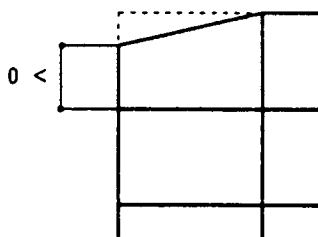
図 2.6 スパン長さ

P-7 節点の鉛直移動指定

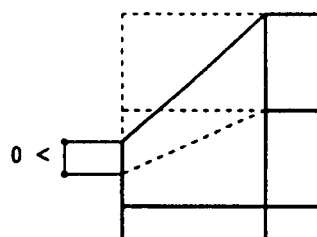
「P-5 階高」で入力した階高と異なる箇所がある場合、その箇所の鉛直移動距離を入力します。

項目		説明	単位
1	層 (I1)	節点が鉛直移動する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)	
3	フレーム (J1)	節点が鉛直移動するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)	
5	軸 (K1)	節点が鉛直移動する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)	
7	一般	重量計算用階高移動距離	m
8	X構造	X方向構造階高移動距離	m
9	Y構造	Y方向構造階高移動距離	m

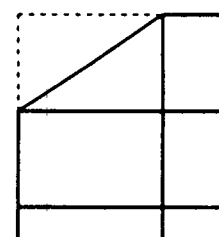
- (1) 7項は、重量計算を行う階高に考慮されます。したがって、7項を変更しない場合は壁、柱高さの変更および、床の傾き、はりの傾きは考慮されません。
- (2) X方向の構造階高のみを変更する場合は、8項に数値を入力し7,9項は「0」とします。また、Y方向の構造階高のみを変更する場合は、9項に数値を入力し7,8項を「0」とします。  
符号については、上方向に移動する場合を「+」とし、下方向に移動する場合を「-」とします。
- (3) 移動の許容範囲は上下層に重ならない範囲とします。また、剛床仮定の成り立つ範囲とします。



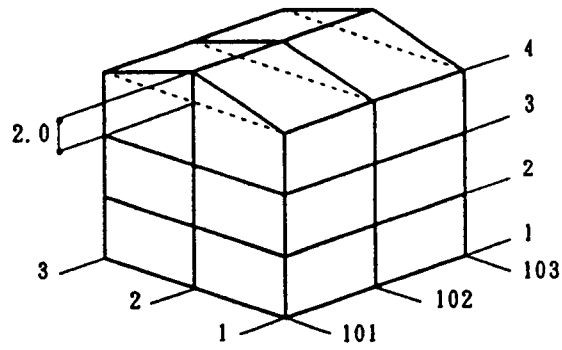
可



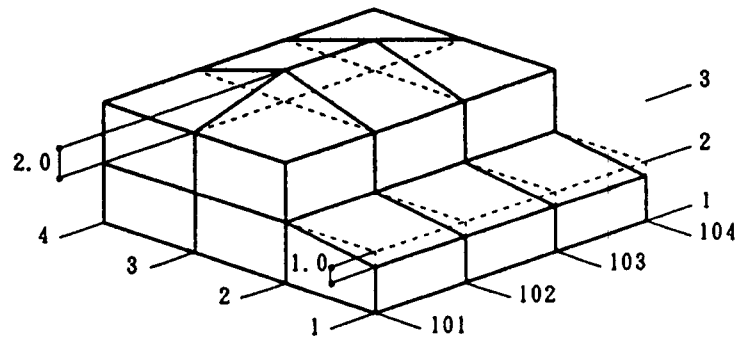
可



不可



層	層	7V-M	7V-M	軸	軸	一般	X構造	Y構造
4	4	2	2	101	103	2.0	2.0	2.0



層	層	7V-M	7V-M	軸	軸	一般	X構造	Y構造
2	2	1	1	101	104	-1.0	-1.0	-1.0
3	3	3	3	102	103	2.0	2.0	2.0

図 2.7 節点の鉛直移動

P - 8 最外周斜め軸指定

外周軸が斜めの場合、本項で指定します。

項 目			説 明	単 位
1	左下	X1		m
2		Y1		
3	右下	X2		
4		Y2		
5	左上	X3		
6		Y3		
7	右上	X4		
8		Y4		

- (1) 基準点は、X、Y方向それぞれの最初および最終フレームの交点とします。
- (2) 移動範囲は、左右上下の軸に重ならない範囲とします。ただし、部材が配置されていない場合は可能です。  
軸の振れ角は15°以内とします。15°を超える場合は、メッセージが出力されます。

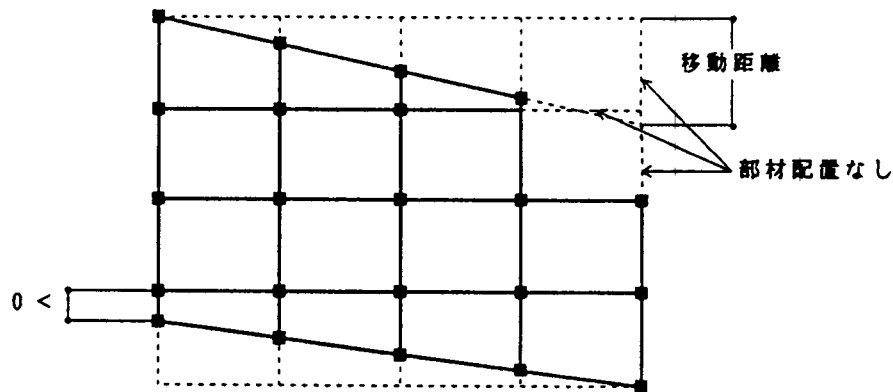
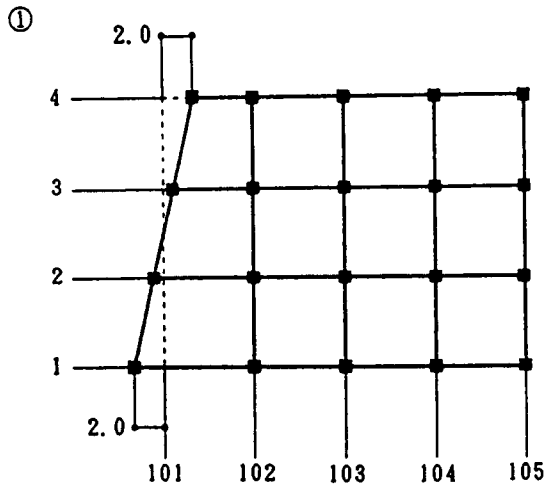


図 2.8 最外周斜め軸指定

- (3) 「P-8 最外周斜め軸指定」と「P-9 節点の水平移動指定」と「P-10 斜め柱指定」との関係を下記に示します。

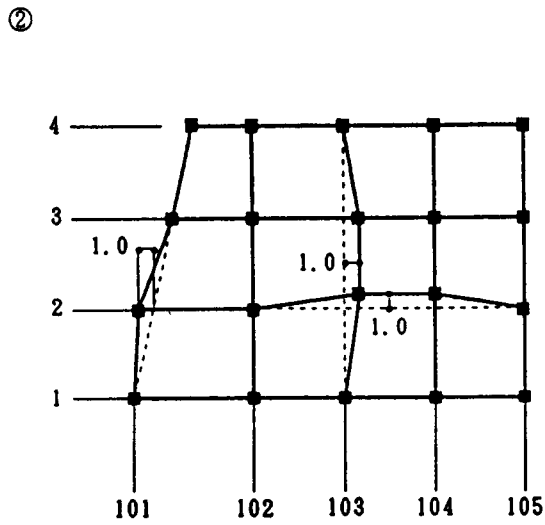
- ① 「P-8 最外周斜め軸指定」で指定された軸を移動します。
- ② ①で移動された軸に「P-9 節点の水平移動指定」で指定したデータを行番号順に加え処理します。よって、「P-8 最外周斜め軸指定」および、「P-9 節点の水平移動指定」で2回以上同一の軸を指定した場合は、全てのデータを有効とし、節点座標を移動します。

- ③ ②までで処理された節点座標を「P-10 斜め柱指定」で指定したデータを行番号順に加え、節点座標を移動します。（「P-10 斜め柱指定」参照）



「P-8 最外周斜め軸指定」

X1=-2.0      Y1= 0  
 X2= 0        Y2= 0  
 X3= 2.0      Y3= 0  
 X4= 0        Y4= 0



「P-9 節点の水平移動指定」

7L-4	軸	軸	L1	L2
101	2	2	-1.0	-1.0
2	103	104	1.0	1.0
103	2	3	1.0	1.0

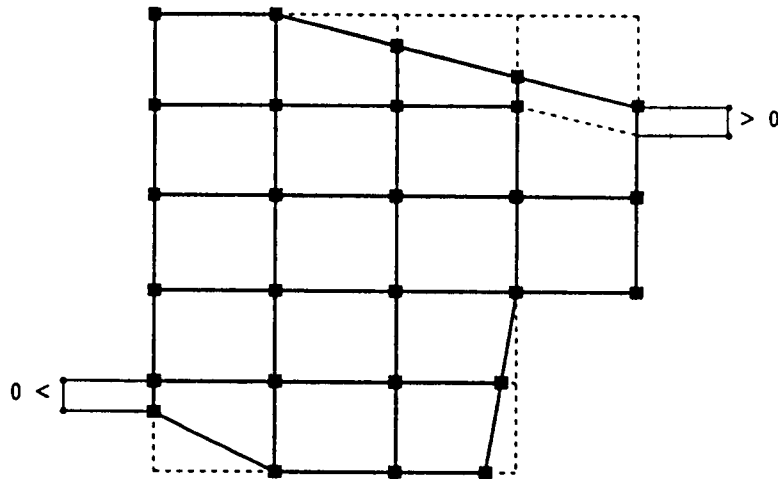
図 2.9 斜め軸

P-9 節点の水平移動指定

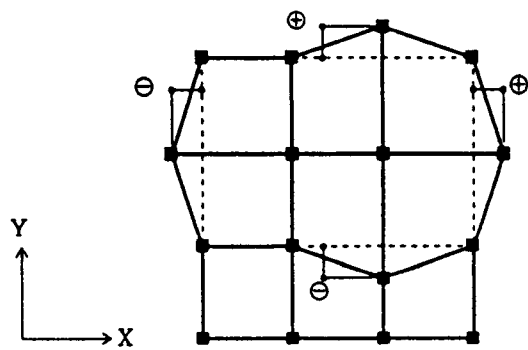
「P-6 スパン長さ」で入力したスパン長さを部分的に訂正する場合に入力します。

項目		説明	単位
1	7V-4	部分的に斜めになるフレーム	
2	軸 (K1)	節点が水平移動する軸 K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)	
3	軸 (K2)		
4	L1	K1軸の移動距離	m
5	L2	K2軸の移動距離	m

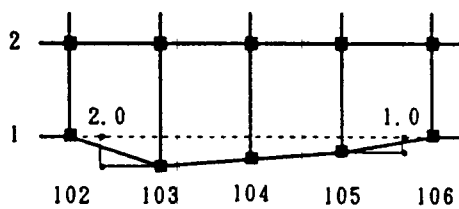
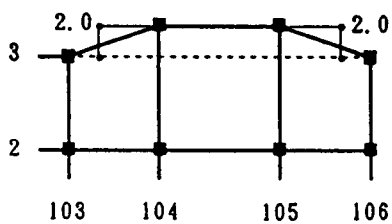
- (1) 2,3項で指定した軸の中間軸の移動距離は、4,5項を直線補間した値となります。
- (2) 「P-8 最外周斜め軸指定」との関係は、「P-8 最外周斜め軸指定」を参照してください。
- (3) 移動範囲は、左右上下の軸に重ならない範囲とします。ただし、部材が配置されていない場合は可能です。  
軸の振れ角は15°以内とします。15°を超える場合は、メッセージが出力されます。







L1, L2 符号



フレーム	軸	軸	L1	L2	フレーム	軸	軸	L1	L2
3	104	105	2.0	2.0	1	103	105	-2.0	-1.0

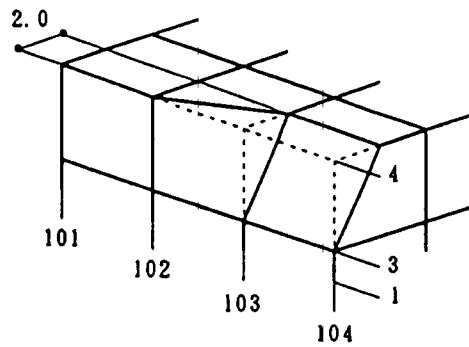
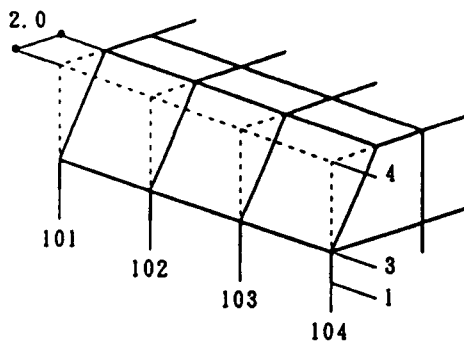
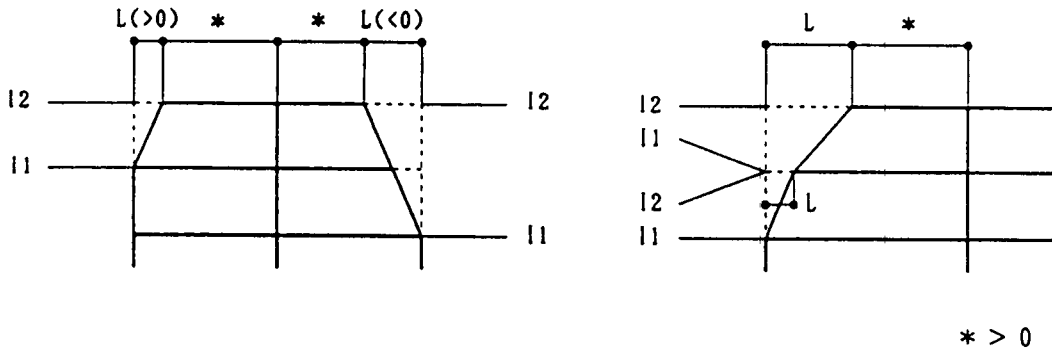
図 2.10 節点の水平移動指定

P-10 斜め柱指定

斜め柱（セットバック）を指定します。

項目		説明	単位
1	層 (I1)	斜め柱となる層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)	
3	フレーム	斜め柱となるフレーム	
4	軸 (K1)	斜め柱となる軸	
5	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)	
6	L	移動距離	m

(1) 移動距離（6項）は、下記に示す距離とします。  
 移動の許容範囲は、隣の軸に重ならない範囲とします。

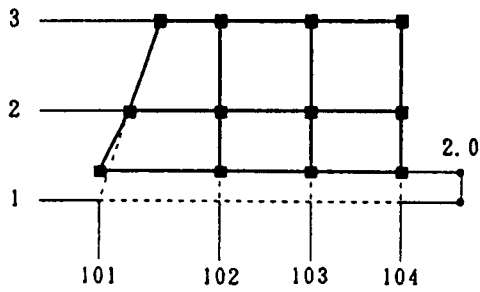


層	層	フレーム	軸	軸	L	層	層	フレーム	軸	軸	L
3	4	1	101	104	2.0	3	4	1	103	104	2.0

図 2.11 斜め柱

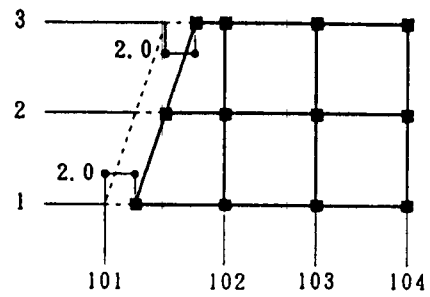
(2) 「P-8 最外周斜め軸指定」と「P-9 節点の水平移動指定」で斜め軸が指定されている場合の軸について、「P-10 斜め柱指定」との関係および「P-10 斜め柱指定」において同じ軸を指定した場合を下記に示します。

斜め軸に対する指定



4層伏図

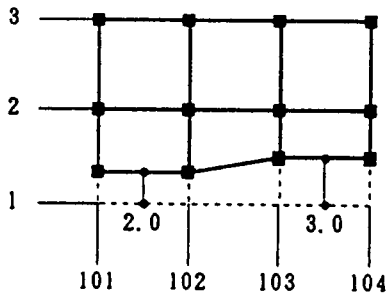
層	層	フレーム	軸	軸	L
3	4	1	101	104	2.0



4層伏図

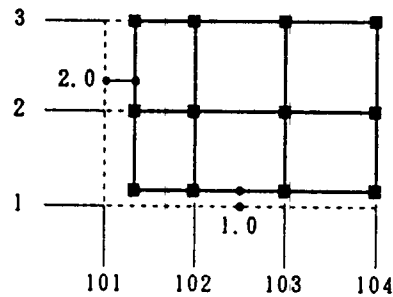
層	層	フレーム	軸	軸	L
3	4	101	1	3	2.0

斜め柱の指定を複数回行った場合



4層伏図

層	層	フレーム	軸	軸	L
3	4	1	101	104	2.0
3	4	1	103	104	1.0



4層伏図

層	層	フレーム	軸	軸	L
3	4	1	101	104	1.0
3	4	101	1	3	2.0

図 2.12 斜め柱

P-11 フレーム角度指定

柱の剛性に考慮するそで壁長さ、ねじり補正および偏心率を求める際のD値の補正角度を指定します。

項目	説明	単位
1	フレーム	フレーム角度を指定する対象フレーム
2	角度	フレームの角度

- (1) 本項は、剛性に考慮するそで壁の長さおよび柱、耐力壁、ブレースのD値の斜め軸による補正に使用されます。  
 本項で指定されないフレームは、それぞれの最初の軸位置と最後の軸位置（1層）により計算された値とします。

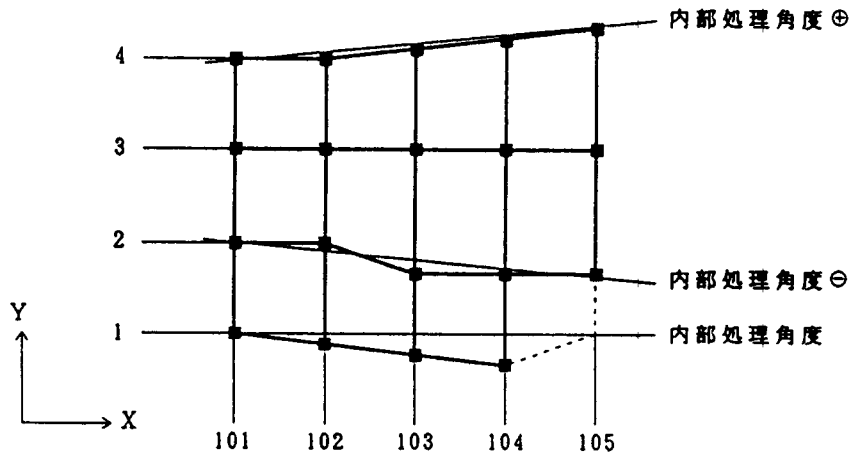


図 2.13 フレーム角度

P - 1 2 仮定層の指定

仮定層（中間階等）を指定します。

項 目		説 明
1	層 (11)	仮定層となる層  11層から12層まで (11 ≤ 12)
2	層 (12)	
3	分担率	仮定層の地震時層重量の下層への分担率

- (1) 本項で指定された層については、D値、ねじり補正、偏心率、層間変形角および剛性率については、処理しません。
- (2) 3項により、仮定層と指定された層の地震時層重量が上下の層に振り分けられます。ただし、一貫計算として実行した場合は、「0」となります。
- (3) 仮定層を使用できる形状は、下記条件の範囲内とします。  
下記条件の範囲外で使用した場合は、計算結果が不適当な場合があります。
- ・ 仮定層として指定された上下階の構造形状は、同一とします。
  - ・ 仮定層の床面積が、建築面積に対しての割合が小さい。(約 1/8以下)
  - ・ 仮定層の上下の部材剛性の差が小さい。
  - ・ 仮定層の床重量が一般層の床重量と比べて大差がない。
  - ・ 仮定層として指定する層は、必ず地上階とします。

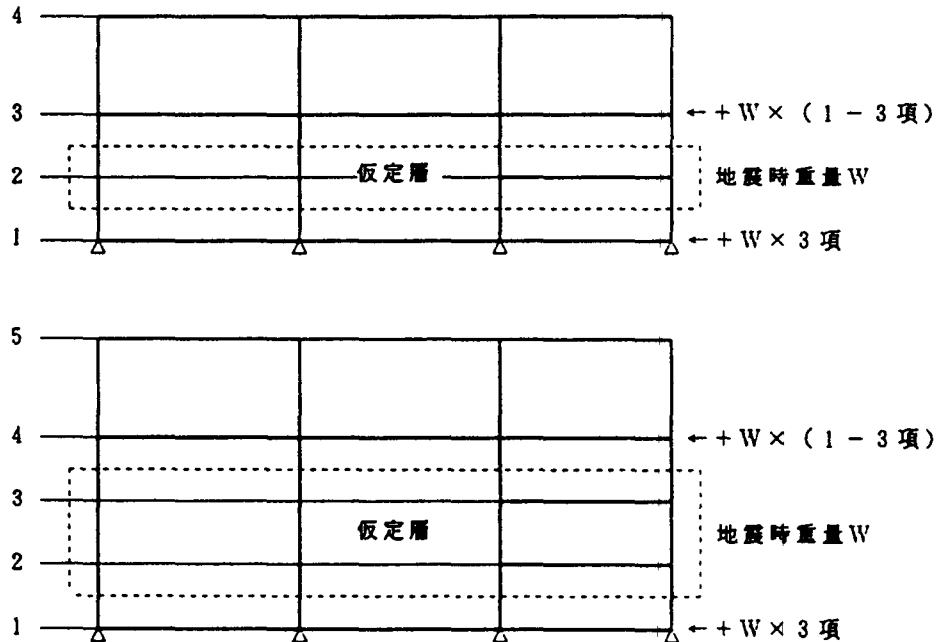
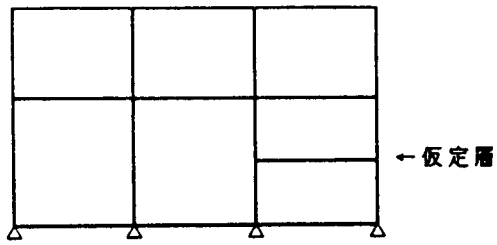
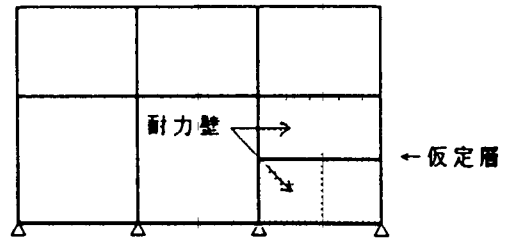


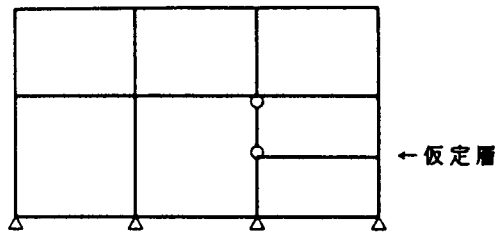
図 2.14 地震時重量の振り分け方法



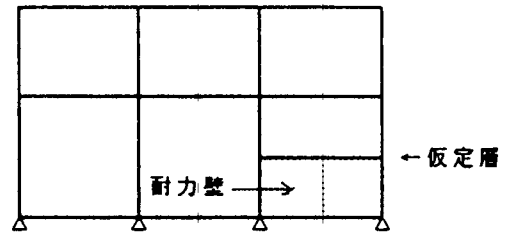
可



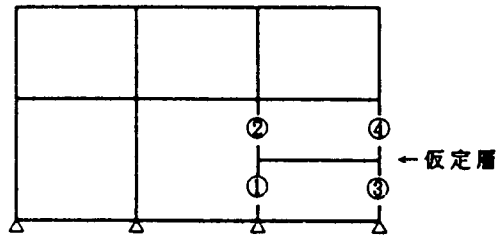
可



— 不可 (構造形態が異なる)



不可 (構造形態が異なる)



①と②との剛性の差が小さい  
③と④との剛性の差が小さい

図 2.15 仮定層

P - 1 3 各階床面積

各階の床面積を入力します。

項 目		説 明	単 位
1	階 (I1)	対象階	
2	階 (I2)	I1階からI2階まで (I1 ≤ I2)	
3	床面積	床面積	m <sup>2</sup>

(1) 本項は、鉄骨造のルート判別の際の延べ床面積の計算に使用されます。

(2) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。

P-14 コンクリート材料

使用するコンクリート材料を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位												
1 材料NO.	コンクリート材料番号(1~99)														
2 材種	コンクリート材種を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>普通コンクリート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4種軽量コンクリート</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	普通コンクリート	2	1種軽量コンクリート	3	2種軽量コンクリート	4	3種軽量コンクリート	5	4種軽量コンクリート	1	
入力値	材種														
1	普通コンクリート														
2	1種軽量コンクリート														
3	2種軽量コンクリート														
4	3種軽量コンクリート														
5	4種軽量コンクリート														
3 Fc	コンクリートの設計基準強度	210	kg/cm <sup>2</sup>												
4 G.C	RC造 はり, 柱の単位重量	下記(1)参照	t/m <sup>3</sup>												
5 S.CG.W	RC造 はり, 柱以外の単位重量	下記(1)参照	t/m <sup>3</sup>												
6 E	コンクリートのヤング係数	下記(2)参照	t/cm <sup>2</sup>												
7 G	コンクリートのせん断弾性係数	下記(2)参照	t/cm <sup>2</sup>												

(1) 4.5 項の省略時は、表 2.2に示す値とします。

SRC 造の単位重量は、4.5 項の入力値または表 2.2の値に 0.1t/m<sup>3</sup>を加算した値とします。

コンクリート材種		単位重量 (t/m <sup>3</sup> )
普通コンクリート		2.4
1種軽量コンクリート	Fc < 200	1.95
	Fc ≥ 200	2.0
2種軽量コンクリート	Fc < 200	1.65
	Fc ≥ 200	1.7
3種軽量コンクリート		2.0
4種軽量コンクリート		1.8

表 2.2 鉄筋コンクリート単位重量



(2) 6.7 項の省略時は、RC規準 5 条により自動計算します。

$$E = 2.1 \times 10^6 \times \left( \frac{\gamma}{2.3} \right)^{1.6} \times \sqrt{\frac{F_c}{200}} \quad (\text{kg/cm}^2)$$

ただし、 $\gamma = (\text{表 2.2 または 4 項での入力値}) - 0.1$

$$G = \frac{E}{2(1+\nu)} \quad (\text{kg/cm}^2)$$

ただし、 $\nu = 1/6$

P-15 コンクリート材料配置

「P-14 コンクリート材料」で入力したコンクリート材料を配置します。

	項 目	説 明
1	層 (I1)	対象層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2 ただし、等号は1層のみ)
3	材料NO.	「P-14 コンクリート材料」で入力したコンクリート材料番号

- (1) 1項で入力するI1層のほりは含まれません。よって、1層ほりに配置する場合は、1,2項を「1」として入力します。
- (2) 本項において、配置されない層のコンクリートは、普通コンクリート Fc-210となります。
- (3) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。

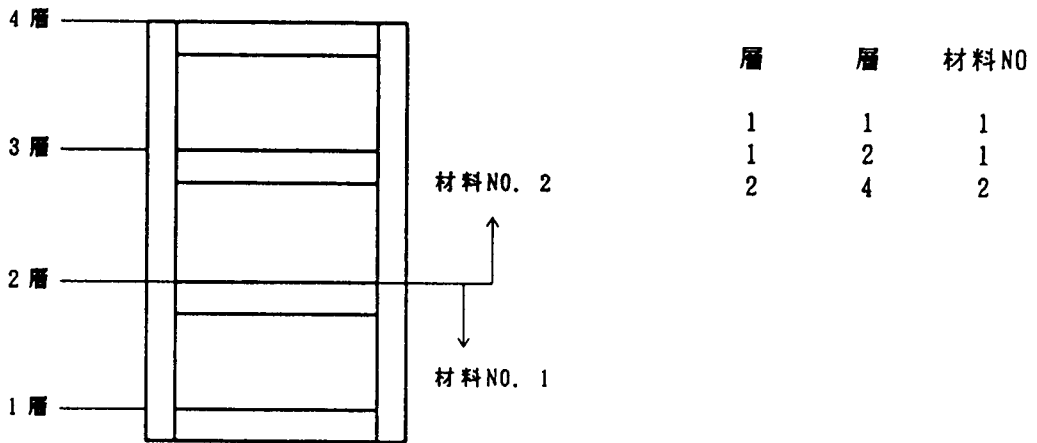


図 2.16 コンクリート材料配置

P - 1 6 標準剛度

各方向の標準剛度を入力します。

項 目		説 明	省略時解釈	単 位
1	KoX	X方向標準剛度	1000	cm <sup>4</sup>
2	KoY	Y方向標準剛度	1000	cm <sup>4</sup>

- (1) 本項は、部材の剛比（参考値）およびD値の算定等に使用します。  
S造の場合は「10」位、RC、SRC造の場合は「1000」位が適当です。

地震荷重に関するデータを入力します。

項 目		説 明	省略時解釈	単位												
1	地域係数	地域係数	1.0													
2	地盤種別	地盤種別を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>地盤種別</th> <th>Tc (秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1種地盤</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第2種地盤</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第3種地盤</td> <td>0.8</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	地盤種別	Tc (秒)	1	第1種地盤	0.4	2	第2種地盤	0.6	3	第3種地盤	0.8	2	
入力値	地盤種別	Tc (秒)														
1	第1種地盤	0.4														
2	第2種地盤	0.6														
3	第3種地盤	0.8														
3	CoX	X方向標準せん断力係数	0.2													
4	CoY	Y方向標準せん断力係数	0.2													
5	応力用	塔屋CiX	応力計算用塔屋階X方向震度	下記(4)参照												
6		塔屋CiY	応力計算用塔屋階Y方向震度	下記(4)参照												
7	断面用	塔屋CiX	断面計算用塔屋階X方向震度	1.0												
8		塔屋CiY	断面計算用塔屋階Y方向震度	1.0												
9	GL層CiX	GL層X方向震度	下記(9)参照													
10	GL層CiY	GL層Y方向震度	下記(9)参照													
11	Tの計算方法	一次固有周期 Tの決定方法を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>計算方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>略算式</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>直接入力</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	計算方法	1	略算式	2	直接入力	1							
入力値	計算方法															
1	略算式															
2	直接入力															
12	TX	X方向の一次固有周期 (11項で「2」を指定した場合のみ)		秒												
13	TY	Y方向の一次固有周期 (11項で「2」を指定した場合のみ)	TX	秒												
14	$\alpha X$	X方向建物地上高さに対する鉄骨部分の高さの割合	下記(6)参照													
15	$\alpha Y$	Y方向建物地上高さに対する鉄骨部分の高さの割合	下記(6)参照													

16	HX	地盤面からのX方向建物高さ	下記(7)参照	m
17	HY	地盤面からのY方向建物高さ	下記(7)参照	m
18	hx	地盤面から地上階の1階床までのX方向の高さ		m
19	hy	地盤面から地上階の1階床までのY方向の高さ		m
20	判別高さ (X)	ルート判別用X方向建物高さ	HX	m
21	判別高さ (Y)	ルート判別用Y方向建物高さ	HY	m
22	地下への伝達率 (X)	地下へのX方向地震力伝達率	1.0	
23	地下への伝達率 (Y)	地下へのY方向地震力伝達率	1.0	

- (1) 2項の入力値により  $T_c$  が決定されます。
- (2) 地下階，地上階，塔屋階くぎりで「P-18 層せん断力係数直接指定」が入力されていない場合、地震力は本項での入力値を用いて自動計算します。  
また、両方とも入力している場合は、「P-18 層せん断力係数直接指定」を優先します。
- (3) 地震力は  $A_i$  分布により計算します。
- (4) 塔屋階のシャー係数は、下階への応力伝達用（応力計算用 5.6 項）と断面計算用（7.8 項）があります。5.6 項で「0」を入力すると  $A_i$  分布によりシャー係数を求めます。  
塔屋階の部材の断面計算を行う場合は、応力計算用と断面計算用のシャー係数の倍率により応力を求め計算します。
- (5) 11項で「1」を入力した場合、一次固有周期は下式により計算した値とします。

$$T_X = H_X (0.02 + 0.01 \times \alpha_X)$$

$$T_Y = H_Y (0.02 + 0.01 \times \alpha_Y)$$

$\alpha_X$  : X方向鉄骨高比 (14項)

$\alpha_Y$  : Y方向鉄骨高比 (15項)

HX : X方向建物高さ (16項)

HY : Y方向建物高さ (17項)

- (6) 14.15 項の入力を省略した場合で、「P- 2 建物規模」で入力された構造種別が S造の場合は、「1.0」となります。
- (7) 16.17 項の入力を省略した場合は、「P- 5 階高」で入力された階高により下式にて計算します。

$$H_X = \text{地上階の階高の合計 (塔屋階は除く)} + h_x$$

$$H_Y = \text{地上階の階高の合計 (塔屋階は除く)} + h_y$$

$h_x$  : X方向1階床までの高さ (18項)

$h_y$  : Y方向1階床までの高さ (19項)

- (8) 18,19 項は、(7)に示す様に建物高さを求める際と、地下階の層せん断力係数を求める際に使用し、符号は地上階の1階が地盤面より低い時は負の値とし、地盤面より高い時は正の値とします。

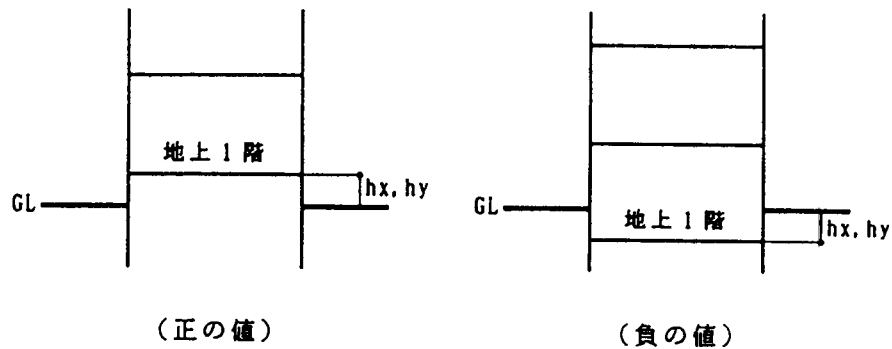


図 2.17 1階床までの高さ

- (9) 地下部分の水平震度は、下式により計算されます。

$$K = 0.1 \left( 1 - \frac{H}{40} \right) Z$$

H : 地盤面から、その層までの深さ (m)  
(20m を越える時は、20m とする)

GL層の震度は、9,10項の入力によります。ただし、「0」の場合は、上式により計算された震度とします。

- (10) 地下部分の地震層せん断力 QB は下式により計算されます。ただし、一貫計算として使用した場合は、22,23 項は「1」となります。

$$QB = Q1 \times \beta + K \times WB$$

Q1 : 1階の地震層せん断力  
 $\beta$  : 地下階への伝達率 (22,23 項での入力値)  
 K : 地下部分の水平震度  
 WB : 地下部分の重量

P - 1 8 層せん断力係数直接指定

層せん断力係数を直接入力します。

項 目		説 明
1	CiX	X方向各階層せん断力係数
2	CiY	Y方向各階層せん断力係数

- (1) 「P-17 地震データ」との関係は、前記(2)を参照してください。
- (2) 層せん断力係数の分布を表す係数  $A_i$  は、地上1階の層せん断力係数に対する各階の層せん断力係数の割合として計算し、壁量チェックに使用します。
- (3) 地上階、地下階、塔屋階において「0」を入力した場合は内部処理とし、数値が入力された場合は、本項を優先します。また、地上階のみ内部処理とし、塔屋、地下階は直接指定する場合は地上階のみ「0」を入力し、塔屋、地下階は数値を入力します。

P - 1 9 積載荷重

使用する積載荷重を入力します。

項 目	説 明	単 位
1 積載NO.	積載荷重番号 (51~99)	
2 スラブ用	スラブ用積載荷重	kg/m <sup>2</sup>
3 小ばり用	小ばり用積載荷重	kg/m <sup>2</sup>
4 ラーメン用	ラーメン用積載荷重	kg/m <sup>2</sup>
5 地震用	地震用積載荷重	kg/m <sup>2</sup>

- (1) 表 2.3に示す積載荷重はプログラムに組み込まれているので、入力は不要です。本項での入力は、それ以外の積載荷重を用いる時に使用します。

NO	用 途	スラブ用	小ばり	ラーメン用	地震用
1	居住室, 病室, 寝室	180	180	130	60
2	事務室	300	300	180	80
3	教室	230	230	210	110
4	百貨店, 店舗の売り場	300	300	240	130
5	集会室(固定席)	300	300	270	160
6	集会室(その他)	360	360	330	210
7	自動車通路, 車庫	550	550	400	200
8	非歩行	90	90	65	30
9	積載荷重なし	0	0	0	0

表 2 3 積載荷重 (kg/m<sup>2</sup>)

- (2) 表 2.3 に示す以外で、積載荷重番号11~50は、「初期JOB」任意形状登録の積載荷重登録を使用する事により登録できます。一度登録した積載荷重は他の工事の計算にも使用できます。



P-20 荷重計算指定

柱軸力計算時に積載荷重の低減処理、積雪、風圧時の荷重計算方法について指定します。

項目	説明	省略時解釈	単位						
1 積載低減処理	柱軸力計算時の積載荷重の低減処理について下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>入力値</td> <td>低減</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>しない</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>する</td> </tr> </table>	入力値	低減	1	しない	2	する	1	
入力値	低減								
1	しない								
2	する								
2 最下層処理	最下層荷重の処理方法を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>入力値</td> <td>処理方法</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>計算しない</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>計算する</td> </tr> </table>	入力値	処理方法	1	計算しない	2	計算する	1	
入力値	処理方法								
1	計算しない								
2	計算する								
3 積雪荷重	各荷重の処理について下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>入力値</td> <td>処理方法</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>計算しない</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>計算する</td> </tr> </table>	入力値	処理方法	1	計算しない	2	計算する	1	
入力値		処理方法							
1	計算しない								
2	計算する								
4 風荷重		1							
5 $\alpha 1$	長期荷重時の積雪荷重低減率								
6 $\alpha 2$	短期積雪時の積雪荷重低減率								
7 $\alpha 3$	短期風圧時の積雪荷重低減率								
8 $\alpha 4$	短期地震時の積雪荷重低減率								

(1) 1項において積載荷重の低減を指定した場合は、表 2.4の低減率を積載荷重の和に掛け低減します。

支える床の数	2	3	4	5	6	7	8	9以上
低減率	0.95	0.9	0.85	0.8	0.75	0.7	0.65	0.6

表 2.4 積載荷重の低減率

- (2) 2項において、最下層(1層)のはり、床荷重等の荷重項の計算をし、支点反力(基礎用軸力)に考慮されるか、されないかか決定されます。  
べた基礎等にする場合は、必ず「2」(計算する)を指定します。
- (3) 3,4項において「1」を入力した場合、各荷重時に対する荷重項の計算、応力計算は行いません。
- (4) 3項(積雪荷重)が「2」(計算する)の場合の各荷重に対する低減率は、5~8項で入力した値を使用します。積雪荷重による応力の組み合わせは、下表により求めます。

荷重		応力の組み合わせ	多雪地域	その他
長期		$G + \alpha 1 \times S$	0.7	0
短期	積雪時	$G + \alpha 2 \times S$	1.0	1.0
	風圧時	$G + W$	0.35	0
		$G + W + \alpha 3 \times S$		
地震時	$G + K + \alpha 4 \times S$	0.35	0	

G: 固定および積載荷重による応力

S: 積雪荷重による応力

W: 風圧荷重による応力

K: 地震荷重による応力

ただし、地震時建物総重量は固定および積載荷重による重量と積雪荷重に $\alpha 4$ を掛けた重量を加算した値とします。

表 2.5 応力の組み合わせ

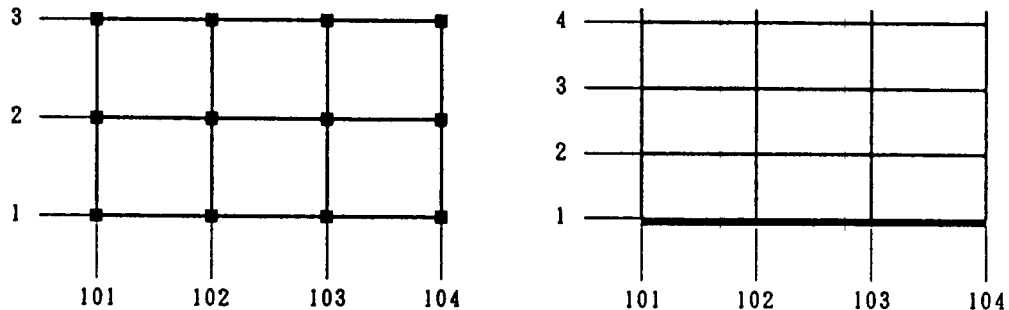
- (5) 4項の入力に関係なく、RC造またはSRC造部材の断面計算では、風荷重は無視されます。

P-21 べた基礎の指定

べた基礎となる範囲を指定します。

項 目		説 明	
1	層	べた基礎となる層	
2	フレーム (J1)	べた基礎となるフレーム	
3	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 < J2)
4	軸 (K1)	べた基礎となる軸	
5	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 < K2)

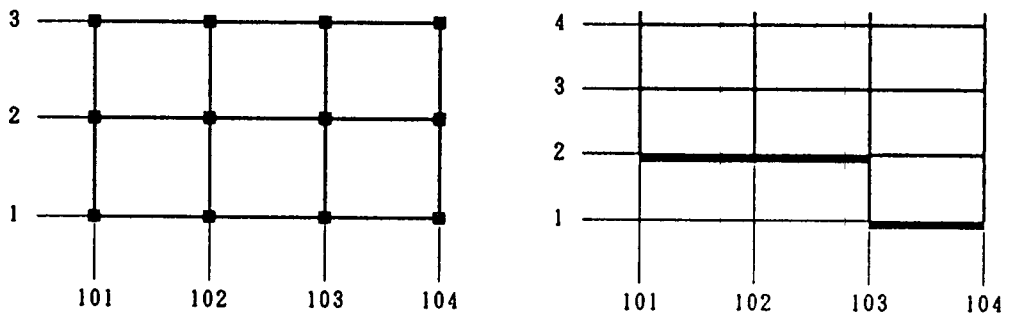
(1) 本項で指定された範囲が、べた基礎として処理されます。ただし、1層を指定する場合に、「P-20 荷重計算指定」の最下層処理が計算しないになっている場合は無視されます。



1層

1～3フレーム

層	フレーム	フレーム	軸	軸
1	1	3	101	104



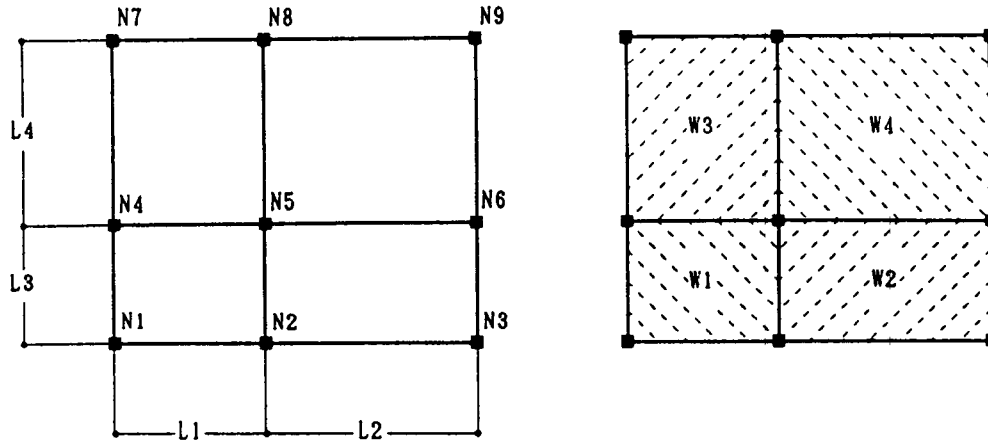
2層 ← 1層

1～3フレーム

層	フレーム	フレーム	軸	軸
2	1	3	101	103
1	1	3	103	104

図 2.18 べた基礎の指定

(2) べた基礎の地反力の計算方法を下記に示します。



W1～W4でそれぞれ算出

各柱軸力の各べた基礎への振り分けは面積の比による

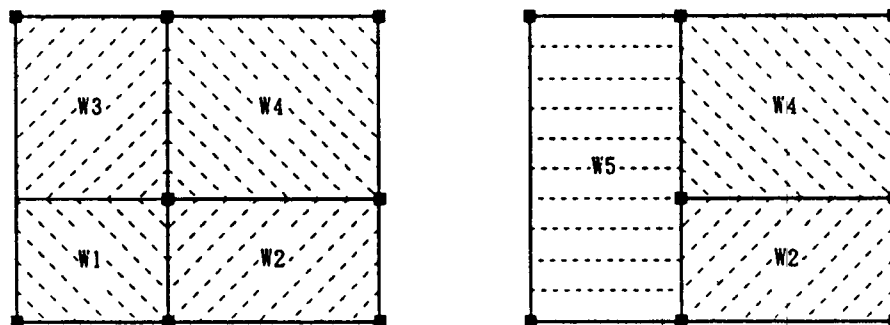
$$\begin{aligned}
 A1 &= L1 \times L3 & A2 &= L2 \times L3 & A3 &= L1 \times L4 & A4 &= L2 \times L4 \\
 a1 &= A1/4 & a2 &= A2/4 & a3 &= A3/4 & a4 &= A4/4 \\
 a5 &= a1+a2 & a6 &= a1+a3 & a7 &= a1+a2+a3+a4 & a8 &= a2+a4 \\
 a9 &= a3+a4 & & & & & & 
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 W1 &= ( N1 + N2 \times a1/a5 + N4 \times a1/a6 + N5 \times a1/a7 ) / A1 \\
 W2 &= ( N2 \times a2/a6 + N3 + N5 \times a2/a7 + N6 \times a2/a8 ) / A2 \\
 W3 &= ( N4 \times a3/a6 + N5 \times a3/a7 + N7 + N8 \times a3/a9 ) / A3 \\
 W4 &= ( N5 \times a4/a7 + N6 \times a4/a8 + N8 \times a4/a9 + N9 ) / A4
 \end{aligned}$$

上記で、斜め軸等は、A1～A4に考慮します。

建物が階段状の場合は、層が異なっても、下の層での重量を採用し、上記の様に反力を計算します。

大スラブが指定されている場合は、下記のように地反力を求めます。



W1～W4でそれぞれ算出

W1 と W3 により W5 を算出

図 2.19 べた基礎反力

P - 2 2 速度圧

速度圧の低減率および各層の速度圧を入力します。

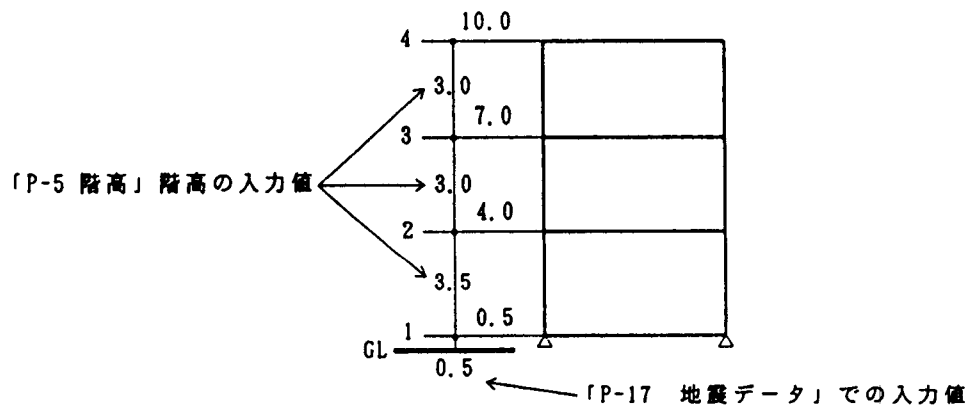
項 目		説 明	省略時解釈	単 位										
1	低減率 X	X方向速度圧の低減率	1.0											
2	低減率 Y	Y方向速度圧の低減率	1.0											
3	処理	各階の速度圧の処理方法 <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>処 理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>下層に上層と下層との差の2/3を足した値</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>上層と下層の平均値</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>上層の値</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>下層の値</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処 理	1	下層に上層と下層との差の2/3を足した値	2	上層と下層の平均値	3	上層の値	4	下層の値	1	
入力値	処 理													
1	下層に上層と下層との差の2/3を足した値													
2	上層と下層の平均値													
3	上層の値													
4	下層の値													
4	速度圧 X	X方向各層の速度圧	下記(3)参照	kg/m <sup>2</sup>										
5	速度圧 Y	Y方向各層の速度圧	下記(3)参照	kg/m <sup>2</sup>										

- (1) 1, 2 項は、0.6 以上とし、各層の速度圧に掛ける値とします。
- (2) 床面の速度圧は 4, 5 項により、壁面の速度圧は 3 項での入力により決定されます。
- (3) 4, 5 項が「0」の場合は、下式により計算されます。

$$q = 60\sqrt{h} \quad (h < 16\text{m})$$

$$q = 120 \sqrt[4]{h} \quad (h \geq 16\text{m})$$

q : 速度圧 (kg/m<sup>2</sup>)  
h : 地盤面からの高さ (m)



各層速度圧 (計算値)	各階速度圧			
	処理 1	処理 2	処理 3	処理 4
4 層 190				
3 層 159	3 階 180	175	190	159
2 層 120	2 階 146	140	159	120
1 層 43	1 階 95	82	120	43

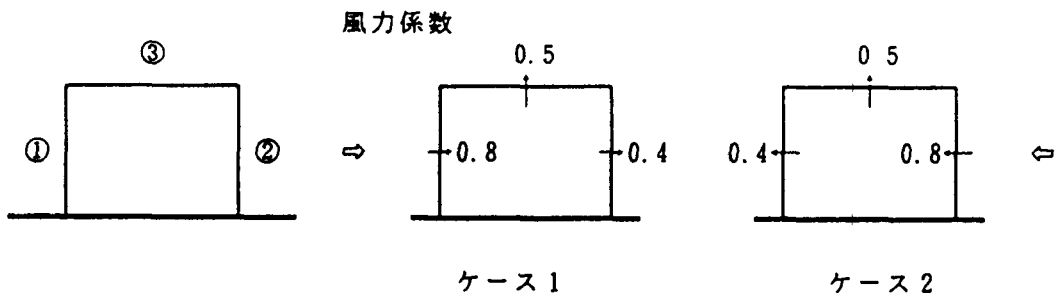
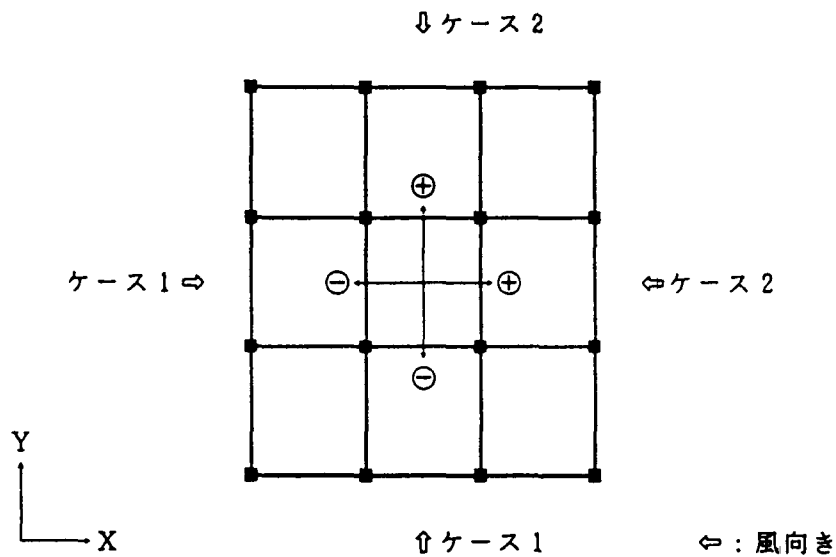
図 2.20 速度圧

P - 2 3 風力係数

壁面および床面の風力係数を入力します。

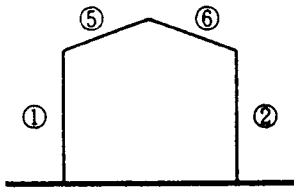
項目	説明
1 係数NO.	風力係数番号 (1~99)
2 係数1	風圧ケース1の時の風力係数
3 係数2	風圧ケース2の時の風力係数

- (1) 壁に対する風荷重は、全て見附面にて荷重を処理します。よって、風力係数の入力値は、見附面での係数を入力します。  
 床に対する風荷重は、傾斜等を考慮し処理します。よって、風力係数の入力値は、傾斜を考慮した係数を入力します。  
 風圧ケースおよび符号について、下記に示します。

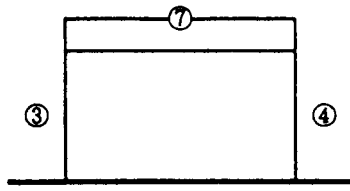


係数 1      係数 2

① 壁	0.8	-0.4
② 壁	0.4	-0.8
③ 床	-0.5	-0.5

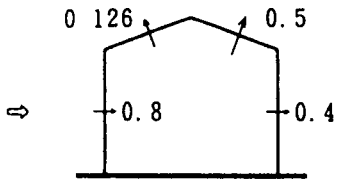


X7レ-ム

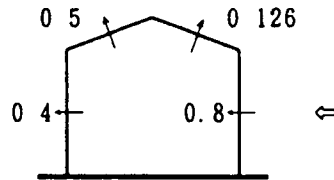


Y7レ-ム

風力係数 X7レ-ム

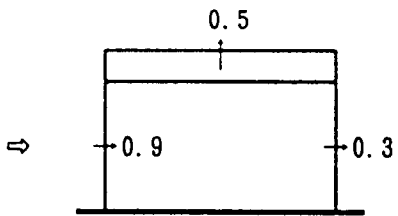


ケース 1

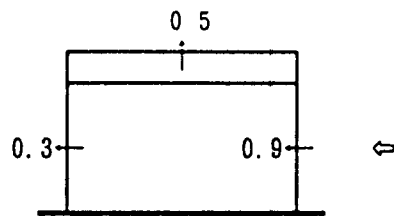


ケース 2

風力係数 Y7レ-ム



ケース 1



ケース 2

	係数 1	係数 2
①壁	0.8	-0.4
②壁	0.4	-0.8
③壁	0.9	-0.3
④壁	0.3	-0.9
⑤床	-0.126	-0.5
⑥床	-0.5	-0.126
⑦床	-0.5	-0.5

図 2.21 風力係数

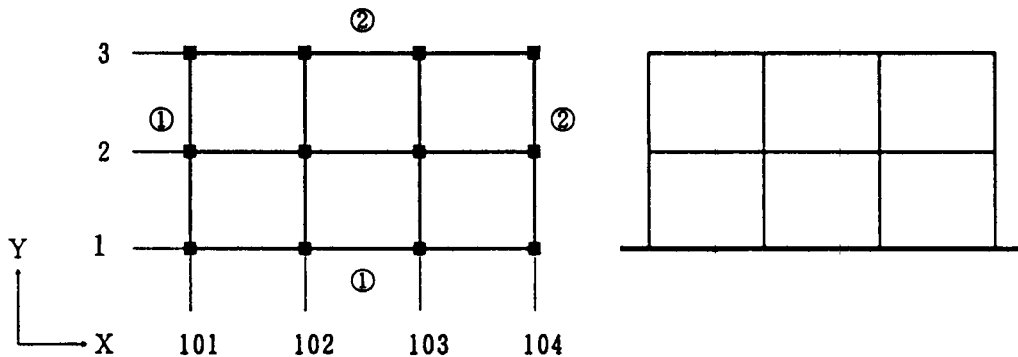


P - 2 4 風力係数配置

「P-23 風力係数」で入力した風力係数を壁面に配置します。

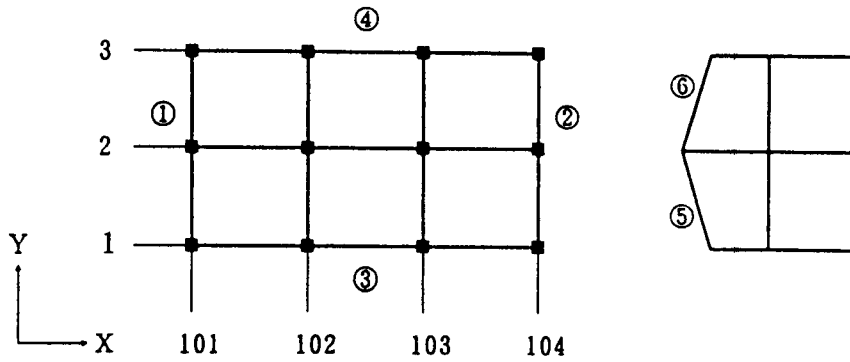
項 目	説 明	
1 層 (I1)	風力係数を配置する層	
2 層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 < I2)
3 フレーム	風力係数を配置するフレーム	
4 軸 (K1)	風力係数を配置する軸	
5 軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 < K2)
6 係数NO.	「P-23 風力係数」で入力した風力係数番号	

- (1) 風荷重の伝達方法は、「P-32 壁形状 (CB, ALC等)」の伝達方法によります。よって、「P-32 壁形状 (CB, ALC等)」の壁が配置されていない箇所については、風荷重は無視されます。
- (2) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (3) 6項を「0」として配置した場合は、既に配置されている係数を除く処理となります。



P-23 風力係数	係数NO.	係数 1	係数 2	
	1	0.8	-0.4	... ①側
	2	0.4	-0.8	... ②側
	3	-0.5	-0.5	床面

P-24 風力係数配置	層	層	フレーム	軸	軸	係数NO.
	1	3	1	101	104	1
	1	3	3	101	104	2
	1	3	101	1	3	1
	1	3	104	1	3	2



P-23	風力係数	係数NO.	係数 1	係数 2	
		1	0.9	-0.3	..... ①側
		2	0.3	-0.9	..... ②側
		3	0.8	-0.4	..... ③側
		4	0.4	-0.8	..... ④側
		5	-0.5	-0.5	..... X方向⑤⑥床
		6	-0.126	-0.5	..... Y方向⑤床
		7	-0.5	-0.126	..... Y方向⑥床

P-24	風力係数配置	層	層	7r-4	軸	軸	係数NO.
		1	3	1	101	104	1
		1	3	3	101	104	2
		1	3	101	1	3	3
		1	3	104	1	3	4

床面の係数は、「P-39 スラブ形状（基本）」でスラブ形状を作成する際に配置します。

図 2.22 風力係数配置

P-25 はり仕上げ重量

はりの仕上げ重量を入力します。

項 目		説 明	単 位
1	層 (I1)	対象層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)	
3	RC, SRC	RC, SRC造はり用仕上げ重量	kg/m <sup>2</sup>
4	S	S造はり用仕上げ重量	kg/m

(1) RC, SRCの仕上げ面は、下記に示す様になります。

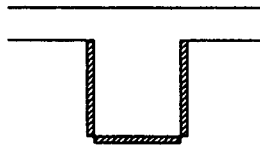


図 2.23 RC, SRCはり仕上げ

(2) 4項は、鉄骨の耐火被覆等の重量を入力します。

(3) 本項での入力は、大ばりにのみ考慮され、はり形状で入力された仕上げ重量に加算し計算します。  
小ばり、片持ちばりには、考慮されません。

P - 2 6 柱仕上げ重量

柱の仕上げ重量を入力します。

項 目		説 明	単 位
1	層 (11)	対象層	
2	層 (12)	11層から12層まで (11<12)	
3	RC, SRC	RC, SRC造柱用仕上げ重量	kg/m <sup>2</sup>
4	S	S造柱用仕上げ重量	kg/m

(1) RC, SRCの仕上げ面は、下記に示す様になります。

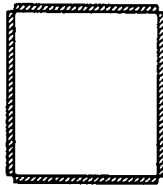


図 2.24 RC, SRC柱仕上げ

(2) 4項は、鉄骨の耐火被覆等の重量を入力します。

(3) 本項での入力は、柱のみ考慮され、柱形状で入力された仕上げ重量に加算し計算します。

P-27 鋼材形状

鋼材テーブル表に無い鋼材を入力します。

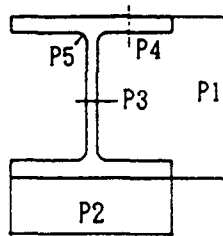
項目		説明	単位
1	鋼材NO.	鋼材テーブル番号 (3001)	
2	TYP	鋼材タイプ番号 (参照)	
3	P1	各パラメーター	下記(2) 参照
4	P2		
5	P3		
6	P4		
7	P5		

本入力項はBST-G89TMIIでは使用できません

(1) 本項は、S造り使用する鋼材で鋼材テーブルに登録されていない鋼材の登録および、箱形組立Hまたはラチス材を登録します。ただし、本項で登録された鋼材は、その工事のみ有効となります。

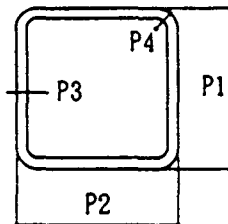
(2) 鋼材タイプおよび各パラメーターを下記に示します。

TYP : 1 H形鋼



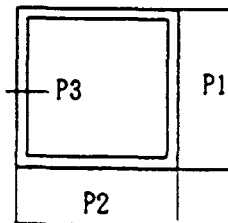
P1~P5 : 材寸 (mm)

TYP : 2 角形鋼管 (R有り)



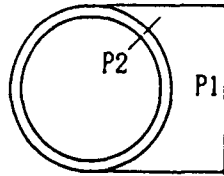
P1~P4 : 材寸 (mm)  
P5 : 0

TYP : 3 角形鋼管 (R無し)



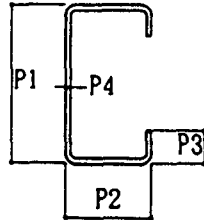
P1~P3 : 材寸 (mm)  
P4~P5 : 0

TYP . 4 鋼管



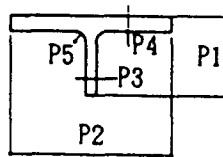
P1~P2 . 材寸 (mm)  
P3~P5 . 0

TYP : 5 リップみぞ形鋼



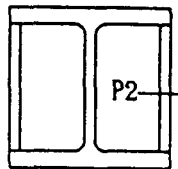
P1~P4 . 材寸 (mm)  
P5 : 0

TYP : 6 CT形鋼



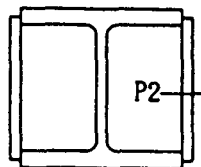
P1~P5 : 材寸 (mm)

TYP : 7 箱形組立鋼 1



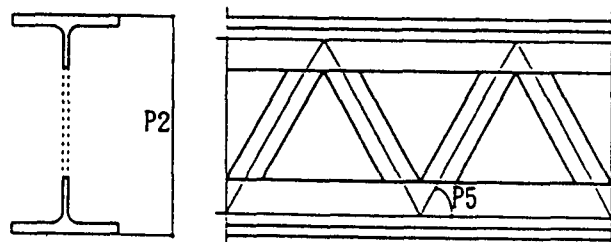
P1 : H形鋼テーブル番号  
P2 : プレート厚さ (mm)  
P3~P5 : 0

TYP : 8 箱形組立鋼 2



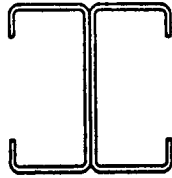
P1 : H形鋼テーブル番号  
P2 : プレート厚さ (mm)  
P3~P5 : 0

TYP : 9 ラチス



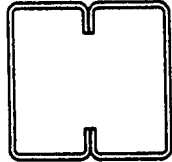
P1 : CT形鋼テーブル番号  
P2 : 部材せい (mm)  
P3 : ラチス材断面積 (cm<sup>2</sup>)  
P4 : ラチス材断面二次半径 (cm)  
P5 : ラチス材角度 (°)

TYP 10 リップみぞ形鋼背合わせ



P1 リップみぞ形鋼  
テーブル番号  
P2～P5 : 0

TYP : 11 リップみぞ形鋼腹合わせ



P1 : リップみぞ形鋼  
テーブル番号  
P2～P5 : 0

図 2.25 鋼材

P-28 はり形状(S)

S造のはり形状データを入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位								
1	形状NO.	はり形状番号 (1~99)									
2	TBL NO.	鋼材テーブル番号									
3	Wo	仕上げ重量	kg/m								
4	L JCD	左端接合状態 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>接合状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>剛接合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ピン接合</td> </tr> <tr> <td>0, 1, 2 以外</td> <td>バネ接合 (バネ定数)</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	接合状態	1	剛接合	2	ピン接合	0, 1, 2 以外	バネ接合 (バネ定数)	1 tm/rad
入力値	接合状態										
1	剛接合										
2	ピン接合										
0, 1, 2 以外	バネ接合 (バネ定数)										
5	R JCD	右端接合状態 (4項参照)	1 tm/rad								
6	φ	断面二次モーメント増大率	1.0								

- (1) 2項において、指定できる鋼材テーブル番号は、H形鋼、ラチス材またはリップみぞ形鋼背合わせとします。
- (2) 3項を入力した場合は、「P-25 はり仕上げ重量」で入力した値に加算します。
- (3) S造はりは、スラブ、たれ壁、腰壁による断面二次モーメントの増大率およびそで壁による剛域は考慮しません。したがって、それらによる影響または合成ばり等による増大率は、6項で入力して頂きます。



P-29 はり形状 (RC、SRC)

RC 造または SRC 造のはり形状データを入力します。

項目	説明		省略時解釈	単位		
1	形状 No	はり形状番号 RC : 101~199 SRC: 201~299				
2	BC	中央部 はり幅		cm		
3	DC	中央部 はり背		cm		
4	BL	左端部 はり幅	BC	cm		
5	DL	左端部 はり背	DC	cm		
6	BR	右端部 はり幅	BC	cm		
7	DR	右端部 はり背	DC	cm		
8	HL	左端 ハンチ長さ(柱面からの長さ)		cm		
9	HR	右端 ハンチ長さ(柱面からの長さ)		cm		
10	TL	はり剛性割増用 左側スラブ厚さ		cm		
11	TR	はり剛性割増用 右側スラブ厚さ		cm		
12	Wo	仕上げ重量		kg/m <sup>2</sup>		
13	LJCD	左端接合状態	接合状態 1	tm/rad		
14	RJCD	右端接合状態	入力値	接合状態		
			1	剛接合		
			2	ピン接合		
			0,1,2 以外	バネ接合 (バネ定数)	1	tm/rad
15	$\phi$	断面二次モーメントの増大率	下記(3)参照			
16	$\beta$	せん断剛性低下率	1.0			
17	EQL0	地震時せん断力計算用はり内法長さ		cm		

- (1) 1 項において、180~199、280~299 を指定した場合、等価節点荷重のモーメントの合計を 0 として計算します。

- (2) 2～11項について、下記に示します。  
 斜め軸および傾斜している部材寸法は、斜めまたは傾斜を考慮した寸法とします。(斜め軸に対する場合のハンチ長さは斜めの長さ)

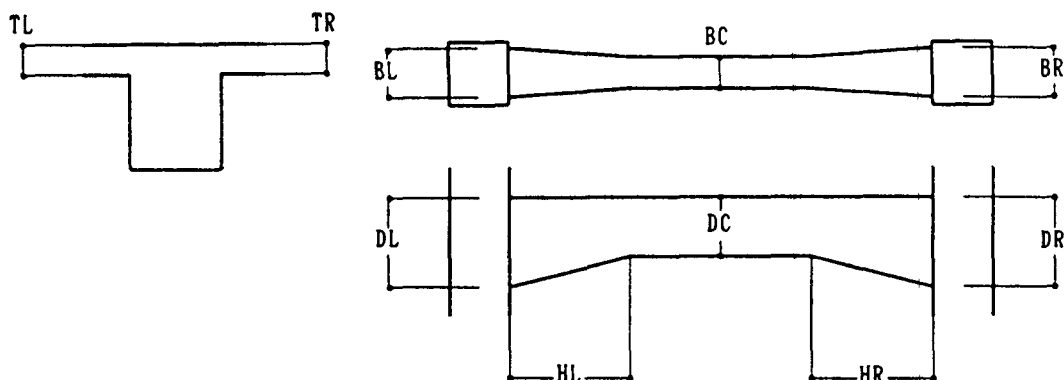
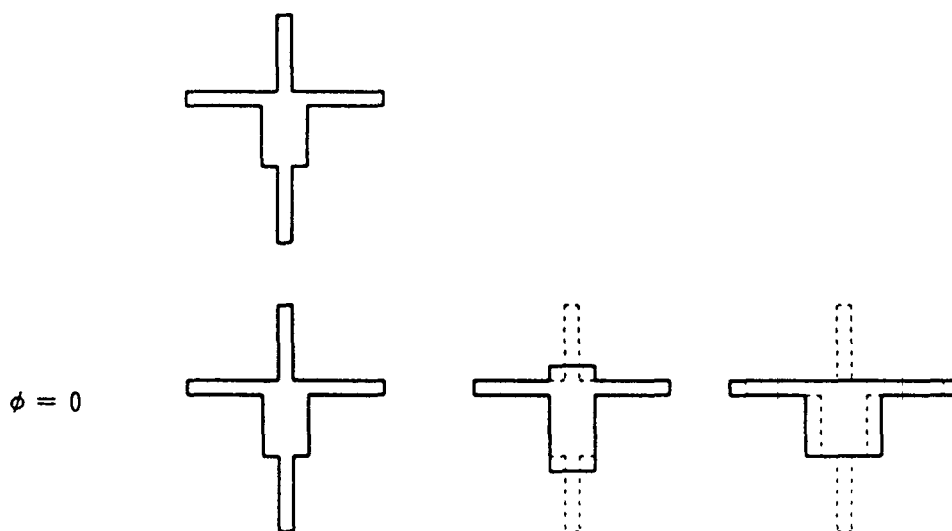


図 2.26 はり形状

- (3) ハンチ付はりの部材剛性は、ハンチ部分の剛性を無視し中央の断面寸法により部材剛性を求めます。また、荷重処理においてハンチ部分の重量は、はりのモーメントには考慮されず、せん断力のみで考慮されます。
- (4) 10.11 項は、断面二次モーメント増大率  $\phi$  にのみ使用します。
- (5) 12項を入力した場合は、「P-25 はり仕上げ重量」で入力した値に加算します。
- (6) 15項で「0」を入力した場合は、スラブによる断面二次モーメント増大率  $\phi$  を自動計算します。  
 たれ壁、腰壁による断面二次モーメント増大率、そで壁による剛域等は、壁形状により自動計算します。断面二次モーメントの計算方法は、下記に示す方法より選択します。  
 たれ壁、腰壁が傾斜している場合は、垂直の壁高さを使用し断面二次モーメントを計算します。



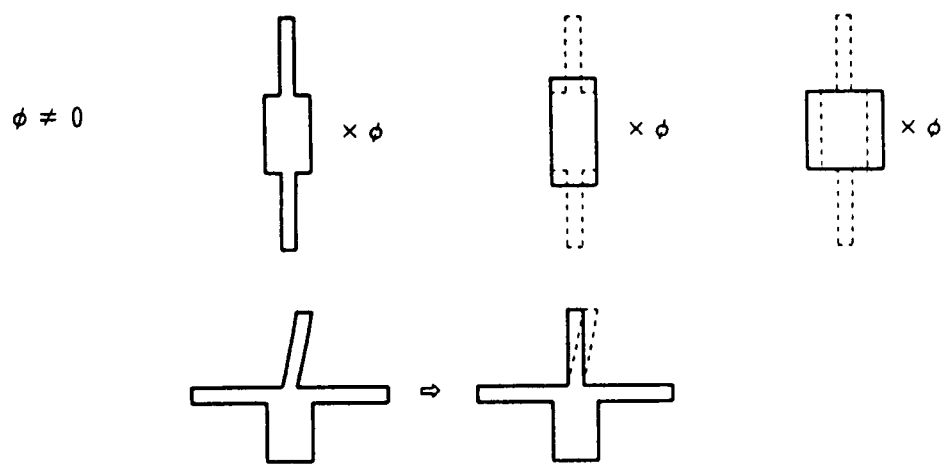


圖 2.27 剛性計算方法

P-30 柱形状(S)

S造の柱形状データを入力します。

項目		説明	省略時解釈	単位									
1	形状NO.	柱形状番号 (1~99)											
2	TBL NO.	鋼材テーブル番号											
3	DIR	部材の強軸方向を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>入力値</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>形状</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">H</td> </tr> </table>	入力値	1	2	形状	I	H	1				
入力値	1	2											
形状	I	H											
4	Wo	仕上げ重量		kg/m									
5	接合状態	TX	X方向柱頭接合状態  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>入力値</td> <td>接合状態</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>剛接合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ピン接合</td> </tr> <tr> <td>0, 1, 2 以外</td> <td>バネ接合 (バネ定数)</td> </tr> </table>	入力値	接合状態	1	剛接合	2	ピン接合	0, 1, 2 以外	バネ接合 (バネ定数)	1	tm/rad
		入力値	接合状態										
		1	剛接合										
		2	ピン接合										
0, 1, 2 以外	バネ接合 (バネ定数)												
TY	Y方向柱頭接合状態 (5項参照)	1	tm/rad										
BX	X方向柱脚接合状態 (5項参照)	1	tm/rad										
BY	Y方向柱脚接合状態 (5項参照)	1	tm/rad										
9	$\phi X$	X方向断面二次モーメント増大率	1.0										
10	$\phi Y$	Y方向断面二次モーメント増大率	1.0										

- (1) 2項において、指定できる鋼材テーブル番号は、CT形鋼、リップみぞ形鋼およびラチス材を除く鋼材とします。
- (2) 3項で「1」を入力した場合、X方向で使用する断面性能は部材Y軸によるものとし、Y方向は部材X軸によるものとします。  
また、「2」を入力した場合、X方向で使用する断面性能は部材X軸によるものとし、Y方向は部材Y軸によるものとします。
- (3) 4項を入力した場合は、「P-26 柱仕上げ重量」で入力した値に加算します。
- (4) S造柱は、そで壁による断面二次モーメント増大率、たれ壁、腰壁による剛域は考慮しません。したがって、それによる影響は9,10項で入力します。

P-31 柱形状 (RC、SRC)

RC 造または SRC 造の柱形状データを入力します。

項目	説明		省略時解釈	単位								
1	形状 No	柱形状番号 RC : 101~199 SRC: 201~299										
2	DX	X 方向柱幅		cm								
3	DY	Y 方向柱幅	DX	cm								
4	Wo	仕上げ重量		kg/m <sup>2</sup>								
5	TX	柱頭 X 方向接合状態	1	tm/rad								
6	TY	柱頭 Y 方向接合状態										
7	BX	柱脚 X 方向柱合状態										
8	BY	柱脚 Y 方向接合状態										
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>接合状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>剛接合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ピン接合</td> </tr> <tr> <td>0,1,2 以外</td> <td>バネ接合 (バネ定数)</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	接合状態	1	剛接合	2	ピン接合	0,1,2 以外	バネ接合 (バネ定数)	
入力値	接合状態											
1	剛接合											
2	ピン接合											
0,1,2 以外	バネ接合 (バネ定数)											
9	$\phi x$	X 方向断面二次モーメントの増大率	1.0									
10	$\phi y$	Y 方向断面二次モーメントの増大率										
11	$\beta x$	X 方向せん断剛性低下率	1.0									
12	$\beta y$	Y 方向せん断剛性低下率										
13	EQL0X	X 方向地震時せん断力計算用はり内法長さ		cm								
14	EQL0Y	Y 方向地震時せん断力計算用はり内法長さ		cm								

(1) 1 項での「形状 No」の指定では以下の拡張指定ができます。

- a. 1 項において、「形状 No」を 170~179、270~279 とした場合は、X 方向の等価節点荷重のモーメントの合計を 0 として処理します。
- b. 1 項において、「形状 No」を 180~189、280~289 とした場合は、Y 方向の等価節点荷重のモーメントの合計を 0 として、計算します。
- c. 1 項において、「形状 No」を 190~199、290~299 とした場合は、Y 方向の等価節点荷重のモーメントの合計を 0 として、計算します。

(2) 2.3項は下記に示す値とします。

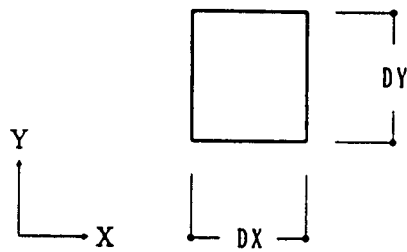


図 2.28 柱形状

(3) 4項を入力した場合は、「P-26 柱仕上げ重量」で入力した値に加算します。

(4) そで壁，耐力壁による増大率、たれ壁，腰壁による剛域は、壁形状により自動計算します。従って、9.10項で入力された断面二次モーメント増大率は、自動計算された断面二次モーメントに掛ける値とします。

そで壁が斜めになっている場合は、水平の壁長さを使用し断面二次モーメントを計算します。

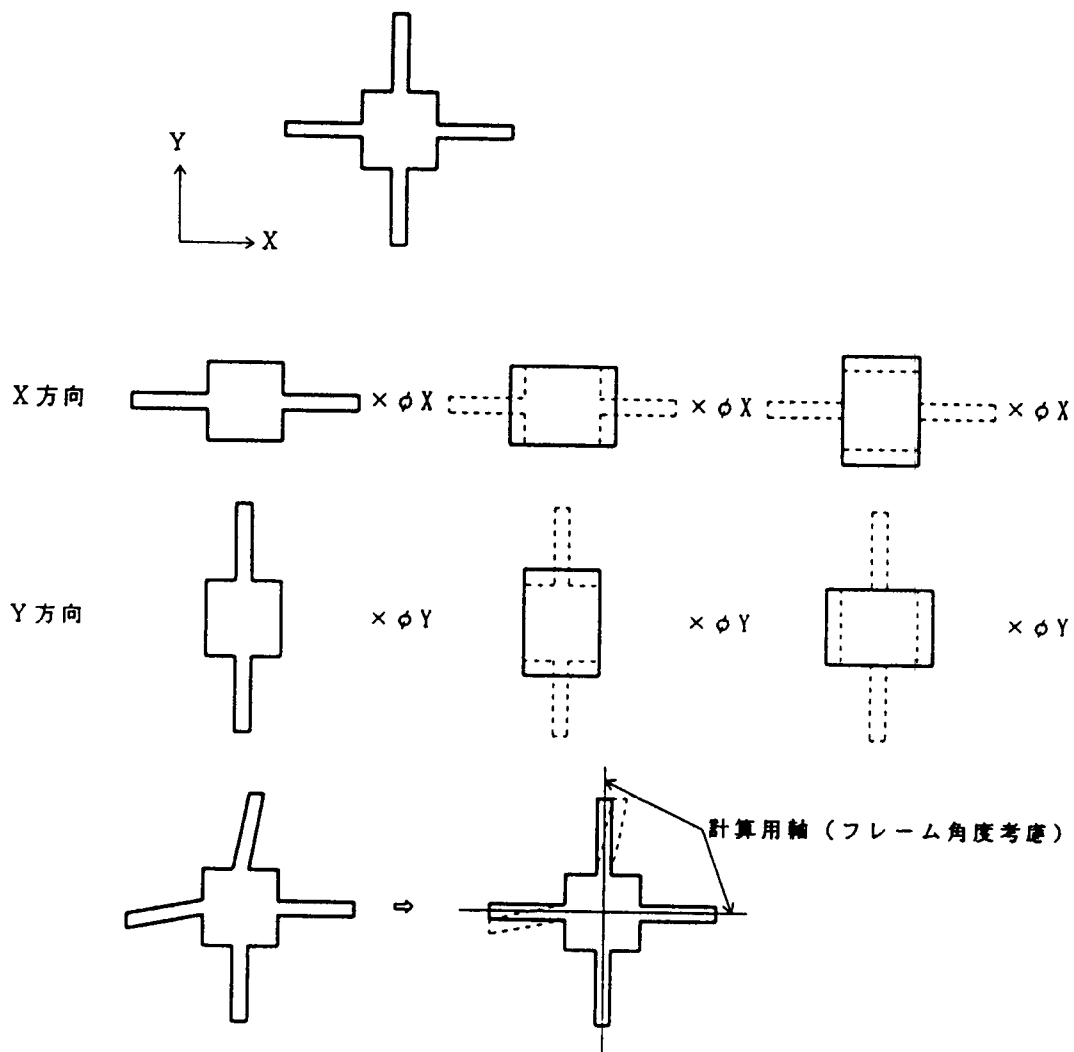


図 2.29 剛性計算方法

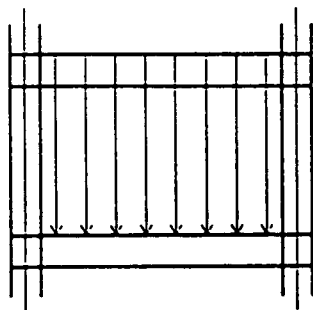
P-32 壁形状 (CB, ALC等)

RC以外の壁形状データを入力します。

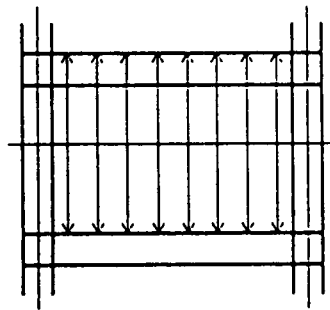
項目	説明	省略時解釈	単位								
1	形状NO.	壁形状番号 (1~99)									
2	W	仕上げ, プレース等を含む壁重量	kg/m <sup>2</sup>								
3	処理	壁荷重の処理方法を下表より選択 <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>直下のはりが全て負担</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>階高の半分をはりが負担</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>柱が負担</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処理方法	1	直下のはりが全て負担	2	階高の半分をはりが負担	3	柱が負担	2
入力値	処理方法										
1	直下のはりが全て負担										
2	階高の半分をはりが負担										
3	柱が負担										

(1) 2項は、下地、仕上げ、プレース等の重量を入力します。

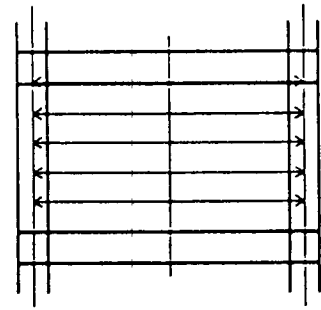
(2) 3項による荷重の取り扱いを下記に示します。ただし、入力値が「1」の場合の地震時重量および風圧力に関しては、「2」の処理とします。



処理 = 1

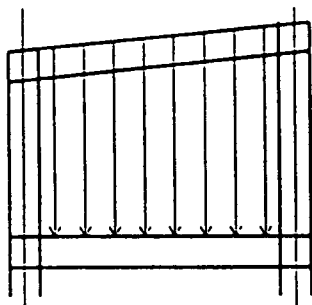


処理 = 2

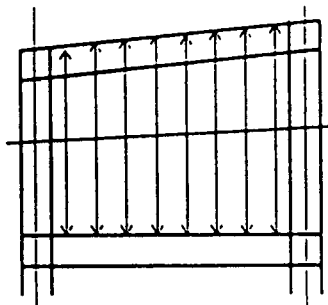


処理 = 3

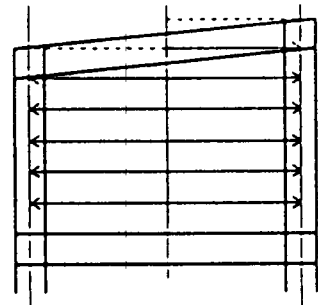
傾斜ばりの場合



処理 = 1



処理 = 2



処理 = 3

傾斜柱の場合

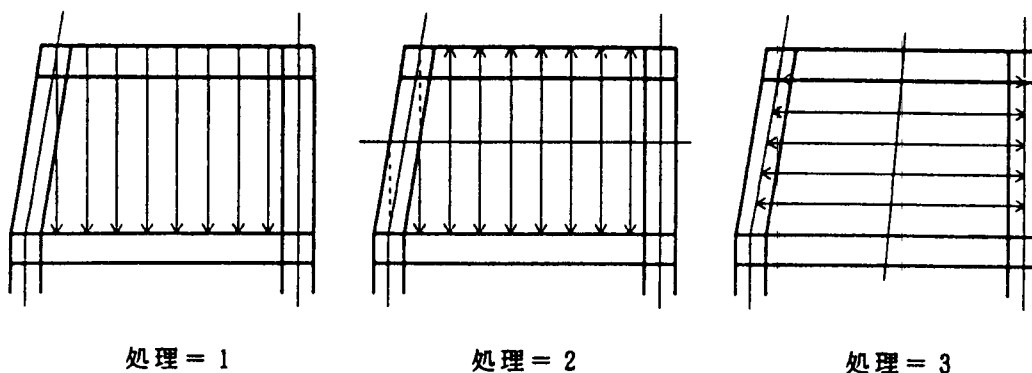


図 2.30 壁荷重処理

- (3) 多スパンにまたがる壁（大壁）の場合は、多スパンにまたがる壁を1枚の形状で作成し、「P-49 壁配置」において、形状番号+1000として配置します。  
また、「P-34 壁開口形状」で大壁にたいする開口形状も同様に作成します。



P-33 壁形状 (RC)

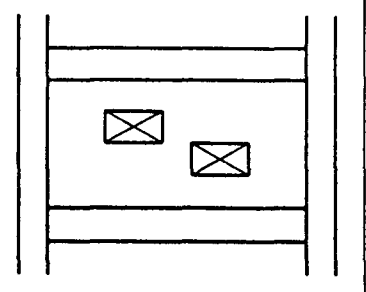
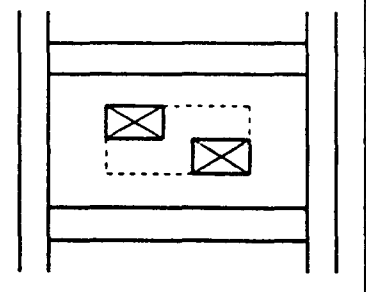
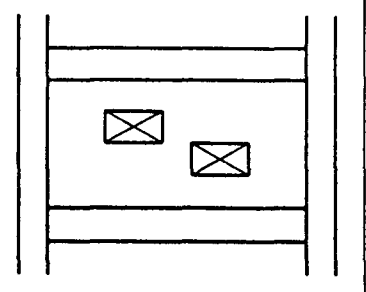
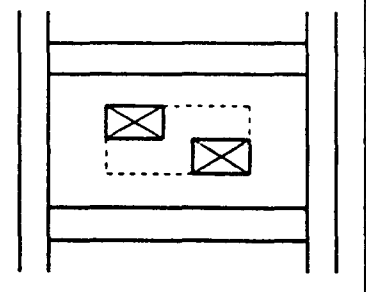
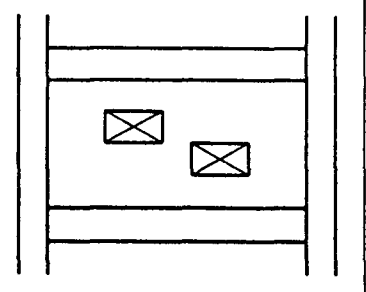
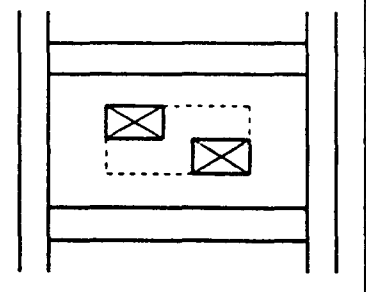
RC造の壁形状時を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位																
1	形状NO.	壁形状番号 (101~199)																	
2	壁厚	壁厚さ	cm																
3	W	仕上げ重量 (両面仕上げの和)	kg/m <sup>2</sup>																
4	処理	荷重の処理方法を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>はりの荷重項</th> <th>柱軸力</th> <th>地震時重量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>計算しない</td> <td>加算しない</td> <td>加算する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>計算しない</td> <td>加算する</td> <td>加算する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>計算する</td> <td>加算する</td> <td>加算する</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	はりの荷重項	柱軸力	地震時重量	1	計算しない	加算しない	加算する	2	計算しない	加算する	加算する	3	計算する	加算する	加算する	2
入力値	はりの荷重項	柱軸力	地震時重量																
1	計算しない	加算しない	加算する																
2	計算しない	加算する	加算する																
3	計算する	加算する	加算する																
5	$\beta$	せん断剛性低下率																	
6	$\kappa$	せん断形状係数	1.2																

- (1) 3項は、壁自重 (壁自重は壁厚によって自動計算) を含まない、仕上げ重量のみとします。
- (2) 5,6項は、耐力壁となる壁に使用します。5項が「0」の場合は、耐力壁になる壁であっても耐力壁として取り扱わなくなります。  
耐力壁は、X形ブレースに置換して計算します。
- (3) 多スパンにまたがる壁 (大壁) の場合は、多スパンにまたがる壁を1枚の形状で作成し、「P-49 壁配置」において、形状番号+1000として配置します。  
また、「P-34 壁開口形状」で大壁にたいする開口形状も同様に作成します。

P-34 壁開口形状

壁の開口データを入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位							
1	形状NO.	壁開口形状番号 (1~99)								
2	Wo	開口部重量	kg/m <sup>2</sup>							
3	SL	左右スリット幅	cm							
4	SH	上下スリット幅	cm							
5	処理	<p>「P-33 壁形状(RC)」の開口周比の計算の処理方法を下表より選択</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">入力値</th> <th style="width: 85%;">処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td> <p>各開口面積(長さ)の合計によって計算</p>  </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> <p>包括面積(長さ)によって計算</p>  </td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処理方法	1	<p>各開口面積(長さ)の合計によって計算</p> 	2	<p>包括面積(長さ)によって計算</p> 	1	
入力値	処理方法									
1	<p>各開口面積(長さ)の合計によって計算</p> 									
2	<p>包括面積(長さ)によって計算</p> 									
6	TYP	開口タイプ番号 (図 2.33 参照)								
7	開口	開口数 (0~5)								
8	L1	開口寸法 (図 2.33 参照)	m							
9	L2		m							
10	L3		m							
11	L4		m							

- (1) 3～5項は、「P-33 壁形状(RC)」の壁のみに有効です。  
3.4項は下記の様に処理されます。

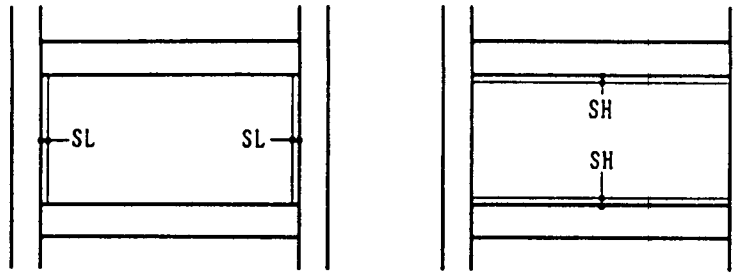


図 2.31 スリット幅

- (2) 5項は、開口数が2個以上の時にのみ有効となります。
- (3) 開口が複数ある場合は、8～11項を繰り返し使用し左(軸番号の小さい方)から入力します。ただし、開口が上下重なる場合は、処理できません。  
多スパンにまたがる壁(大壁)に配置する開口は、1スパンとして入力し、配置します。

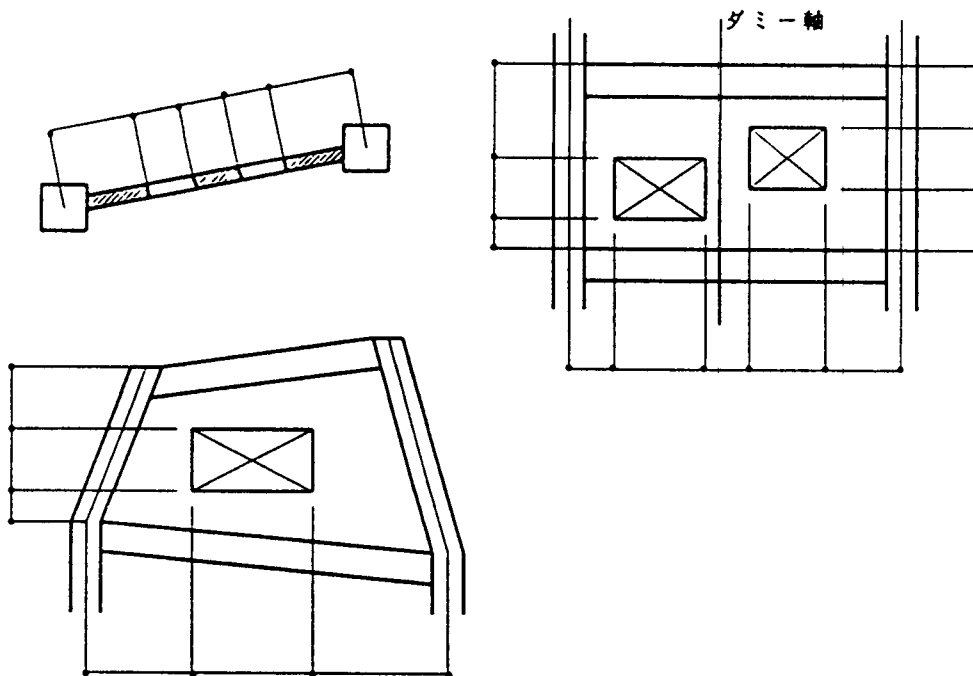
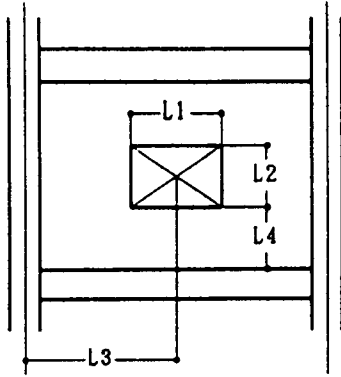


図 2.32 開口寸法

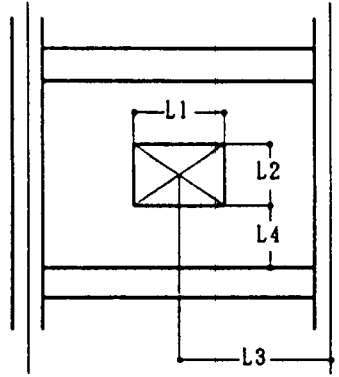
- (4) 6項において、1～10の場合は開口の左右位置に関するデータを実長で、11～20の場合は開口の左右位置に関するデータを、はり長さを1とした時の割合で入力します。

TYP 1(11)



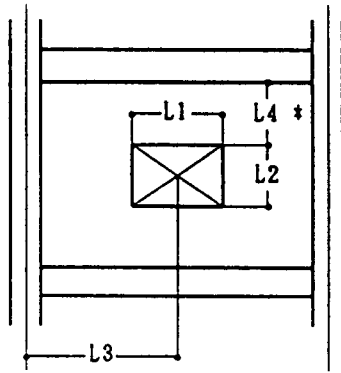
TYP 11の場合 L3 を割合

TYP : 2(12)



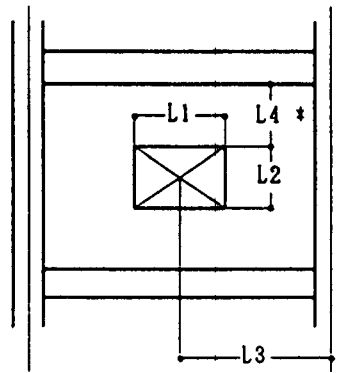
TYP 12の場合 L3 を割合

TYP . 3(13)



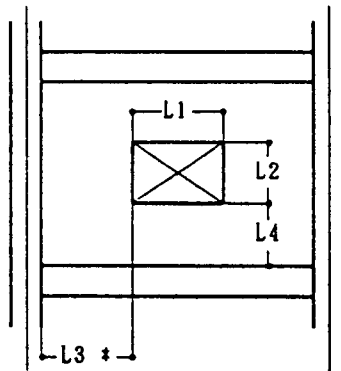
TYP 13の場合 L3 を割合

TYP . 4(14)



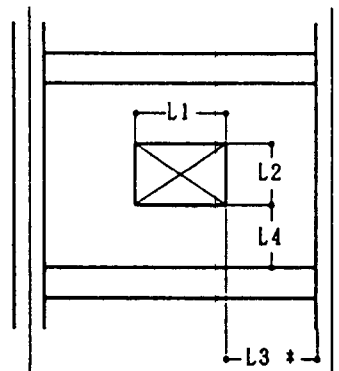
TYP 14の場合 L3 を割合

TYP : 5(15)



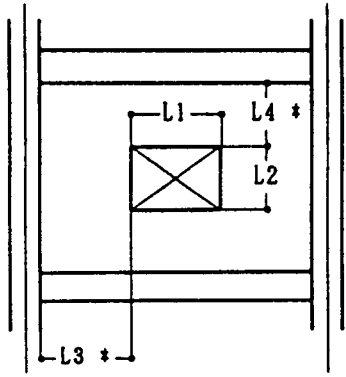
TYP 15の場合 L3 を割合

TYP : 6(16)



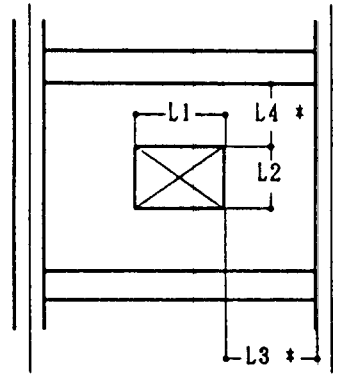
TYP 16の場合 L3 を割合

TYP : 7(17)



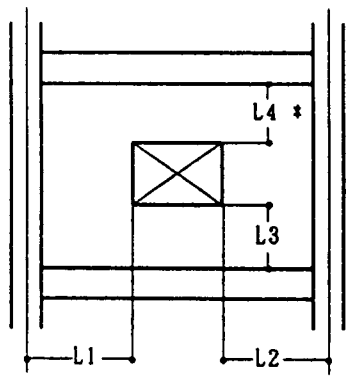
TYP 17の場合 L3 を割合

TYP : 8(18)



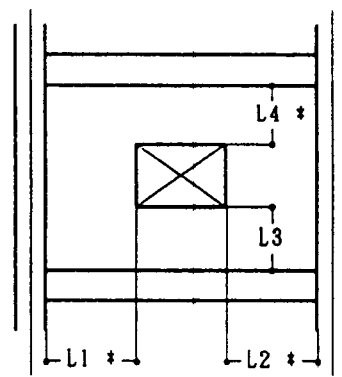
TYP 18の場合 L3 を割合

TYP : 9(19)



TYP 19の場合 L1, L2を割合

TYP : 10(20)




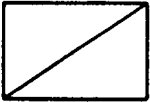
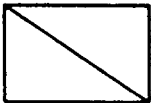

TYP 20の場合 L1, L2を割合

ただし、「P-32 壁形状 (CB, ALC等)」に対しての開口寸法については、内法寸法は使用できません。よって、はり上端または軸心からの距離とします。( \*付)

図 2.33 開口形状

P-35 ブレース形状

S造ブレースを入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位
1	形状NO. ブレース形状番号 (1~99)		
2	TYP ブレースのタイプを下記より選択  <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  TYP:1         </div> <div style="text-align: center;">  TYP:2         </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  TYP:3         </div> <div style="text-align: center;">  TYP:4 (引張部材のみ有効)         </div> </div>	4	
3	BA1 応力計算用ブレース断面積		cm <sup>2</sup>
4	BA2 断面計算用ブレース断面積	BA1	cm <sup>2</sup>

- (1) 3項は、剛性計算および応力計算に使用します。2項が「4」の場合はX形ブレースとし入力値の1/2の値を採用し剛性計算および応力計算を行います。4項は、断面計算時に使用されます。
- (2) 多スパンにまたがるブレースの場合は、多スパンにまたがるブレースを1枚の形状で作成し、「P-51 ブレース配置」において、形状番号+1000として配置します。
- (3) 「P-33 壁形状(RC)」で作成した壁が配置されている箇所に配置した場合は、無視されます。

ラーメン外の壁を入力します。

項目		説明	省略時解釈	単位								
1	階 (I1)	対象階										
2	階 (I2)	11階から12階まで (I1 ≤ I2)										
3	方向	壁方向を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>入力値</td> <td>方向</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>X方向</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Y方向</td> </tr> </table>	入力値	方向	1	X方向	2	Y方向	1			
入力値	方向											
1	X方向											
2	Y方向											
4	LX	基準点からの壁までのX方向距離		m								
5	LY	基準点からの壁までのY方向距離		m								
6	t	壁厚さ		cm								
7	l	壁長さ		cm								
8	θ	壁の回転角（反時計廻りを+）		°								
9	n	雑壁剛性倍率										
10	壁量	壁量の処理方法を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>入力値</td> <td>処理方法</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>自動計算</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>入力値による</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>算入しない</td> </tr> </table>	入力値	処理方法	1	自動計算	2	入力値による	3	算入しない	1	
入力値	処理方法											
1	自動計算											
2	入力値による											
3	算入しない											
11	Aw1	SRC 造に取り付く耐力壁(Aw)に算入される壁面積		cm <sup>2</sup>								
12	Aw2	11項以外の耐力壁に算入される壁面積		cm <sup>2</sup>								
13	Ac	Acに算入される壁面積		cm <sup>2</sup>								

(1) 雑壁の剛性は、6～9項からD値形式で計算します。

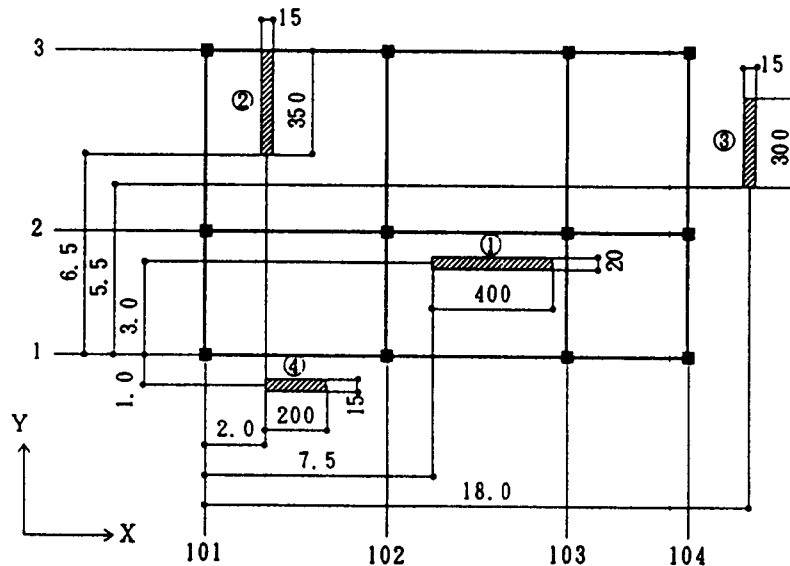
$$D_w = n \times t \times l \times \frac{\sum D_c}{\sum A_c} \times \cos^2 \theta$$

D<sub>w</sub> : 雑壁のD値  
 n : 雑壁剛性倍率 (9項)  
 t : 壁厚さ (6項)  
 l : 壁長さ (7項)  
 θ : 壁の回転角度 (8項)  
 Σ D<sub>c</sub> : 方向別の柱D値の合計  
 Σ A<sub>c</sub> : 方向別の柱断面積の合計

(2) 9項での入力値は、雑壁の剛性 (D値) を計算する際にのみ使用されます。剛性を考慮しない時は、「0」を入力します。

(3) 壁量は、10項の入力値が「1」の場合は、6～8項により A<sub>c</sub> に算入され、10項が「2」の場合は、11～13項の入力値により計算されます。

(4) 本項で入力した雑壁の重量は、一切考慮しません。



	方向	LX	LY	t	l	θ
①	1	7.5	3.0	20	400	0
②	2	2.0	6.5	15	350	0
③	2	18.0	5.5	15	300	0
④	1	2.0	-1.0	15	200	0



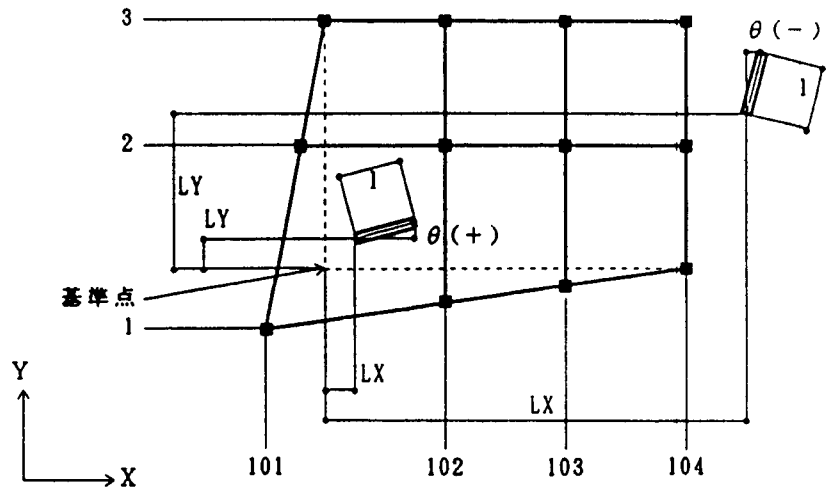


图 2.34 雜壁

P - 3 7 小ばり形状 (S)

S造の小ばり形状データを入力します。

項 目		説 明	単 位
1	形状NO.	小ばり形状番号 (1~99)	
2	TBL NO.	鋼材テーブル番号	
3	Wo	仕上げ重量	kg/m

- (1) 2項において、指定できる鋼材テーブル番号は、H形鋼またはリップみぞ形鋼背合わせとします。
- (2) 仕上げ重量(耐火被覆等)は3項で入力された値のみとし、「P-25 はり仕上げ重量」で入力されている値は加算しません。

P-38 小ぶり形状 (RC)

RC造の小ぶり形状データを入力します。

項 目		説 明	単 位
1	形状NO.	小ぶり形状番号 (101~199)	
2	B	はり幅	cm
3	D	はりせい	cm
4	Wo	仕上げ重量	kg/m <sup>2</sup>

- (1) 仕上げ重量は4項で入力された値のみとし、「P-25 はり仕上げ重量」で入力されている値は加算しません。

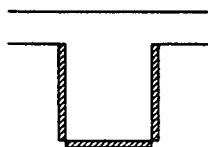


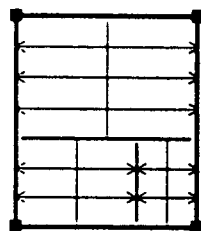
図 2.35 仕上げ

P-39 スラブ形状 (基本)

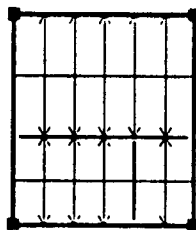
荷重状態等、小ばりなしのスラブ形状データを入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位								
1	形状NO.	スラブ形状番号 (1~99)									
2	DIR	床の荷重伝達方向を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>伝達方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>X方向</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Y方向</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>両方向</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	伝達方向	1	X方向	2	Y方向	3	両方向	3
入力値	伝達方向										
1	X方向										
2	Y方向										
3	両方向										
3	t	スラブ厚さ	cm								
4	Wo	仕上げ重量 (床仕上げと天井等の和)	kg/m <sup>2</sup>								
5	LL	「P-19 積載荷重」で入力した積載荷重、表 2.3または登録した積載荷重番号									
6	Ws	積雪荷重	kg/m <sup>2</sup>								
7	WX NO.	X方向フレーム解析時に使用する「P-23 風力係数」で入力した風力係数番号									
8	WY NO.	Y方向フレーム解析時に使用する「P-23 風力係数」で入力した風力係数番号									

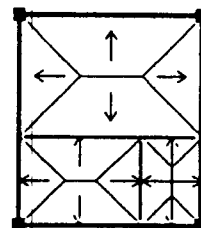
(1) 2項によりスラブ荷重の伝達方向が決定されます。「1」の場合はX方向の1方向版、「2」の場合はY方向の1方向版、「3」の場合は2方向版として2等分線で亀の甲条に分割して荷重を伝達します。



1 : X方向



2 : Y方向



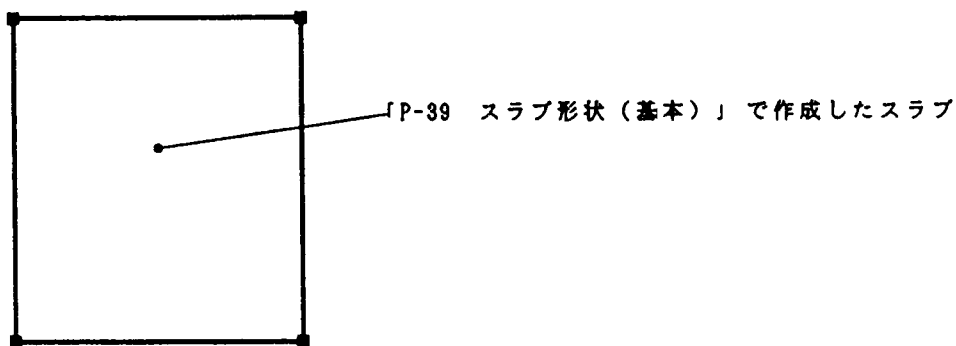
3 : 両方向

図 2.36 荷重伝達方向

- (2) 鉄骨造において、RCスラブの場合は3項にスラブ厚を入力し、4項はスラブ自重を含まない重量を入力します。RCスラブでない場合は3項を「0」とし、4項に床自重等を含む重量を入力します。
- (3) 積雪がかかる場合は6項で㎡当たりで入力します。各荷重に対しての低減率は「P-20 荷重計算指定」で入力した値とします。
- (4) 風圧がかかる場合は7.8項で「P-23 風力係数」で入力した風力係数番号を入力します。
- (5) 多スパンにまたがるスラブ（大床）の場合は、多スパンにまたがるスラブを1枚のスラブで形状を作成し、「P-53 スラブ配置」において形状番号+1000で配置します。

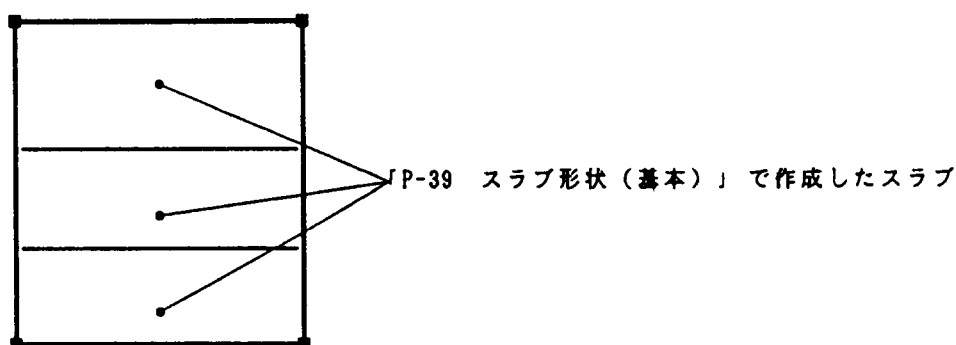
・小ばりがない場合

「P-39 スラブ形状（基本）」でスラブ形状を入力し、配置します。



・一次小ばりのみの場合

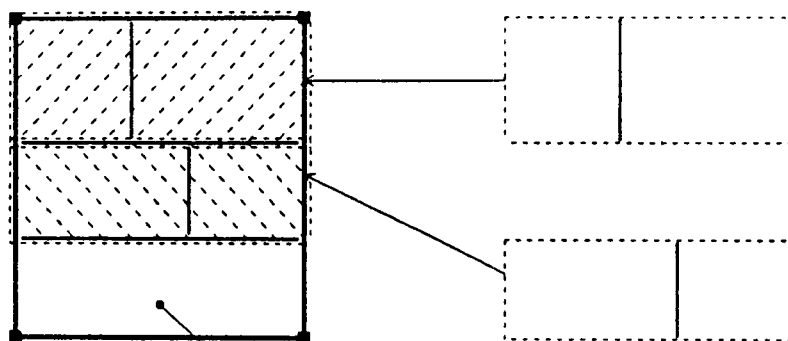
「P-39 スラブ形状（基本）」で荷重条件等のスラブ形状を入力し、「P-40 スラブ形状（一次まで）」においてスラブ形状を作成し配置します。



・二次小ばりを有するスラブの場合

「P-39 スラブ形状（基本）」で荷重条件等のスラブ形状を入力し、「P-40 スラブ形状（一次まで）」において二次小ばり状態を入力し、「P-41 スラブ形状（二次まで）」においてスラブ形状を作成し、配置します。

「P-40 スラブ形状（一次まで）」で作成



「P-39 スラブ形状（基本）」で作成したスラブ

・下図の様に小ばり間隔が均等な場合（3次小ばりまで可能）

「P-42 スラブ形状（その他）」においてスラブ形状を作成し配置します。荷重等の入力「P-39 スラブ形状（基本）」において入力します。

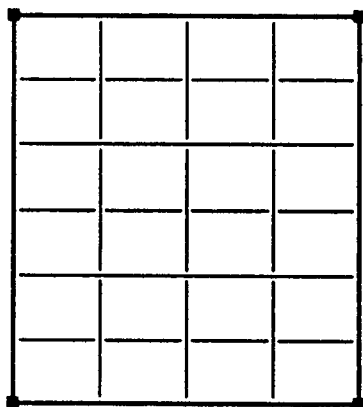


図 2.37 スラブ形態

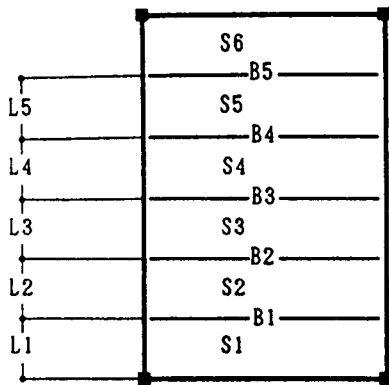
P-40 スラブ形状（一次まで）

小ばり有り（一次小ばりまで）スラブ形状データまたは、二次小ばりの状態を入力します。

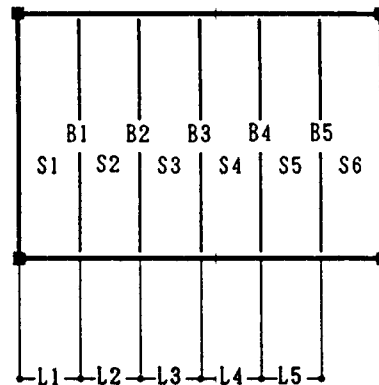
項 目		説 明	省略時解釈	単 位						
1	形状NO	スラブ形状番号（101～199）								
2	DIR	小ばり方向を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>入力値</td> <td>方 向</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>X方向</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Y方向</td> </tr> </table>	入力値	方 向	1	X方向	2	Y方向		
入力値	方 向									
1	X方向									
2	Y方向									
3	方法	小ばり間隔の入力方法を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>入力値</td> <td>方法</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>実長入力</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>割合入力</td> </tr> </table>	入力値	方法	1	実長入力	2	割合入力	1	
入力値	方法									
1	実長入力									
2	割合入力									
4	N	小ばり本数								
5	S	「P-39 スラブ形状（基本）」で入力したスラブ形状番号								
6	L	小ばり間隔		m						
7	B	「P-37 小ばり形状（S）」、「P-38 小ばり形状（RC）」で入力した小ばり形状番号								
8	W	B（7項）が負担する壁等による「P-57 はり特殊荷重（1）」または「P-58 はり特殊荷重（2）」で登録した特殊荷重番号								

- (1) 2項により小ばりの配置方向が決定されます。ただし、「P-41 スラブ形状（二次まで）」において本項で入力したスラブを使用した場合は、2項で入力した値は無視され「P-41 スラブ形状（二次まで）」の2項で入力した小ばり方向の直行方向となります。
- (2) 3項の入力によって、6項の入力値の取り扱いが変わります。「1」を指定した場合は、6項での入力値は実長とし、「2」を指定した場合は、スラブ一辺の長さを1とした時の割合で入力します。
- (3) 小ばり本数は、5本までとします。不均等の場合の4項の入力値は1～5とし、均等の場合は実際の小ばり本数に10を足した値（11～15）とします。

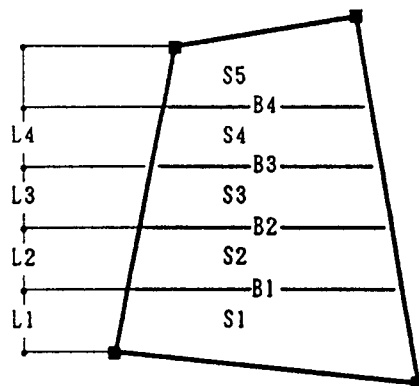
- (4) 8項は、小ばりに掛かる特殊荷重として風以外の各荷重にかかる割合も考慮します。(TYP 7.17は使用不可)
- (5) 多スパンにまたがるスラブ(大床)の場合は、多スパンにまたがるスラブを1枚のスラブで形状を作成し、「P-53 スラブ配置」において形状番号+1000で配置します。



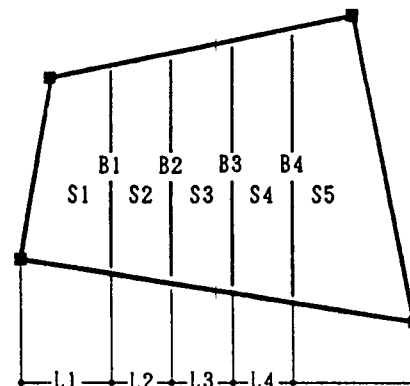
小ばり X方向配置



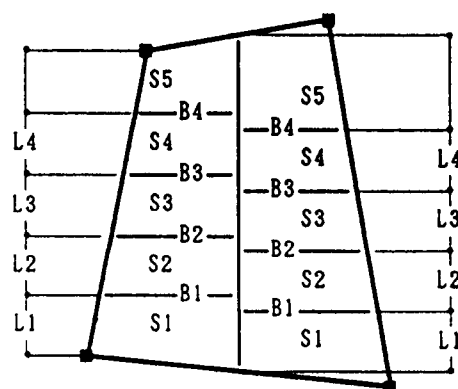
小ばり Y方向配置



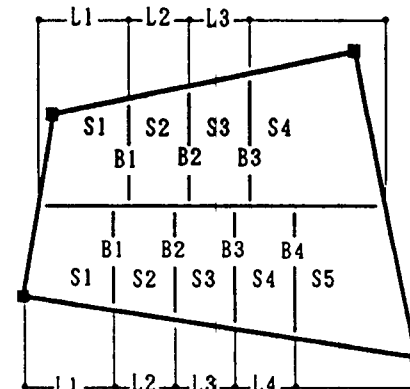
小ばり X方向配置



小ばり Y方向配置



小ばり X方向配置



小ばり Y方向配置

図 2.38 スラブ形状(一次まで)



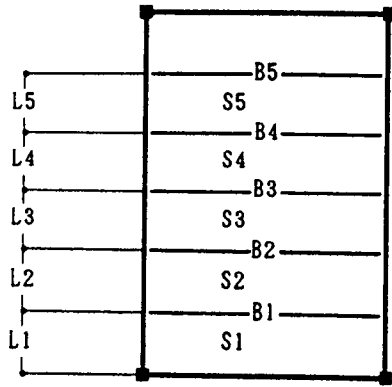
P-41 スラブ形状（二次まで）

小ばり有り（二次小ばりまで）スラブ形状データを入力します。

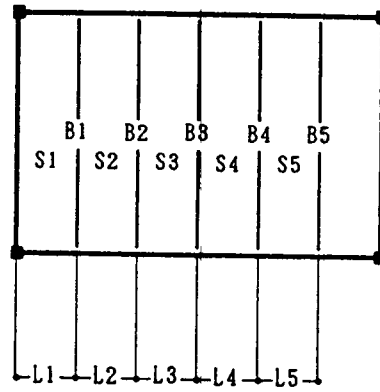
項 目		説 明	省略時解釈	単 位						
1	形状NO.	スラブ形状番号（201～299）								
2	DIR	小ばり方向を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>方 向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>X方向</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Y方向</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	方 向	1	X方向	2	Y方向		
入力値	方 向									
1	X方向									
2	Y方向									
3	方法	小ばり間隔の入力方法を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実長入力</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>割合入力</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	方法	1	実長入力	2	割合入力	1	
入力値	方法									
1	実長入力									
2	割合入力									
4	N	小ばり本数								
5	S	「P-39 スラブ形状（基本）」、「P-40 スラブ形状（一次まで）」で入力したスラブ形状番号								
6	L	小ばり間隔		mm						
7	B	「P-37 小ばり形状（S）」、「P-38 小ばり形状（RC）」で入力した小ばり形状番号								
8	W	B（7項）が負担する壁等による「P-57 はり特殊荷重（1）」または「P-58 はり特殊荷重（2）」で登録した特殊荷重番号								

- (1) 2項により小ばりの配置方向が決定されます。ただし、「P-40 スラブ形状（一次まで）」において入力したスラブを使用した場合は、二次小ばり方向は2項で入力した小ばり方向の直交方向となります。
- (2) 3項の入力によって、6項の入力値の取り扱いが変わります。「1」を指定した場合は、6項での入力値は実長とし、「2」を指定した場合は、スラブ一週の長さを1とした時の割合で入力します。
- (3) 小ばり本数は5本までとします。不均等の場合の4項の入力値は1～5とし、均等の場合は実際の小ばり本数に10を足した値（11～15）とします。

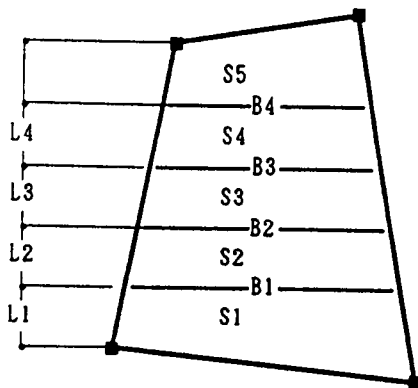
- (4) 8項は、小ばりに掛かる特殊荷重とし、風以外の各荷重に対する割合も考慮します。(TYP 7.17は使用不可)
- (5) 多スパンにまたがるスラブ(大床)の場合は、多スパンにまたがるスラブを1枚のスラブで形状を作成し、「P-53 スラブ配置」において形状番号+1000で配置します。



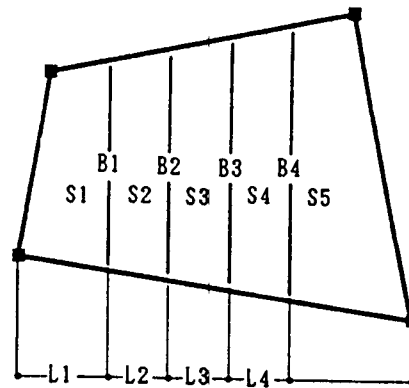
小ばり X方向配置



小ばり Y方向配置



小ばり X方向配置

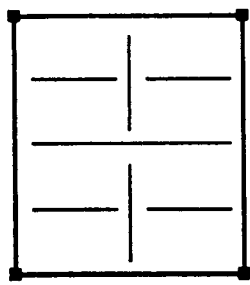
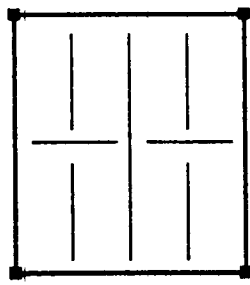
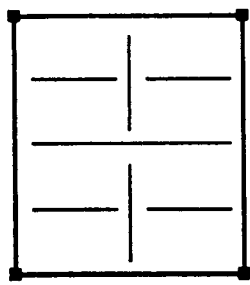
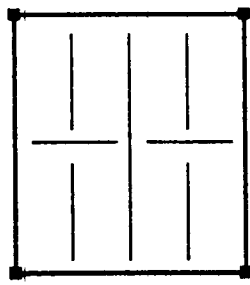
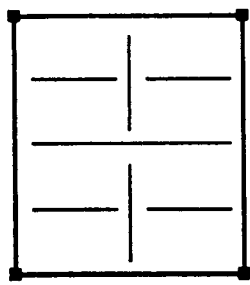
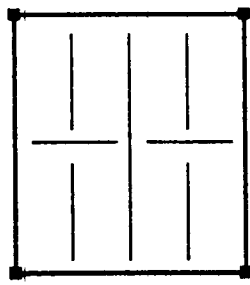


小ばり Y方向配置

図 2.39 スラブ形状(一次まで)

P-42 スラブ形状（その他）

小ばり間隔および荷重状態が均一のスラブ形状データを入力します。

項 目		説 明						
1	形状NO.	スラブ形状番号 (301~399)						
2	TYP	<p>小ばり配置のタイプを下表より選択</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>1</th> <th>2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形状</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	入力値	1	2	形状		
入力値	1	2						
形状								
3	N1	一次小ばり本数 (1~9)						
4	N2	二次小ばり本数 (0~9)						
5	N3	三次小ばり本数 (0~9)						
6	S NO.	「P-39 スラブ形状（基本）」で入力したスラブ形状番号						
7	B1	一次小ばり形状番号（「P-37 小ばり形状（S）」, 「P-38 小ばり形状（RC）」で入力した小ばり形状番号）						
8	B2	二次小ばり形状番号（「P-37 小ばり形状（S）」, 「P-38 小ばり形状（RC）」で入力した小ばり形状番号）						
9	B3	三次小ばり形状番号（「P-37 小ばり形状（S）」, 「P-38 小ばり形状（RC）」で入力した小ばり形状番号）						

- (1) 本項で入力したスラブ形状は、荷重、小ばり間隔等は均一となります。
- (2) 多スパンにまたがるスラブ（大床）の場合は、多スパンにまたがるスラブを1枚のスラブで形状を作成し、「P-53 スラブ配置」において形状番号+1000で配置します。

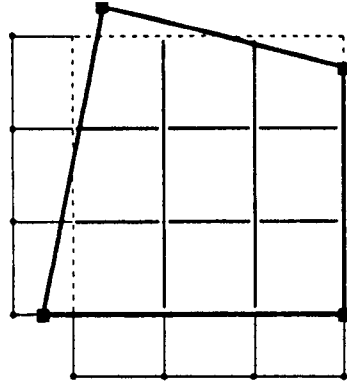


図 2.40 スラブ形状 (その他)

P-43 片持ちばり形状 (S)

S造片持ちばり形状データを入力します。

項目	説明	単位
1	形状NO.	片持ちばり形状番号 (1~99)
2	TBL NO	鋼材テーブル番号 (H形のみ)
3	Wo	仕上げ重量 kg/m
4	L	片持ちばり長さ m
5	L1	集中荷重 (6項) 作用位置 m
6	P	追加集中荷重 t
7	L2	分布荷重 (9項) 作用開始位置 m
8	L3	分布荷重 (9項) 作用長さ m
9	W	追加分布荷重 t/m
10	W NO.	片持ちばりが負担する壁等による「P-57 はり特殊荷重 (1)」または「P-58 はり特殊荷重 (2)」で登録した特殊荷重番号

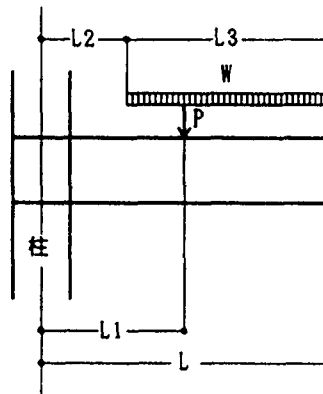


図 2.41 片持ちばり形状 (S)

- (1) 6.9項で入力する荷重は、固定荷重として取り扱います。また、5~10項で入力した荷重と片持ちスラブ形状による荷重は加算します。
- (2) 仕上げ重量 (耐火被覆等) は、3項で入力された値のみとし、「P-25 はり仕上げ重量」で入力されている値は加算しません
- (3) 10項で「P-57 はり特殊荷重 (1)」 (TYP 7.17は使用不可) を指定した場合は、はりの左端を片持ちばりの基端、はりの右端を片持ちばりの先端として処理します。「P-58 はり特殊荷重 (2)」を指定した場合は、MLを基端モーメント、QLを基端せん断力として処理します。各荷重に対する割合も考慮します。

P-44 片持ちばり形状 (RC, SRC)

RC, SRC造片持ちばり形状データを入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位
1	形状NO.	片持ちばり形状番号 (RC: 101~199 SRC: 201~299)	
2	B	はり幅	cm
3	D1	基端はりせい	cm
4	D2	先端はりせい	D1
5	Wo	仕上げ重量	kg/m <sup>2</sup>
6	L	片持ちばり長さ	m
7	L1	集中荷重 (8項) 作用位置	m
8	P	追加集中荷重	t
9	L2	分布荷重 (11項) 作用開始位置	m
10	L3	分布荷重 (11項) 作用長さ	m
11	W	追加分布荷重	t/m
12	W NO.	片持ちばりが負担する壁等による「P-57 はり特殊荷重 (1)」または「P-58 はり特殊荷重 (2)」で登録した特殊荷重番号	

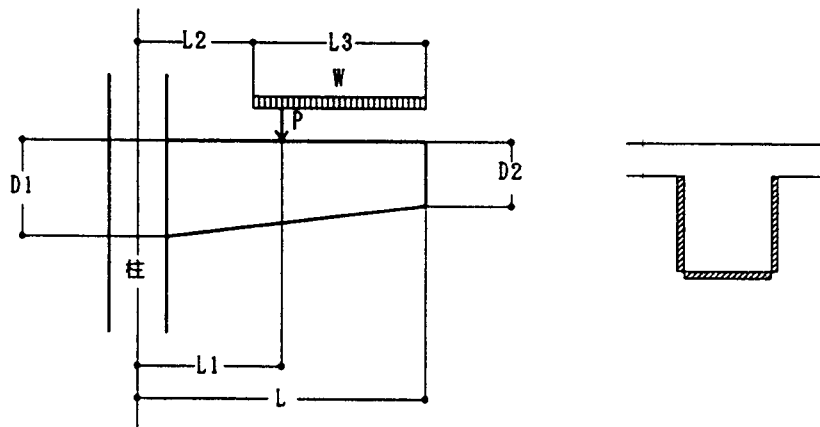


図 2.42 片持ちばり形状 (RC, SRC)

- (1) 8.11項で入力する荷重は、固定荷重として処理します。また、7~12項で入力した荷重と、片持ちスラブ形状による荷重は加算します。

- (2) 仕上げ重量は、5項で入力された値のみとし、「P-25 はり仕上げ重量」で入力されている値は加算しません
- (3) 1項において、180~199, 280~299 を使用した場合は、モーメントの合計を0として内部処理します。
- (4) 12項で「P-57 はり特殊荷重(1)」(TYP 7.17は使用不可)を指定した場合は、はりの左端を片持ちばりの基端、はりの右端を片持ちばりの先端として処理します。「P-58 はり特殊荷重(2)」を指定した場合は、MLを基端モーメント、QLを基端せん断力として処理します。各荷重に対する割合を考慮します。

P-45 片持ちスラブ形状

片持ちスラブ形状データを入力します。

項目		説明	単位								
1	形状NO.	片持ちスラブ形状番号 (1~99)									
2	TYP	片持ちスラブタイプ番号 (図 2.43 参照)									
3	DIR	スラブ荷重伝達方向を下表より選択 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>X方向</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Y方向</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>両方向</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	方向	1	X方向	2	Y方向	3	両方向	
入力値	方向										
1	X方向										
2	Y方向										
3	両方向										
4	B NO	小ばり配置による形状番号 (図 2.43 参照)									
5	S NO.	「P-39 スラブ形状 (基本)」で入力したスラブ形状番号									
6	LX	片持ちスラブの出 (図 2.43 参照)	m								
7	LY	片持ちスラブの出 (図 2.43 参照)	m								
8	L1	片持ちスラブ左位置 (図 2.43 参照)	m								
9	L2	片持ちスラブ右位置 (図 2.43 参照)	m								
10	W	先端荷重 (図 2.43 参照)	t/m								
11	B1	「P-37 小ばり形状 (S)」, 「P-38 小ばり形状 (RC)」で入力した小ばり形状番号 (図 2.43 参照)									
12	n	B2 (13項) の本数 (0~9)									
13	B2	「P-37 小ばり形状 (S)」, 「P-38 小ばり形状 (RC)」で入力した小ばり形状番号 (図 2.43 参照)									
14	Gc	「P-43 片持ちばり形状 (S)」, 「P-44 片持ちばり形状 (RC, SRC)」で入力した片持ちばり形状番号 (図 2.43 参照) (材寸とWのみ考慮)									

- (1) 3項が「0」の場合は、5項で入力したスラブ形状によって指定されている伝達方向となります。
- (2) n (12項) は、0~9本とし、全て均等割りとします。ただし、TYP (2項) が1~3の場合のみ有効とします。

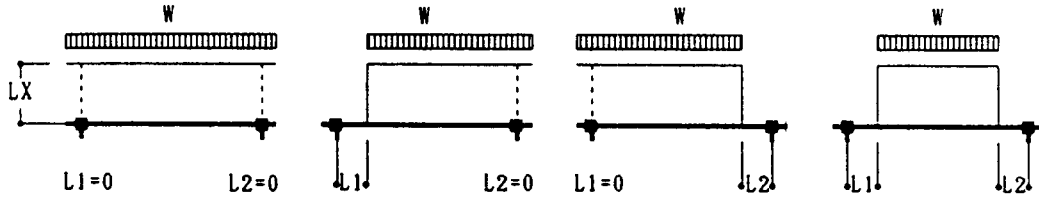


(3) 14項は、8項または9項か入力されている場合のみ有効になります。柱からの片持ちばりは、「P-54 片持ちばり配置」により配置された片持ちばりとなります。

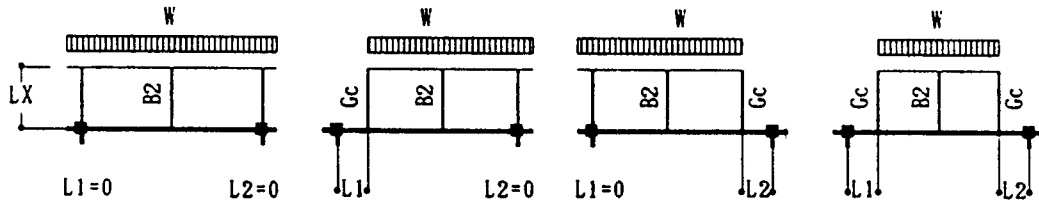
(4) 多スパンにまたがる片持ちスラブの場合は、多スパンにまたがる片持ちスラブを1枚の片持ちスラブとして形状を作成し、「P-55 片持ちスラブ配置」において形状番号+1000として配置します。ただし、多スパンにまたがる片持ちスラブは、TYP (2項)が1~3の場合のみとします。

○TYP : 1 (LY=0)

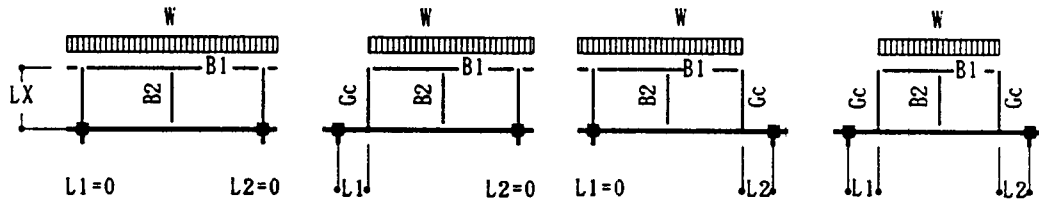
●BNO : 1



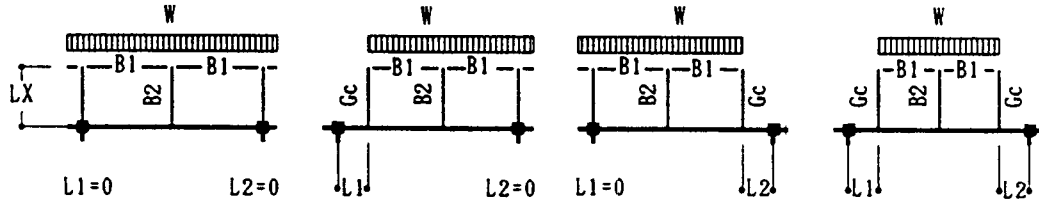
●BNO : 2



●BNO : 3



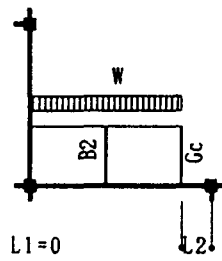
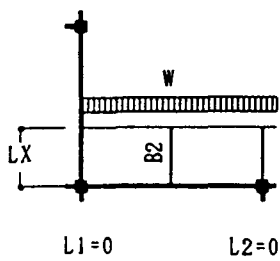
●BNO : 4



○ TYP 2 (LY=0)

● BNO : 1

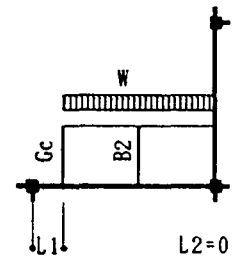
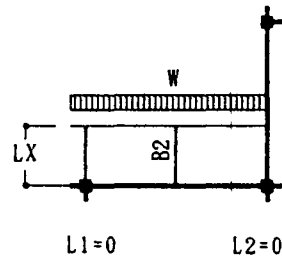
使用不可



○ TYP 3 (LY=0)

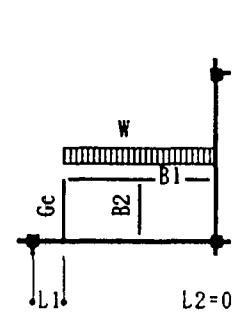
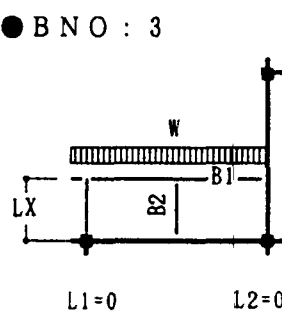
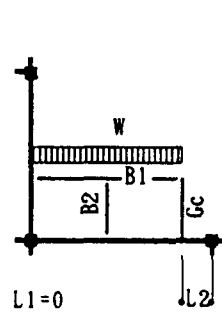
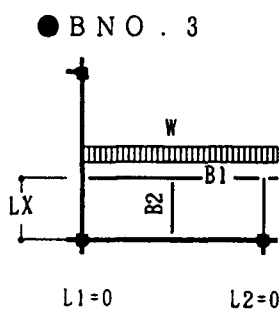
● BNO : 1

使用不可



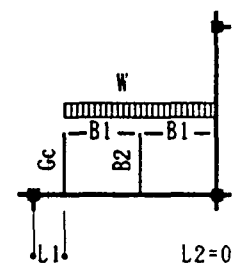
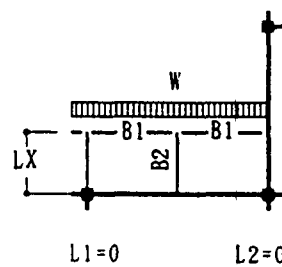
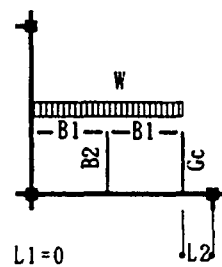
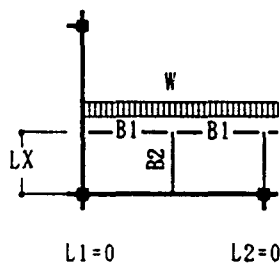
● BNO : 2

● BNO : 2



● BNO : 3

● BNO : 3

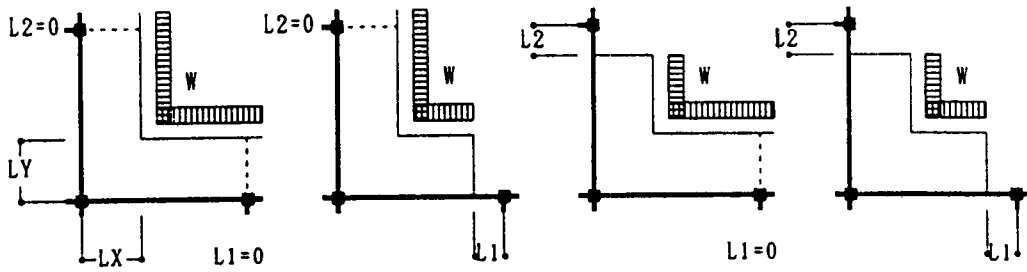


● BNO : 4

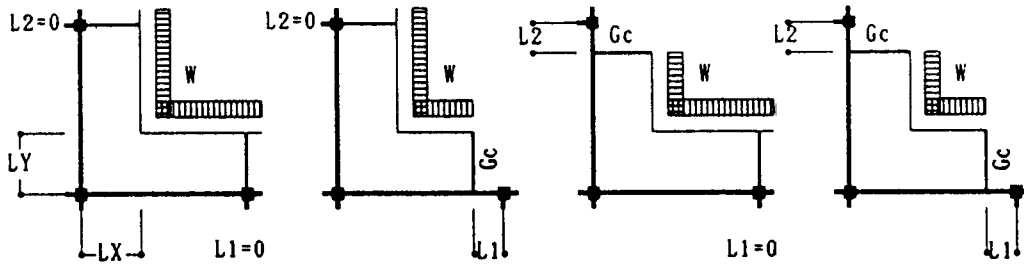
● BNO : 4

○ TYP : 4

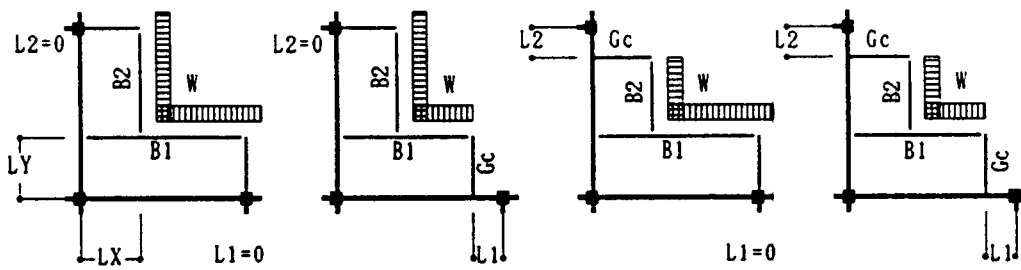
● BNO : 1



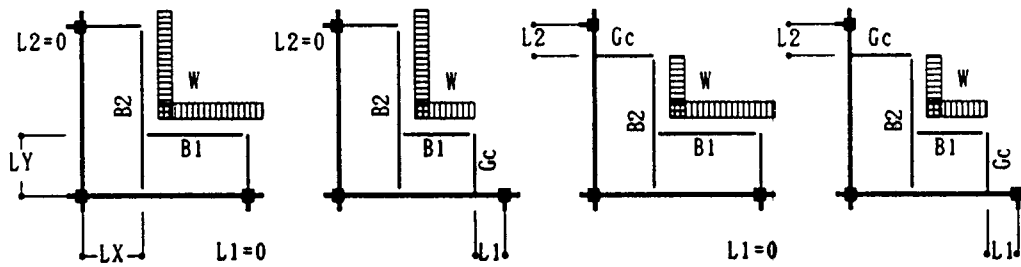
● BNO : 2



● BNO : 3

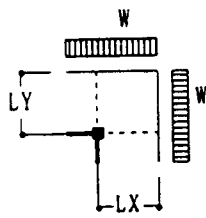


● BNO : 4

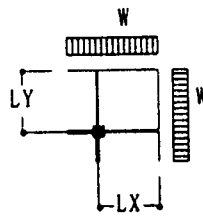


○ TYP : 5 (BNO・4 使用不可)

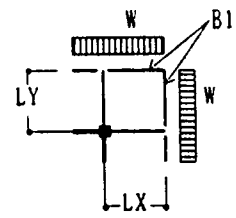
● BNO : 1



● BNO : 2



● BNO : 3



○ TYP : 6 (BNO: 2 ~ 4 使用不可)

● BNO : 1

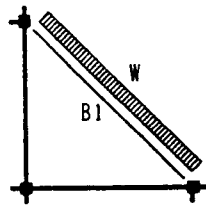


図 2.43 片持ちスラブ形状

P-46 パラペット形状

パラペット形状を入力します。

項 目		説 明	単 位
1	形状NO.	パラペット形状番号 (1~99)	
2	t	パラペット厚さ	cm
3	h	パラペット高さ	cm
4	Wo	パラペット仕上げ重量	kg/m <sup>2</sup>
5	係数NO.	「P-23 風力係数」で入力した風力係数番号	

- (1) RC造以外のパラペットの場合は、2項を「0」とし4項に下地等を含む重量を入力します。  
2項が「0」でない場合の4項の取り扱い、下図に示す範囲として処理します。

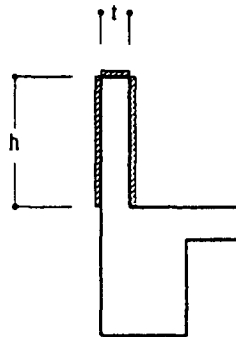


図 2.44 パラペット形状

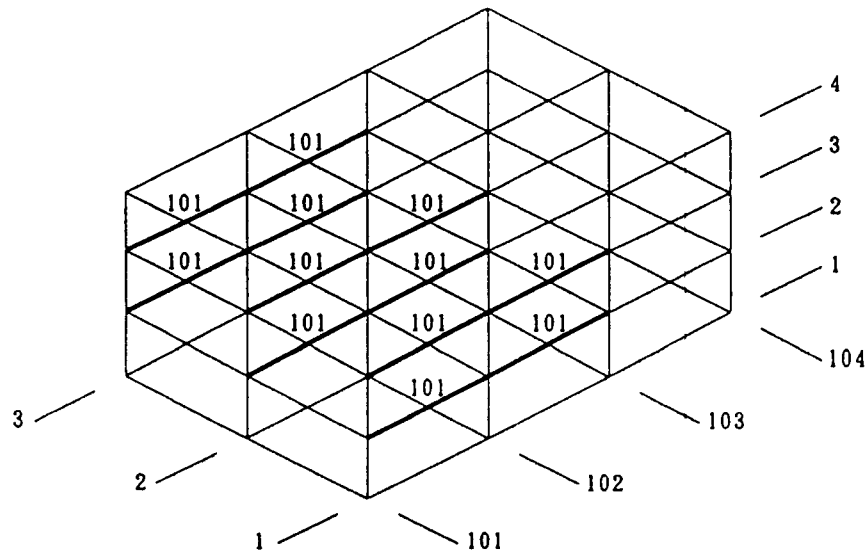
- (2) 5項は、風圧力が掛かるパラペットのみ入力します。速度圧は配置される層の速度圧を使用し、水平力を計算します。

P-47 はり配置

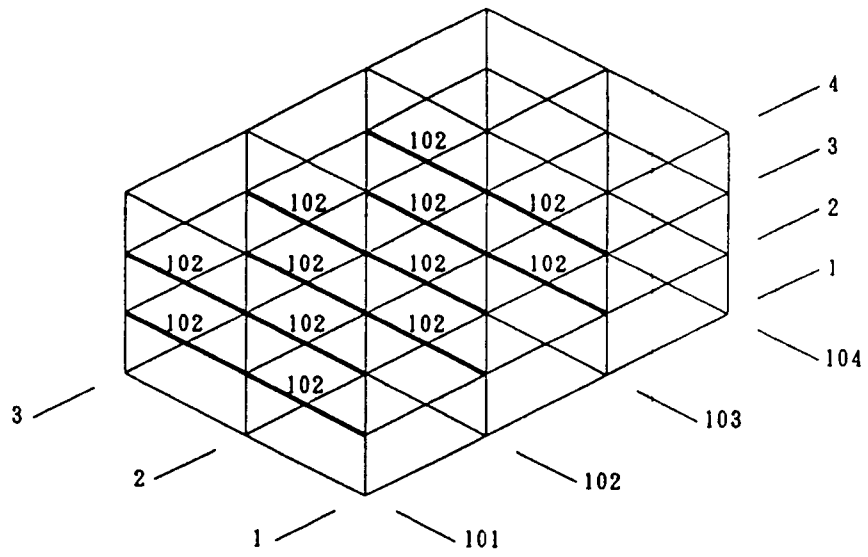
「P-28 はり形状 (S)」, 「P-29 はり形状 (RC, SRC)」で入力した各はりを配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	はりを配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	7r-4 (J1)	はりを配置するフレーム
4	7r-4 (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	はりを配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	形状NO.	「P-28 はり形状 (S)」, 「P-29 はり形状 (RC, SRC)」で入力したはり形状番号

- (1) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (2) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されているはりを除く処理となります。



層	層	7r-4	7r-4	軸	軸	形状NO.
2	3	1	3	101	103	101



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO
2	3	101	103	1	3	102

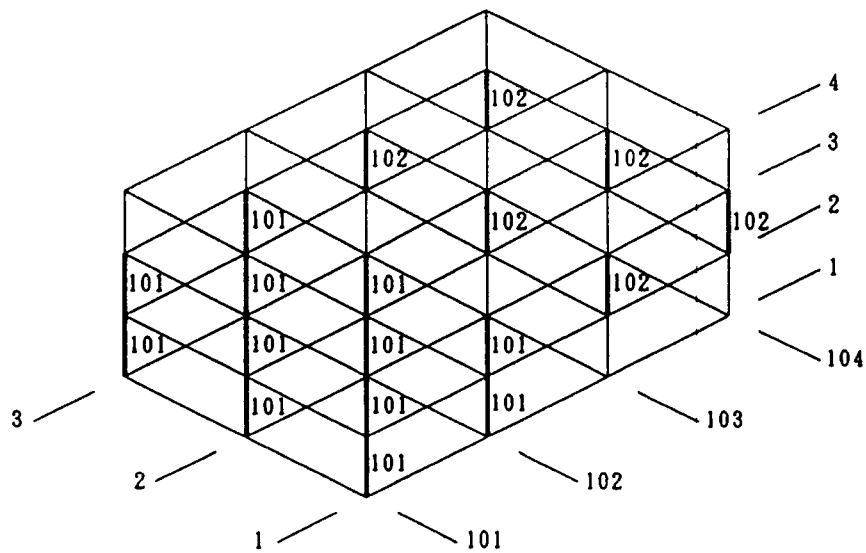
図 2.45 はり配置

P-48 柱配置

「P-30 柱形状 (S)」, 「P-31 柱形状 (RC, SRC)」で入力した各柱を配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	柱を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	柱を配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	柱を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)
7	形状NO	「P-30 柱形状 (S)」, 「P-31 柱形状 (RC, SRC)」で入力した柱形状番号

- (1) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (2) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されている柱を除く処理となります。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO.
1	3	1	3	101	102	101
2	3	1	3	103	104	102

図 2.46 柱配置

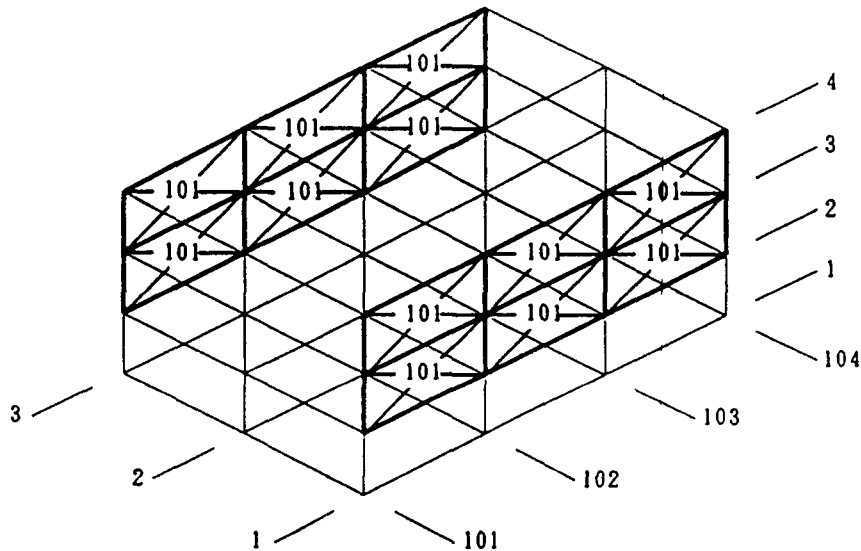


P-49 壁配置

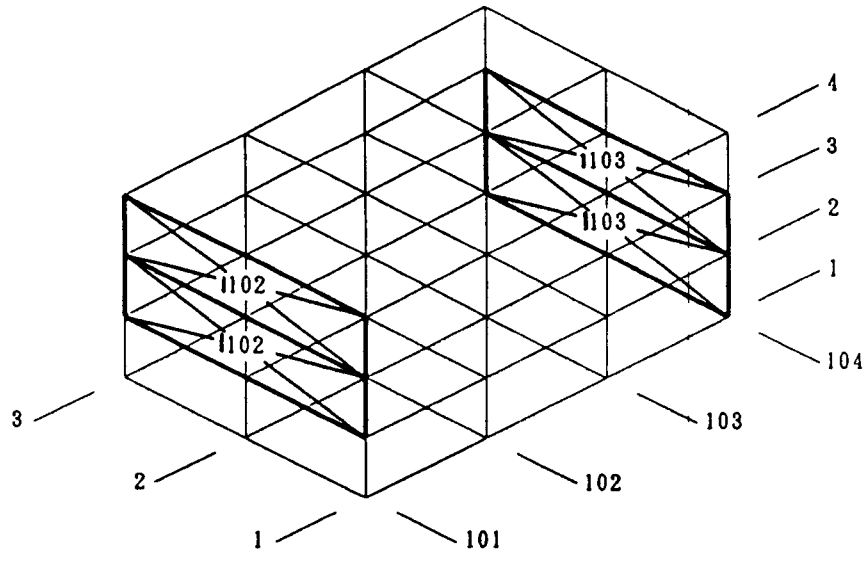
「P-32 壁形状 (CB, ALC等)」, 「P-33 壁形状 (RC)」で入力した各壁を配置します。

項 目		説 明	
1	層 (I1)	壁を配置する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 < I2)
3	フレーム (J1)	壁を配置するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	壁を配置する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 < K2)
7	形状NO.	「P-32 壁形状 (CB, ALC等)」, 「P-33 壁形状 (RC)」で入力した壁形状番号	

- (1) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (2) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されている壁を除く処理となります。
- (3) 多スパンにまたがる壁(大壁)の場合は、「P-32 壁形状 (CB, ALC等)」, 「P-33 壁形状 (RC)」で入力した壁形状番号+1000として、大壁になる範囲毎に配置します。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO.
2	4	1	3	101	104	101
2	4	2	2	101	104	0



層	層	7v-L	7v-L	軸	軸	形状NO
2	4	101	101	1	3	1102
1	3	104	104	1	3	1103

図 2.47 壁配置

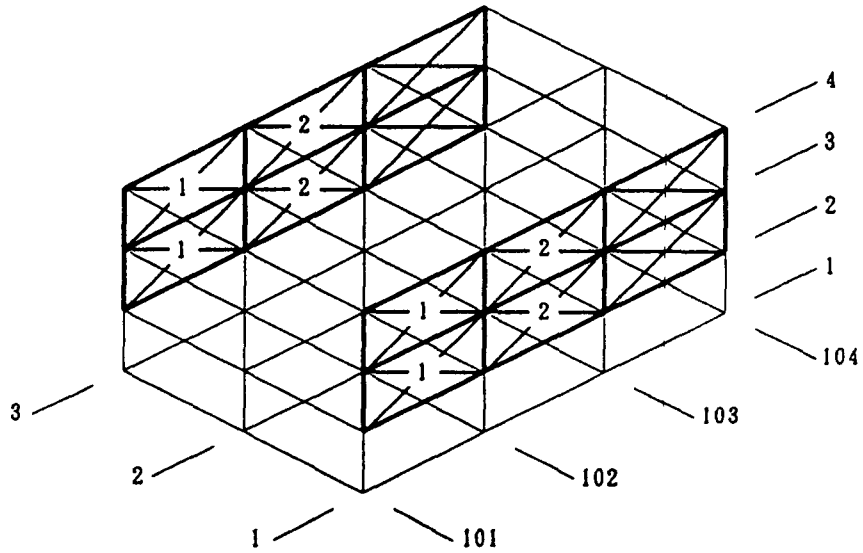
P-50 壁開口配置

「P-34 壁開口形状」で入力した各壁開口を配置します。

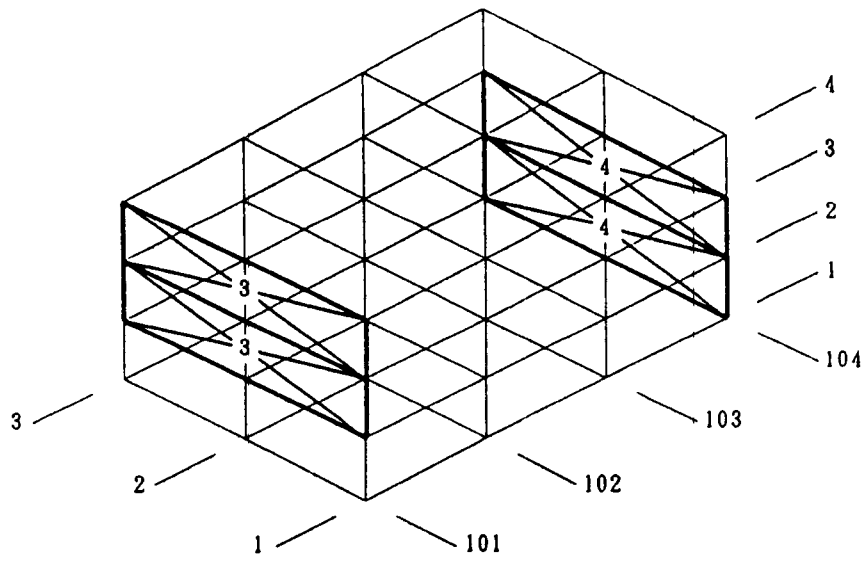
項目		説明
1	層 (I1)	壁開口を配置する層 I1層からI2層まで (I1 < I2)
2	層 (I2)	
3	フレーム (J1)	壁開口を配置するフレーム J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
4	フレーム (J2)	
5	軸 (K1)	壁開口を配置する軸 K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
6	軸 (K2)	
7	形状NO.	「P-34 壁開口形状」で入力した壁開口形状番号

(1) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。

(2) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されている壁開口を除く処理となります。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO
2	4	1	3	101	102	1
2	4	1	3	102	103	2
2	4	2	2	101	103	0



層	層	7 $\nu$ -L	7 $\nu$ -L	軸	軸	形状NO.
2	4	101	101	1	3	3
1	3	104	104	1	3	4

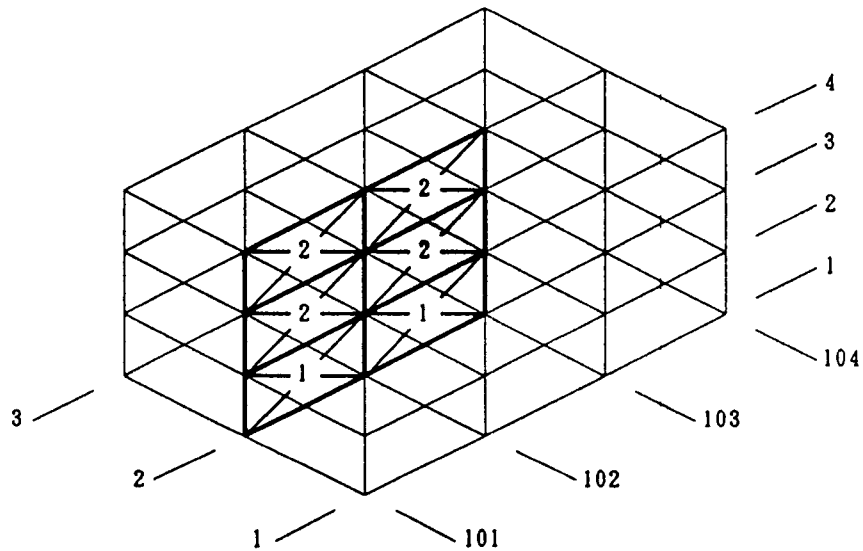
図 2.48 壁開口配置

P-51 ブレース配置

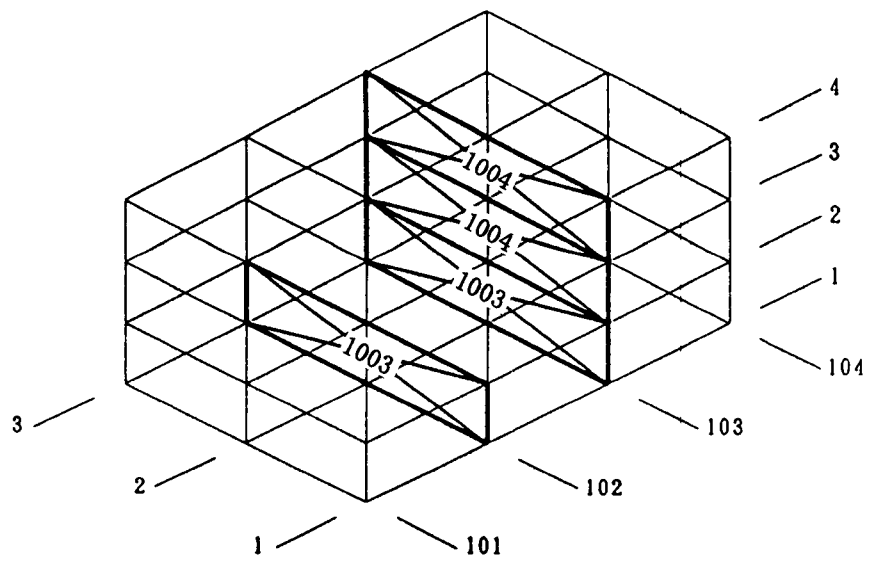
「P-35 ブレース形状」で入力した各ブレースを配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	ブレースを配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	ブレースを配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	ブレースを配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	形状NO	「P-35 ブレース形状」で入力したブレース形状番号

- (1) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (2) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されているブレースを除く処理となります。
- (3) 多スパンにまたがるブレースの場合は、「P-35 ブレース形状」で入力したブレース形状番号+1000として、大ブレースになる範囲毎に配置します。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO.
1	2	2	2	101	103	1
2	4	2	2	101	103	2



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO
1	2	102	103	1	3	1003
2	4	103	103	1	3	1004

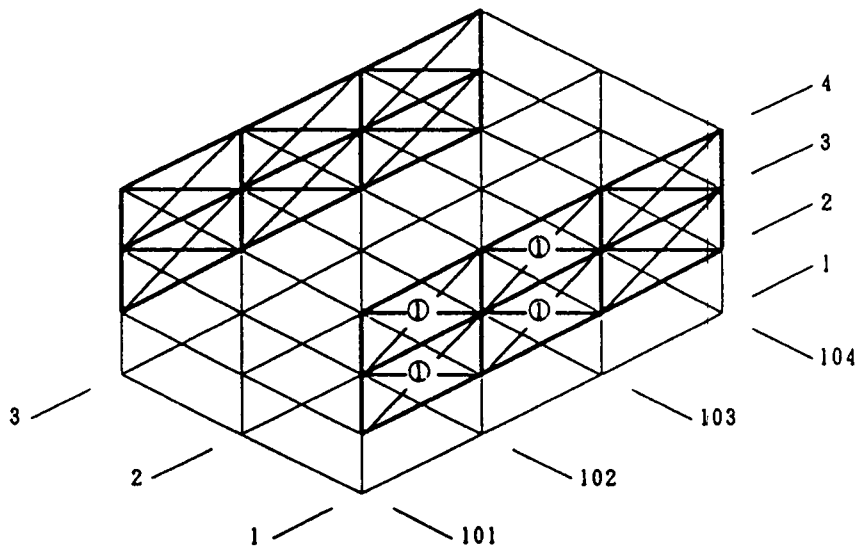
図 2.49 プレース配置

P-52 壁量配置

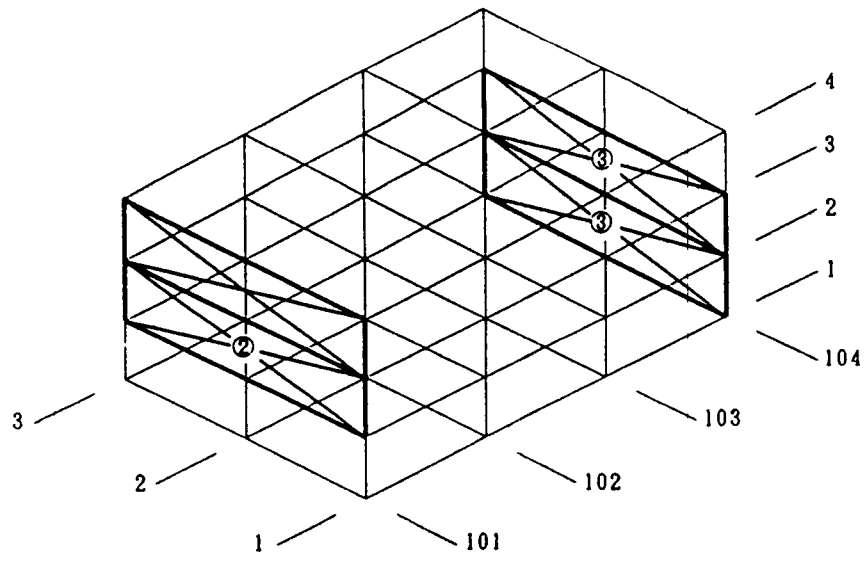
壁量を直接指定します。

項目		説明	単位
1	層 (I1)	壁量を直接指定する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)	
3	7r-L (J1)	壁量を直接指定するフレーム	
4	7r-L (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)	
5	軸 (K1)	壁量を直接指定する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)	
7	Aw1	SRC造に取り付く耐力壁(Aw)に算入される壁面積	cm <sup>2</sup>
8	Aw2	7項以外の耐力壁(Aw)に算入される壁面積	cm <sup>2</sup>
9	Ac	Acに算入される壁面積	cm <sup>2</sup>

- (1) 本項は、壁量を直接指定する項目です。ただし、「P-33 壁形状 (RC)」の壁が配置されている所のみ有効です。
- (2) 本項において、壁量を直接指定した壁については内部で計算された壁量は使用しないで、入力された値を使用し計算します。
- (3) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。



	層	層	7r-L	7r-L	軸	軸	Aw1	Aw2	Ac
①	2	4	1	1	101	103	-	-	-



	層	層	7V-L	7V-L	軸	軸	Aw1	Aw2	Ac
②	2	3	101	101	1	3	-	-	-
③	1	3	104	104	1	3	-	-	-

図 2.50 壁量配置

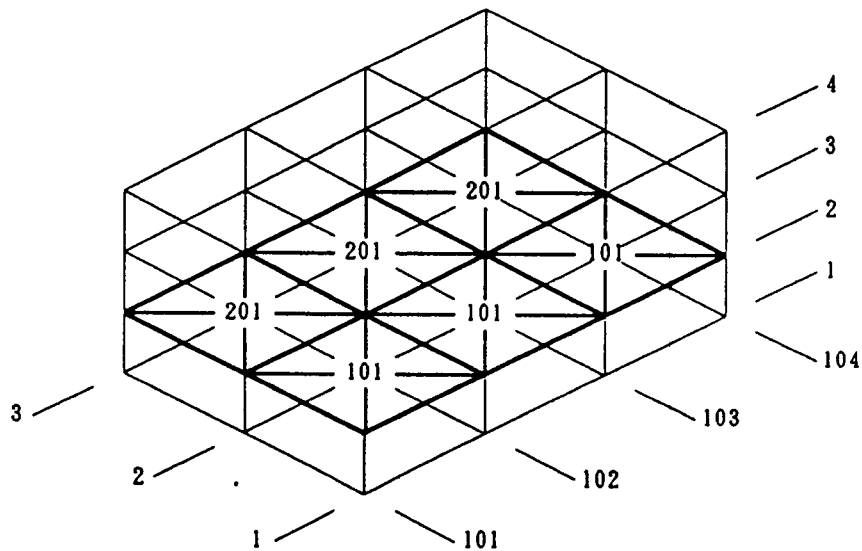


P-53 スラブ配置

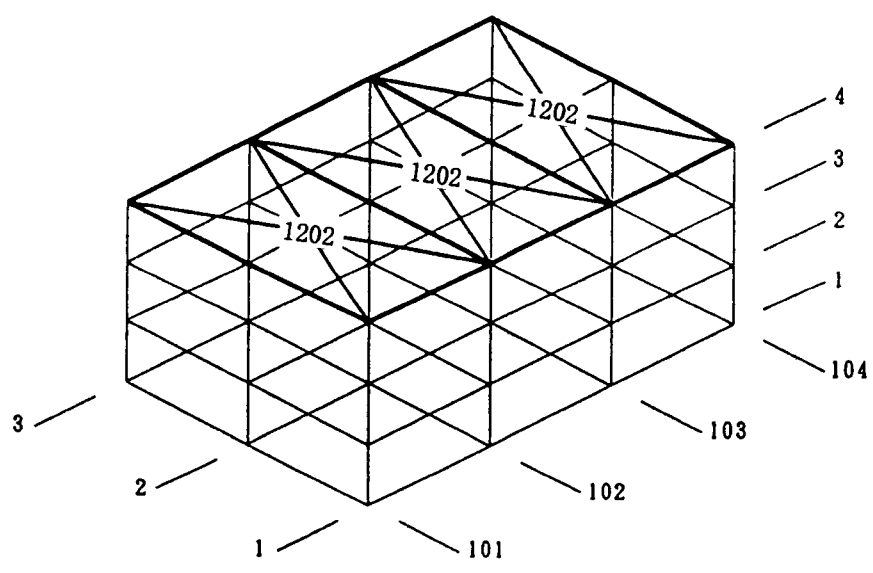
「P-39 スラブ形状（基本）」, 「P-40 スラブ形状（一次まで）」, 「P-41 スラブ形状（二次まで）」, 「P-42 スラブ形状（その他）」で入力した各スラブを配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	スラブを配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	スラブを配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1軸からJ2軸まで (J1 < J2)
5	軸 (K1)	スラブを配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	形状NO.	「P-39 スラブ形状（基本）」, 「P-40 スラブ形状（一次まで）」, 「P-41 スラブ形状（二次まで）」, 「P-42 スラブ形状（その他）」で入力したスラブ形状番号

- (1) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (2) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されているスラブを除く処理となります。
- (3) 多スパンにまたがるスラブ（大スラブ）の場合は、「P-39 スラブ形状（基本）」, 「P-40 スラブ形状（一次まで）」, 「P-41 スラブ形状（二次まで）」, 「P-42 スラブ形状（その他）」で入力したスラブ形状番号+1000として、大スラブになる範囲毎に配置します。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO.
2	2	1	2	101	104	101
2	2	2	3	101	104	201

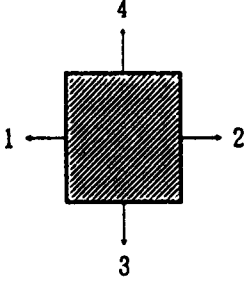


層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO.
4	4	1	3	101	102	1202
4	4	1	3	102	103	1202
4	4	1	3	103	104	1202

図 2.51 スラブ配置

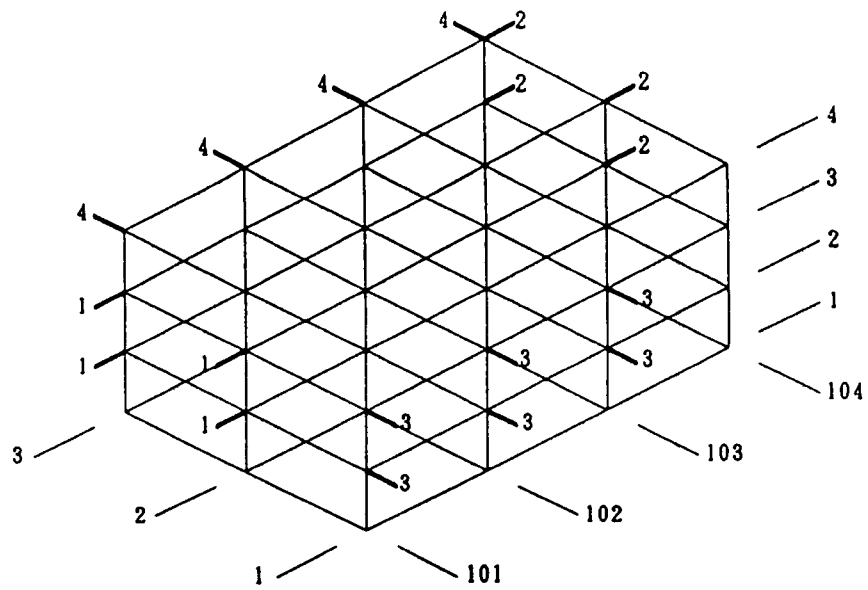
P-54 片持ちばり配置

「P-43 片持ちばり形状 (S)」, 「P-44 片持ちばり形状 (RC, SRC)」で入力した各片持ちばりを配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	片持ちばりを配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	DIR	片持ちばりを配置する方向を下記より選択 <div style="text-align: center;">  </div>
4	フレーム	片持ちばりを配置するフレーム
5	軸 (K1)	片持ちばりを配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)
7	形状NO.	「P-43 片持ちばり形状 (S)」, 「P-44 片持ちばり形状 (RC, SRC)」で入力した片持ちばり形状番号

(1) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。

(2) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されている はり を除く処理となります。

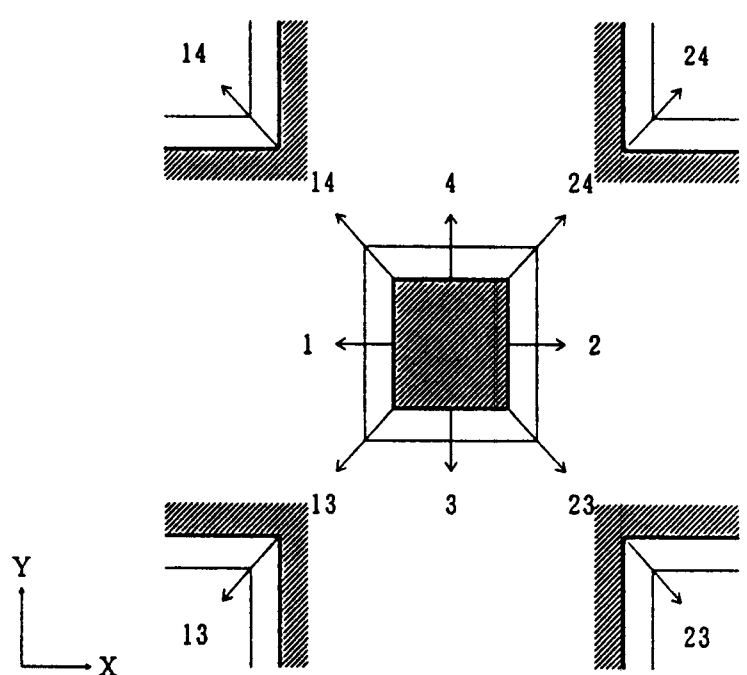


層	層	DIR	7レ-4	軸	軸	形状NO.
2	3	1	101	2	3	1
3	4	2	104	2	3	2
2	3	3	1	101	103	3
4	4	4	3	101	104	4

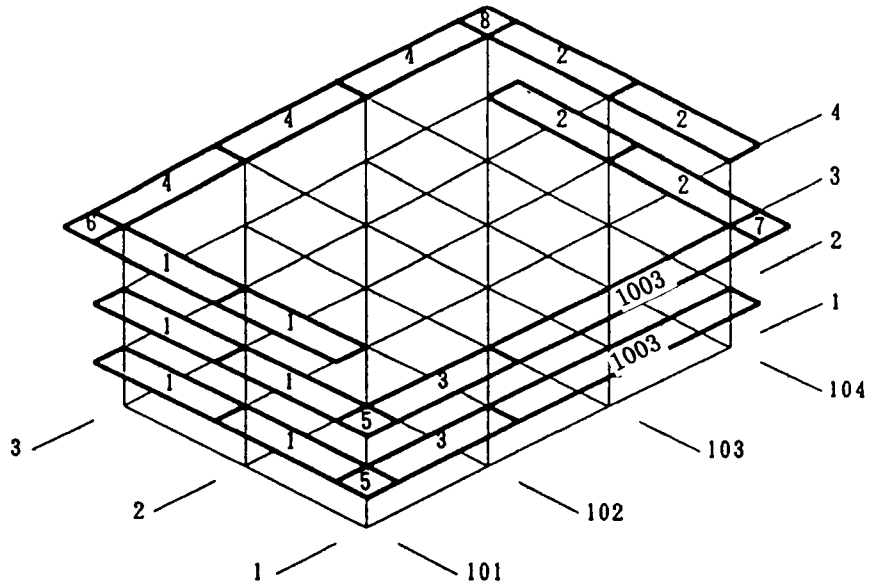
図 2.52 片持ちばり配置

P-55 片持ちスラブ配置

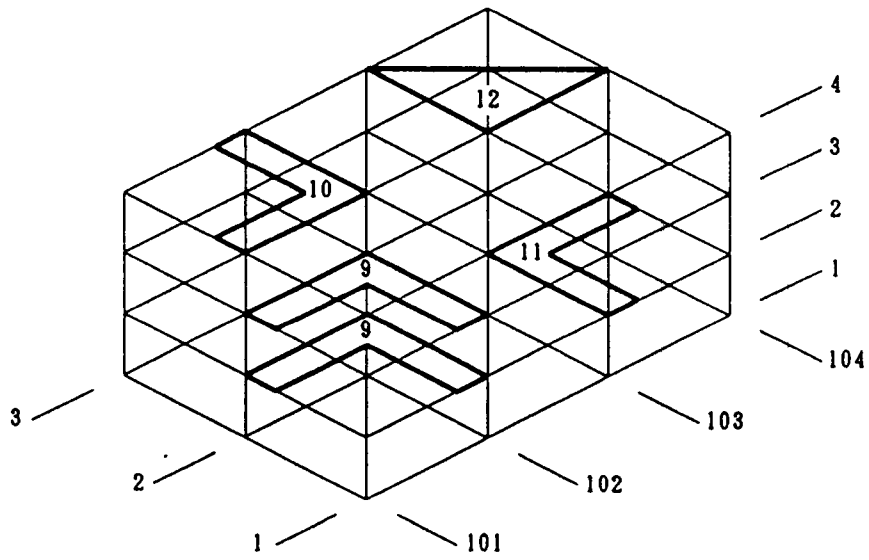
「P-45 片持ちスラブ形状」で入力した各片持ちスラブを配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	片持ちスラブを配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	DIR	<p>片持ちスラブを配置する方向を下記より選択</p> 
4	フレーム	片持ちスラブが取り付くフレーム
5	軸 (K1)	片持ちスラブを配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (出すみ, 入すみの場合 K2=K1) (K1 ≤ K2)
7	形状NO.	「P-45 片持ちスラブ形状」で入力した片持ちスラブ形状番号

- (1) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (2) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されている片持ちスラブを除く処理となります。
- (3) 片持ちスラブ TYPが1～3の場合は DIR (3項) は1～4とし、TYPが4～6の場合はDIRは13, 14, 23, 24とします。
- (4) 多スパンにまたがる片持ちスラブ (大片持ちスラブただし、片持ちスラブ TYP 1～3のみ) の場合は、「P-45 片持ちスラブ形状」で入力した片持ちスラブ形状番号+1000として、大片持ちスラブとなる範囲毎に配置します。



層	層	DIR	7L-L	軸	軸	形状NO.
2	4	1	101	1	3	1
3	4	2	104	1	3	2
2	3	3	1	101	102	3
2	3	3	1	102	104	1003
4	4	4	3	101	104	4
2	3	13	1	101	101	5
4	4	14	3	101	101	6
3	3	23	1	104	104	7
4	4	24	3	104	104	8



層	層	DIR	7L-L	軸	軸	形状NO.
2	3	13	2	102	102	9
4	4	14	2	102	102	10
2	2	23	2	103	103	11
4	4	24	2	103	103	12

図 2.53 片持ちスラブ配置

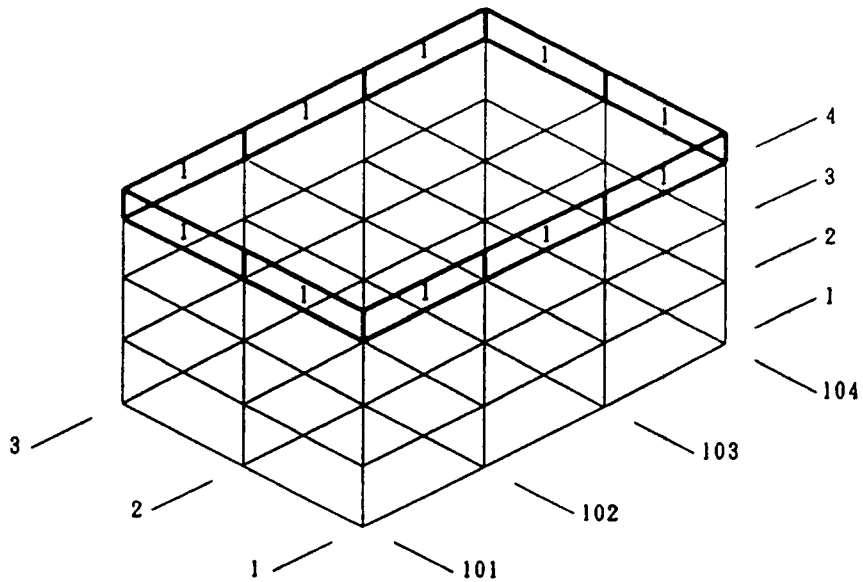
P-56 パラペット配置

「P-46 パラペット形状」で入力した各パラペットを配置します。

項目		説明
1	層 (I1)	パラペットを配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	パラペットを配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	パラペットを配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	形状NO.	「P-46 パラペット形状」で入力したパラペット形状番号

(1) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。

(2) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されているパラペットを除く処理となります。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO.
4	4	1	1	101	104	1
4	4	3	3	101	104	1
4	4	101	101	1	3	1
4	4	104	104	1	3	1

図 2.54 パラペット配置

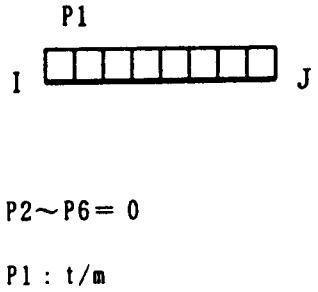
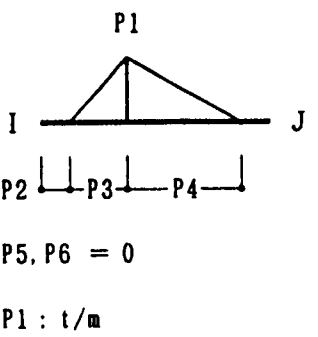
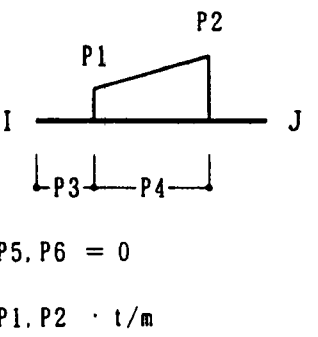
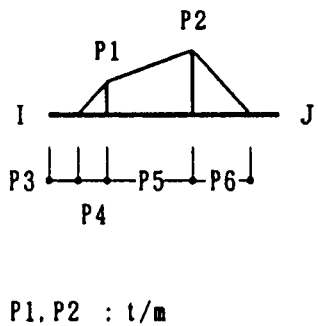
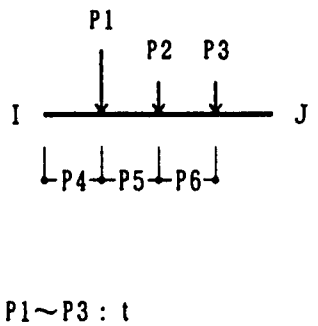
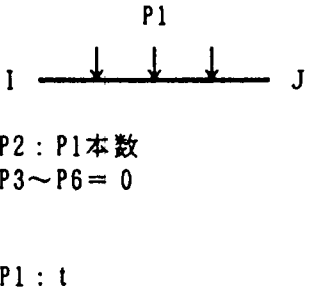
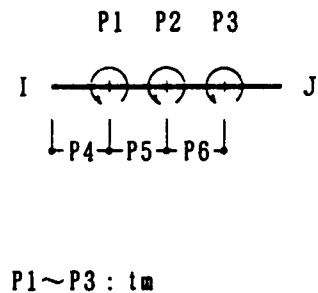
P-57 はり特殊荷重(1)

各形状から自動計算される荷重以外のはり荷重を入力します。

項 目		説 明	単 位
1	荷重NO.	はり特殊荷重番号 (1~99)	
2	L/TL	L(固定荷重+ラーメン用積載荷重)の9~14項で入力する荷重(TL)に対する割合	
3	LL/L	LL(ラーメン用積載荷重)のLに対する割合	
4	E/TL	E(地震荷重)のTLに対する割合	
5	S/TL	S(積雪荷重)のTLに対する割合	
6	W1/TL	W1(風圧荷重1)のTLに対する割合	
7	W2/TL	W2(風圧荷重2)のTLに対する割合	
8	TYP	荷重状態(表 2.6 参照)	表 2.6 参照
9	P1	荷重は、上から下に作用する時を⊕, 時計廻りモーメント⊕とします。	
10	P2		
11	P3		
12	P4		
13	P5		
14	P6		

- (1) 本項では各部材形状から求まる荷重以外の特殊な荷重を入力します。
- (2) 4項により、地震時層重量に加算される割合が決定されます。
- (3) 各荷重に考慮される積雪荷重は、5項で入力した割合に、「P-20 荷重計算指定」で入力した積雪荷重低減率が掛けられた値となります。
- (4) 8項の入力値は、長さに関するパラメータを実長で入力する場合は2~5, 7とし、長さに関するパラメータを割合で入力する場合は12~15, 17とします。
- (5) 同一はりで複数の荷重がある場合は、1項で同一荷重番号とし、その番号を「P-59 はり特殊荷重配置」で配置する事により一度で配置することができます。



TYP	1	2 (12)	3 (13)
P1~ P6	 <p>P1</p> <p>I J</p> <p>P2~P6 = 0</p> <p>P1 : t/m</p>	 <p>P1</p> <p>I J</p> <p>P2 P3 P4</p> <p>P5, P6 = 0</p> <p>P1 : t/m</p>	 <p>P1 P2</p> <p>I J</p> <p>P3 P4</p> <p>P5, P6 = 0</p> <p>P1, P2 : t/m</p>
TYP	4 (14)	5 (15)	6
P1~ P6	 <p>P1 P2</p> <p>I J</p> <p>P3 P4 P5 P6</p> <p>P1, P2 : t/m</p>	 <p>P1 P2 P3</p> <p>I J</p> <p>P4 P5 P6</p> <p>P1~P3 : t</p>	 <p>P1</p> <p>I J</p> <p>P2 : P1本数</p> <p>P3~P6 = 0</p> <p>P1 : t</p>
TYP	7 (17)		
P1~ P6	 <p>P1 P2 P3</p> <p>I J</p> <p>P4 P5 P6</p> <p>P1~P3 : tm</p>		

I : はり左端

J : はり右端

表 2.6 はり特殊荷重形状

P-58 はり特殊荷重(2)

各形状から自動計算される荷重以外のはり荷重を入力します。

項目	説明	単位
1 荷重NO.	はり特殊荷重番号 (1~99)	
2 L / TL	L (固定荷重+ラーメン用積載荷重) の8~14項で入力する荷重(TL)に対する割合	
3 LL / L	LL (ラーメン用積載荷重) のLに対する割合	
4 E / TL	E (地震荷重) のTLに対する割合	
5 S / TL	S (積雪荷重) のTLに対する割合	
6 W1 / TL	W1 (風圧荷重1) のTLに対する割合	
7 W2 / TL	W2 (風圧荷重2) のTLに対する割合	
8 ML	はり左端モーメント	tm
9 MR	はり右端モーメント	tm
10 QL	はり左端せん断力	t
11 QR	はり右端せん断力	t
12 Mo	単純ばりとした時の中央モーメント	tm
13 QLo	単純ばりとした時の左端せん断力	t
14 QRo	単純ばりとした時の右端せん断力	t

- (1) 4項により、地震時層重量に加算される割合が決定されます。
- (2) 各荷重に考慮される積雪荷重は、5項で入力した割合に、「P-20 荷重計算指定」で入力した積雪荷重低減率が掛けられた値となります。
- (3) 同一はりで複数の荷重がある場合は、1項で同一荷重番号とし、その番号を「P-59 はり特殊荷重配置」で配置する事により一度で配置することができます。
- (4) 8~14項の値は、荷重が上から下へ作用した時を⊕とし、等価節点荷重を入力します。

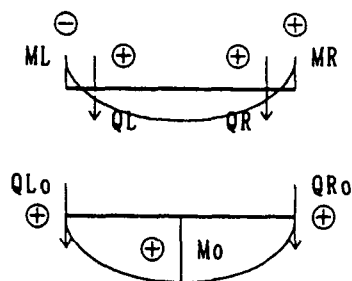


図 2.55 荷重符号

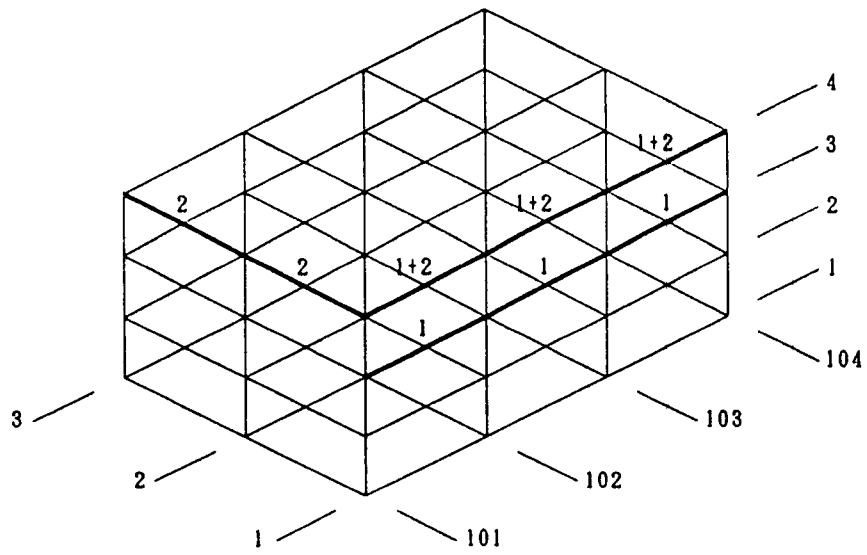
P-59 はり特殊荷重配置

「P-57 はり特殊荷重 (1)」, 「P-58 はり特殊荷重 (2)」で入力した特殊荷重を配置します。

項 目		説 明	省略時解釈						
1	層 (I1)	はり特殊荷重を配置する層							
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)							
3	フレーム (J1)	はり特殊荷重を配置するフレーム							
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)							
5	軸 (K1)	はり特殊荷重を配置する軸							
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)							
7	荷重NO	「P-57 はり特殊荷重 (1)」, 「P-58 はり特殊荷重 (2)」で入力した特殊荷重番号							
8	処理	<p>処理方法を下表より選択</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>加算する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>置き換える</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処理方法	1	加算する	2	置き換える	1
入力値	処理方法								
1	加算する								
2	置き換える								

(1) 8項が、「1」の時は各部材によって計算された値に加算され、「2」の時は各部材によって計算された値を無視し本項で配置された特殊荷重による荷重のみとなります。

(2) 重複配置を行った場合は、それぞれが有効となり、全て加算されます。



層	層	7レベル	7レベル	軸	軸	形状NO.	処理
3	4	1	1	101	104	1	1
4	4	1	1	101	104	2	1
4	4	101	101	1	3	2	1

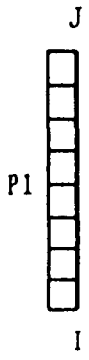
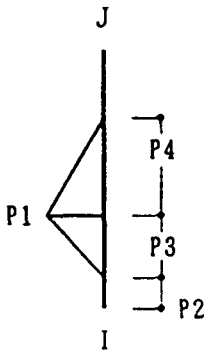
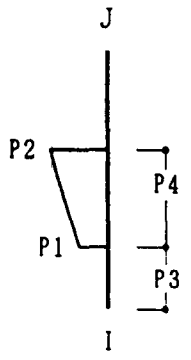
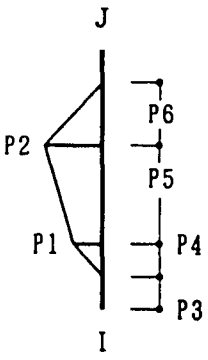
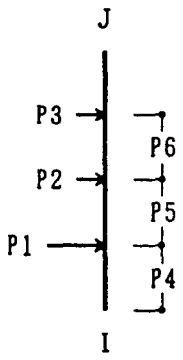
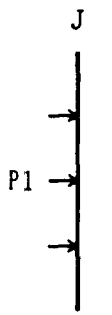
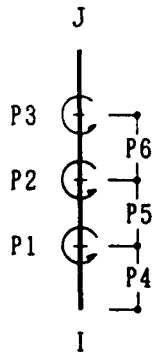
図 2.56 はり特殊荷重配置

P-60 柱特殊荷重(1)

各形状から自動計算される荷重以外の柱荷重を入力します。

項 目	説 明	単 位
1 荷重NO.	柱特殊荷重番号 (1~99)	
2 L /TL	L (長期荷重) の7~12項で入力する荷重(TL)に対する割合	
3 S /TL	S (積雪荷重) のTLに対する割合	
4 W1/TL	W1 (風圧荷重1) のTLに対する割合	
5 W2/TL	W2 (風圧荷重2) のTLに対する割合	
6 TYP	荷重状態(表2.7 参照)	表 2.7 参照
7 P1	荷重は、上から下に作用する時を⊕, 時計廻りモーメント⊕とします。	
8 P2		
9 P3		
10 P4		
11 P5		
12 P6		

- (1) 本項では各部材形状から求まる荷重以外の特殊な荷重を入力します。
- (2) 各荷重に考慮される積雪荷重は、3項で入力した割合に、「P-20 荷重計算指定」で入力した積雪荷重低減率が掛けられた値となります。
- (3) 6項の入力値は、長さに関するパラメータを実長で入力する場合は2~5, 7とし、長さに関するパラメータを割合で入力する場合は12~15, 17とします。
- (4) 同一柱で複数の荷重がある場合は、1項で同一荷重番号とし、その番号を「P-62 柱特殊荷重配置」で配置する事により一度で配置することができます。

TYP	1	2 (12)	3 (13)
P1~P6	 <p>P2~P6 = 0 P1 : t/m</p>	 <p>P5, P6 = 0 P1 : t/m</p>	 <p>P5, P6 = 0 P1, P2 : t/m</p>
TYP	4 (14)	5 (15)	6
P1~P6	 <p>P1, P2 : t/m</p>	 <p>P1~P3 : t</p>	 <p>P2 : P1本数 P3~P6 = 0 P1 : t</p>
TYP	7 (17)		
P1~P6	 <p>P1~P3 tm</p>		

I : 柱脚

J : 柱頭

表 2.7 柱特殊荷重形状

P-61 柱特殊荷重(2)

各形状から自動計算される荷重以外の柱荷重を入力します。

項目	説明	単位	
1	荷重NO.	柱特殊荷重番号 (1~99)	
2	L /TL	L (長期荷重) の6~12項で入力する荷重(TL)に対する割合	
3	S /TL	S (積雪荷重) のTLに対する割合	
4	W1/TL	W1 (風圧荷重1) のTLに対する割合	
5	W2/TL	W2 (風圧荷重2) のTLに対する割合	
6	MB	柱脚モーメント	tm
7	MT	柱頭モーメント	tm
8	QB	柱脚せん断力	t
9	QT	柱頭せん断力	t
10	Mo	単純ばりとした時の中央モーメント	tm
11	QBo	単純ばりとした時の柱脚せん断力	t
12	QTo	単純ばりとした時の柱頭せん断力	t

- (1) 本項では各部材形状から求まる荷重以外の特殊な荷重を入力します。
- (2) 各荷重に考慮される積雪荷重は、3項で入力した割合に、「P-20 荷重計算指定」で入力した積雪荷重低減率が掛けられた値となります。
- (3) 同一はりで複数の荷重がある場合は、1項で同一荷重番号とし、その番号を「P-62 柱特殊荷重配置」で配置する事により一度で配置することができます。
- (4) 6~12項の値は、荷重が左から右へ作用した時を⊕とし、等価節点荷重を入力します。

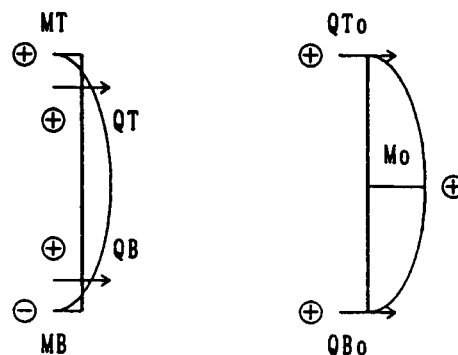


図 2.57 荷重符号

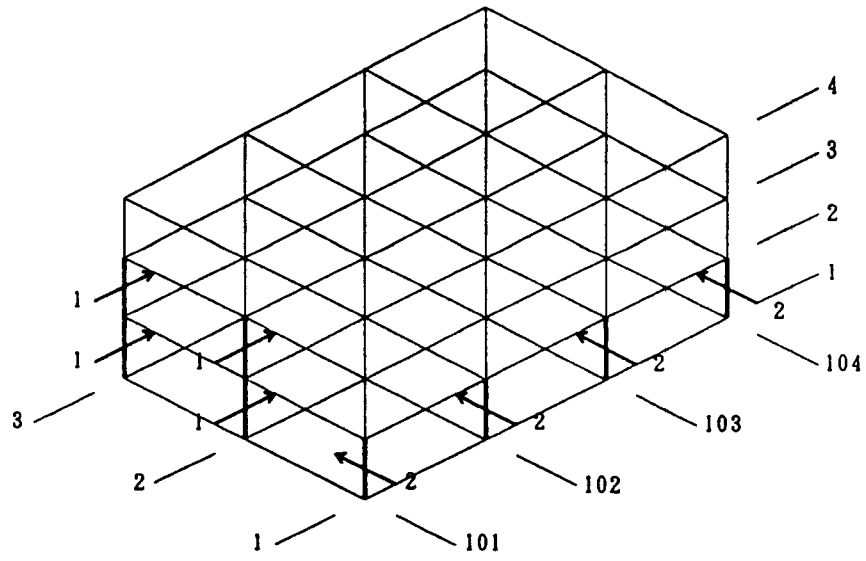
P-62 柱特殊荷重配置

「P-60 柱特殊荷重 (1)」, 「P-61 柱特殊荷重 (2)」で入力した特殊荷重を配置します。

項 目		説 明	省略時解釈						
1	層 (I1)	柱特殊荷重を配置する層							
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)							
3	フレーム (J1)	柱特殊荷重を配置するフレーム							
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)							
5	軸 (K1)	柱特殊荷重を配置する軸							
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)							
7	荷重NO	「P-60 柱特殊荷重 (1)」, 「P-61 柱特殊荷重 (2)」で入力した特殊荷重番号							
8	処理	処理方法を下表より選択 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>加算する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>置き換える</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処理方法	1	加算する	2	置き換える	1
入力値	処理方法								
1	加算する								
2	置き換える								

- (1) 荷重方向は、3,4 項で指定されるフレームの方向とします。
- (2) 8 項が、「1」の時は各部材によって計算された値に加算され、「2」の時は各部材によって計算された値を無視し本項で配置された特殊荷重による荷重のみとなります。
- (3) 重複配置を行った場合は、それぞれが有効となり、全て加算されます。





層	層	7 $\nu$ -L	7 $\nu$ -L	軸	軸	荷重NO.	处理
1	3	2	3	101	101	1	1
1	2	101	104	1	1	2	1

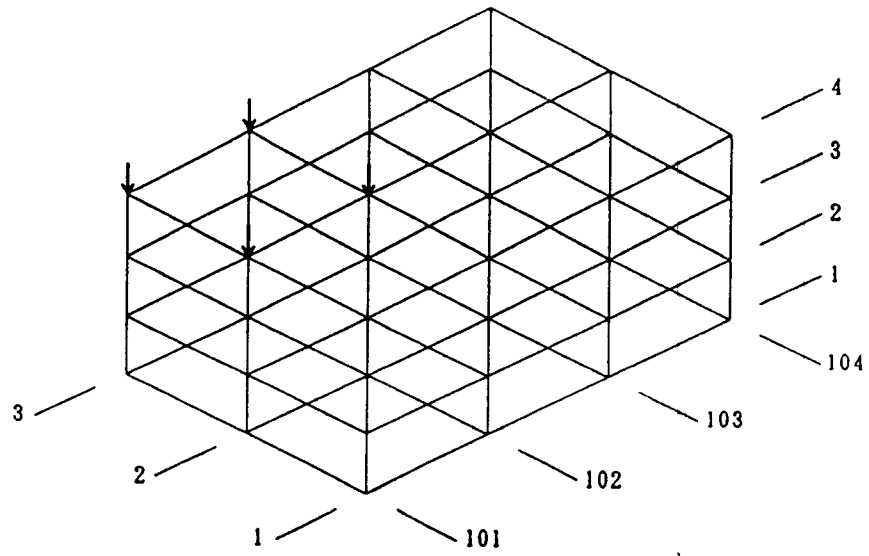
图 2.58 柱特殊荷重配置

P - 6 3 柱追加荷重

各部材形状から計算される柱軸力以外の軸力を入力します。

項 目		説 明	単 位
1	層 (I1)	柱追加荷重を配置する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)	
3	フレーム (J1)	柱追加荷重を配置するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)	
5	軸 (K1)	柱追加荷重を配置する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)	
7	PD	節点に追加する固定荷重	t
8	PL	節点に追加するラーメン用積載荷重	t
9	PE	節点に追加する地震用積載荷重	t
10	PS	節点に追加する積雪荷重	t
11	WX1	節点に追加するX方向風圧ケース1荷重	t
12	WX2	節点に追加するX方向風圧ケース2荷重	t
13	WY1	節点に追加するY方向風圧ケース1荷重	t
14	WY2	節点に追加するY方向風圧ケース2荷重	t

- (1) 地震時層重量の計算では重量として (PD+PE+α4 PS) を使用します。また、柱軸力に加算する場合は (PD+PL+α1 PS) を使用します。(α1, α4 は「P-20 荷重計算指定」で入力した値)
- (2) 7~14項は、上層から加算した荷重ではなく、配置する節点に作用する荷重とします。符号は、下向きを+とします。
- (3) 重複配置を行った場合は、それぞれが有効となり、全て加算されます。



層	層	7r-4	7r-4	軸	軸	PD~
4	4	2	3	101	102	-

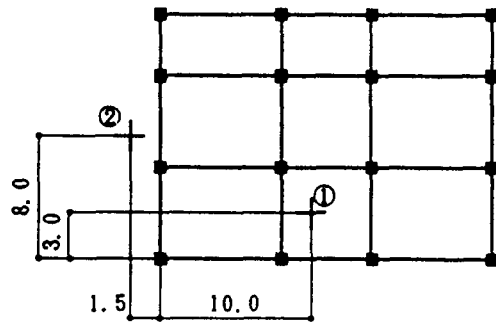
図 2.59 柱追加荷重

P - 6 4 任意点追加荷重

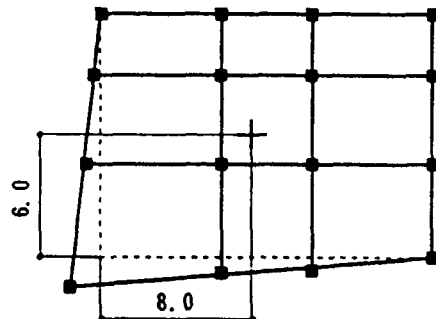
各部材形状から計算される柱軸力以外の軸力を入力します。

項目	説明	単位
1 層 (11)	追加荷重を配置する層	
2 層 (12)	11層から12層まで (11 ≤ 12)	
3 LX	基準点から任意点までのX方向距離	m
4 LY	基準点から任意点までのY方向距離	m
5 PL	任意点に追加する長期重量	t
6 PE	地震時重量	t

- (1) 地震時層重量の計算では重量として6項を使用します。また、ねじり補正等の重心位置を計算する際に使用する重量は5項を使用します。
- (2) 5.6項は、上層から加算した荷重として取り扱います。



	層	層	LX	LY	PL~
①	-	-	10.0	3.0	-
②	-	-	-1.5	8.0	-



	層	層	LX	LY	PL~
-	-	-	8.0	6.0	-

図 2.60 任意点追加荷重

P - 6 5 層追加重量

各部材形状から計算される値以外に地震時層重量または水平力に加算する値を入力します。

項 目		説 明	単 位
1	層 (I1)	層追加重量を配置する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)	
3	EX	X方向地震時層重量に加算する重量	t
4	EY	Y方向地震時層重量に加算する重量	t
5	WX1	X方向風圧時ケース1に加算する水平力	t
6	WX2	X方向風圧時ケース2に加算する水平力	t
7	WY1	Y方向風圧時ケース1に加算する水平力	t
8	WY2	Y方向風圧時ケース2に加算する水平力	t

- (1) 3～8項は、上層から加算した重量ではなく、対象となる層のみの重量とします。
- (2) 重複配置を行った場合は、それぞれが有効となり、全て加算されます。

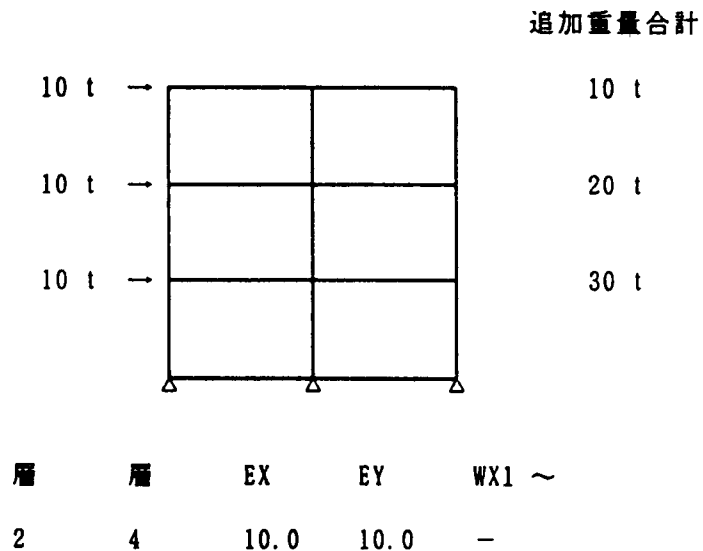


図 2.61 層追加重量

P - 6 6 はり位置

構造階高からはり上端までの高さを入力します。

項 目	説 明	省略時解釈	単 位
1 UDX	X方向の構造階高からはり上端までの高さ	下記(1)参照	cm
2 UDY	Y方向の構造階高からはり上端までの高さ	下記(1)参照	cm

- (1) 本項での入力値を省略または「0」を入力すると、各はり部材せいの $\frac{1}{2}$ を構造階高からはり上端までの高さとしています。
- (2) 本項は、はりからくる柱の剛域長さを計算する際と、断面計算時のフェイス位置の計算の際に使用します。

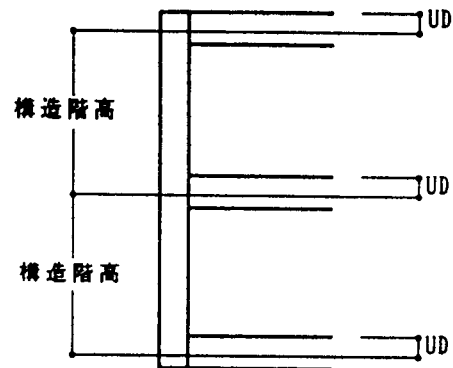


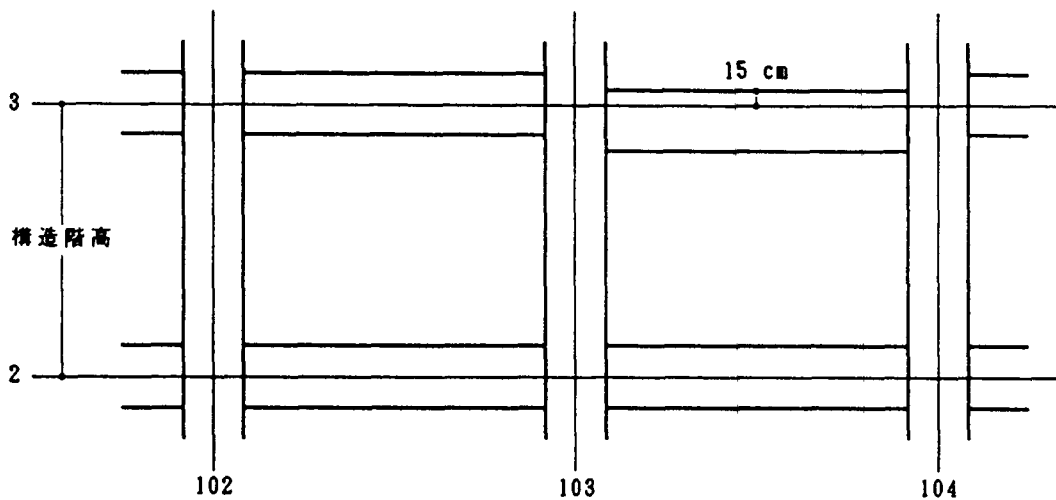
図 2.62 はり位置

P-67 はり位置部分指定

「P-66 はり位置」で入力したはり上端までと異なる部分の入力を行います。

項目		説明	単位
1	層 (I1)	対象層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)	
3	フレーム (J1)	対象フレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)	
5	軸 (K1)	対象軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)	
7	UD	構造階高からはり上端までの高さ	cm

(1) 本項は、X、Y方向別に指定します。方向はフレームの方向とします。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	UD
3	3	1	1	103	104	15

図 2.63 はり位置部分指定

P - 6 8 小ばり計算出力指定

小ばりの C, Mo, Q を出力する範囲を指定します。

項 目		説 明	
1	層 (I1)	出力する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	出力するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 < J2)
5	軸 (K1)	出力する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 < K2)

(1) 本項において、指定しない箇所は出力を行いません。

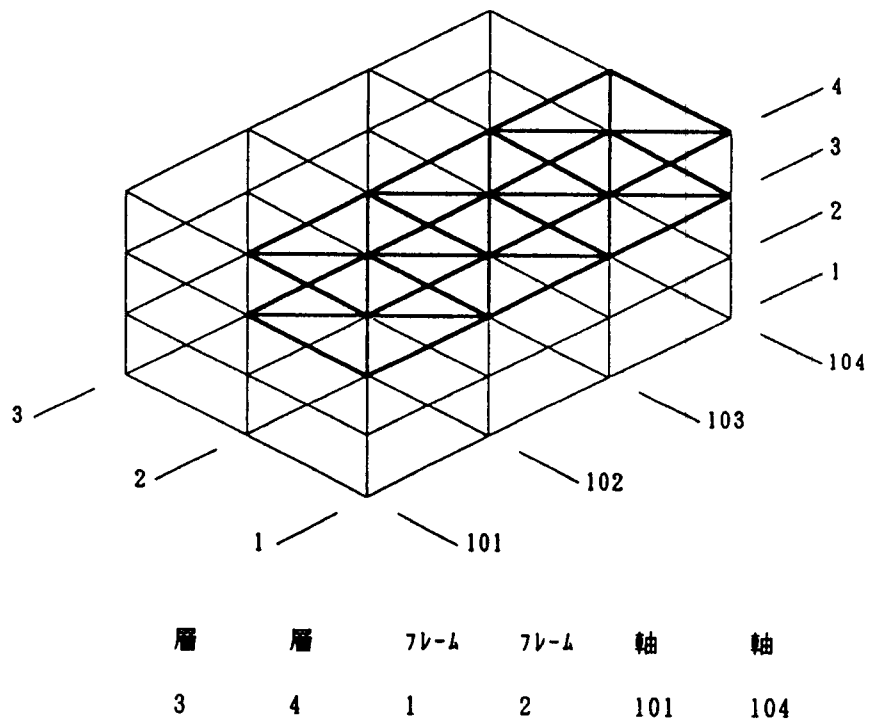
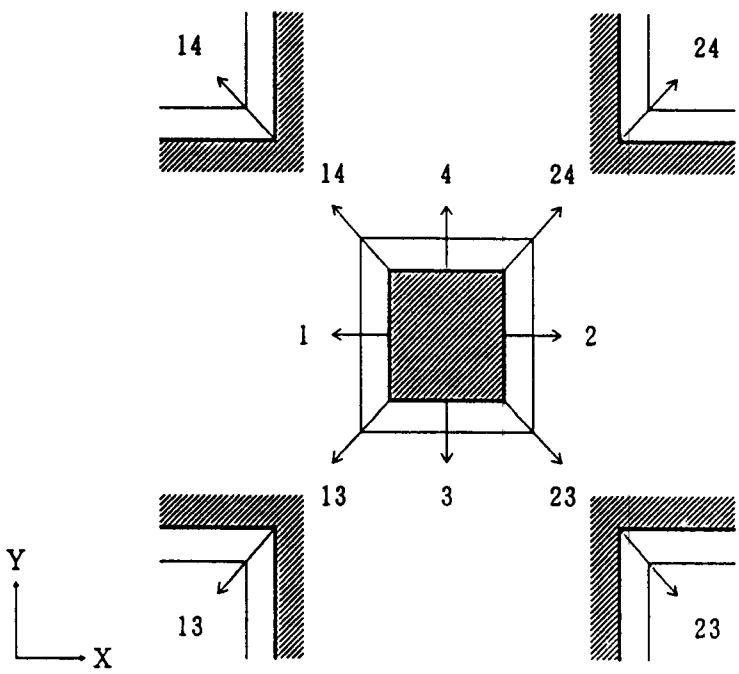


図 2.64 小ばり計算出力指定



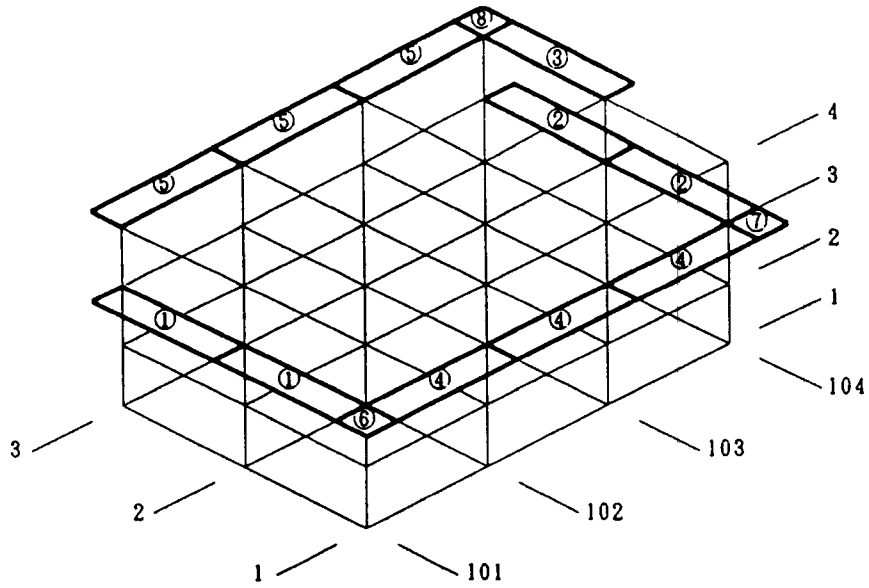
P-69 片持ちスラブ出力指定

片持ちスラブに含まれる小ばり，片持ちばりの C, Mo, Q を出力する範囲を指定します。

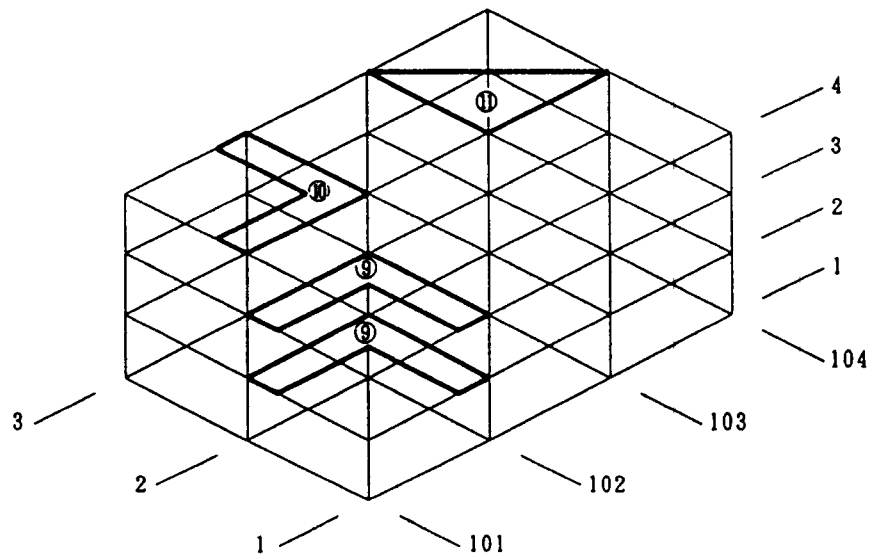
項 目		説 明
1	層 (I1)	出力する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	DIR	出力する方向 
4	フレーム	出力するフレーム
5	軸 (K1)	出力する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (出すみ, 入すみの場合 K1=K2) (K1 ≤ K2)

(1) 本項において、指定しない箇所は出力を行いません。

(2) 片持ちスラブTYPが1～3の場合はDIR(3項)は1～4とし、TYPが4～6の場合はDIRは13, 14, 23, 24とします。



	層	層	DIR	フレーム	軸	軸
①	3	3	1	101	1	3
②	3	3	2	104	1	3
③	4	4	2	104	2	3
④	3	3	3	1	101	104
⑤	4	4	4	3	101	104
⑥	3	3	13	1	101	101
⑦	3	3	23	1	104	104
⑧	4	4	24	3	104	104



	層	層	DIR	フレーム	軸	軸
⑨	2	3	13	2	102	102
⑩	4	4	14	2	102	102
⑪	4	4	24	2	103	103

図 2.65 片持ちスラブ出力指定

P-70 片持ちばり計算出力指定

片持ちばりの応力を出力する範囲を指定します。

項目		説明	
1	層 (I1)	出力する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 ≤ I2)
3	DIR	出力する方向	
4	フレーム	出力するフレーム	
5	軸 (K1)	出力する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 ≤ K2)

(1) 本項において、指定しない箇所は出力を行いません。

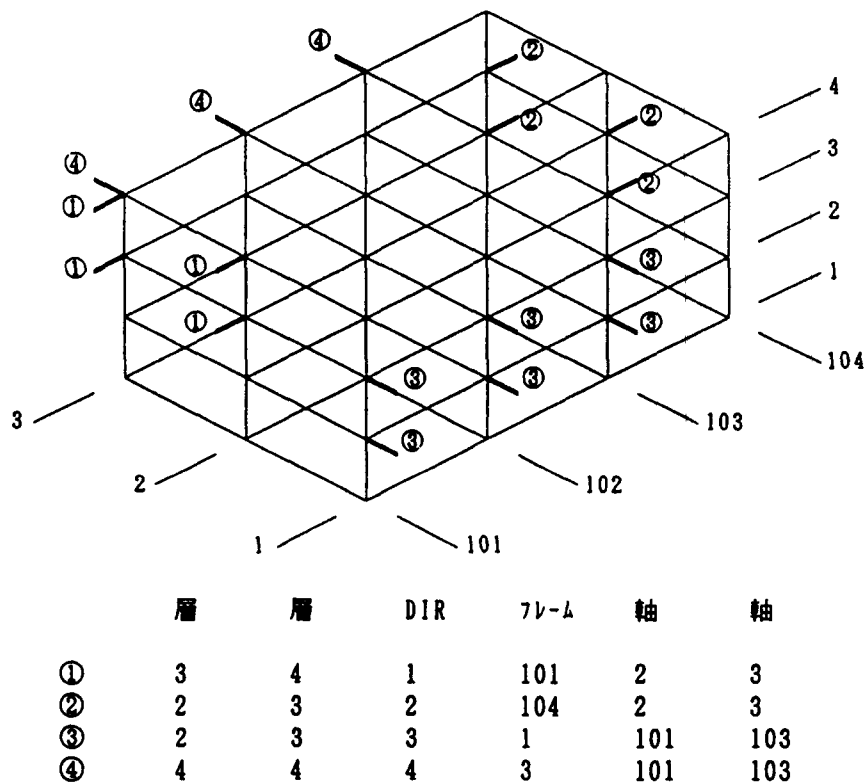


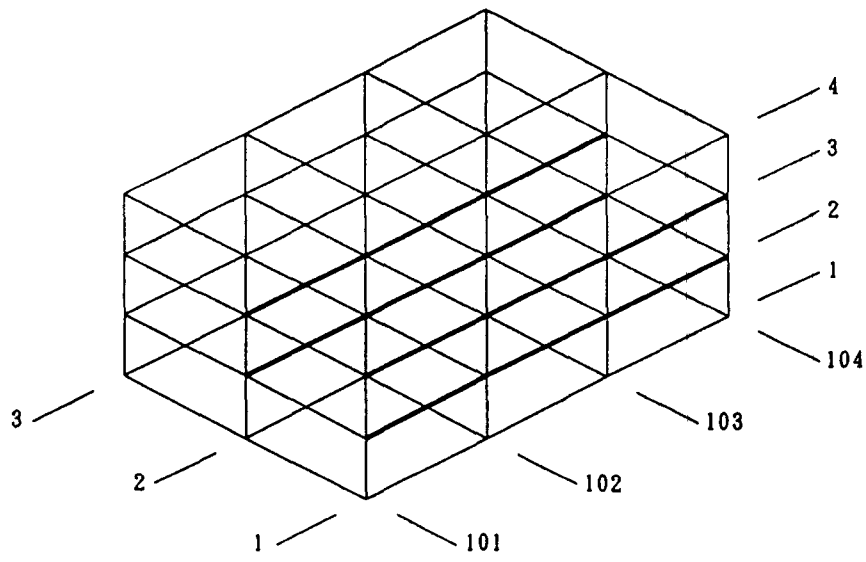
図 2.66 片持ちばり出力指定

P-71 はり計算出力指定

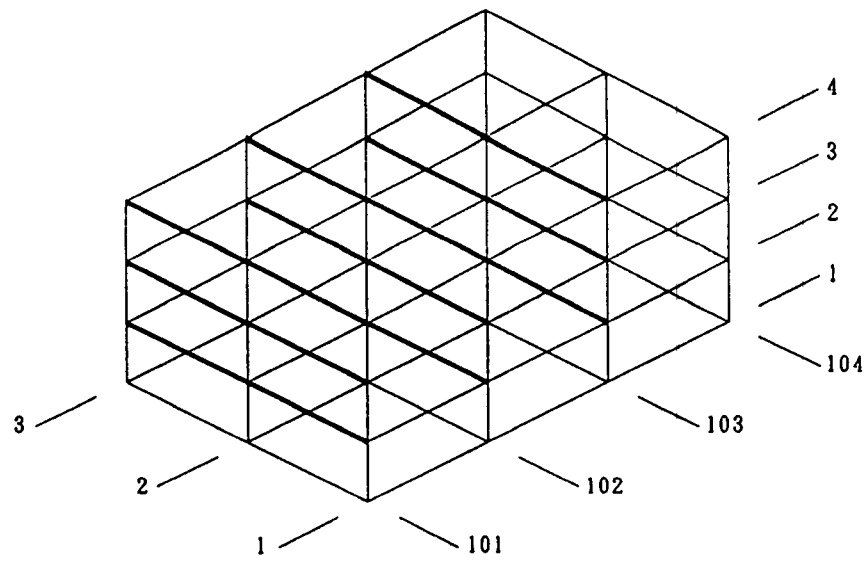
はりの C, M, Q を出力する範囲を指定します。

項 目		説 明	
1	層 (I1)	出力する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	出力するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	出力する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 < K2)

- (1) 本項において、指定しない箇所は出力を行いません。
- (2) 本項は、X, Y方向別に指定します。方向はフレームの方向とします。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸
2	3	1	2	101	104



層	層	7r-4	7r-4	軸	軸
2	4	101	103	1	3

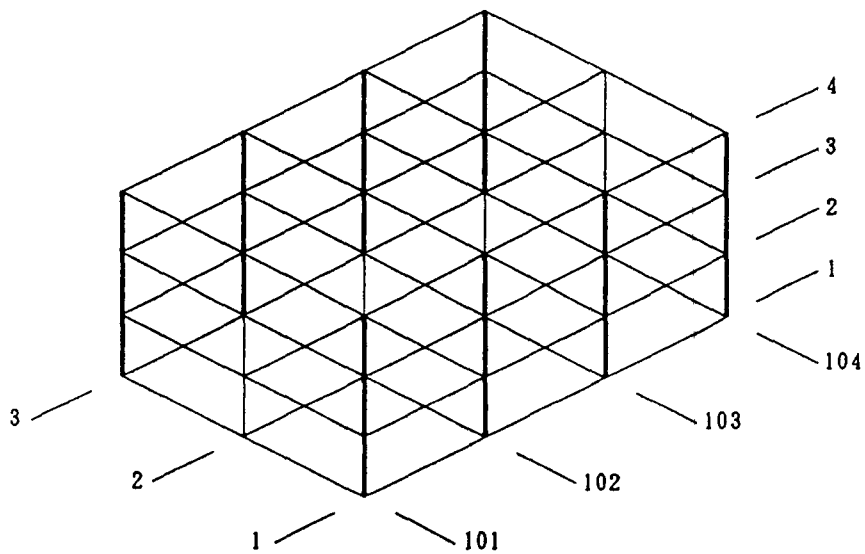
図 2.67 はり計算出力指定

P - 7 2 柱計算出力指定

柱の C, Mo, Q を出力する範囲を指定します。

項 目		説 明	
1	層 (I1)	出力する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 < I2)
3	フレーム (J1)	出力するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	出力する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 ≤ K2)

(1) 本項において、指定しない箇所は出力を行いません。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸
1	4	1	1	101	104
1	4	3	3	101	104

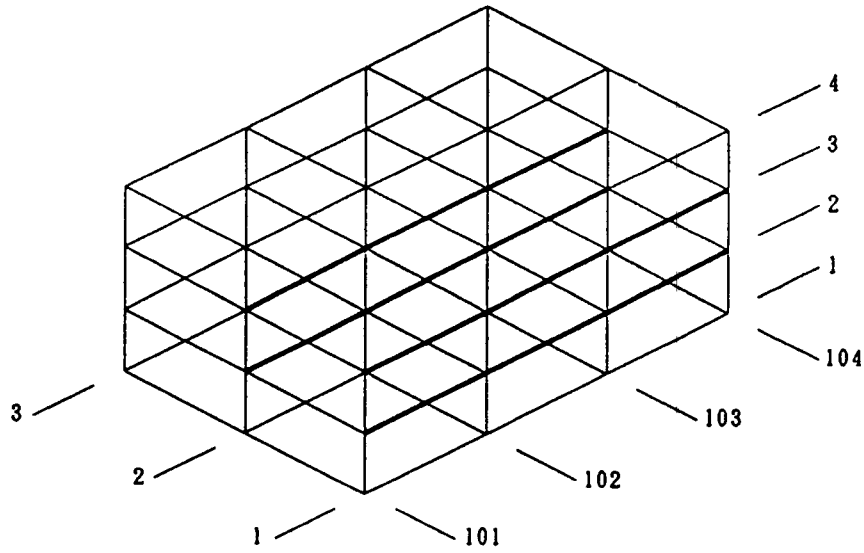
図 2 68 柱計算出力指定

P-73 はり剛性出力指定

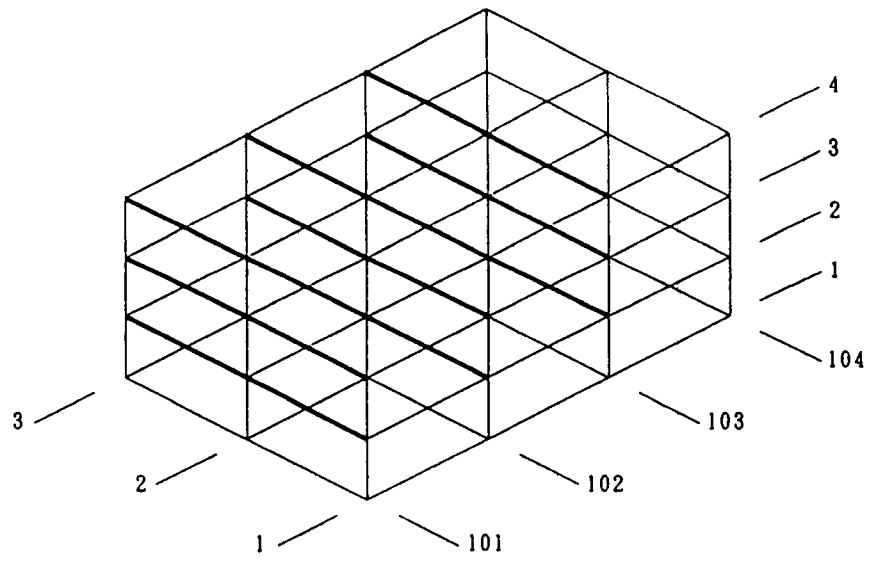
はりの剛性を出力する範囲を指定します。

項 目		説 明	
1	層 (I1)	出力する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	出力するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	出力する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 < K2)

- (1) 本項において、指定しない箇所は出力を行いません。
- (2) 本項は、X、Y方向別に指定します。方向はフレームの方向とします。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸
2	3	1	2	101	104



層	層	7レベル	7レベル	軸	軸
2	4	101	103	1	3

図 2.69 はり剛性出力指定



P - 7 4 柱剛性出力指定

柱の剛性を出力する範囲を指定します。

項 目		説 明	
1	層 (I1)	出力する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 < I2)
3	フレーム (J1)	出力するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	出力する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 ≤ K2)

(1) 本項において、指定しない箇所は出力を行いません。

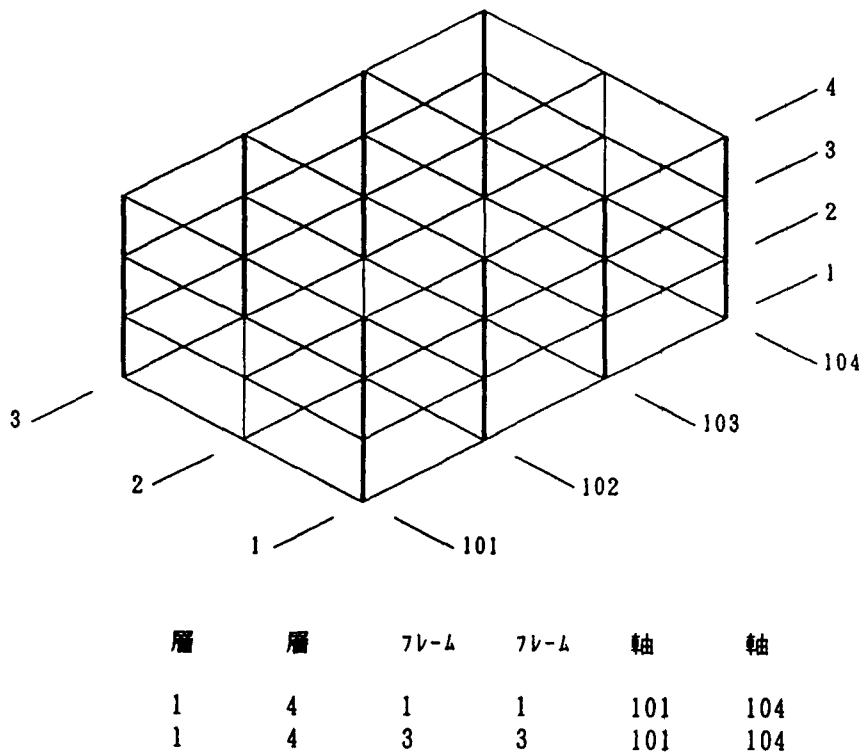


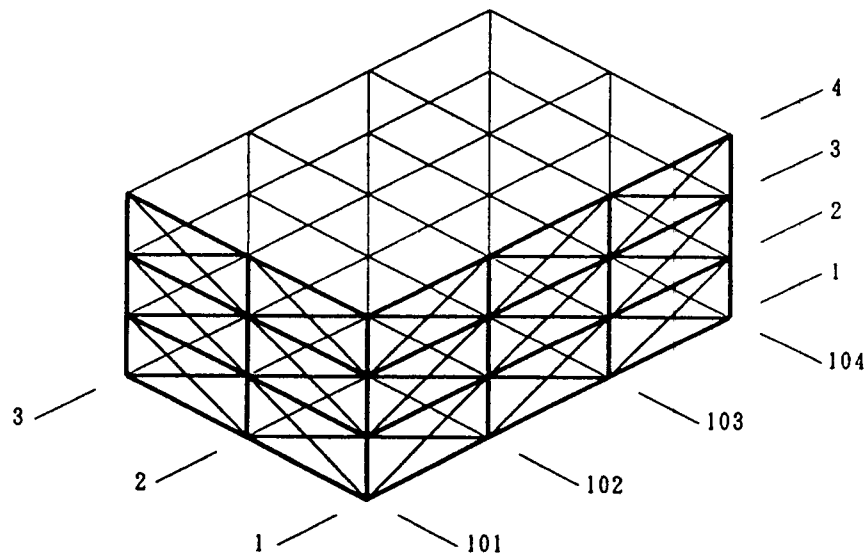
図 2.70 柱剛性出力指定

P-75 壁剛性出力指定

耐力壁の剛性を出力する範囲を指定します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	出力する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	出力するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	出力する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)

- (1) 本項において、指定しない箇所は出力を行いません。
- (2) 本項は、X、Y方向別に指定します。方向はフレームの方向とします。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸
1	4	1	1	101	104
1	4	101	101	1	3

図 2.71 壁剛性出力指定

P - 7 6 出力省略指定

項目単位に出力を省略するか、しないかを入力します。

項 目		説 明	省略時解釈										
1	指定	出力を省略するか、しないかを下表より選択 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>出力する（記号説明有り）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>簡易出力（記号説明有り）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>簡易出力（記号説明無し）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>出力しない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内 容	1	出力する（記号説明有り）	2	簡易出力（記号説明有り）	3	簡易出力（記号説明無し）	4	出力しない	下記(2)参照
入力値	内 容												
1	出力する（記号説明有り）												
2	簡易出力（記号説明有り）												
3	簡易出力（記号説明無し）												
4	出力しない												

- (1) 本項の指定によって、プリンタに出力するか、しないかが決定されます。
- (2) 「0」を入力した場合は、大項目は「1」となり、中項目は大項目と同一となり、小項目は中項目と同一となります。
- (3) 大項目を省略した場合は、中の小項目も省略されます。
- (4) 本項の指定を変更した場合は、再度実行する必要があります。

### 3 . 剛性計算

#### 3. 1 概要

剛性および応力計算に必要な、諸条件のデータの入力項目の説明です。

#### 3. 2 入力データ制限

入力データの単位および桁数の制限を表 3 1に示します。(D:入力値)

項目名	項目		単位	入力値制限			
				範囲	整数部	小数部	
K- 1 計算フレーム指定	1	代表			3	-	
	2	共通			3	-	
K- 2 支点拘束データ	1	層			2	-	
	2	層			2	-	
	3	フレーム			3	-	
	4	フレーム			3	-	
	5	軸			3	-	
	6	軸			3	-	
	7	鉛 X 方向	水平	t / cm	0 ≦ D	6	-
	8	直	鉛直	t / cm	0 ≦ D	6	-
	9	荷	回転	tm/rad	0 ≦ D	6	-
	10	重 Y 方向	水平	t / cm	0 ≦ D	6	-
	11	時	鉛直	t / cm	0 ≦ D	6	-
	12		回転	tm/rad	0 ≦ D	6	-
	13	水 X 方向	水平	t / cm	0 ≦ D	6	-
	14	平	鉛直	t / cm	0 ≦ D	6	-
	15	荷	回転	tm/rad	0 ≦ D	6	-
	16	重 Y 方向	水平	t / cm	0 ≦ D	6	-
	17	時	鉛直	t / cm	0 ≦ D	6	-
	18		回転	tm/rad	0 ≦ D	6	-
K- 3 柱軸方向変形考慮	1	フレーム			3	-	
	2	軸			3	-	
	3	軸			3	-	
K- 4 壁剛性評価指定	1	X 方向	壁剛性	0 ~ 2	1	-	
	2		断面置換	0 ~ 3	1	-	
	3		剛域	0 ~ 2	1	-	
	4	Y 方向	壁剛性	0 ~ 2	1	-	
	5		断面置換	0 ~ 3	1	-	
	6		剛域	0 ~ 2	1	-	
K- 5 はり剛性直接指定	1	剛性NO.		1 ~ 99	2	-	
	2	I	cm <sup>4</sup>	0 ≦ D	8	-	
	3	β		0 ≦ D	1	3	
	4	κ		0 ≦ D	1	3	
	5	As	cm <sup>2</sup>	0 ≦ D	6	2	

K- 6 はり剛性配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	剛性NO.			2	-
K- 7 柱剛性直接指定	1	剛性NO.		1 ~ 98	2	-
	2	I	cm <sup>4</sup>	0 ≦ M D	8	-
	3	An	cm <sup>4</sup>	0 < M D	6	2
	4	β		0 ≦ M D	1	3
	5	κ		0 ≦ M D	1	3
	6	As	cm <sup>4</sup>	0 ≦ M D	6	2
K- 8 柱剛性配置	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	剛性NO.			2	-
K- 9 はり剛域直接指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	LL	cm	0 ≦ D	3	2
	8	LR	cm	0 ≦ D	3	2
K-10 柱剛域直接指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	LB	cm	0 ≦ D	3	2
	8	LT	cm	0 ≦ D	3	2
K-11 鉄骨ブレース 断面積指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	AB	cm	0 < D	4	3
K-12 耐力壁ブレース 置換断面積	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	AB	cm	0 < D	4	3

K-13 耐力壁剛性低下率	1	層			2	-	
	2	層			2	-	
	3	X 低下率		$0 \leq D$	1	3	
	4	Y 低下率		$0 \leq D$	1	3	
K-14 雑壁の剛性倍率	1	層			2	-	
	2	層			2	-	
	3	I Xn		$0 \leq D$	1	3	
	4	I Yn		$0 \leq D$	1	3	
	5	O Xn		$0 \leq D$	1	3	
	6	O Yn		$0 \leq D$	1	3	
K-15 任意柱の除外指定	1	層			2	-	
	2	層			2	-	
	3	フレーム			3	-	
	4	フレーム			3	-	
	5	軸			3	-	
	6	軸			3	-	
K-16 ラーメン外重量	1	階			2	-	
	2	階			2	-	
	3	X	m		3	3	
	4	Y	m		3	3	
	5	W	t		3	3	
K-17 実行用データ	1	ねじり補正值 $\alpha$	X		0 ~ 3	1	-
	2		Y		0 ~ 3	1	-
	3	層間変形角許	X		$0 \leq D$	3	-
	4	許容値	Y		$0 \leq D$	3	-
	5	$\beta$ による割増	X		0 ~ 2	1	-
	6		Y		0 ~ 2	1	-
	7	剛性倍率	X		$0 \leq D$	2	3
	8		Y		$0 \leq D$	2	3
	9	ルート判別方法	X		0 ~ 2	1	-
	10		Y		0 ~ 2	1	-
K-18 出力省略指定	1	指定			0 ~ 4	1	-

表 3.1 入力データ制限表

### 3. 3 入力データ内容

以下、剛性計算データ内容を項目別に説明します。

## K-1 計算フレーム指定

D値および応力計算をするフレームを指定します。

項 目		説 明
1	代表	D値および応力解析をするフレーム番号
2	共通	代表フレームとD値および応力計算の条件が同じフレームの番号

- (1) D値計算および応力計算の条件（方向、フレーム形状、剛性、荷重等）が同じとみなせるフレームがある場合、その一つを代表フレームとし、その他を共通フレームとして入力します。
- (2) 2項で入力された共通フレームの剛性計算および応力計算は省略し、共通フレームのD値および応力は代表フレームと同じ値を使用します。
- (3) 本項の入力に関係なく、準備計算（荷重項、柱軸力、地震時重量）は、全フレームについて計算します。
- (4) 本項で共通フレームに指定されていないフレームは、全て代表フレームとなります。

本入力項は BST-G89TM II では使用できません



## K-2 支点データ

支点の拘束状態を入力します。

### ※注意

支点データは、BST-G.TM3 と BST-G89TM II では、同じ入力形態となっていますが、これは BST-G89TM II から BST-G.TM3 への移行に際して、可能な限り入力データの互換性を維持するための暫定的な処置で、このようになりました。

BST-G89TM II での入力項目は以下のようになっていましたが、下記の点が変更になりました。新旧比較してご理解ください。

### 旧 (BST-G89TM II) 入力形式

項目				説明	単位								
1	層	(I1)		支点を設定する層									
2	層	(I2)		I1 層から I2 層まで (I1 ≤ I2)									
3	フレーム	(J1)		支点を設定するフレーム									
4	フレーム	(J2)		I1 フレームから I2 フレームまで (J1 ≤ J2)									
5	軸	(K1)		支点を設定する軸									
6	軸	(K2)		I1 軸から I2 軸まで (K1 ≤ K2)									
7	鉛直荷重時	X 方向	水平	鉛直荷重時(長期, 積雪時)応力解析に使用する拘束条件	kN/cm								
8			鉛直		kN/cm								
9			回転		kN・m/rad								
10		Y 方向	水平		kN/cm								
11			鉛直		kN/cm								
12			回転		kN・m/rad								
				<table border="1"> <tr> <th>入力値</th> <th>拘束条件</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>完全自由</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>完全拘束</td> </tr> <tr> <td>0,1 以外</td> <td>バネ常数</td> </tr> </table>	入力値	拘束条件	0	完全自由	1	完全拘束	0,1 以外	バネ常数	
入力値	拘束条件												
0	完全自由												
1	完全拘束												
0,1 以外	バネ常数												
13	水平荷重時	X 方向	水平	水平荷重時(地震, 風時)応力解析に使用する拘束条件	kN/cm								
14			鉛直		kN/cm								
15			回転		kN・m/rad								
16		Y 方向	水平		kN/cm								
17			鉛直		kN/cm								
18			回転		kN・m/rad								
				<table border="1"> <tr> <th>入力値</th> <th>拘束条件</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>完全自由</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>完全拘束</td> </tr> <tr> <td>0,1 以外</td> <td>バネ常数</td> </tr> </table>	入力値	拘束条件	0	完全自由	1	完全拘束	0,1 以外	バネ常数	
入力値	拘束条件												
0	完全自由												
1	完全拘束												
0,1 以外	バネ常数												

BST-G89TM II では上記のようになっていますが、BST-G.TM3 では立体解析を採用していますので、支点拘束も立体形式で処理します。

そのため、BST-G.TM3 では上記入力項目の内、配置部分と 7 項から 12 項の鉛直荷重時の入力内容(①の部分)は使用されますが、13 項から 18 項の水平荷重時の入力内容(②の部分)は無視されます。

その結果、新(BST-G.TM3)入力形式は以下(次ページ)のようになります。

新 (BST-G.TM3) 入力形式

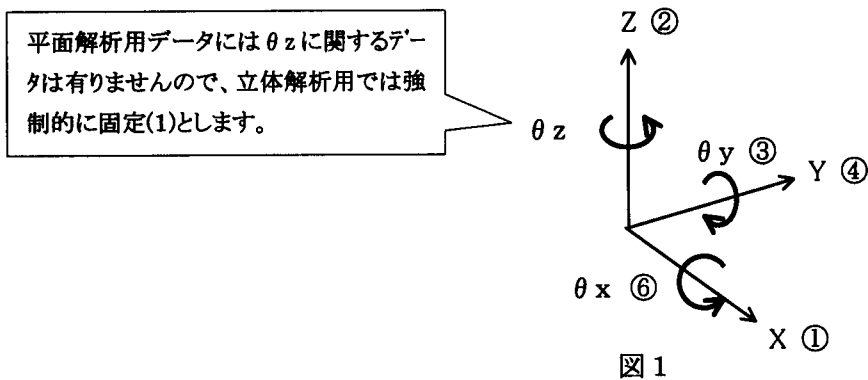
項目				説明	単位
1	層	(I1)		支点を設定する層	
2	層	(I2)		I1 層から I2 層まで (I1 ≤ I2)	
3	フレーム	(J1)		支点を設定するフレーム	
4	フレーム	(J2)		I1 フレームから I2 フレームまで (J1 ≤ J2)	
5	軸	(K1)		支点を設定する軸	
6	軸	(K2)		I1 軸から I2 軸まで (K1 ≤ K2)	
7	鉛直荷重時	X 方向	水平 ①	鉛直荷重時(長期, 積雪時)応力解析に使用する拘束条件	kN/cm
8			鉛直 ②		kN/cm
9			回転 ③		kN・m/rad
10		Y 方向	水平 ④		kN/cm
11			鉛直 ②		kN/cm
12			回転 ⑥		kN・m/rad

入力値	拘束条件
0	完全自由
1	完全拘束
0,1 以外	バネ常数

図1の番号

- (1) 本項で指定された箇所のみ支点として処理されます。
- (2) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (3) BST-G.TM3 での拘束条件の入力は、1 項から 12 項の入力になっています。13 項から 18 項の表示, 入力はありません。
- (4) 立体解析では座標系が図1のようになります。
- (5) 図1に書かれている数字は、上記入力項目の7 項から 12 項に振付けている数字に対応しており、平面解析用に入力した拘束条件と立体解析での拘束条件がどのような関係になっているのか、を分かり易くするためのものです。



- (6) 支点拘束条件での  $\theta_z$  に関して  
 $\theta_z$  に関しては、平面解析では入力項目はありませんでした。  
 これは逆に、平面解析では  $\theta_z$  は固定(1)という条件の上に成り立っているのと同じなので、敢えて入力の必要が無かったからです。

立体解析用の支点拘束条件は平面解析と違って考慮することができます。

$\theta_z$  の拘束条件を考慮する場合は、

- a. 自由(0)、 b. 拘束(1)、 c. 有限な剛性を持っている (バネ)
- の3種類の設定選択ができますが、これらの意味するところは、

- a. 基礎底版は、例えば独柔のように自由に回転するようになっていますか？
- b. 基礎底版はしっかり固定しており、一切回転することはできない状態ですか？
- c. 土もある程度の柔らかさを持っていて、ある程度の回転は有り得る状態ですか？

という選択をすることになります。

常識的に考えるなら、cの「ある程度の回転は有り得る」が当たり障りのない、妥当な考え方なんでしょうが、ここは現在までの一般的な構造設計でのモデル化の例からすると、大半が「b.基礎底版はしっかり固定しており、一切回転することはできない状態」で行われてきています。

以上から、BST-G.TM3 では、基礎の水平面内の回転のデフォルト値は固定(1)にしました。

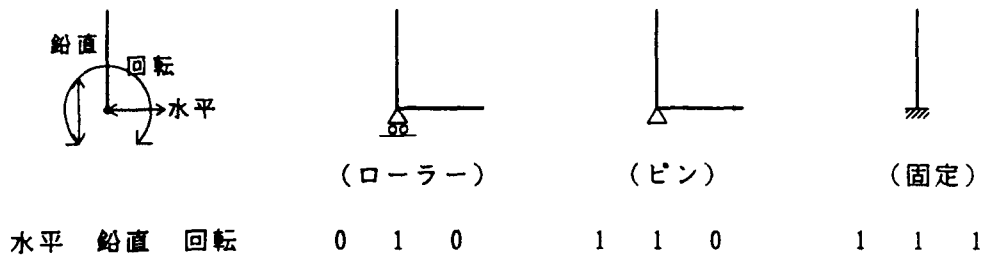
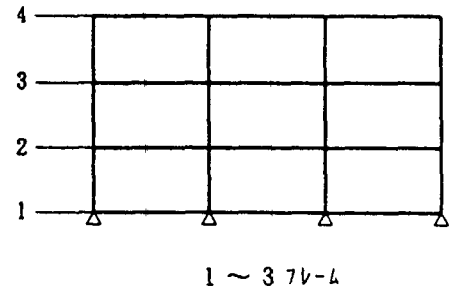
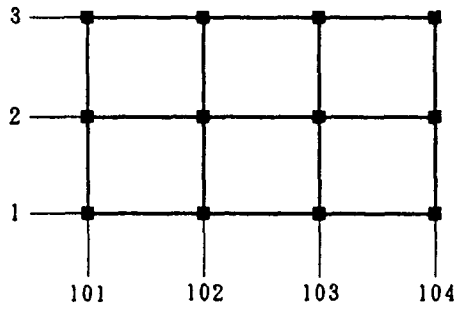
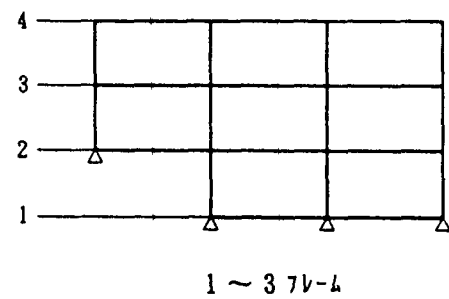
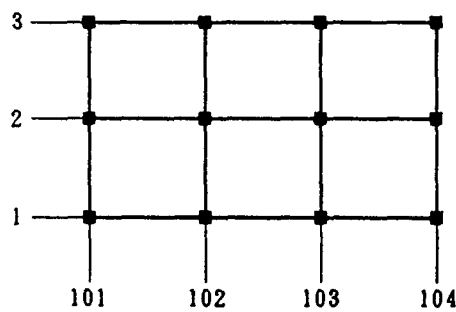


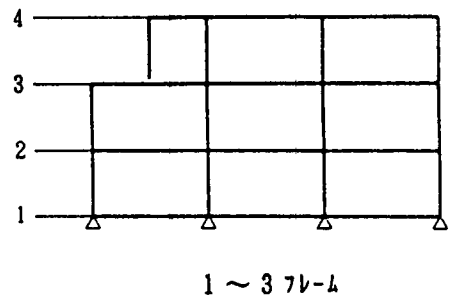
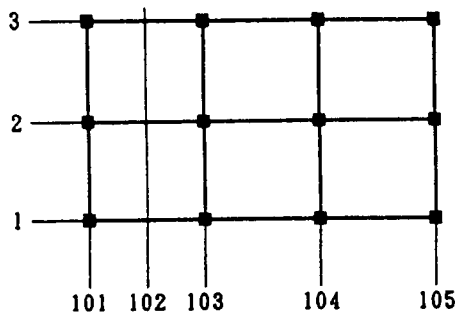
図 3.1 支点拘束状態



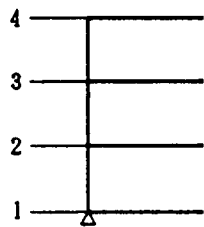
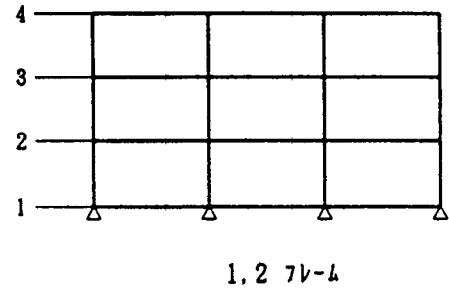
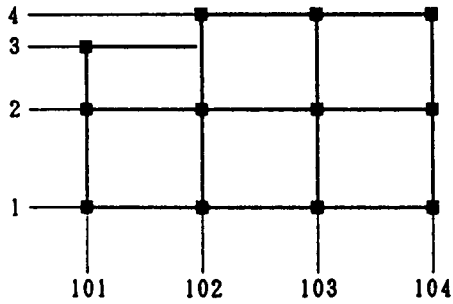
層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	X 方向			Y 方向		
						X	Y	Z	X	Y	Z
1	1	1	3	101	104	1	1	0	1	1	0
						1	1	0	1	1	0



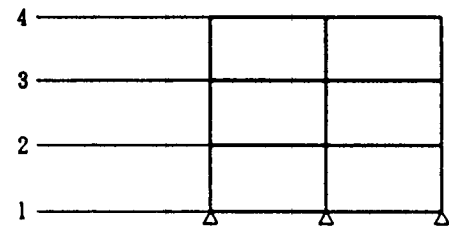
層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	X 方向			Y 方向		
						X	Y	Z	X	Y	Z
2	2	1	3	101	101	1	1	0	1	1	0
						0	1	0	1	1	0
1	1	1	3	102	104	1	1	0	1	1	0
						1	1	0	1	1	0



層	層	7r-M	7r-M	軸	軸	X 方向			Y 方向		
						X	Y	Z	X	Y	Z
1	1	1	3	101	101	1	1	0	1	1	0
1	1	1	3	103	105	1	1	0	1	1	0
3	3	1	3	102	102	0	0	0	1	1	0
						0	0	0	1	1	0



3 7r-M



4 7r-M

層	層	7r-M	7r-M	軸	軸	X 方向			Y 方向		
						X	Y	Z	X	Y	Z
1	1	1	2	101	104	1	1	0	1	1	0
1	1	3	3	101	101	1	1	0	1	1	0
1	1	4	4	102	104	1	1	0	1	1	0
1	4	3	3	102	102	1	1	0	0	0	0
						0	1	0	0	0	0

図 3.2 支点拘束データ

### K - 3 柱軸方向変形考慮

水平荷重時応力計算の場合において、柱の軸方向変形を考慮しない範囲を入力します。

項 目		説 明
1	7V-M	代表フレーム番号
2	軸 (K1)	軸方向変形を考慮しない範囲
3	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)

- (1) 水平荷重時応力計算およびD値計算時に、本項で指定した軸の全階の柱について軸方向変形を考慮しません(軸方向変形用断面積を100倍)。ただし、鉛直荷重時の応力を求める際は、本項の入力に関係なくRC、SRC造の柱については必ず軸方向変形を考慮しません(軸方向変形用断面積を100倍)。
- (2) 本項は、各方向各フレーム別に指定します。

K-4 壁剛性評価指定

壁の剛性評価の方法を入力します。

項目		説明	省略時解釈								
1	X方向	壁剛性 X方向の壁剛性について下表より選択 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>全ての壁を考慮</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>耐力壁のみ考慮</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	評価方法	1	全ての壁を考慮	2	耐力壁のみ考慮	1		
入力値	評価方法										
1	全ての壁を考慮										
2	耐力壁のみ考慮										
2		断面置換 全ての壁を考慮する場合に、X方向の部材の断面二次モーメントの計算方法を下表より選択 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>断面置換方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>断面置換しない</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>幅を母材幅とし、せいを変更</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>せいを母材せいとし、幅を変更</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	断面置換方法	1	断面置換しない	2	幅を母材幅とし、せいを変更	3	せいを母材せいとし、幅を変更	1
入力値	断面置換方法										
1	断面置換しない										
2	幅を母材幅とし、せいを変更										
3	せいを母材せいとし、幅を変更										
3		剛域 全ての壁を考慮する場合に、X方向の剛域について下表より選択 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>取り扱い方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>剛域は考慮する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>剛域は考慮しない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	取り扱い方法	1	剛域は考慮する	2	剛域は考慮しない	1		
入力値	取り扱い方法										
1	剛域は考慮する										
2	剛域は考慮しない										
4	Y方向	壁剛性 Y方向の壁剛性について表より選択 (1項に同じ)	1								
5		断面置換 全ての壁を考慮する場合に、Y方向の部材の断面二次モーメントの計算方法を表より選択 (2項に同じ)	1								
6		剛域 全ての壁を考慮する場合に、Y方向の剛域について表より選択(3項に同じ)	1								

(1) 1, 4項によりそで壁, 腰壁, たれ壁の取り扱いが決定されます。「2」を選択した場合は、部材に取り付くそで壁, 腰壁, たれ壁の剛性および剛域は全て無視し、そで壁等はラーメン内雑壁として処理します。

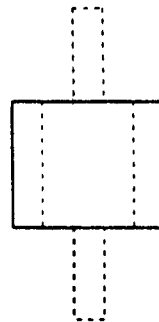
(2) 2.5 項によりそで壁, 腰壁, たれ壁付部材の断面二次モーメントの計算方法が決定されます。



置換方法 : 1



置換方法 : 2



置換方法 : 3

図 3.3 断面置換方法



K-5 はり剛性直接指定

はりの剛性を直接指定します。

項目	説明	省略時解釈	単位
1 剛性NO.	はり剛性番号 (1~99)		
2 I	断面二次モーメント		cm <sup>4</sup>
3 $\beta$	せん断剛性低下率	1.0	
4 $\kappa$	せん断変形形状係数		
5 As	せん断変形用断面積		cm <sup>2</sup>

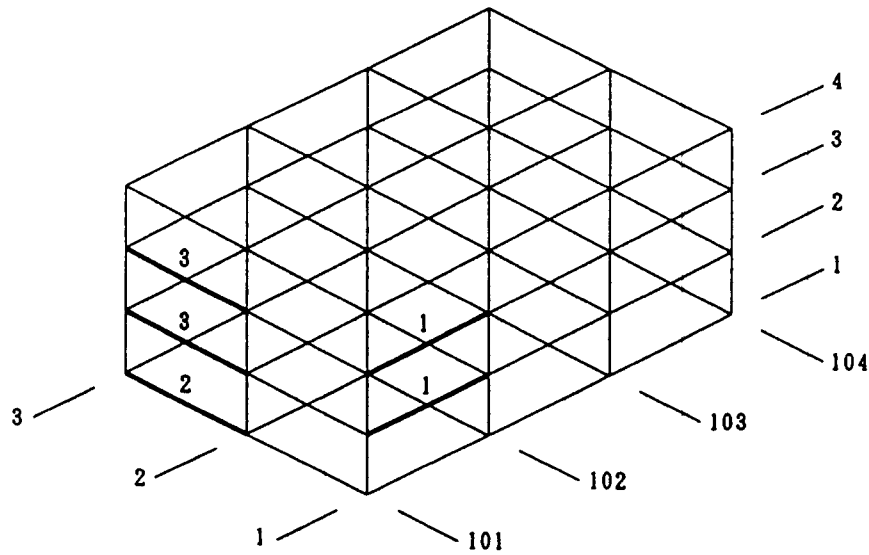
- (1) 本項は、はりの剛性を直接指定し、入力値により剛性計算および応力計算を行う場合に入力します。

K-6 はり剛性配置

「K-5 はり剛性直接指定」で入力したはり剛性を配置します。

項目		説明
1	層 (I1)	はり剛性を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	はり剛性を配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	はり剛性を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	剛性NO.	「K-5 はり剛性直接指定」で入力したはり剛性番号

- (1) 本項は、部材の剛性を変更する箇所のみ配置を行います。
- (2) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	剛性NO.
2	3	1	1	101	102	1
1	1	101	101	2	3	2
2	3	101	101	2	3	3

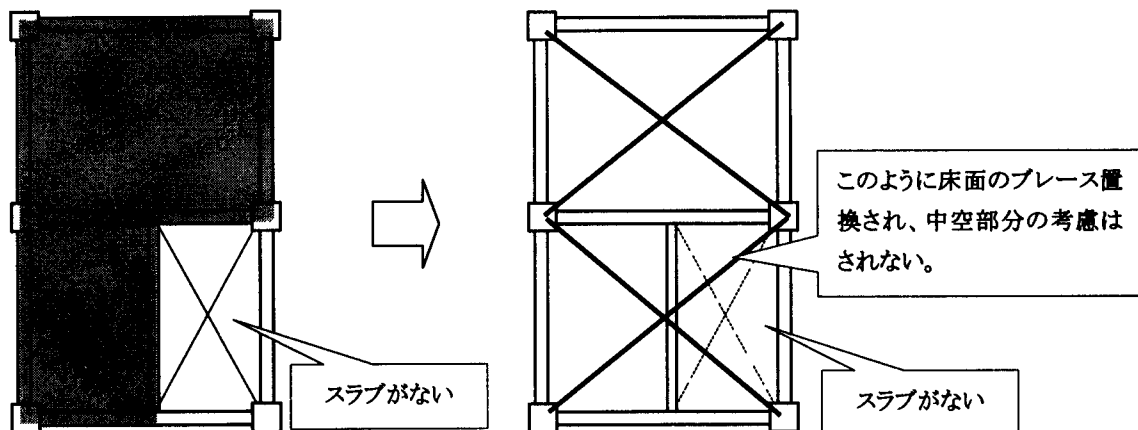
図 3.4 はり剛性配置

## K-7 RCスラブの範囲

RCスラブの床剛性を設定する範囲をここで指定します。

項目		説明	省略時解釈
1	層 (I1)	床ブレースを配置する層の範囲 I1 層から I2 層まで ( $I1 \leq I2$ )	不可
2	層 (I2)		不可
3	フレーム (J1)	床ブレースを配置するフレームの範囲 J1 フレームから J2 フレームまで ( $J1 < J2$ )	不可
4	フレーム (J2)		不可
5	軸 (K1)	床ブレースを配置する軸の範囲 K1 軸から K2 軸まで ( $K1 < K2$ )	不可
6	軸 (K2)		不可

- (1) 「P-39 スラブ形状 (基本)」、「P-40 スラブ形状 (一次まで)」、「P-41 スラブ形状 (二次まで)」、「P-42 スラブ形状 (その他)」を使って配置したスラブの内、RCスラブとしてのせん断剛性を評価する範囲を指定します。
- (2) ここで指定された床スラブのみ、そのスラブ厚と周辺のはりサイズから、耐震壁と同様の方法でブレース置換断面積が算出され、フレーム構成部材として組み込まれ「剛床仮定」に近い状態を実現しています。
- (3) 現バージョンでは、入力されているスラブの一部が抜けている (中空部分がある) 場合には対処していません。  
指定された範囲のスラブは全面スラブがあるものとして処理されます。



- (4) この一連の処理は、範囲さえ指定すれば、あとは全てプログラム内で自動的に処理されます。
- (5) 置換されたブレースの応力は出力されません。

## K-8 柱剛性配置

「K-7 柱剛性直接指定」で入力した柱剛性を配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	柱剛性を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	柱剛性を配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	柱剛性を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)
7	剛性NO.	「K-7 柱剛性直接指定」で入力した柱剛性番号

- (1) 本項は、部材の剛性を変更する箇所のみ配置を行います。
- (2) 本項は、X, Y方向別に指定します。方向は、フレーム番号の方向とします。
- (3) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。

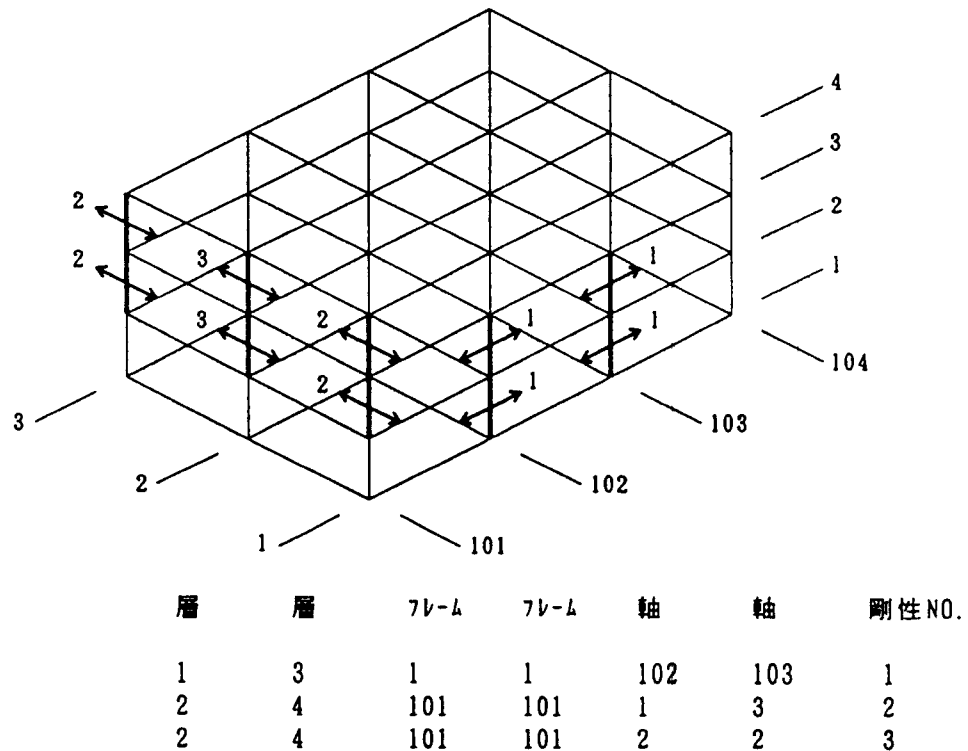


図 3.5 柱剛性配置

## K-9 床ブレース指定

床面または屋根面に配置するブレースを指定します。

鉄骨造建物で床面または屋根面の剛性も考慮した応力計算結果を求める時は、ここで床面または屋根面に配置するブレースを指定してください。

項目		説明	省略時解釈
1	層 (I1)	床ブレースを配置する層の範囲	不可
2	層 (I2)	I1 層から I2 層まで ( $I1 \leq I2$ )	不可
3	フレーム (J1)	床ブレースを配置するフレームの範囲	不可
4	フレーム (J2)	J1 フレームから J2 フレームまで ( $J1 < J2$ )	不可
5	軸 (K1)	床ブレースを配置する軸の範囲	不可
6	軸 (K2)	K1 軸から K2 軸まで ( $K1 < K2$ )	不可
7	A	ブレースの断面積 (単位: $cm^2$ ) ブレースの断面積は、引張り力に対して有効な全断面積を入力してください。	不可
8	Yce	ヤング係数 (単位: $kN/cm^2$ ) 「K-7 床ブレース指定」での入力は、基本的には鉄骨造で床や屋根に設置するブレース (引張りブレース) を想定しています。従ってここでの入力が省略された場合 (0 の場合) は、鋼材のヤング係数を省略時の解釈値としています。 鋼材以外のブレースをここで配置する場合は、必ずその材料のヤング係数を入力してください。	20500

- (1) 「床ブレース指定」は、基本的には鉄骨造建築物の床や勾配のある屋根に設置されているブレースを考慮した応力計算結果を求めるために設けたものです。  
ここで床面または屋根面にブレースを指定すると、そのブレースの剛性が評価された応力計算結果が得られます。  
しかし、ここで「床ブレース指定」をしても、いわゆる「剛床仮定」とは少し違うので注意してください。
- (2) 「剛床仮定」は現実的ではない「理論的に完全剛」である状況を指しています。  
しかし「床ブレース指定」は、実際の有限な剛性に非常に近い状態のままをモデル化するもので、理論的な完全な剛の状態を設定するためのものではありません。

鉄骨造の簡単なモデルを用いて試してみると分かりますが、通常の荷重範囲の想定であれば、床ブレースとして  $10 \sim 20 cm^2$  位を設定すれば、ほぼ剛床といえる状態になります。

(3) ここで入力されているブレースは、

- (1) 丸鋼等を使用した X 形のブレース
- (2) 圧縮力には働かなくて引張り力にしか有効に働かない断面性能

として処理されます。

つまり、応力計算で使用するブレースの断面積は、7項で入力されている断面積の 1/2 の断面積をもつ部材が X 形に配置されているものとして処理しています。

従って、7項での入力は引張り力に対して有効な全断面積を入力してください。

(4) 床ブレースのタイプは、配置されている断面性能(断面積とヤング係数の組み合わせ)が同じ部材ごとにまとめられ、1から順にタイプ番号が振られます。

この処理は、プログラム内部で自動的に行われますので、入力時にタイプ番号を指定する必要はありません。

(5) 床ブレースの指定で入力されている断面性能は、同じものは入力されている行や順に係わらず内部で自動的にまとめられますので、入力順等の配慮は要りません。

(6) 入力された床ブレースの応力は、断面性能ごとにまとめられたタイプごとに、荷重ケースごとに最大値が出力されます。

出力は、応力計算結果の出力で、「4.2.2 床(屋根)面ブレース応力表」として出力されます。

(7) 入力された床ブレースの応力は「4.2.2 床(屋根)面ブレース応力表」として出力されますが、断面設計はしていません。

K-10 独立基礎形状

独立基礎の偏心について入力します。

入力単位:cm

項目	説明	省略時解釈
1 形状 No	1~999、入力順不問	不可
2 Lx	底版の X 方向長さ	不可
3 Ly	底版の Y 方向長さ	不可
4 ax	基礎柱の X 方向幅	不可
5 ay	基礎柱の Y 方向幅	不可
6 Lx1	基礎底版左端から基礎柱の中心までの X 方向距離	不可
7 Ly1	基礎底版下端から基礎柱の中心までの Y 方向距離	不可
8 h1	h1は S 造と RC 造で、入力箇所が僅かに違います。 ■柱が鉄骨造の時 基礎底面からベースプレートまでの高さ  ■柱が鉄筋コンクリート造の時 基礎底面から GL までの高さ	なし
9 h2	h2 は S 造と RC 造の入力箇所は同じで、基礎底面から地中ばり下端までの高さ	なし

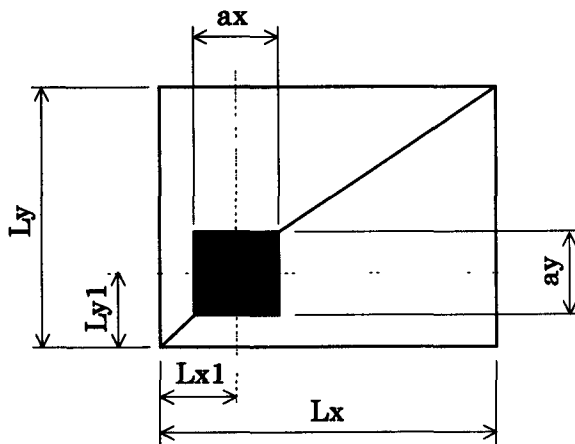


図1

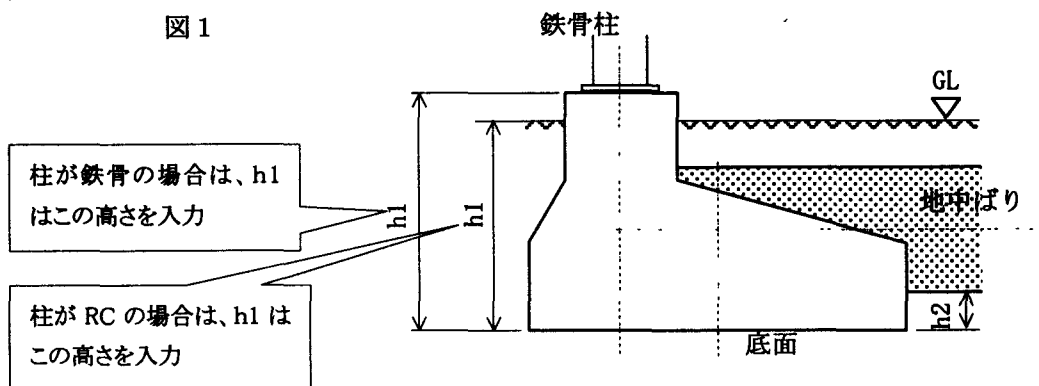
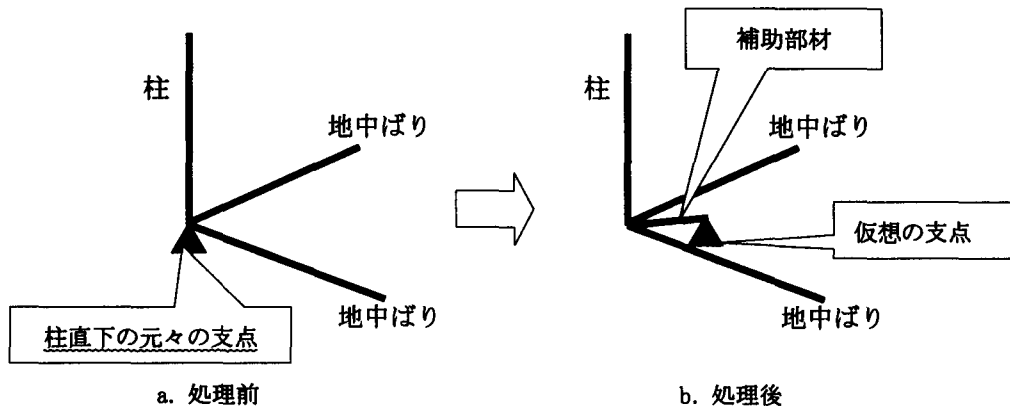
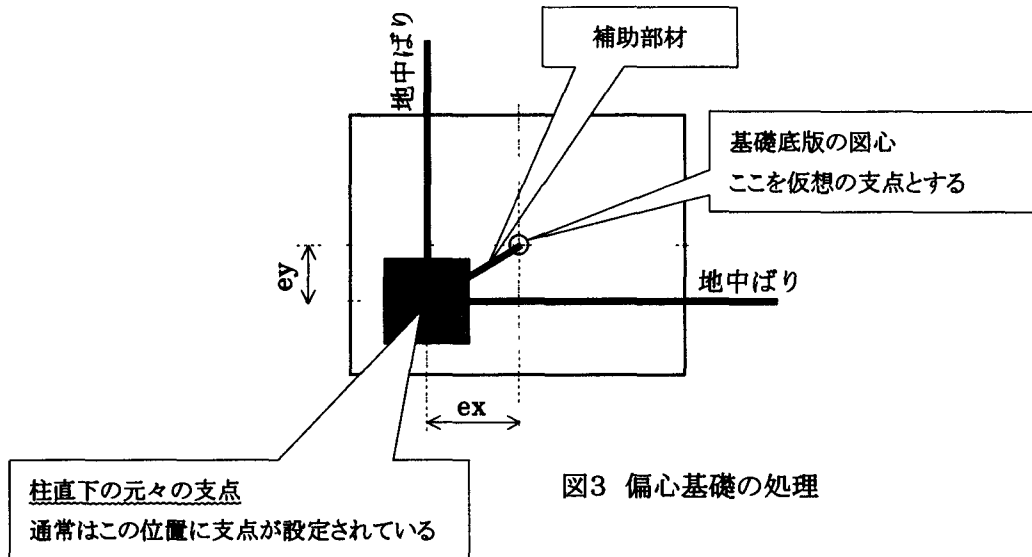


図2

柱が鉄骨の場合は、h1  
はこの高さを入力

柱が RC の場合は、h1 は  
この高さを入力

- (1) ここでは偏心した独立基礎からの偏心モーメントを考慮した応力計算結果を求める時に  
入力します。
- (2) 偏心した独立基礎が入力された場合、柱直下の元々の支点は外され、基礎底版の図  
心位置に仮想支点が設定されます。  
柱直下の本来の支点と新たに設けた仮想支点間は、補助部材が設定されます。



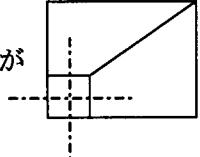
- (3) 偏心していない独立基礎はここで入力する必要はありません。  
もし入力して、次の「K-11 独立基礎配置」で配置しても、結果的には処理「対象外」と  
して無視されます。
- (4) 柱直下の元々の支点の支点反力は、仮想支点の支点反力が出力されます。
- (5) 応力計算結果で、補助部材の応力は出力されません。



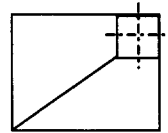
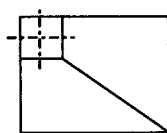
K-11 独立基礎配置

「K-10 独立基礎形状」の配置先と配置方向を指定します。

項目		説明	省略時 解釈										
1	層 (I1)	床プレースを配置する層	不可										
2	フレーム (J1)	床プレースを配置するフレームの範囲 J1 フレームから J2 フレームまで (J1 < J2)	不可										
3	フレーム (J2)		不可										
4	軸 (K1)	床プレースを配置する軸の範囲 K1 軸から K2 軸まで (K1 < K2)	不可										
5	軸 (K2)		不可										
6	方向	「K-10 独立基礎形状」で入力した基礎を配置する方向を指定します。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">入力値</th> <th>解釈</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0 または 1</td> <td>K-10 で入力されている方向のまま配置する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>K-10 で入力されている状態から、左右方向に反転した状態で配置する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>K-10 で入力されている状態から、上下方向に反転した状態で配置する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>K-10 で入力されている状態から、斜め方向に反転した状態で配置する。</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	解釈	0 または 1	K-10 で入力されている方向のまま配置する。	2	K-10 で入力されている状態から、左右方向に反転した状態で配置する。	3	K-10 で入力されている状態から、上下方向に反転した状態で配置する。	4	K-10 で入力されている状態から、斜め方向に反転した状態で配置する。	1
入力値	解釈												
0 または 1	K-10 で入力されている方向のまま配置する。												
2	K-10 で入力されている状態から、左右方向に反転した状態で配置する。												
3	K-10 で入力されている状態から、上下方向に反転した状態で配置する。												
4	K-10 で入力されている状態から、斜め方向に反転した状態で配置する。												

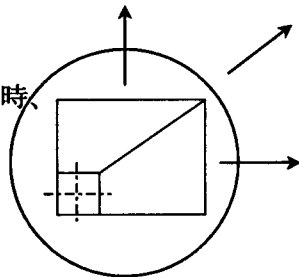
K-10 で入力されている状態が  の時、

■ 配置方向が(3)の時、  
上下方向に反転した状態  
で配置される

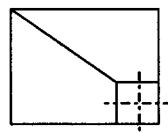


■ 配置方向が(4)の時、  
斜め方向に反転した状態  
で配置される

■ 配置方向が0または(1)の時、  
そのまま配置される



■ 配置方向が(2)の時、  
左右方向に反転した状態  
で配置される

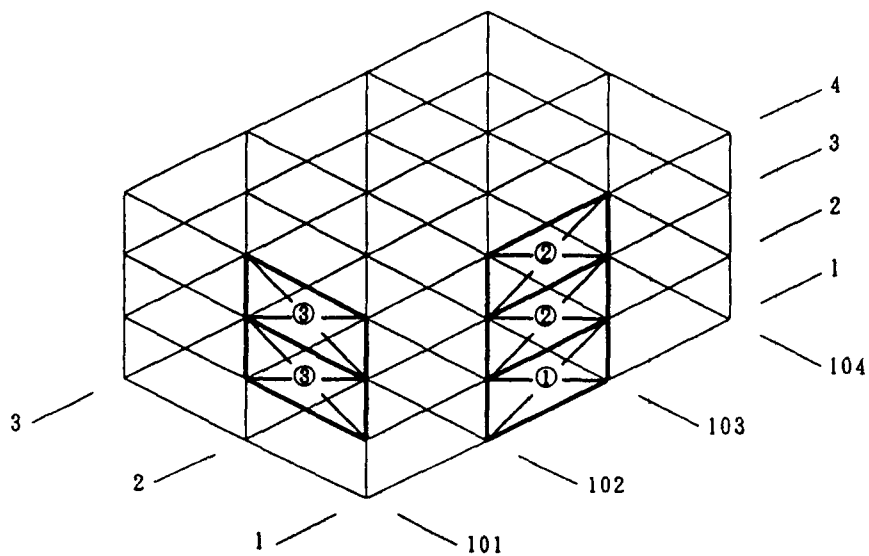


### K-12 耐力壁ブレース置換断面積

耐力壁のブレース置換断面積を直接指定します。

項目	説明	単位
1 層 (I1)	ブレース置換断面積を直接指定する層	
2 層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)	
3 フレーム (J1)	ブレース置換断面積を直接指定するフレーム	
4 フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)	
5 軸 (K1)	ブレース置換断面積を直接指定する軸	
6 軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)	
7 AB	耐力壁ブレース置換断面積	cm <sup>2</sup>

- (1) 本項は、「P-33 壁形状 (RC)」、「P-34 壁開口形状」により求めたブレース置換断面積を変更する箇所のみ指定します。入力値により剛性計算および応力計算を行います。
- (2) 耐力壁となっていない、壁に配置した場合も有効となりますので、注意してください。
- (3) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。



	層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	AB
①	1	2	1	1	102	103	-
②	2	4	1	1	102	103	-
③	2	4	101	101	1	2	-

図 3.9 耐力壁ブレース置換断面積指定

K-13 耐力壁剛性低下率

耐力壁の剛性低下率を指定します。

項 目		説 明	省略時解釈
1	層 (I1)	壁剛性低下率を指定する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)	
3	X 低下率	X方向耐力壁の剛性低下率	1.0
4	Y 低下率	Y方向耐力壁の剛性低下率	1.0

- (1) 本項は、耐力壁の剛性低下率を、階単位に指定します。ただし、入力値は「P-33 壁形状 (RC)」で入力している  $\beta$  に掛ける値とします。
- (2) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。

K-14 雑壁の剛性倍率

雑壁の剛性倍率を指定します。

項 目		説 明	省略時解釈
1	層 (I1)	壁剛性倍率を指定する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1<I2)	
3	IXn	X方向ラーメン内雑壁の剛性倍率	1.0
4	IYn	Y方向ラーメン内雑壁の剛性倍率	1.0
5	OXn	X方向ラーメン外雑壁の剛性倍率	1.0
6	OYn	Y方向ラーメン外雑壁の剛性倍率	1.0

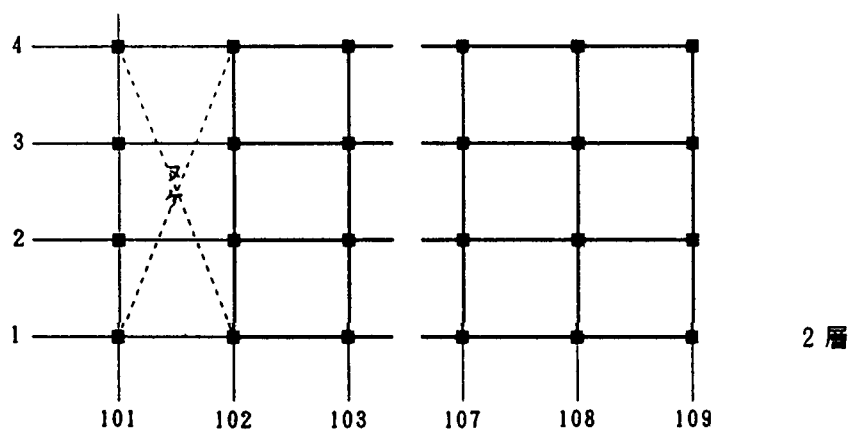
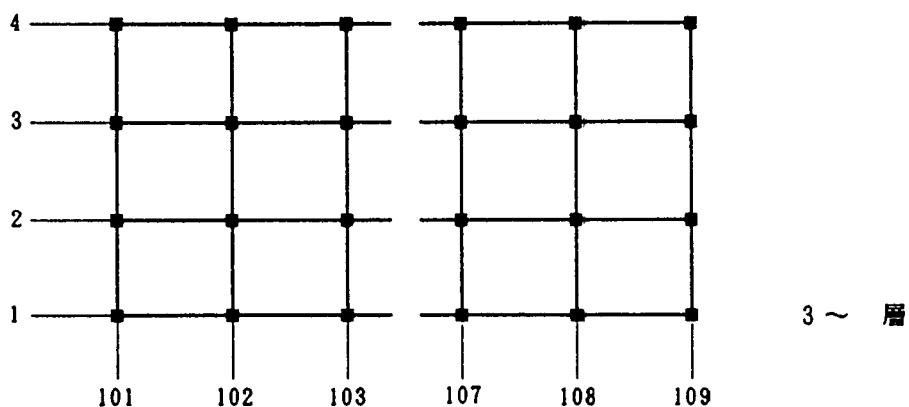
- (1) 3.4 項は、ラーメン内雑壁の剛性倍率を入力します。
- (2) 5.6 項は、ラーメン外雑壁の剛性倍率を入力します。ただし、入力値は、「P-36 雑壁」で入力している雑壁剛性倍率に掛ける値とします。
- (3) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。

K-15 任意柱の除外指定

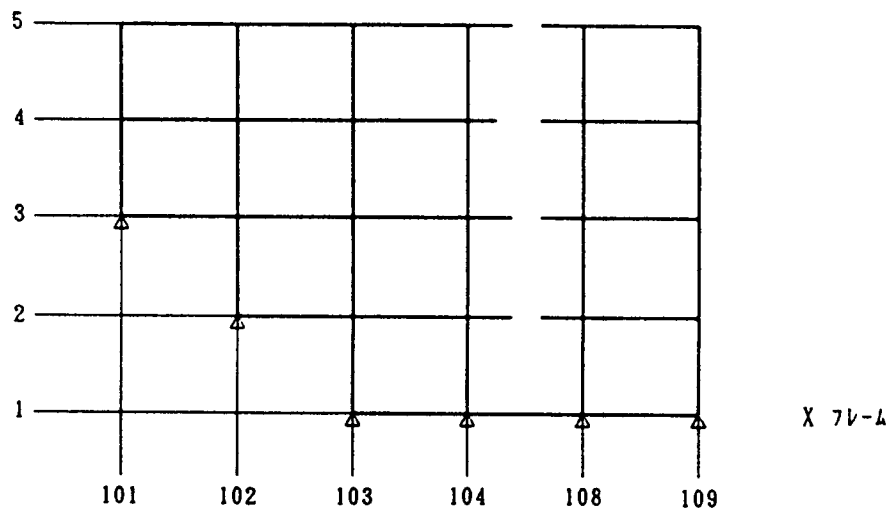
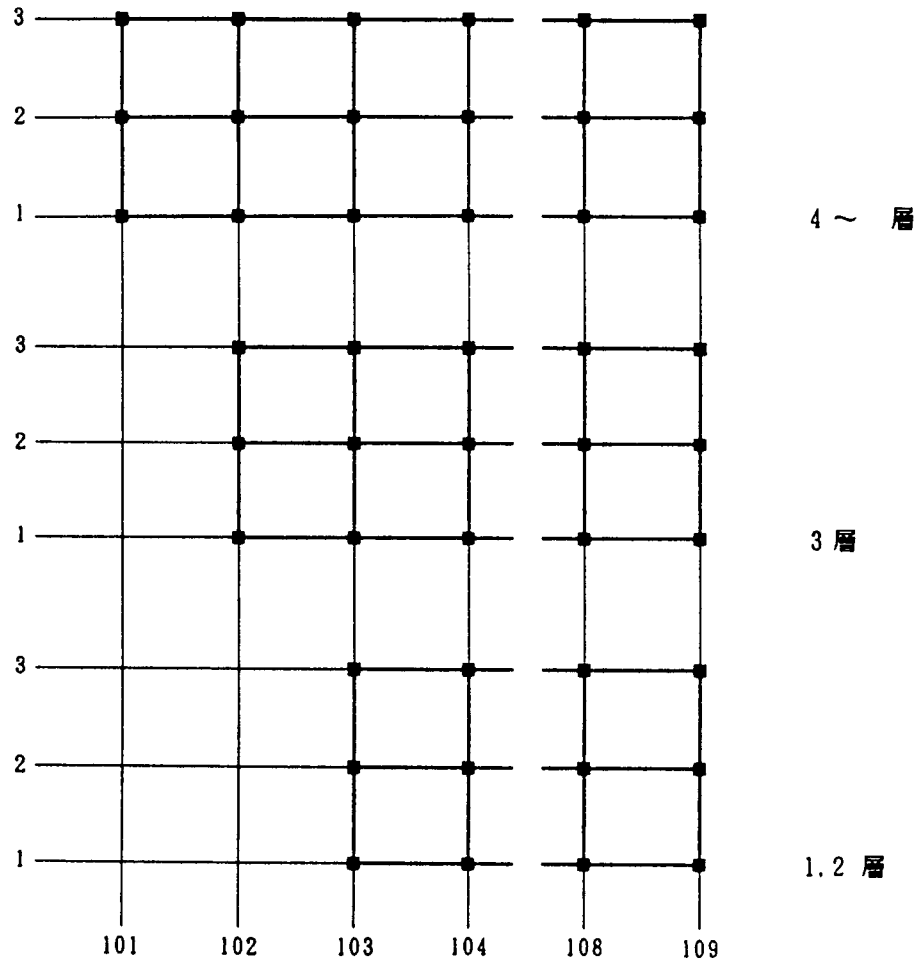
ねじり補正および偏心率の重心位置計算に考慮しない柱を指定します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	重心位置計算に考慮しない柱を設定する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	重心位置計算に考慮しない柱を設定するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	重心位置計算に考慮しない柱を設定する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)

(1) 指定された箇所は、ねじり補正および偏心率の重心位置計算にX, Y 方向共考慮されません。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸
2	2	1	4	101	104



層	層	7レ-ム	7レ-ム	軸	軸
1	3	1	3	101	101
1	2	1	3	102	102

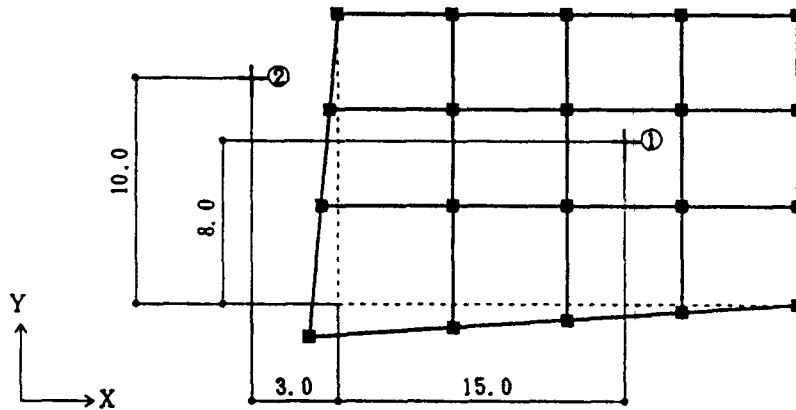
図 3.10 任意柱の除外指定

K-16 ラーメン外重量

二次設計の重心位置の算定の際に考慮するラーメン外重量を入力します。

項目		説明	単位
1	階 (11)	対象階	
2	階 (12)	11階から12階まで (11 ≤ 12)	
3	X	基準点からのX方向距離	m
4	Y	基準点からのY方向距離	m
5	W	重心位置の算定に考慮する重量	t

- (1) 本項は、二次設計の偏心率算定時の重心位置を算定する際にのみ考慮します。
- (2) 3.4 項の基準点は、1軸と 101軸との交点とします。
- (3) 5項は、上階からの合計の値として取り扱います。



	階	階	X	Y	W
①	-	-	15.0	8.0	-
②	-	-	-3.0	10.0	-

図 3.11 ラーメン外重量

K-17 実行用データ

剛性計算実行に必要なデータを入力します。

項目	説明	省略時解釈								
1 ねじり補正值 $\alpha_X$	<p>X方向ねじり補正值<math>\alpha</math>の処理方法を下表より選択</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ねじりを考慮せず<math>\alpha = 1</math>とする</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ねじりを考慮するが<math>\alpha \geq 1</math>とする</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ねじりを考慮し<math>\alpha</math>は計算結果による</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処理方法	1	ねじりを考慮せず $\alpha = 1$ とする	2	ねじりを考慮するが $\alpha \geq 1$ とする	3	ねじりを考慮し $\alpha$ は計算結果による	3
入力値	処理方法									
1	ねじりを考慮せず $\alpha = 1$ とする									
2	ねじりを考慮するが $\alpha \geq 1$ とする									
3	ねじりを考慮し $\alpha$ は計算結果による									
2 ねじり補正值 $\alpha_Y$	<p>Y方向ねじり補正值<math>\alpha</math>の処理方法を表より選択 (1項に同じ)</p>	3								
3 層間変形角許 容値 X	<p>X方向層間変形角の許容値</p> <p>許容値が 1/120 の場合、入力値は 120 としま す。</p>	200								
4 層間変形角許 容値 Y	<p>Y方向層間変形角の許容値</p>	200								
5 $\beta$ による割増 X	<p>地震力を負担する筋かいを設けたS造建築物で、 施行令第8条第1号での筋かいによる地震時水平力 のX方向割増について下表より選択</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>割増をする</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>割増をしない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処理方法	1	割増をする	2	割増をしない	1		
入力値	処理方法									
1	割増をする									
2	割増をしない									
6 $\beta$ による割増 Y	<p>地震力を負担する筋かいを設けたS造建築物で、 施行令第8条第1号での筋かいによる地震時水平力 のY方向割増について表より選択(5項に同じ)</p>	1								
7 剛性倍率 X	<p>X方向耐力壁まわりはりの断面二次モーメント増 大率</p>	10								
8 剛性倍率 Y	<p>Y方向耐力壁まわりはりの断面二次モーメント増 大率</p>	10								



9	ルート判別方法 X	X方向地上1階とその他の階のルート判別について下表より選択  <table border="1" data-bbox="587 241 1225 474"> <thead> <tr> <th data-bbox="587 241 707 309">入力値</th> <th data-bbox="707 241 1225 309">判別方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="587 309 707 409">1</td> <td data-bbox="707 309 1225 409">地上1階とその他の階のルートを同一とする</td> </tr> <tr> <td data-bbox="587 409 707 474">2</td> <td data-bbox="707 409 1225 474">地上1階のみ別にルートを判別する</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	判別方法	1	地上1階とその他の階のルートを同一とする	2	地上1階のみ別にルートを判別する	1
入力値	判別方法								
1	地上1階とその他の階のルートを同一とする								
2	地上1階のみ別にルートを判別する								
10	ルート判別方法 Y	Y方向地上1階とその他の階のルート判別について表より選択（9項参照）	1						

- (1) 1.2項により、地震時応力計算のフレーム負担せん断力が決定されます。
- (2) 3.4項は、ルート判別の際に使用されます。
- (3) 5.6項により、応力計算に使用する地震力の割増しについて決定されます。
- (4) 7.8項により、耐力壁まわりはりの増大率について決定されます。入力値は、はり部材のみで計算された断面二次モーメントに掛ける値とします。
- (5) 9.10項により、地上1階のルート判別方法が決定されます。

K-18 出力省略指定

項目単位に出力を省略するか、しないかを入力します。

項 目		説 明	省略時解釈										
1	指定	出力を省略するか、しないかを下表より選択  <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>出力する（記号説明有り）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>簡易出力（記号説明有り）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>簡易出力（記号説明無し）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>出力しない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内 容	1	出力する（記号説明有り）	2	簡易出力（記号説明有り）	3	簡易出力（記号説明無し）	4	出力しない	下記(2)参照
入力値	内 容												
1	出力する（記号説明有り）												
2	簡易出力（記号説明有り）												
3	簡易出力（記号説明無し）												
4	出力しない												

- (1) 本項の指定によって、プリンタに出力するか、しないかが決定されます。
- (2) 「0」を入力した場合は、大項目は「1」となり、中項目は大項目と同一となり、小項目は中項目と同一となります。
- (3) 大項目を省略した場合は、中の小項目も省略されます。
- (4) 本項の指定を変更した場合は、再度実行する必要があります。



## 4 . 応力計算

### 4 . 1 概要

応力および断面計算に必要な、応力計算のデータの入力項目の説明です。

### 4 . 2 入力データ制限

入力データの単位および桁数の制限を表 4.1に示します。(D:入力値)

項目名	項目	単位	入力値制限		
			範囲	整数部	小数部
S- 1 応力計算荷重指定	1	応力計算方法	0 ~ 2	1	-
	2	立体解析方法	0 ~ 2	1	-
	3	地震	0 ~ 2	1	-
	4	積雪	0 ~ 2	1	-
	5	風	0 ~ 2	1	-
S- 2 節点追加荷重	1	荷重NO.	1 ~ 99	2	-
	2	L /TL		1	3
	3	E /TL		1	3
	4	S /TL		1	3
	5	W1/TL		1	3
	6	W2/TL		1	3
	7	PX	t	3	3
	8	PY	t	3	3
	9	M	tm	3	3
S- 3 節点追加荷重配置	1	層		2	-
	2	層		2	-
	3	7レ-Δ		3	-
	4	7レ-Δ		3	-
	5	軸		3	-
	6	軸		3	-
	7	NO. -X		2	-
	8	NO. -Y		2	-
S- 4 出力フレーム指定	1	指定	0 ~ 2	1	-



#### 4. 3 入力データ内容

以下、応力計算データ内容を項目別に説明します。

## S-1 応力計算荷重指定

断面計算ルートの設定方法を入力します。

	項目	説明	省略時解釈						
1	地震	応力計算をするか、しないかを入力します。  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">入力値</th> <th style="width: 35%;">判別方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">計算しない</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">計算する</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	判別方法	1	計算しない	2	計算する	2
入力値	判別方法								
1	計算しない								
2	計算する								
2	積雪		下記(3)参照						
3	風								

- (1) 1～3 項では応力計算する荷重ケースを指定します。従って、断面計算も指定された荷重ケースのみで計算します。
- (2) 2 項で「2」を指定した場合は、短期としての積雪荷重を計算します。
- (3) 2,3 項において「0」を入力すると、「P-20 荷重計算指定」で指定した値になります。

S - 2 節点追加荷重

各部材形状から計算された以外に直接節点に考慮したい荷重を入力します。

項目	説明	単位
1 荷重NO.	節点追加荷重番号 (1~99)	
2 L /TL	L (長期荷重) の 7~9 項で入力する荷重 (TL) に対する割合	
3 E /TL	E (地震時荷重) の TL に対する割合	
4 S /TL	S (積雪時荷重) の TL に対する割合	
5 W1/TL	W1 (風圧時荷重1) の TL に対する割合	
6 W2/TL	W2 (風圧時荷重2) の TL に対する割合	
7 PX	水平力	t
8 PY	鉛直方向力	t
9 M	回転モーメント	t <sup>m</sup>

- (1) 本項で入力した節点追加荷重は、応力計算に考慮されます。
- (2) 積雪時荷重による他の荷重への影響はありません。
- (3) 7~9項の⊕の方向を下記に示します。

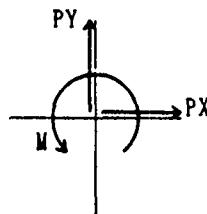


図 4.1 節点追加荷重符号



S - 3 節点追加荷重配置

「S- 2 節点追加荷重」で入力した節点追加荷重を配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	節点追加荷重を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	節点追加荷重を配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	節点追加荷重を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)
7	NO. -X	「S- 2 節点追加荷重」で入力したX方向の節点追加荷重番号
8	NO. -Y	「S- 2 節点追加荷重」で入力したY方向の節点追加荷重番号

- (1) 7.8 項において、節点追加荷重がない方向は「0」を入力します。
- (2) 重複配置を行った場合は、それぞれが有効となり、全て加算されます。

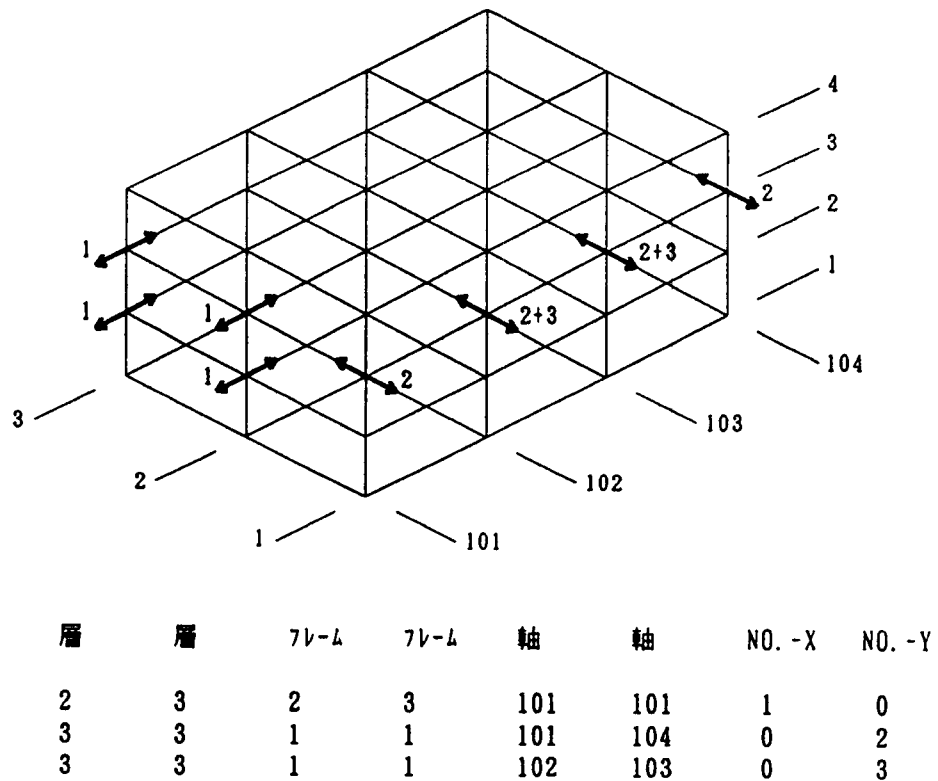


図 4.2 節点追加荷重配置

S - 4 出力フレーム指定

フレーム単位に等価節点荷重表および応力計算結果を出力するか、しないかを入力します。

項 目		説 明	省略時解釈						
1	指定	出力を省略するか、しないかを下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>出力する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>出力しない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内 容	1	出力する	2	出力しない	1
入力値	内 容								
1	出力する								
2	出力しない								

- (1) 本項の指定によって、プリンタに出力するか、しないかが決定されます。
- (2) 「K- 1 計算フレーム指定」において、共通フレームに指定されているフレームについては、本項の入力に関係なく出力はされません。

S - 5 出力省略指定

項目単位に出力を省略するか、しないかを入力します。

項 目		説 明	省略時解釈										
1	指定	出力を省略するか、しないかを下表より選択  <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>出力する（記号説明有り）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>簡易出力（記号説明有り）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>簡易出力（記号説明無し）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>出力しない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内 容	1	出力する（記号説明有り）	2	簡易出力（記号説明有り）	3	簡易出力（記号説明無し）	4	出力しない	下記(2)参照
入力値	内 容												
1	出力する（記号説明有り）												
2	簡易出力（記号説明有り）												
3	簡易出力（記号説明無し）												
4	出力しない												

- (1) 本項の指定によって、プリンタに出力するか、しないかが決定されます。
- (2) 「0」を入力した場合は、大項目は「1」となり、中項目は大項目と同一となり、小項目は中項目と同一となります。
- (3) 大項目を省略した場合は、中の小項目も省略されます。
- (4) 本項の指定を変更した場合は、再度実行する必要があります。

## 5. 断面計算

### § 1. 概要

断面計算に必要な、各データの入力項目です。

### § 2. 入力データ制限

入力データの単位および桁数の制限を表5. 1に示します。

項目名	項目	単位	入力値制限		
			範囲	整数部	小数部
M-1 断面計算ルート	1	ルート判別方法	0~2	1	-
	2	X方向 地上1階	0~5	1	-
	3	ルート その他の階	0~5	1	-
	4	Y方向 地上1階	0~5	1	-
	5	ルート その他の階	0~5	1	-
M-2 ダイヤフラム形式	1	層		2	-
	2	層		2	-
	3	フレーム		3	-
	4	フレーム		3	-
	5	軸		3	-
	6	軸		3	-
	7	ダイヤフラム形式		0~2	1
M-3 応力の倍率	1	層		2	-
	2	層		2	-
	3	フレーム		3	-
	4	フレーム		3	-
	5	N1		1	3
	6	N2		1	3
	7	N3		1	3
M-4 鋼材形状 (S, SRC)	1	鋼材 No	3501~4000	4	-
	2	TYP	1~11	2	-
	3	P1	mm	4	2
	4	P2	cm <sup>2</sup>	4	2
	5	P3	cm	4	2
	6	P4	度	4	2
	7	P5		0~2	4

M- 5 継手形状 (S, SRC)	1	継手NO.		301~500	3	-
	2	Ft1	mm	0 < D	3	1
	3	Fb1	mm	0 ≦ D	3	1
	4	Ft2	mm	0 ≦ D	3	1
	5	Fb2	mm	0 ≦ D	3	1
	6	Wt	mm	0 < D	3	1
	7	フ 径	mm	0 ≦ D	2	-
	8	ラ 配列		0 ? 3	1	-
	9	ン n		0 ≦ D	2	-
	10	ジ p	mm	0 ≦ D	3	-
	11	e	mm	0 ≦ D	3	-
	12	g1	mm	0 ≦ D	3	-
	13	g2	mm	0 ≦ D	3	-
	14	ウ 径	mm	0 ≦ D	2	-
	15	ェ 配列		0 ? 3	1	-
	16	ブ n		0 ≦ D	2	-
	17	p1	mm	0 ≦ D	3	-
	18	p2	mm	0 ≦ D	3	-
	19	e1	mm	0 ≦ D	3	-
	20	e2	mm	0 ≦ D	3	-
M- 6 剛接合仕口形状 (S)	1	仕口NO.		51~100	3	-
	2	t	mm	0 ≦ D	2	1
	3	b	mm	0 ≦ D	3	1
	4	l	mm	0 ≦ D	3	1
	5	F	mm	0 ≦ D	2	1
	6	W	mm	0 < D	2	1
	7	スカラップ	mm	0 ≦ D	3	1
M- 7 ピン接合仕口形状 (S)	1	仕口NO.		151~200	3	-
	2	t	mm	0 ≦ D	2	1
	3	ボ 径	mm	0 ≦ D	2	-
	4	ル 本数	mm	0 ≦ D	2	-
	5	ト p	mm	0 ≦ D	3	-
	6	e1	mm	0 < D	3	-
	7	e2	mm	0 ≦ D	3	-
M- 8 鉄骨はり部材欠損率 (S, SRC)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	フランジ LJ		0 ≦ D ≦ 1	1	3
	8	RJ		0 ≦ D ≦ 1	1	3
	9	ウェブ L		0 ≦ D ≦ 1	1	3
	10	LJ		0 ≦ D ≦ 1	1	3
	11	C		0 ≦ D ≦ 1	1	3
	12	RJ		0 ≦ D ≦ 1	1	3
	13	R		0 ≦ D ≦ 1	1	3

M-9 断面計算条件 (S)	1	計算 柱 (X)		0 ~ 3	1	-
	2	モーメント 柱 (Y)		0 ~ 3	1	-
	3	はり (X)		0 ~ 3	1	-
	4	はり (Y)		0 ~ 3	1	-
	5	ウェブ 柱 (X)		0 ~ 3	1	-
	6	考慮 柱 (Y)		0 ~ 3	1	-
	7	はり (X)		0 ~ 3	1	-
	8	はり (Y)		0 ~ 3	1	-
	9	断面 柱 (X)		0 ~ 3	1	-
	10	性能 柱 (Y)		0 ~ 3	1	-
	11	計算 はり (X)		0 ~ 3	1	-
	12	方法 はり (Y)		0 ~ 3	1	-
	13	$\alpha$ の (X)		0 ~ 2	1	-
	14	決定方法 (Y)		0 ~ 2	1	-
	15	溶接 柱		0 ~ 2	1	-
	16	作業条件 はり		0 ~ 2	1	-
M-10 はりfb指定 (S)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7V-M			3	-
	4	7V-M			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	fb	cm	$0 \leq D$	3	2
	8	fb	t / cm <sup>2</sup>	$0 \leq D$	1	3
M-11 はり部材形状 (S)	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	C TBL		0 ~ 4000	4	-
	3	L TBL		0 ~ 4000	4	-
	4	R TBL		0 ~ 4000	4	-
	5	LH	mm	$0 \leq D$	4	1
	6	LB	mm	$0 \leq D$	4	1
	7	RH	mm	$0 \leq D$	4	1
	8	RB	mm	$0 \leq D$	4	1
	9	HL	cm	$0 \leq D$	3	1
	10	HR	cm	$0 \leq D$	3	1
	11	C MAT		0 ~ 3	1	-
	12	L MAT		0 ~ 3	1	-
	13	R MAT		0 ~ 3	1	-
	14	LJ	cm	$0 \leq D$	3	1
	15	RJ	cm	$0 \leq D$	3	1
	16	継手			3	-
	17	左仕口			3	-
	18	右仕口			3	-
M-12 はり断面計算 指定 (S)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7V-M			3	-
	4	7V-M			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			4	-

M-13 柱fb,fc 指定 (S)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-L			3	-
	4	7レ-L			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	lbX	cm	0 ≦ D	3	2
	8	lbY	cm	0 ≦ D	3	2
	9	lkX	cm	0 ≦ D	3	2
	10	lkY	cm	0 ≦ D	3	2
	11	fbX	t / cm <sup>f</sup>	0 ≦ D	1	3
	12	fbY	t / cm <sup>f</sup>	0 ≦ D	1	3
	13	fcX	t / cm <sup>f</sup>	0 ≦ D	1	3
	14	fcY	t / cm <sup>f</sup>	0 ≦ D	1	3
M-14 柱部材形状 (S)	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	TBL		0 ~ 4000	4	-
	3	MAT		0 ~ 3	1	-
M-15 柱断面計算指定 (S)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-L			3	-
	4	7レ-L			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			4	-
M-16 ブレース部材形状 (S)	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	BA	cm <sup>f</sup>	0 ≦ D	4	2
	3	iy	cm	0 ≦ D	4	2
	4	MAT		0 ~ 3	1	-
	5	lk	cm	0 ≦ D	3	2
	6	fc	t / cm <sup>f</sup>	0 ≦ D	1	3
M-17 ブレース断面計算指定 (S)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-L			3	-
	4	7レ-L			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			2	-

M-18 断面計算条件 (RC, SRC)	1	断面計算	柱		0 ~ 3	1	-
	2	の種別	はり		0 ~ 3	1	-
	3	地	地 柱 (X)		0 ~ 5	1	-
	4	震	上 柱 (Y)		0 ~ 5	1	-
	5	時	1 はり (X)		0 ~ 5	1	-
	6	計	算 階 はり (Y)		0 ~ 5	1	-
	7	算	そ の 柱 (X)		0 ~ 3	1	-
	8	モ	の 柱 (Y)		0 ~ 3	1	-
	9	ー	他 はり (X)		0 ~ 3	1	-
	10	メ	はり (Y)		0 ~ 3	1	-
	11	ノ	地 柱 (X)		0 ~ 3	1	-
	12	ト	下 柱 (Y)		0 ~ 3	1	-
	13		塔 はり (X)		0 ~ 3	1	-
	14		屋 はり (Y)		0 ~ 3	1	-
	15	フ	入 柱 (X)	cm	0 ≦ D	3	2
	16	ェ	り 柱 (Y)	cm	0 ≦ D	3	2
	17	イ	長 はり (X)	cm	0 ≦ D	3	2
	18	ス	さ はり (Y)	cm	0 ≦ D	3	2
	19	耐	力 壁 まわり		0 ~ 2	1	-
			柱計算方法				
	20	ウ	柱 (Y)		0 ~ 2	1	-
	21	ェ	柱 (Y)		0 ~ 2	1	-
	22	ブ	考 はり (X)		0 ~ 2	1	-
	23	慮	はり (Y)		0 ~ 2	1	-
	24	軸	力 負担		0 ~ 2	1	-
	25	SRC	部材 柱		0 ~ 2	1	-
26		計算方法 はり		0 ~ 2	1	-	
M-19 鉄筋比制限 (RC)	1	X 方向	Pt max	%	0 ≦ D	1	3
	2	はり	Pt min 1	%	0 ≦ D	1	3
	3		Pt min 2	%	0 ≦ D	1	3
	4		Pw max	%	0 ≦ D	1	3
	5		Pw min 1	%	0 ≦ D	1	3
	6		Pw min 2	%	0 ≦ D	1	3
	7	Y 方向	Pt max	%	0 ≦ D	1	3
	8	はり	Pt min 1	%	0 ≦ D	1	3
	9		Pt min 2	%	0 ≦ D	1	3
	10		Pw max	%	0 ≦ D	1	3
	11		Pw min 1	%	0 ≦ D	1	3
	12		Pw min 2	%	0 ≦ D	1	3
	13	X 方向	Pt max	%	0 ≦ D	1	3
	14	柱	Pt min 1	%	0 ≦ D	1	3
	15		Pt min 2	%	0 ≦ D	1	3
	16		Pw max	%	0 ≦ D	1	3
	17		Pw min 1	%	0 ≦ D	1	3
	18		Pw min 2	%	0 ≦ D	1	3
	19	Y 方向	Pt max	%	0 ≦ D	1	3
	20	柱	Pt min 1	%	0 ≦ D	1	3
	21		Pt min 2	%	0 ≦ D	1	3
	22		Pw max	%	0 ≦ D	1	3
	23		Pw min 1	%	0 ≦ D	1	3
	24		Pw min 2	%	0 ≦ D	1	3



M-20 鉄筋比制限 (SRC)	1	X 方向	Pt max	%	0 ≦ D	1	3
	2	はり	Pt min 1	%	0 ≦ D	1	3
	3		Pt min 2	%	0 ≦ D	1	3
	4		Pw max	%	0 ≦ D	1	3
	5		Pw min 1	%	0 ≦ D	1	3
	6		Pw min 2	%	0 ≦ D	1	3
	7	Y 方向	Pt max	%	0 ≦ D	1	3
	8	はり	Pt min 1	%	0 ≦ D	1	3
	9		Pt min 2	%	0 ≦ D	1	3
	10		Pw max	%	0 ≦ D	1	3
	11		Pw min 1	%	0 ≦ D	1	3
	12		Pw min 2	%	0 ≦ D	1	3
	13	X 方向	Pt max	%	0 ≦ D	1	3
	14	柱	Pt min 1	%	0 ≦ D	1	3
	15		Pt min 2	%	0 ≦ D	1	3
	16		Pw max	%	0 ≦ D	1	3
	17		Pw min 1	%	0 ≦ D	1	3
	18		Pw min 2	%	0 ≦ D	1	3
	19	Y 方向	Pt max	%	0 ≦ D	1	3
	20	柱	Pt min 1	%	0 ≦ D	1	3
	21		Pt min 2	%	0 ≦ D	1	3
	22		Pw max	%	0 ≦ D	1	3
	23		Pw min 1	%	0 ≦ D	1	3
	24		Pw min 2	%	0 ≦ D	1	3
M-21 鉄筋比制限 (耐力壁)	1	X 方向	Ps max	%	0 ≦ D	1	3
	2		Ps min	%	0 ≦ D	1	3
	3	Y 方向	Ps max	%	0 ≦ D	1	3
	4		Ps min	%	0 ≦ D	1	3
M-22 鉄筋材種 & 強度割増値 (RC)	1	スパン筋材種			0 ~ 5	1	-
	2	X 方向 主筋			0 ≦ D	1	3
	3	スラブ筋			0 ≦ D	1	3
	4	Y 方向 主筋			0 ≦ D	1	3
	5	スラブ筋			0 ≦ D	1	3
M-23 コンクリート 材料 (RC, SRC)	1	層				2	-
	2	層				2	-
	3	材種			0 ~ 5	1	-
	4	Fc			0 ≦ D	3	1
M-24 スラブ筋形状 (RC)	1	形状NO.			1 ~ 99	2	-
	2	はり左端 at U	cm		0 ≦ D	3	2
	3	dt U	cm		0 ≦ D	2	1
	4	at D	cm		0 ≦ D	3	2
	5	dt D	cm		0 ≦ D	2	1
	6	はり右端 at U	cm		0 ≦ D	3	2
	7	dt U	cm		0 ≦ D	2	1
	8	at D	cm		0 ≦ D	3	2
	9	dt D	cm		0 ≦ D	2	1
M-25 スラブ筋配置 (RC)	1	層				2	-
	2	層				2	-
	3	7レ-ム				3	-
	4	7レ-ム				3	-
	5	軸				3	-
	6	軸				3	-
	7	形状NO.				2	-

M-26 はり鉄筋形状 (RC, SRC)	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	主筋 上端本数		0 ≦ D	2	-
	3	主筋 下端本数		0 ≦ D	2	-
	4	あばら筋 本数		0 ≦ D	2	-
	5	ピッチ	mm	0 ≦ D	3	-
M-27 はり鉄筋配置 (RC, SRC)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	L NO			2	-
	8	LH NO			2	-
	9	C NO			2	-
	10	RH NO			2	-
	11	R NO			2	-
M-28 柱鉄筋形状 (RC, SRC)	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	X 方向 主筋本数		0 ≦ D	2	-
	3	帯筋本数		0 ≦ D	2	-
	4	帯筋ピッチ	mm	0 ≦ D	3	-
	5	Y 方向 主筋本数		0 ≦ D	2	-
	6	帯筋本数		0 ≦ D	2	-
	7	帯筋ピッチ	mm	0 ≦ D	3	-
M-29 柱主筋配置 (RC, SRC)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	柱脚			2	-
	8	柱頭			2	-
M-30 アンカー耐力 (SRC)	1	形状NO		1 ~ 99	2	-
	2	sNX	t	0 ≦ D	3	3
	3	sQX	t	0 ≦ D	3	3
	4	sMX	tm	0 ≦ D	3	3
	5	sNY	t	0 ≦ D	3	3
	6	sQY	t	0 ≦ D	3	3
	7	sMY	tm	0 ≦ D	3	3
M-31 アンカー耐力 配置 (SRC)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			2	-

M-32 鉄骨形状 (SRC)	1	形状NO.		4001 ~ 5000	4	-
	2	A1	mm	0 M D	3	1
	3	A2	mm	0 M D	3	1
	4	B	mm	0 M D	3	1
	5	t1	mm	0 M D	3	1
	6	t2	mm	0 M D	3	1
M-33 はり鉄骨形状 (SRC)	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	C TBL		1 ~ 5000	4	-
	3	L TBL		0 ~ 5000	4	-
	4	R TBL		0 ~ 5000	4	-
	5	C MAT		0 ~ 3	1	-
	6	L MAT		0 ~ 3	1	-
	7	R MAT		0 ~ 3	1	-
	8	LJ	cm	0 M D	3	1
	9	RJ	cm	0 M D	3	1
	10	継手			3	-
M-34 はりせん断計 算方法 (RC, SRC)	1	条件NO.		1 ~ 99	2	-
	2	計算方法		0 ~ 7	1	-
	3	n		0 M D	1	3
	4	$\alpha$		0 M D	1	3
	5	処理方法		0 ~ 4	1	-
	6	Lo	cm	0 M D	4	1
	7	付着処理		0 ~ 2	1	-
M-35 はり部材形状 (RC, SRC)	1	形状NO.		1 ~ 199	3	-
	2	BC	cm	0 M D	3	1
	3	DC	cm	0 M D	3	1
	4	BL	cm	0 M D	3	1
	5	DL	cm	0 M D	3	1
	6	BR	cm	0 M D	3	1
	7	DR	cm	0 M D	3	1
	8	HL	cm	0 M D	3	1
	9	HR	cm	0 M D	3	1
	10	QLo	t		3	3
	11	QRo	t		3	3
	12	Mo	tm		3	3
	13	計算		0 ~ 2	1	-
	14	dt	cm	0 M D	2	1
	15	主筋材種		0 ~ 5	1	-
	16	主筋径	mm	0 M D	2	-
	17	STP 材種		0 ~ 5	1	-
	18	STP 本数		0 M D	2	-
	19	STP 径1	mm	0 M D	2	-
	20	STP 径2	mm	0 M D	2	-
M-36 はり断面計算 指定 (RC, SRC)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7V-L			3	-
	4	7V-L			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			4	-
	8	QDNO.			2	-
	9	鉄骨NO.			2	-

M-37 柱鉄骨形状 (SRC)	1	形状NO.		1 ~ 99	2	-
	2	TYP		1 ~ 15	2	-
	3	形状指定		0 ~ 3	1	-
	4	X TBL		0 ~ 5000	4	-
	5	Y TBL		0 ~ 5000	4	-
	6	X MAT		0 ~ 3	1	-
	7	Y MAT		0 ~ 3	1	-
	8	a	mm	0 ≦ D	4	1
	9	b	mm	0 ≦ D	4	1
	10	c	mm	0 ≦ D	4	1
M-38 柱せん断計算 方法 (RC, SRC)	1	条件NO.		1 ~ 99	2	-
	2	計算方法		0 ~ 7	1	-
	3	n		0 ≦ D	1	3
	4	α		0 ≦ D	1	3
	5	処理方法		0 ~ 4	1	-
	6	Ho	cm	0 ≦ D	4	1
M-39 柱部材形状 (RC, SRC)	1	形状NO.		1 ~ 99	3	-
	2	DX	cm	0 ≦ D	3	1
	3	DY	cm	0 ≦ D	3	1
	4	pt		0 ~ 2	1	-
	5	計算		0 ~ 2	1	-
	6	dtX	cm	0 ≦ D	3	1
	7	dtY	cm	0 ≦ D	3	1
	8	主筋材種		0 ~ 5	1	-
	9	主筋径	mm	0 ≦ D	2	-
	10	HOOP材種		0 ~ 5	1	-
	11	HOOP X本数		0 ≦ D	2	-
	12	HOOP Y本数		0 ≦ D	2	-
	13	HOOP径1	mm	0 ≦ D	2	-
	14	HOOP径2	mm	0 ≦ D	2	-
	15	NnX		0 ≦ D	1	3
	16	NnY		0 ≦ D	1	3
M-40 柱断面計算指 定 (RC, SRC)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	7レ-L			3	-
	4	7レ-L			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			4	-
	8	QDX NO.			2	-
	9	QDY NO.			2	-
	10	鉄骨NO.			2	-

M-41 耐力壁部材形状 (RC)	1	形状NO.		1 ~ 99	3	-
	2	t	cm	0 ~ D	3	1
	3	n		0 ~ D	1	3
	4	壁筋材種		0 ~ 5	1	-
	5	縦筋 径1	mm	0 ~ D	2	-
	6	径2	mm	0 ~ D	2	-
	7	配筋種別		0 ~ 3	1	-
	8	ピッチ	mm	0 ~ D	3	-
	9	横筋 径1	mm	0 ~ D	2	-
	10	径2	mm	0 ~ D	2	-
	11	配筋種別		0 ~ 3	1	-
	12	ピッチ	mm	0 ~ D	3	-
	13	開口 縦筋径	mm	0 ~ D	2	-
	14	補強 縦筋 n		0 ~ D	2	-
	15	横筋径	mm	0 ~ D	2	-
	16	補強 横筋 n		0 ~ D	2	-
	17	筋 斜筋径	mm	0 ~ D	2	-
	18	斜筋 n		0 ~ D	2	-
M-42 耐力壁断面計算指定 (RC)	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	形状NO.			2	-
M-43 はり断面計算出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
M-44 柱断面計算出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
M-45 壁断面計算出力指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
M-46 はりグループ指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	G NO.		1 ~ 50	2	-

M-47 柱グループ指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	C NO.		1 ~ 50	2	-
M-48 壁グループ指定	1	層			2	-
	2	層			2	-
	3	フレーム			3	-
	4	フレーム			3	-
	5	軸			3	-
	6	軸			3	-
	7	W NO.		1 ~ 50	2	-
M-49 出力省略指定	1	指定		0 ~ 4	1	-

表 5 1 入力データ制限表

### 5. 3 入力データ内容

以下、断面計算データ内容を項目別に説明します。

M-1 断面計算ルート

断面計算ルートの決定方法を入力します。

項 目			省略時解釈																					
1	ルート判別方法	断面計算ルートの判別方法を下表から選択  <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>判別方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自動判別</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2～5項の入力による</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	判別方法	1	自動判別	2	2～5項の入力による	1															
入力値	判別方法																							
1	自動判別																							
2	2～5項の入力による																							
2	X方向ルート	断面計算ルートを下表から選択  <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>S造</th> <th>RC造, SRC造</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>ルートなし</td> <td>ルートなし</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ルート1-1</td> <td>ルート1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ルート1-2</td> <td>ルート2-1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ルート2</td> <td>ルート2-2</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ルート2</td> <td>ルート2-3</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ルート3</td> <td>ルート3</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	S造	RC造, SRC造	0	ルートなし	ルートなし	1	ルート1-1	ルート1	2	ルート1-2	ルート2-1	3	ルート2	ルート2-2	4	ルート2	ルート2-3	5	ルート3	ルート3	なし
入力値	S造		RC造, SRC造																					
0	ルートなし		ルートなし																					
1	ルート1-1		ルート1																					
2	ルート1-2		ルート2-1																					
3	ルート2	ルート2-2																						
4	ルート2	ルート2-3																						
5	ルート3	ルート3																						
3	その他の階																							
4	Y方向ルート																							
5	その他の階																							
6	共通ダイアフラム形式	全体のダイアフラム形式を下表から選択  <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>内ダイアフラム形式</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>通しダイアフラム形式</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内 容	1	内ダイアフラム形式	2	通しダイアフラム形式	2															
入力値	内 容																							
1	内ダイアフラム形式																							
2	通しダイアフラム形式																							
7	最下層の定義	最下層と判断する条件を指定します。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>支点が設定されている節点のみ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1に加えて、直下階に柱が無い場合、または直下階に柱があっても、冷間成形角型鋼管以外(RC, SRCまたはH形鋼等)の柱の場合</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内 容	1	支点が設定されている節点のみ	2	1に加えて、直下階に柱が無い場合、または直下階に柱があっても、冷間成形角型鋼管以外(RC, SRCまたはH形鋼等)の柱の場合	2  注意 現バージョンでは2に固定されていて、変更することはできません。															
入力値	内 容																							
1	支点が設定されている節点のみ																							
2	1に加えて、直下階に柱が無い場合、または直下階に柱があっても、冷間成形角型鋼管以外(RC, SRCまたはH形鋼等)の柱の場合																							



- (1) 1項において「1」を入力した場合、断面計算では剛性計算で決定されたルートを使用し断面計算を行います。「2」を入力した場合は2～5項で指定されたルートにより断面計算を行います。
- (2) 2項と4項は RC、SRC の部分にのみ有効です。
- (3) 地下階および塔屋階の断面計算ルートはここでの入力に関係なくルート 1 となります。
- (4) 6項は、冷間成形角型鋼管柱をルート 1 で断面計算するとき地震時柱応力を割増しますが、その割増地を決めるのに必要なダイヤフラム形式を入力します。ここでの入力は全仕口に共通なデータとして扱われます。ここでの指定と違う部分については「M-2 ダイヤフラム形式の指定」で指定してください。
- (5) 7項につきましては現在のバージョンでは2に固定されていて変更することはできません。

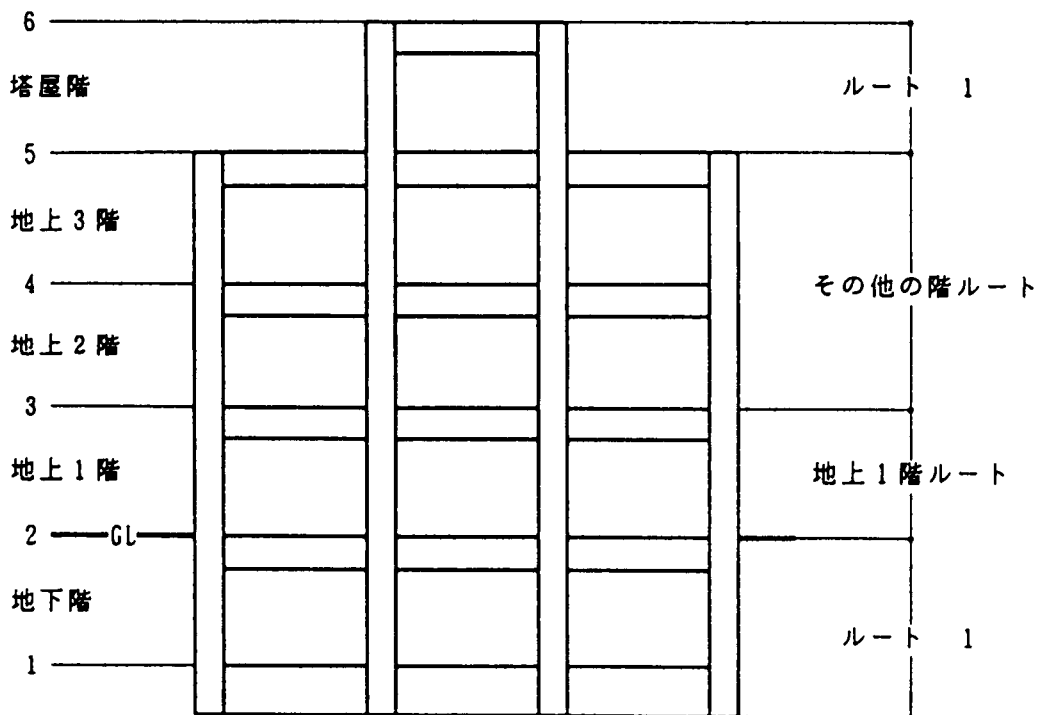


図 5.1 断面計算ルート

## M-2 ダイアフラム形式の指定

「M-1 断面計算ルート」で入力した共通ダイアフラム形式を補足します。

項目		説明						
1	層 (I1)	ダイアフラム形式を指定する層範囲						
2	層 (I2)	I1 層から I2 層まで ( $I1 \leq I2$ )						
3	フレーム (J1)	ダイアフラム形式を指定するフレーム範囲						
4	フレーム (J2)	J1 層から J2 層まで ( $J1 \leq J2$ )						
5	軸 (K1)	ダイアフラム形式を指定する軸範囲						
6	軸 (K2)	K1 層から K2 層まで ( $K1 \leq K2$ )						
7	ダイアフラム形式	ダイアフラム形式を下表より選択 <table border="1" data-bbox="705 689 1169 808" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>内ダイアフラム</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>通しダイアフラム</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内容	1	内ダイアフラム	2	通しダイアフラム
入力値	内容							
1	内ダイアフラム							
2	通しダイアフラム							

- (1) 本稿で指定されない個所は「M-1 断面計算ルート」で入力した共通ダイアフラム形式が適用されます。
- (2) 重複配置を行った場合は、あとのデータが優先されます。



M-3-2 柱応力の割り増し

ここでは、

- 1) 各柱毎に、
- 2) また X, Y 方向別に、
- 3) 応力計算結果の割増率と
- 4) 地震時モーメント (M) の割り増し方法
- 5) 地震時軸力 (N) の割り増し方法
- 6) 地震自薦断力 (Q) の割り増し方法

を入力します。

	項 目	説 明
1	層 (I1)	柱応力の割り増しを設定する柱がある層
2	層 (I2)	I1 層から I2 層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	柱応力の割り増しを設定する柱があるフレーム
4	フレーム (J2)	J1 層から J2 層まで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	柱応力の割り増しを設定する柱がある軸
6	軸 (K2)	K1 層から K2 層まで (K1 ≤ K2)
7	X 割増値	X 方向, Y 方向の割増値は倍率で入力します。 割増値は 0 以上とします。
8	Y 割増値	0 が入力されている場合、割増値は無効とします (内部では 1 と して処理されます)。
9	M 処理方法	1 の時: 柱脚の地震時モーメントの割増値とし、断面設計方法 は通常の方法によります。 2 の時: 柱頭、柱脚の地震時モーメントの割増値とし、断面設 計方法は通常の方法によります。 3 の時: $Q_E = N_L$ (柱の長期軸力) × Ci × 割増値 (例: 1.25) $\sum M_E = Q_E \times H$ $N_E = N'_E \times 1.25$ として断面設計をします。
10	N 処理方法	N の処理方法の入力については、 <u>9 項で M 処理方法が 1 または 2 の時、</u> N=0 の時: 地震時軸力は割増されません。 N=1 の時: 地震時軸力が割増値によって割増されます。  <u>9 項で M 処理方法が 3 の時</u> 適用外なので、入力値にかかわらず無視されます。
11	Q 処理方法	Q の処理方法の入力については、 <u>9 項で M 処理方法が 1 または 2 の時、</u> Q=0 の時: 地震時せん断力は割増されません。 Q=1 の時: 地震時せん断力は割増値によって割増された モーメントから算出されます。  <u>9 項で M 処理方法が 3 の時</u> 適用外なので、入力値にかかわらず無視されます。

M-4 鋼材形状 (S, SRC)

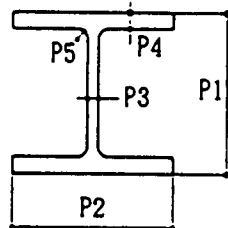
鋼材テーブル表に無い鋼材を入力します。

項目	説明	単位
1 鋼材NO.	鋼材テーブル番号 (3501~4000)	
2 TYP	鋼材タイプ番号 (1~11) (下記(2)参照)	
3 P1	各パラメーター (下記(2)参照)	下記(2)参照
4 P2		
5 P3		
6 P4		
7 P5		

(1) 本項は、S, SRC造で使用する鋼材で鋼材テーブルに登録されていない鋼材の登録および、箱形組立Hまたはラチス材を登録します。ただし、本項で登録された鋼材は、その工事のみ有効となります。

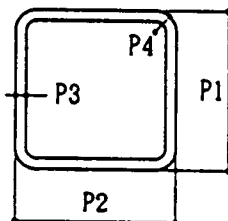
(2) 鋼材タイプおよび各パラメーターを下記に示します。

TYP : 1 H形鋼



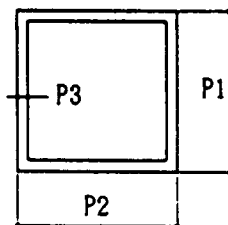
P1~P5 : 材寸 (mm)

TYP : 2 角形鋼管 (R有り)



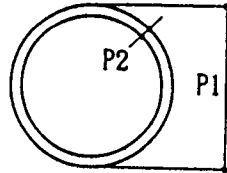
P1~P4 : 材寸 (mm)  
P5 : 0

TYP : 3 角形鋼管 (R無し)



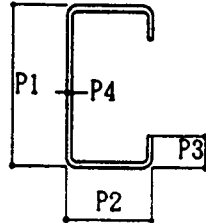
P1~P3 : 材寸 (mm)  
P4~P5 : 0

TYP : 4 鋼管



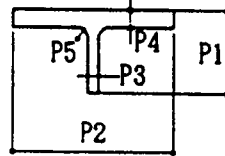
P1~P2 : 材寸 (mm)  
P3~P5 : 0

TYP : 5 リップみぞ形鋼



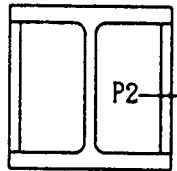
P1~P4 : 材寸 (mm)  
P5 : 0

TYP : 6 CT形鋼



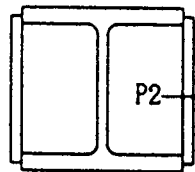
P1~P5 : 材寸 (mm)

TYP : 7 箱形組立鋼 1



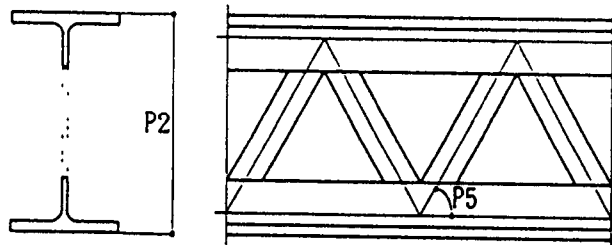
P1 : H形鋼テーブル番号  
P2 : プレート厚さ (mm)  
P3~P5 : 0

TYP : 8 箱形組立鋼 2



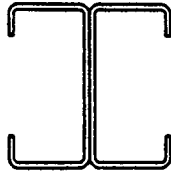
P1 : H形鋼テーブル番号  
P2 : プレート厚さ (mm)  
P3~P5 : 0

TYP : 9 ラチス



P1 : CT形鋼テーブル番号  
P2 : 部材せい (mm)  
P3 : ラチス材断面積 (cm<sup>2</sup>)  
P4 : ラチス材断面二次半径 (cm)  
P5 : ラチス材角度 (°)

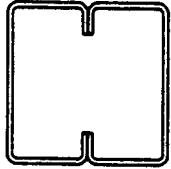
TYP : 10    リップみぞ形鋼背合わせ



P1 : リップみぞ形鋼  
          テーブル番号

P2~P5 : 0

TYP : 11    リップみぞ形鋼腹合わせ



P1 : リップみぞ形鋼  
          テーブル番号

P2~P5 : 0

図 5.2 鋼材

- (3) SRC に使用する場合において、「M-18 断面計算条件 (RC, SRC)」で鉄筋指定計算が指定されている場合はのみ、TYP 1 の P3, P4 は「0」の入力が可能です。

M-5 継手形状 (S, SRC)

鉄骨部材の継手の形状を入力します。

項目		説明	単位									
1	継手NO.	継手テーブル番号 ( 301~500 )										
2	Ft1	フランシ外側添板プレート厚さ	mm									
3	Fb1	フランジ外側添板プレート幅	mm									
4	Ft2	フランシ内側添板プレート厚さ	mm									
5	Fb2	フランジ内側添板プレート幅	mm									
6	Wt	ウェブ添板プレート厚さ	mm									
7	フランシ	径	フランジボルト径	mm								
8		配列	フランシボルト配列									
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>配列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1列</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>千鳥</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2列</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	配列	1	1列	2	千鳥	3	2列	
入力値		配列										
1		1列										
2		千鳥										
3		2列										
9		n	フランシボルト本数									
10	p	フランジボルトピッチ	mm									
11	e	フランジボルト端空き	mm									
12	g1	フランシボルトゲージ1	mm									
13	g2	フランジボルトゲージ2	mm									
14	ウェブ	径	ウェブボルト径	mm								
15		配列	ウェブボルト配列									
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>配列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1列</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2列</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	配列	1	1列	2	2列			
入力値		配列										
1		1列										
2	2列											
16	n	ウェブボルト本数										
17	p1	ウェブボルトピッチ1	mm									



18	p2	ウェブボルトピッチ 2	mm
19	e1	ウェブボルト端空き 1	mm
20	e2	ウェブボルト端空き 2	mm

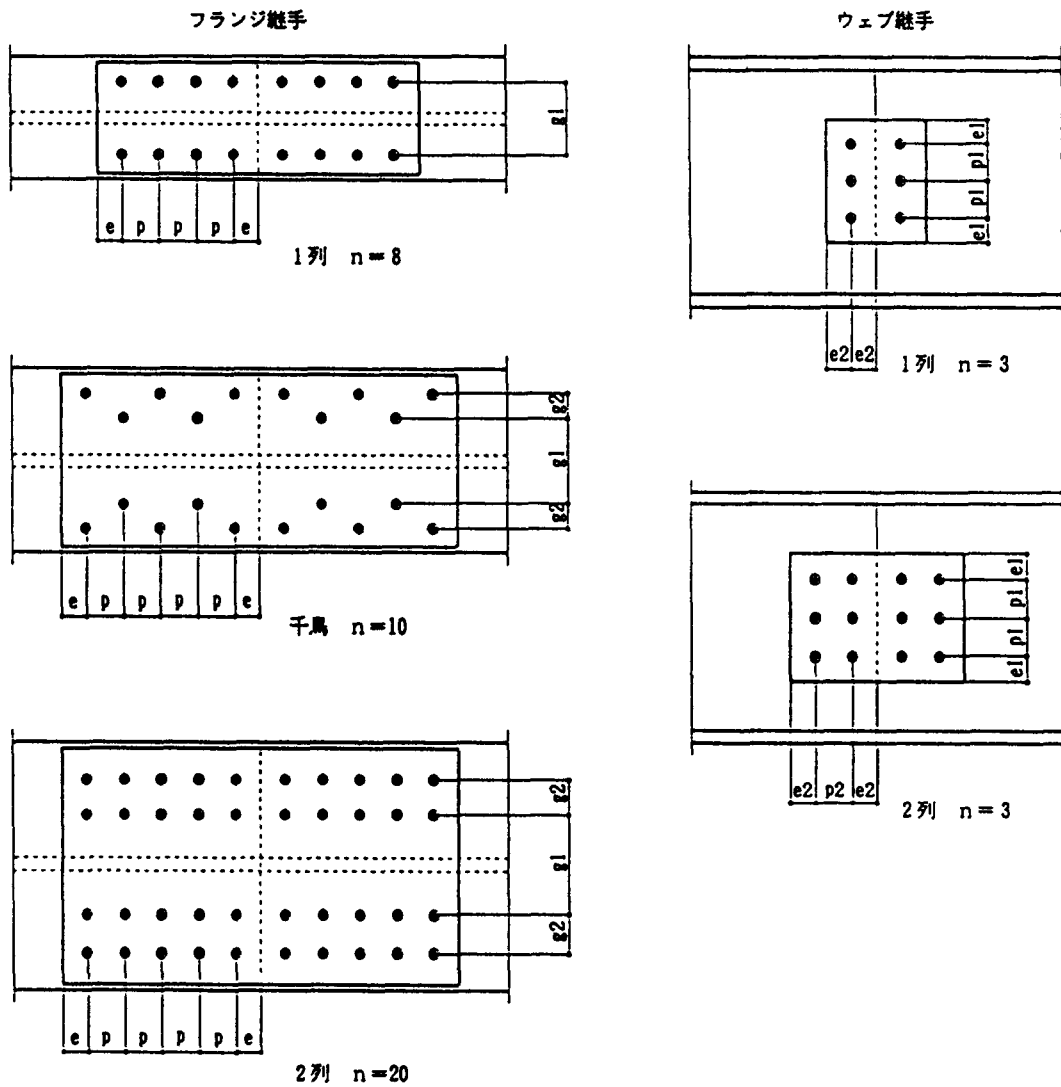
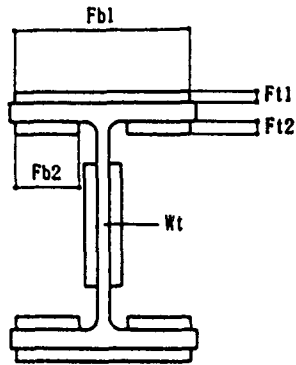


図 5.3 継手形状

- (1) 本項は、S、SRC造鉄骨はり継手の計算に使用する継手形状で、継手テーブルに登録されていない継手形状を登録します。ただし、本項で登録された継手形状は、その工事のみ有効となります。
- (2) 3項が「0」の場合は、はり幅となり、5項が「0」の場合は、下記のようになります。

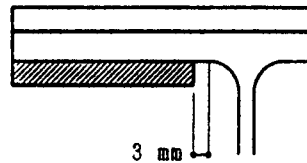


図 5.4 内側添板幅

- (3) 7.14項で指定できるボルト径は、表 5.2に示す値とします。
- (4) 8項が「0」の場合は、はり幅により下記の様に内部処理されます。また、15項が「0」の場合は、1列として処理します。

はり幅 ≤ 250mm	1列
250mm < はり幅 ≤ 300mm	千鳥
300mm < はり幅	2列

- (5) 9.16項が「0」の場合は、計算値となります。
- (6) 10.11.17~20項が「0」の場合は、表 5.2に示す値とします。

入力値	ボルト径	穴径	ピッチ	端空き
16	M 16	17.0	60	30
0.20	M 20	21.5	60	35
22	M 22	23.5	70	40
24	M 24	25.5	80	45

(単位：mm)

表 5.2 ボルト

- (7) 12.13 項が「0」の場合は、はり幅により下記の様に処理されます。

はり幅 ≤ 100mm	g1: 60mm	g2: -
100mm < はり幅 ≤ 125mm	g1: 75mm	g2: -
125mm < はり幅 ≤ 150mm	g1: 90mm	g2: -
150mm < はり幅 ≤ 175mm	g1: 105mm	g2: -
175mm < はり幅 ≤ 200mm	g1: 120mm	g2: -
200mm < はり幅 ≤ 250mm	g1: 150mm	g2: -
250mm < はり幅 ≤ 300mm	g1: 150mm	g2: 40mm
300mm < はり幅 ≤ 350mm	g1: 140mm	g2: 70mm
350mm < はり幅	g1: 140mm	g2: 90mm

M-6 剛接合仕口形状 (S)

鉄骨部材の剛接合仕口の形状データを入力します。

項 目		説 明	単 位
1	仕口NO.	仕口テーブル番号 (51~100)	
2	t	カバープレート厚さ	mm
3	b	カバープレート幅	mm
4	l	カバープレート長さ	mm
5	F	カバープレートとフランジとのすみ肉溶接サイズ	mm
6	W	ウェブと柱とのすみ肉溶接サイズ	mm
7	スカラップ	スカラップサイズ	mm

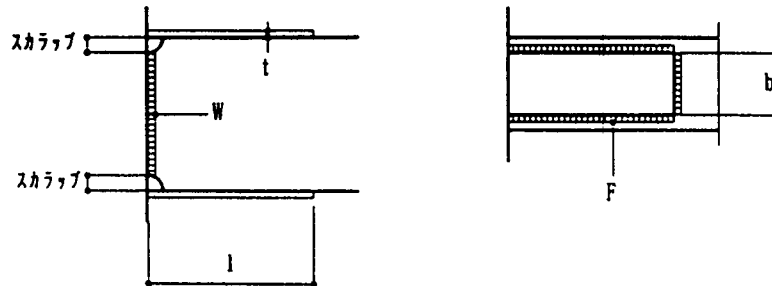


図 5.5 剛接合仕口形状

- (1) 本項は、S造はりの仕口の計算で使用する剛接合仕口で仕口テーブルに登録されていない仕口形状を登録します。ただし、本項で登録された仕口形状は、その工事のみ有効となります。
- (2) 3項の入力値が「0」の場合は、フランジ幅-10mmとします。
- (3) 4項の入力値が「0」の場合は、内部で求めた長さとなります。
- (4) 6項の入力値が「1」以下の場合は、ウェブ板厚に対する割合とします。

M-7 ピン接合仕口形状 (S)

鉄骨部材のピン接合仕口の形状データを入力します。

項目		説明	単位
1	仕口NO.	仕口形状番号 ( 151~200 )	
2	t	ガセットプレート厚さ	mm
3	ボルト	径	mm
4		本数	
5		p	mm
6		e1	mm
7		e2	mm

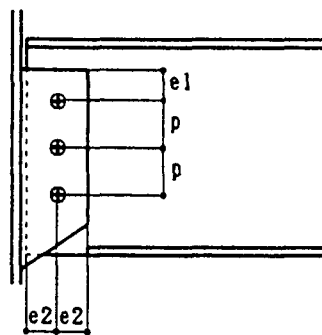


図 5.6 ピン接合仕口形状

- (1) 本項は、S造はりの仕口の計算で使用するピン接合仕口で仕口テーブルに登録されていない仕口形状を登録します。ただし、本項で登録された仕口形状は、その工事のみ有効となります。
- (2) 3項で指定できるボルト径は、表 5.3に示す値とします。
- (3) 4項が「0」の場合は、計算値となります。
- (4) 5~7項が「0」の場合は、表 5.3に示す値とします。

入力値	ボルト径	穴径	ピッチ	端空き
16	M 16	17.0	60	30
0.20	M 20	21.5	60	35
22	M 22	23.5	70	40
24	M 24	25.5	80	45

(単位：mm)

表 5.3 ボルト

M-8 鉄骨はり部材欠損率 (S, SRC)

鉄骨はり部材の断面欠損率を入力します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	断面欠損率を指定する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	断面欠損率を指定するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	断面欠損率を指定する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	フランシ	LJ 左継手位置でのフランジ断面欠損率 (0 ≤ LJ ≤ 1)
8		RJ 右継手位置でのフランジ断面欠損率 (0 ≤ RJ ≤ 1)
9	ウェブ	L 左端位置でのウェブ断面欠損率 (0 ≤ L ≤ 1)
10		LJ 左継手位置でのウェブ断面欠損率 (0 ≤ LJ ≤ 1)
11		C 中央位置でのウェブ断面欠損率 (0 ≤ C ≤ 1)
12		RJ 右継手位置でのウェブ断面欠損率 (0 ≤ RJ ≤ 1)
13		R 右端位置でのウェブ断面欠損率 (0 ≤ R ≤ 1)

- (1) 本項は、S, SRC造鉄骨はり断面の欠損（ボルト穴等による）を考慮して断面計算を行う場合に入力します。
- (2) S造はりに指定した場合に、仕口形状を指定して断面計算を行う場合は、9, 13項での入力は無視され、継手形状を指定して断面計算を行う場合は、7, 8, 10, 12項での入力は無視されます。
- (3) SRC造はりの場合に、7, 8項で「1」を入力した場合は、内部でボルト欠損を計算します。ただし、継手形状が入力されていない場合は、入力値となりますので、「1」を指定するとエラーとなります。  
9～13項は入力値が有効となります。
- (4) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。

M-9 断面計算条件 (S)

S造の計算条件を入力します。

項目		説明	省略時解釈								
1	地震計算モーメント	柱 (X)	各部材の断面計算用の地震時モーメント算定位置を下表より選択  <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>計算モーメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>節点モーメント</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>RC, SRC部材に対してのみフェイスモーメント</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フェイスモーメント</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	計算モーメント	1	節点モーメント	2	RC, SRC部材に対してのみフェイスモーメント	3	フェイスモーメント
入力値		計算モーメント									
1		節点モーメント									
2		RC, SRC部材に対してのみフェイスモーメント									
3	フェイスモーメント										
2	柱 (Y)	1									
3	はり (X)	1									
4	はり (Y)	1									
5	ウェブ考慮	柱 (X)	H形鋼の際の各位置の曲げモーメントに対してのウェブ材の考慮について下表より選択  <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>考慮する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中央のみ考慮する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>考慮しない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内容	1	考慮する	2	中央のみ考慮する	3	考慮しない
入力値		内容									
1		考慮する									
2		中央のみ考慮する									
3	考慮しない										
6	柱 (Y)	1									
7	はり (X)	1									
8	はり (Y)	1									
9	断面性能計算方法	柱 (X)	地震時応力に対する各部材の幅厚比が制限を超えている場合の断面性能の計算方法について下表より選択  <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>幅厚比による低減を考慮しない、断面性能により計算する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>幅厚比 (FBランク) を考慮し、有効断面性能により計算する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>幅厚比 (FCランク) を考慮し、有効断面性能により計算する</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内容	1	幅厚比による低減を考慮しない、断面性能により計算する	2	幅厚比 (FBランク) を考慮し、有効断面性能により計算する	3	幅厚比 (FCランク) を考慮し、有効断面性能により計算する
入力値		内容									
1		幅厚比による低減を考慮しない、断面性能により計算する									
2		幅厚比 (FBランク) を考慮し、有効断面性能により計算する									
3	幅厚比 (FCランク) を考慮し、有効断面性能により計算する										
10	柱 (Y)	1									
11	はり (X)	1									
12	はり (Y)	1									

13	$\alpha$ の決定方法	(X)	S造継手の保有耐力接合設計モーメントの塑性化領域における安全率 $\alpha$ を下表より選択	1											
14		(Y)		1											
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">入力値</th> <th colspan="2">安全率<math>\alpha</math></th> </tr> <tr> <th>SS400</th> <th>SM490</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1.3</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1.2</td> <td>1.1</td> </tr> </tbody> </table>					入力値	安全率 $\alpha$		SS400	SM490	1	1.3	1.2	2	1.2	1.1
入力値	安全率 $\alpha$														
	SS400	SM490													
1	1.3	1.2													
2	1.2	1.1													
15	仕口溶接作業条件	柱	仕口溶接の作業条件を下表より選択	1											
16		はり		1											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>作業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築基準法施行令92条における「作業の方法(1)」の場合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>建築基準法施行令92条における「作業の方法(2)」の場合</td> </tr> </tbody> </table>					入力値	作業方法	1	建築基準法施行令92条における「作業の方法(1)」の場合	2	建築基準法施行令92条における「作業の方法(2)」の場合					
入力値	作業方法														
1	建築基準法施行令92条における「作業の方法(1)」の場合														
2	建築基準法施行令92条における「作業の方法(2)」の場合														

(1) 1～4項により、地震時の断面計算に使用するモーメントの種類が、決定されます。

1の場合：節点モーメントとなります。

2の場合・取り付く部材がS造の場合は、節点モーメントとなり、RC、SRC造部材に取り付く場合は、フェイスモーメントとなります。

3の場合・フェイスモーメントとなります。

(2) 5～8項により、使用する部材がH形鋼の場合の断面係数 $Z$ の計算方法が決定されます。(柱の場合は、X方向で入力された値のみ使用されます)

1の場合：ウェブを考慮します。

2の場合・中央のみウェブを考慮し、その他はウェブを無視します。

3の場合 ウェブを無視します。

はりの場合は、「M-8 鉄骨はり部材欠損率」で指定した断面欠損も考慮されません。



(3) 9～12項により、幅厚比の制限を超えている場合の断面性能の計算方法が決定されます。(柱の場合は、X方向で入力された値のみ使用されます)

1の場合：幅厚比の制限を無視し全断面有効の断面性能となります。

2の場合：FBランクの幅厚比の制限を考慮した断面での断面性能となります。

3の場合：FCランクの幅厚比の制限を考慮した断面性能となります。

ただし、本項の入力値、応力種類および断面計算ルートに関係なく、弾性用(鋼構造設計基準 日本建築学会)の幅厚比の制限は全て考慮します。

柱・はりのランク				弾性用	FA	FB	FC
部材	断面	部位	材種	幅厚比	幅厚比	幅厚比	幅厚比
柱	H形鋼	フランジ	SS400級 SM490級	$\frac{24}{\sqrt{F}}$	9.5 8	12 10	15.5 13.2
		ウェブ	SS400級 SM490級	$\frac{74}{\sqrt{F}}$	43 37	45 39	48 41
	角形鋼管		SS400級 SM490級	$\frac{74}{\sqrt{F}}$	33 27	37 32	48 41
	円形鋼管		SS400級 SM490級	$\frac{240}{F}$	50 36	70 50	100 73
はり	H形鋼	フランジ	SS400級 SM490級	$\frac{24}{\sqrt{F}}$	9 7.5	11 9.5	15.5 13.2
		ウェブ	SS400級 SM490級	$\frac{110}{\sqrt{F}}$	60 51	65 55	71 61

F：許容応力度を決定する場合の基準値 (t/cm<sup>2</sup>)

表 5.4 幅厚比

(4) 13.14 項により継手が塑性化領域内にある場合の安全率  $\alpha$  が決定されます。

1 の場合：表の安全率の応力勾配を考慮したモーメントとします。

2 の場合：表の安全率を使用します。

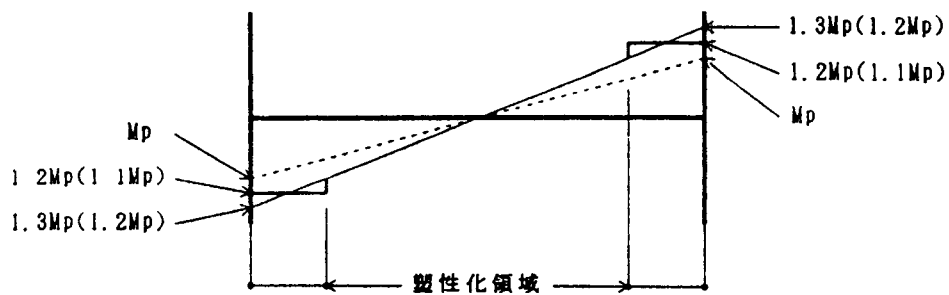


図 5.7 継手安全率  $\alpha$

(6) 15項は、鋼管等の柱とダイヤフラムの接合部分を指し、「1」を入力すると低減はかからず、「2」を入力すると、部材の許容応力度に0.9が掛けられます。

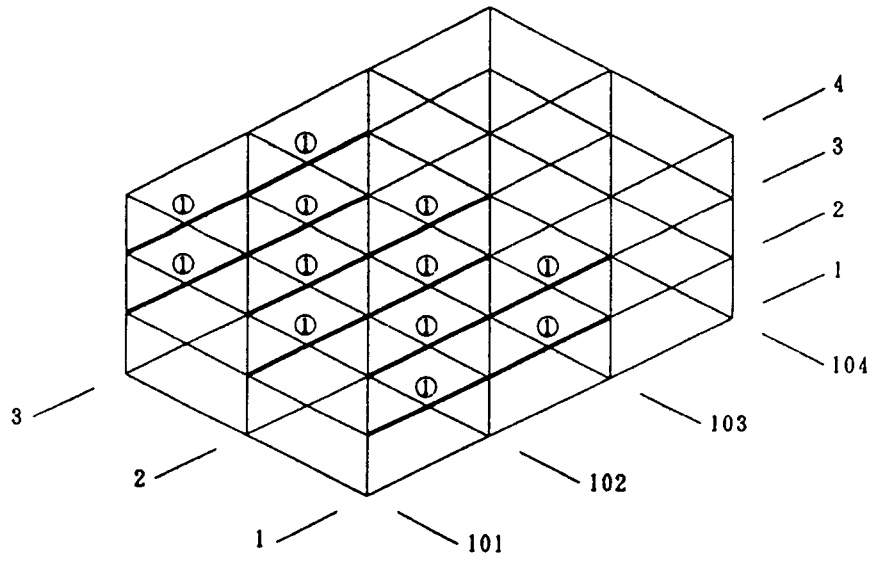
(5) 16項は、はり仕口部分の計算の際に使用され、「1」を入力した場合は、低減はかからず、「2」を入力すると、溶接の許容応力度に0.9が掛けられます。

M-10 はりfb指定(S)

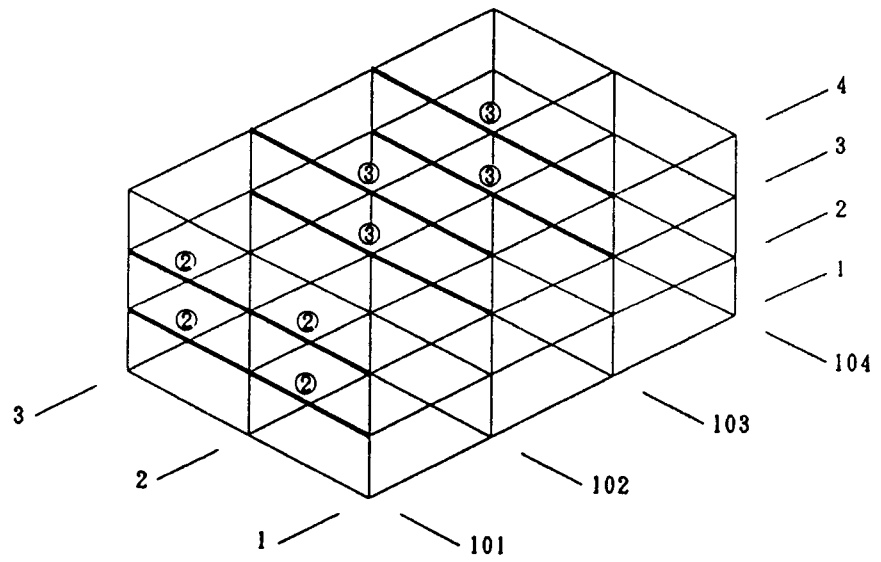
はりの圧縮フランジ支点間距離または許容曲げ応力度を入力します。

項目	説明	単位
1 層 (I1)	lb,fb を配置する層	
2 層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)	
3 フレーム (J1)	lb,fb を配置するフレーム	
4 フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)	
5 軸 (K1)	lb,fb を配置する軸	
6 軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)	
7 lb	圧縮フランジ支点間距離	cm
8 fb	許容曲げ応力度	t/cm <sup>2</sup>

- (1) 7項は、はりのfbを求める際に、使用されます。  
「0」を指定すると、スラブ形状の小ばり最大間隔となり、 $0 < lb \leq 1$  の場合は、はり長さに対する割合として、はり長さに入力値を掛けlbを求め、 $1 < lb$  の場合は、実長として取り扱います。
- (2) 8項は、はりのfbを直接指定する際に、入力します。  
許容曲げ応力度は、「0」を指定すると、lbにより計算され、 $0 < fb$  の場合は、入力値となります。
- (3) 本項の指定がされていない箇所のはりは、入力値が「0」の時の処理となります。
- (4) 多スパンに跨がるはりに、配置する場合は、同一のデータを配置します。
- (5) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。



	層	層	7レ-4	7レ-4	軸	軸	lb
①	2	3	1	3	101	103	-



	層	層	7レ-4	7レ-4	軸	軸	lb
②	2	3	101	101	1	3	-
③	3	4	102	103	1	3	-

図 5.8 はり lb指定

M-11 はり部材形状(S)

はり鉄骨部材形状を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位								
1	形状NO.	はり部材形状番号 (1~99)									
2	C TBL	中央鋼材テーブル番号	下記(2)参照								
3	L TBL	左端鋼材テーブル番号	C TBL								
4	R TBL	右端鋼材テーブル番号	C TBL								
5	LH	左端部材せい	下記(3)参照 mm								
6	LB	左端部材幅	下記(3)参照 mm								
7	RH	右端部材せい	下記(3)参照 mm								
8	RB	右端部材幅	下記(3)参照 mm								
9	HL	左ハンチ位置	cm								
10	HR	右ハンチ位置	cm								
11	C MAT	中央鋼材の使用材種を下表より選択 <table border="1" data-bbox="635 1104 978 1368"> <tr> <td>入力値</td> <td>7ラジ - クェブ</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>SS400-SS400</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SM490-SS400</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SM490-SM490</td> </tr> </table>	入力値	7ラジ - クェブ	1	SS400-SS400	2	SM490-SS400	3	SM490-SM490	1
入力値	7ラジ - クェブ										
1	SS400-SS400										
2	SM490-SS400										
3	SM490-SM490										
12	L MAT	左端鋼材の使用材種を表より選択 (11項参照)	C MAT								
13	R MAT	右端鋼材の使用材種を表より選択 (11項参照)	C MAT								
14	LJ	左継手位置	cm								
15	RJ	右継手位置	cm								
16	継手	継手テーブル番号									
17	左仕口	左端の仕口テーブル番号									
18	右仕口	右端の仕口テーブル番号									

(1) 多スパンに跨がるはりの断面計算を行う場合は、本項では1本の部材としてデータを入力し、「M-12 はり断面計算指定(S)」において、形状番号+1000として配置します。

- (2) 2項において「0」を入力した場合は、「P-28 はり形状(S)」で入力した部材で断面計算をします。
- (3) 5～8項において、「0」を入力すると、端部の部材をそのまま使用し、断面計算を行います。  
ハンチが無い場合は、5～10項を「0」と入力します。

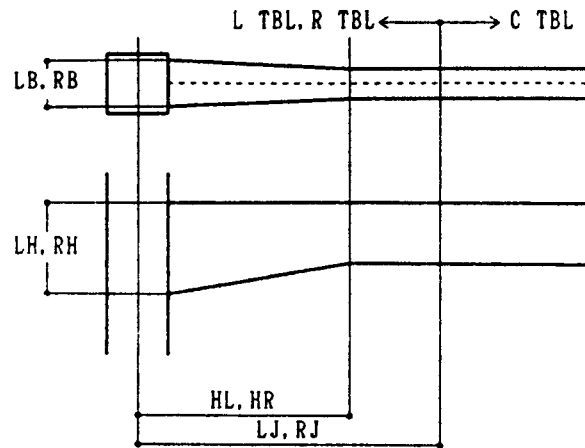


図 5.9 はり部材形状 (S)

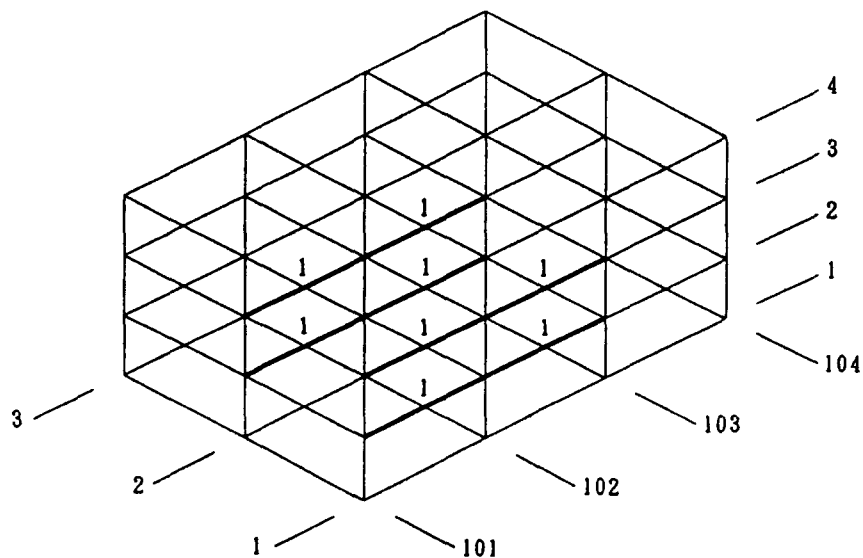
- (4) 11～13項により、部材の材種が決定されます。
- (5) 14,15項は軸心からの距離とし、「0」の入力を行った場合は継手位置でのチェックおよび継手の計算を省略します。
- (6) 16項において、継手の計算をしない場合は「0」を入力します。
- (7) 17,18項において、仕口の計算をしない場合は「0」を入力します。
- (8) 断面計算位置は、端部と中央およびハンチ位置または継手位置とします。  
ハンチ位置と継手位置が両方共入力されているか、継手位置のみ入力されている場合は、継手位置での断面計算を行い、ハンチ位置のみ入力されている場合は、ハンチ位置での断面計算を行います。両方共入力されていない場合は、端部と中央のみ断面計算を行います。

M-12 はり断面計算指定 (S)

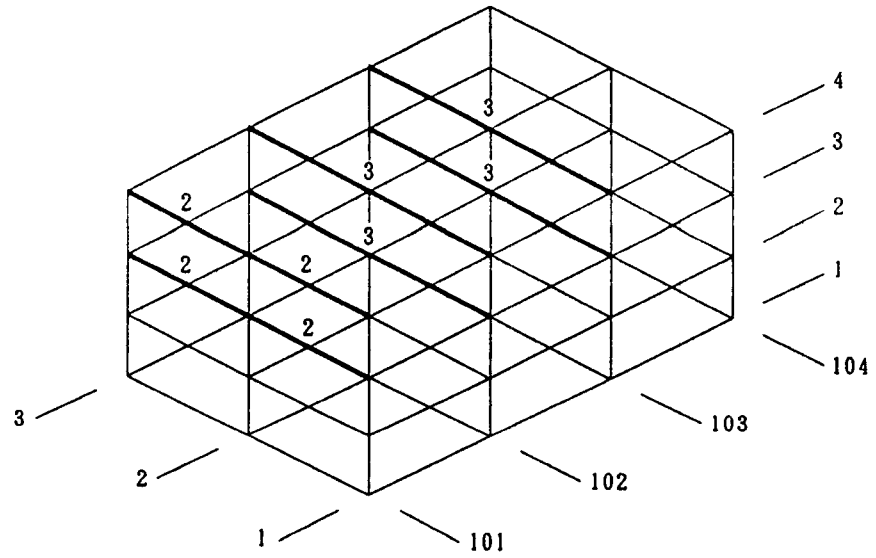
Sはりの「M-11 はり部材形状 (S)」で入力したはり鉄骨部材形状を配置します。

項 目		説 明	
1	層 (I1)	部材形状を配置する層	
2	層 (I2)	11層から12層まで	(I1 ≤ I2)
3	7r-4 (J1)	部材形状を配置するフレーム	
4	7r-4 (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	部材形状を配置する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 < K2)
7	形状NO.	「M-11 はり部材形状 (S)」で入力したはり部材形状番号	

- (1) 本項で指定されない箇所は、断面計算を省略します。
- (2) 多スパンに跨がるはりの断面計算を行う場合は、形状番号+1000として、1本として計算する軸間を一度に指定します。
- (3) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (4) 7項を「0」として配置をした場合は、既に配置されているデータを除く処理となります。



層	層	7r-4	7r-4	軸	軸	形状NO.
2	3	1	2	101	103	1



層	層	7レベル	7レベル	軸	軸	形状NO
3	4	101	101	1	3	2
3	4	102	103	1	3	1003

図 5.10 はり断面計算指定

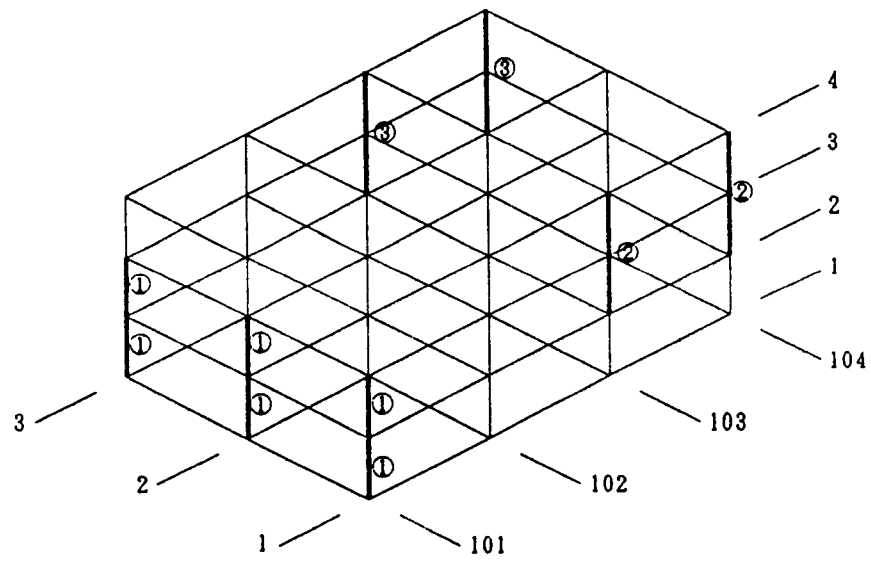


M-13 柱fb, fc指定(S)

S柱の座屈長さおよび許容応力度を入力します。

項目	説明	単位
1 層 (I1)	lb, lk, fb, fc を配置する層	
2 層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)	
3 7r-4 (J1)	lb, lk, fb, fc を配置するフレーム	
4 7r-4 (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)	
5 軸 (K1)	lb, lk, fb, fc を配置する軸	
6 軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)	
7 lbX	X方向圧縮フランジ支点間距離	cm
8 lbY	Y方向圧縮フランジ支点間距離	cm
9 lkX	X方向圧縮座屈長さ	cm
10 lkY	Y方向圧縮座屈長さ	cm
11 fbX	X方向許容曲げ応力度	t/cm <sup>2</sup>
12 fbY	Y方向許容曲げ応力度	t/cm <sup>2</sup>
13 fcX	X方向許容圧縮応力度	t/cm <sup>2</sup>
14 fcY	Y方向許容圧縮応力度	t/cm <sup>2</sup>

- (1) 7,8 項は、柱のfbを求める際に、使用されます。  
「0」を指定すると、柱長さとなり、 $0 < lbX, lbY \leq 10$ の場合は、柱長さに対する割合として、柱長さに入力値を掛けてlbを求め、 $10 < lbX, lbY$ の場合は、実長とします。
- (2) 9,10項は、柱のfcを求める際に、使用されます。  
「0」を指定すると、「鋼構造塑性設計指針 6.5 柱の座屈長さ 水平移動が拘束されない場合」により内部処理され、 $0 < lkX, lkY \leq 10$ の場合は、柱長さに対する割合として、柱長さに入力値を掛けてlkを求め、 $10 < lkX, lkY$ の場合は、実長とします。
- (3) 11,12 項は、柱のfbを直接指定する際に、入力します。  
「0」を指定すると、lbにより計算され、 $0 < fb$ の場合は、入力値となります。
- (4) 13,14 項は、柱のfcを直接指定する際に、入力します。  
「0」を指定すると、lkにより計算され、 $0 < fc$ の場合は、入力値となります。
- (5) 本項で指定されない箇所の柱は、入力値が「0」の時の処理となります。
- (6) 多階に跨がる柱に、配置する場合は、同一のデータを配置します。
- (7) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。



	層	層	7v-L	7v-L	軸	軸	1bX ~
①	1	3	1	3	101	101	-
②	2	4	1	1	103	104	-
③	2	4	3	3	103	104	-

図 5.11 柱fb,fc 指定

M-14 柱部材形状(S)

柱鉄骨部材形状を入力します。

項 目		説 明	省略時解釈								
1	形状NO.	柱部材形状番号 (1~99)									
2	TBL	鉄骨部材テーブル番号									
3	MAT	部材の使用材種を下表より選択 <table border="1" data-bbox="711 589 1058 848"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>フランジ ケーブ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SS400-SS400</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SM490-SS400</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SM490-SM490</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	フランジ ケーブ	1	SS400-SS400	2	SM490-SS400	3	SM490-SM490	1
入力値	フランジ ケーブ										
1	SS400-SS400										
2	SM490-SS400										
3	SM490-SM490										

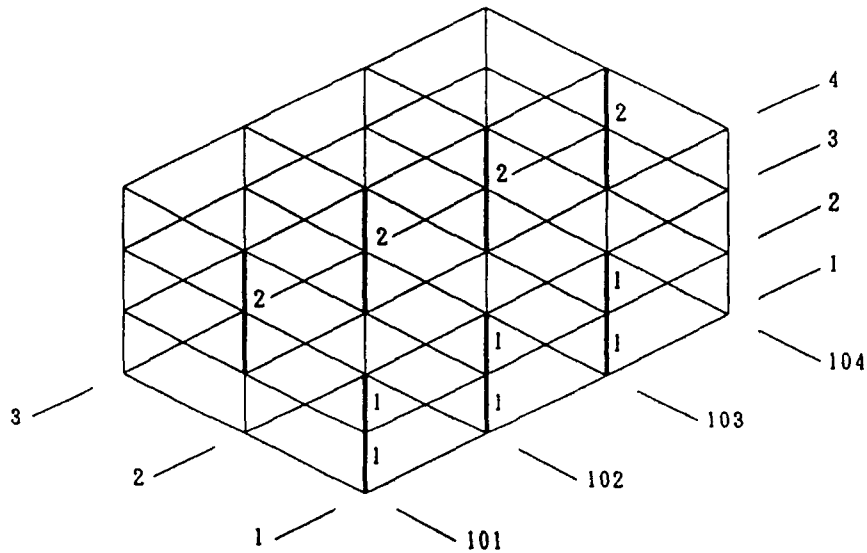
- (1) 多階にまたがる柱の断面計算を行う場合は、本項では1本の部材としてデータを入力し、「M-15 柱断面計算指定(S)」において、形状番号+1000として配置します。
- (2) 2項において「0」を入力した場合は、「P-30 柱形状(S)」で入力した部材で断面計算をします。

M-15 柱断面計算指定 (S)

S柱の「M-14 柱部材形状 (S)」で入力した柱鉄骨部材形状を配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	部材形状を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	7r-4 (J1)	部材形状を配置するフレーム
4	7r-4 (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	部材形状を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)
7	形状NO.	「M-14 柱部材形状 (S)」で入力した柱部材形状番号

- (1) 本項で指定されない箇所は、断面計算を省略します。
- (2) 多階にまたがる柱の断面計算を行う場合は、形状番号+1000として、1本として計算する層間を一度に指定します。
- (3) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (4) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されているデータを除く処理となります。



層	層	7r-4	7r-4	軸	軸	形状NO.
1	3	1	1	101	103	1
2	4	2	2	101	104	1002

図 5.12 柱断面計算指定

M-16 ブレース部材形状(S)

ブレース部材形状を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位						
1	形状NO.	ブレース部材形状番号 (1~99)							
2	BA	ブレース断面積	下記(1)参照 cm <sup>2</sup>						
3	ly	ブレース材断面二次半径	cm						
4	MAT	部材の使用材種を下表より選択 <table border="1" data-bbox="679 658 940 853"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SS400</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SM490</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	SS400	2	SM490	1
入力値	材種								
1	SS400								
2	SM490								
5	lk	圧縮座屈長さ	cm						
6	fc	許容圧縮応力度	t/cm <sup>2</sup>						

- (1) 2項において「0」を入力した場合は、「P-35 ブレース形状」で入力した断面で計算します。
- (2) 3項は、引っ張りブレースの場合は、使用されません。
- (3) 5項において「0」を入力した場合は部材長さとなり、 $0 < lk \leq 10$ の場合は、部材長さに対する割合とし、 $10 < lk$ の場合は実長として取り扱います。
- (4) 6項において「0」を入力すると内部処理によりfcが算出されます。「0」以外の数値を入力した場合は、fcは入力値となります。

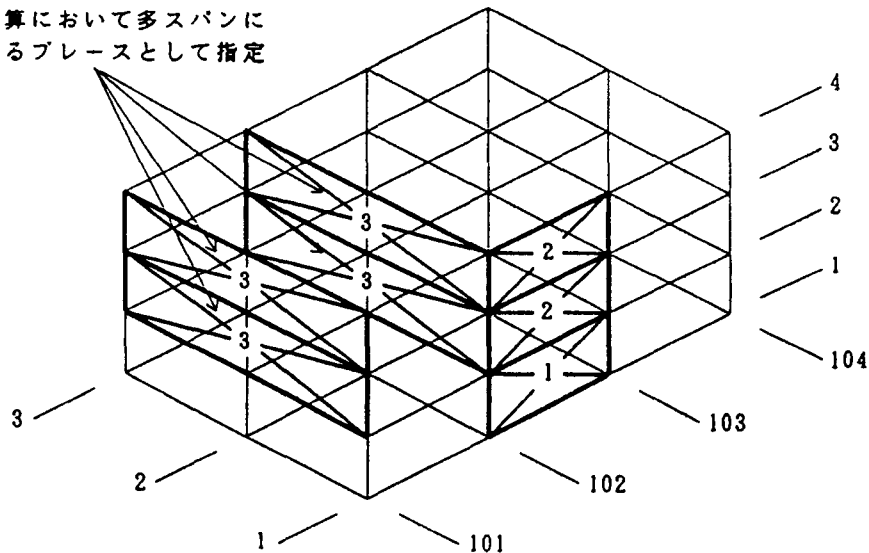
M-17 ブレース断面計算指定 (S)

S柱の「M-16 ブレース部材形状 (S)」で入力したブレース部材形状を配置します。

項目		説明
1	層 (I1)	部材形状を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	部材形状を配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	部材形状を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	形状NO.	「M-16 ブレース部材形状(S)」で入力したブレース部材形状番号

- (1) 本項で指定されない箇所は、断面計算を省略します。
- (2) 多スパンに跨がるブレースに配置する場合は、同一のデータを配置します。
- (3) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (4) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されているデータを除く処理となります。

準備計算において多スパンにまたがるブレースとして指定



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO.
1	2	1	1	102	103	1
2	4	1	1	102	103	2
2	4	101	102	1	3	3

図 5.13 ブレース断面計算指定

M-18 断面計算条件 (RC, SRC)

RC, SRC造の断面計算条件を入力します。

項目		説明	省略時解釈	単位												
1	断面計算の種類	柱	各断面計算の種類を下表より選択	1												
2				はり	1											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>算定計算</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>検定計算 (1)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>検定計算 (2)</td> </tr> </tbody> </table>		入力値	種別	1	算定計算	2	検定計算 (1)	3	検定計算 (2)					
入力値	種別															
1	算定計算															
2	検定計算 (1)															
3	検定計算 (2)															
3	地震時計算モーメント	地上1階	地上1階の断面計算用の地震時モーメント算定位置を下表より選択	1												
4				柱 (Y)	1											
5				はり (X)	1											
6				はり (Y)	1											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>計算モーメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>節点モーメント</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フェイスモーメント</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>剛域端モーメント</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>柱脚フェイス、柱頭節点モーメント</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>柱脚剛域端、柱頭節点モーメント</td> </tr> </tbody> </table>		入力値	計算モーメント	1	節点モーメント	2	フェイスモーメント	3	剛域端モーメント	4	柱脚フェイス、柱頭節点モーメント	5	柱脚剛域端、柱頭節点モーメント	
入力値	計算モーメント															
1	節点モーメント															
2	フェイスモーメント															
3	剛域端モーメント															
4	柱脚フェイス、柱頭節点モーメント															
5	柱脚剛域端、柱頭節点モーメント															
7	その他の階	柱 (X)	地上1階以外の階の断面計算用の地震時モーメント算定位置を下表より選択	1												
8				柱 (Y)	1											
9				はり (X)	1											
10				はり (Y)	1											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>計算モーメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>節点モーメント</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フェイスモーメント</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>剛域端モーメント</td> </tr> </tbody> </table>		入力値	計算モーメント	1	節点モーメント	2	フェイスモーメント	3	剛域端モーメント					
入力値	計算モーメント															
1	節点モーメント															
2	フェイスモーメント															
3	剛域端モーメント															

11	地下・塔屋階	柱 (X)	地下階，塔屋階の断面計算用の地震時モーメント算定位置を下表より選択	1									
12		柱 (Y)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>計算モーメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>節点モーメント</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フェイスモーメント</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>剛域端モーメント</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	計算モーメント	1	節点モーメント	2	フェイスモーメント	3	剛域端モーメント	1	
入力値		計算モーメント											
1		節点モーメント											
2	フェイスモーメント												
3	剛域端モーメント												
13	はり (X)	1											
14	はり (Y)	1											
15	フェイス入り長さ	柱 (X)	<p>3～14項において、フェイスモーメントを採用する場合に、計算位置をフェイスより節点側に入れたい時に、入力します。</p> <p>1を超える場合：フェイスからの距離 (cm)</p> <p>1以下の場合：はり，柱せいの割合</p>		cm								
16		柱 (Y)			cm								
17		はり (X)			cm								
18		はり (Y)			cm								
19	耐力壁まわり柱計算方法		耐力壁まわり柱のptの計算方法について下表より選択	1									
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>計算方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>最小 pt とする</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>軸力により計算</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	計算方法	1	最小 pt とする	2	軸力により計算				
入力値	計算方法												
1	最小 pt とする												
2	軸力により計算												
20	ウェブ考慮	柱 (X)	SRC 造鉄骨の許容曲げモーメント計算時におけるウェブ材の考慮について下表より選択 (BHの場合のみ)	1									
21		柱 (Y)		1									
22		はり (X)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>処 理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>考慮する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>考慮しない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処 理	1	考慮する	2	考慮しない	1		
入力値		処 理											
1	考慮する												
2	考慮しない												
23	はり (Y)	1											



24	軸力負担		<p>SRC 造柱において断面計算用曲げモーメントが鉄骨部分の許容曲げモーメントより小さい場合、軸力の負担について下表より選択</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>軸力負担</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>負担させる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>負担させない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	軸力負担	1	負担させる	2	負担させない	1	
入力値	軸力負担										
1	負担させる										
2	負担させない										
25	S R C 部 材 計 算 方 法	柱	<p>SRC 造柱、はりの断面計算方法を下表より選択</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>計算方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>鉄骨指定計算</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>鉄筋指定計算</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	計算方法	1	鉄骨指定計算	2	鉄筋指定計算	1	
入力値		計算方法									
1	鉄骨指定計算										
2	鉄筋指定計算										
26	はり			1							

(1) 本項は、RC、SRC造の断面計算条件を入力します。

(2) 1, 2 項により、断面計算の方法が下記に示す用に決定されます。

RC造 1 の場合：各応力による必要鉄筋比を算出します。

2 の場合：指定された主筋本数により、安全性の検討をし、必要せん断補強筋比を求めます。

3 の場合：指定された主筋本数およびせん断補強筋により安全性を検討します。

SRC 造 1 の場合：各応力により必要鉄筋比または鉄骨部材を算出します。  
25, 26 項の入力により算出方法が決定されます。

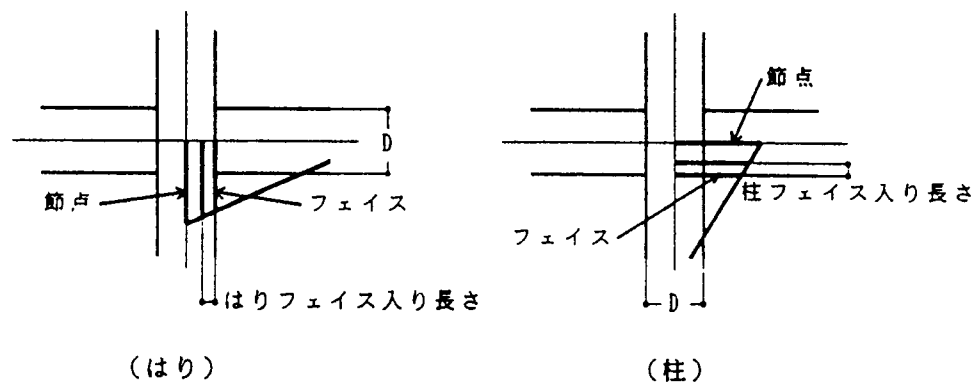
2 の場合：指定された主筋本数および鉄骨により、安全性を検討し、必要せん断補強筋比を求めます。  
25, 26 項は無視されます。

3 の場合：指定された主筋本数、鉄骨およびせん断補強筋により安全性を検討します。  
25, 26 項は無視されます。

(3) 3～6 項により、地上 1 階の断面計算で使用する地震時モーメントの算定位置が決定されます。ただし、はりまたは柱が S 造の場合は、3～6 項の入力は無視され全て節点モーメントを使用します。また、剛性計算において、剛域を無視する方法を選択している場合は、「3」または「5」を入力しても剛域長さが「0」となっているため節点モーメントとなります。

また、「4」、「5」は、柱のみ有効で、はりに指定した場合は、節点モーメントとなります。

- (4) 7～10項により、地上1階以外の階の断面計算で使用する地震時モーメントの算定位置が決定されます。ただし、はりまたは柱がS造の場合は、7～10項の入力は無視され全て節点モーメントを使用します。また、剛性計算において、剛域を無視する方法を選択している場合は、「3」を入力しても剛域長さが「0」となっているため節点モーメントとなります。
- (5) 11～14項により、地下階および塔屋階の断面計算で使用する地震時モーメントの算定位置が決定されます。ただし、はりまたは柱がS造の場合は、11～14項の入力は無視され全て節点モーメントを使用します。また、剛性計算において、剛域を無視する方法を選択している場合は、「3」を入力しても剛域長さが「0」となっているため節点モーメントとなります。
- (6) 15～18項の意味を下記に示します。



1 以上：フェイス入り長さ＝入力値  
 1 以下：フェイス入り長さ＝入力値×D

図 5.14 モーメント算定位置

フェイス入り長さがフェイスから節点までの距離を超える場合は、節点モーメントを使用します。  
 ハンチのあるはりのフェイス位置、フェイス入り長さは、中央部のせいで計算します。

- (7) 19項により、耐力壁まわり柱の必要鉄筋比の計算方法が決定されます。

1 の場合：最小鉄筋比とします。

2 の場合：軸力により必要鉄筋比を算出します。

耐力壁まわりはりの必要鉄筋比は、本項の入力に関わらず最小引張鉄筋比となります。

- (8) 20～26項は、SRC 造部材のみに使用されます。

(9) 20～23項により、使用する部材がH形鋼の場合の断面係数Zの計算方法が決定されます。

1の場合：ウェブが考慮された断面係数とします。

2の場合：ウェブが無視された断面係数とします。

はりの場合は、「M-7 鉄骨はり部材欠損率 (S. SRC)」で指定した欠損率も考慮されます。

(10) 1項が「1」（算定計算）の場合のみ、25項での入力値が有効となります。

25項の入力値が「1」の場合は、鉄骨形状を入力し鉄筋を求める計算となり、「2」の場合は、鉄筋本数を指定し軸力を全てRC部分が負担するとして、鉄骨のプレート厚さを求める計算（曲げはフランジのみ）となります。ただし、一貫計算として使用する場合は、「1」（鉄骨指定計算）となります。

(12) 2項が「1」（算定計算）の場合のみ、26項での入力値が有効となります。

26項の入力値が「1」の場合は、鉄骨形状を入力し鉄筋本数を求める計算となり、「2」の場合は、鉄筋本数を指定し鉄骨のプレート厚さを求める計算（曲げはフランシのみ）となります。ただし、一貫計算として使用する場合は、「1」（鉄骨指定計算）となります。

M - 19 鉄筋比制限 (RC)

RC部材の鉄筋比制限を入力します。

項 目		説 明	単 位	
1	X 方向 はり	Pt max	はりの引張鉄筋比 Pt の上限値	%
2		Pt min 1	はりの引張鉄筋比 Pt の下限値	%
3		Pt min 2	耐力壁まわりはりの引張鉄筋比 Pt の下限値	%
4		Pw max	はりのあばら筋比 Pw の上限値	%
5		Pw min 1	はりのあばら筋比 Pw の下限値	%
6		Pw min 2	耐力壁まわりはりのあばら筋比 Pw の下限値	%
7	Y 方向 はり	Pt max	はりの引張鉄筋比 Pt の上限値	%
8		Pt min 1	はりの引張鉄筋比 Pt の下限値	%
9		Pt min 2	耐力壁まわりはりの引張鉄筋比 Pt の下限値	%
10		Pw max	はりのあばら筋比 Pw の上限値	%
11		Pw min 1	はりのあばら筋比 Pw の下限値	%
12		Pw min 2	耐力壁まわりはりのあばら筋比 Pw の下限値	%
13	X 方向 柱	Pt max	柱の引張鉄筋比 Pt の上限値	%
14		Pt min 1	柱の引張鉄筋比 Pt の下限値	%
15		Pt min 2	耐力壁まわり柱の引張鉄筋比 Pt の下限値	%
16		Pw max	柱の帯筋比 Pw の上限値	%
17		Pw min 1	柱の帯筋比 Pw の下限値	%
18		Pw min 2	耐力壁まわり柱の帯筋比 Pw の下限値	%
19	Y 方向 柱	Pt max	柱の引張鉄筋比 Pt の上限値	%
20		Pt min 1	柱の引張鉄筋比 Pt の下限値	%
21		Pt min 2	耐力壁まわり柱の引張鉄筋比 Pt の下限値	%
22		Pw max	柱の帯筋比 Pw の上限値	%
23		Pw min 1	柱の帯筋比 Pw の下限値	%
24		Pw min 2	耐力壁まわり柱の帯筋比 Pw の下限値	%

- (1) 「M-1 断面計算ルート」で決定されたルートによって、表 5.5に示す各ルートの値に設定されます。

部 材	項 目	ルートなし ルート 1 ルート 3	ルート 2		
			1	2	3
は り	Pt max	3.0	3.0	3.0	3.0
	Pt min	0.4	0.4	0.4	0.4
	Pw max	1.2	1.2	1.2	1.2
	Pw min	0.2	0.2	0.2	0.2
柱	Pt max	3.0	3.0	3.0	3.0
	Pt min	0.2	0.2	0.2	0.2
	Pw max	1.2	1.2	1.2	1.2
	Pw min	0.2	0.3	0.3	0.3

表 5.5 RC鉄筋比制限

- (2) 本項で入力した鉄筋比により、計算で求めた鉄筋比が min以下となる場合は鉄筋比は minとなり、max を超える場合は ERROR文が出力されます。

M - 20 鉄筋比制限 (SRC)

SRC 部材の鉄筋比の制限を入力します。

項目		説明	単位	
1	X 方向 はり	Pt max	はりの引張鉄筋比 Pt の上限値	%
2		Pt min 1	はりの引張鉄筋比 Pt の下限値	%
3		Pt min 2	耐力壁まわりはりの引張鉄筋比 Pt の下限値	%
4		Pw max	はりのあばら筋比 Pw の上限値	%
5		Pw min 1	はりのあばら筋比 Pw の下限値	%
6		Pw min 2	耐力壁まわりはりのあばら筋比 Pw の下限値	%
7	Y 方向 はり	Pt max	はりの引張鉄筋比 Pt の上限値	%
8		Pt min 1	はりの引張鉄筋比 Pt の下限値	%
9		Pt min 2	耐力壁まわりはりの引張鉄筋比 Pt の下限値	%
10		Pw max	はりのあばら筋比 Pw の上限値	%
11		Pw min 1	はりのあばら筋比 Pw の下限値	%
12		Pw min 2	耐力壁まわりはりのあばら筋比 Pw の下限値	%
13	X 方向 柱	Pt max	柱の引張鉄筋比 Pt の上限値	%
14		Pt min 1	柱の引張鉄筋比 Pt の下限値	%
15		Pt min 2	耐力壁まわり柱の引張鉄筋比 Pt の下限値	%
16		Pw max	柱の帯筋比 Pw の上限値	%
17		Pw min 1	柱の帯筋比 Pw の下限値	%
18		Pw min 2	耐力壁まわり柱の帯筋比 Pw の下限値	%
19	Y 方向 柱	Pt max	柱の引張鉄筋比 Pt の上限値	%
20		Pt min 1	柱の引張鉄筋比 Pt の下限値	%
21		Pt min 2	耐力壁まわり柱の引張鉄筋比 Pt の下限値	%
22		Pw max	柱の帯筋比 Pw の上限値	%
23		Pw min 1	柱の帯筋比 Pw の下限値	%
24		Pw min 2	耐力壁まわり柱の帯筋比 Pw の下限値	%

- (1) 「M-1 断面計算ルート」で決定されたルートによって、表 5.6に示す各ルートの値に設定されます。

部 材	項 目	ルートなし ルート 1 ルート 3	ルート 2		
			1	2	3
は り	Pt max	3.0	3.0	3.0	3.0
	Pt min	0.1	0.1	0.1	0.1
	Pw max	0.6	0.6	0.6	0.6
	Pw min	0.1	0.1	0.1	0.1
柱	Pt max	3.0	3.0	3.0	3.0
	Pt min	0.1	0.1	0.1	0.1
	Pw max	0.6	0.6	0.6	0.6
	Pw min	0.1	0.1	0.1	0.1

表 5.6 SRC 鉄筋比制限

- (2) 本項で入力した鉄筋比により、計算で求めた鉄筋比が min以下となる場合は鉄筋比は minとなり、max を超える場合は ERROR文が出力されます。

M-21 鉄筋比制限（耐力壁）

耐力壁の鉄筋比の制限を入力します。

項 目			説 明	単 位
1	X 方 向	Ps max	耐力壁せん断補強筋比の上限値	%
2		Ps min	耐力壁せん断補強筋比の下限値	%
3	Y 方 向	Ps max	耐力壁せん断補強筋比の上限値	%
4		Ps min	耐力壁せん断補強筋比の下限値	%

- (1) 「M-1 断面計算ルート」で決定されたルートによって、表 5.7に示す各ルートの値に設定されます。

項 目	ルートなし ルート 1 ルート 3	ルート 2		
		1	2	3
Ps max	1.2	1.2	1.2	1.2
Ps min	0.25	0.4	0.4	0.4

表 5.7 耐力壁鉄筋比制限

- (2) 本項で入力した鉄筋比により、計算で求めた鉄筋比が min以下となる場合は鉄筋比は minとなり、max を超える場合は ERROR文が出力されます。



M-22 鉄筋材種&強度割増値 (RC)

スラブ筋の材種および終局曲げモーメント計算時に用いる強度の割増値を入力します。

項 目		説 明	省略時解釈												
1	スラブ筋材種	スラブ筋の材種を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SR235</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SD235</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SD295</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>SD345</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SD390</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	SR235	2	SD235	3	SD295	4	SD345	5	SD390	3
入力値	材種														
1	SR235														
2	SD235														
3	SD295														
4	SD345														
5	SD390														
2	X 方 向	主筋	X方向主筋強度の割増し値	下記(3)参照											
3		スラブ筋	X方向スラブ筋強度の割増し値	下記(3)参照											
4	Y 方 向	主筋	Y方向主筋強度の割増し値	下記(3)参照											
5		スラブ筋	Y方向スラブ筋強度の割増し値	下記(3)参照											

- (1) スラブ筋の材種は全階共同一とします。
- (2) 2～5項は、終局曲げモーメントの計算に用いる強度の割増し値を入力します。
- (3) 2～5項において、「0」を入力した場合は、断面計算ルートが 2-3の場合は 1.1となり、それ以外の場合は 1.0となります。

M-23 コンクリート材料 (RC, SRC)

断面計算を行う場合のコンクリート材料を指定します。

項 目		説 明	省略時解釈	単 位												
1	層 (I1)	対象層 I1層からI2層まで ( $I1 \leq I2$ ただし、等号は1層のみ)														
2	層 (I2)															
3	材種	コンクリート材種を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材 種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>普通コンクリート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3種軽量コンクリート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4種軽量コンクリート</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材 種	1	普通コンクリート	2	1種軽量コンクリート	3	2種軽量コンクリート	4	3種軽量コンクリート	5	4種軽量コンクリート	下記(3)参照	
入力値	材 種															
1	普通コンクリート															
2	1種軽量コンクリート															
3	2種軽量コンクリート															
4	3種軽量コンクリート															
5	4種軽量コンクリート															
4	Fc	コンクリートの設計基準強度	下記(3)参照	kg/cm <sup>3</sup>												

- (1) 本項は、断面計算時のみに有効です。準備計算において指定されているコンクリート材料を変更する際にのみ指定します。  
本項で指定されていない箇所は、準備計算で指定されているコンクリート材料で、断面計算を行います。
- (2) 1項で入力するI1層のはりは含まれません。よって、1層はりに配置する場合は、1,2項共「1」を入力します。
- (3) 3項または4項で「0」を入力した場合は、準備計算で指定されている材種または Fc となります。

M-24 スラブ筋形状 (RC)

終局曲げモーメントの算定時に考慮するスラブ筋の形状を入力します。

項目		説明	単位
1	形状NO.	スラブ筋形状番号 (1~99)	
2	はり左端	at U	上スラブ有効引張鉄筋断面積
3		dt U	引張線からのスラブ鉄筋重心までの距離
4		at D	下スラブ有効引張鉄筋断面積
5		dt D	引張線からのスラブ鉄筋重心までの距離
6	はり右端	at U	上スラブ有効引張鉄筋断面積
7		dt U	引張線からのスラブ鉄筋重心までの距離
8		at D	下スラブ有効引張鉄筋断面積
9		dt D	引張線からのスラブ鉄筋重心までの距離

(1) 本項は、終局曲げモーメントの計算に用いるスラブ筋を入力します。

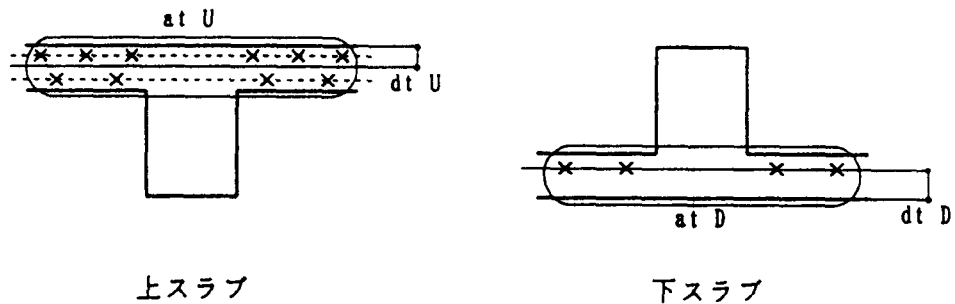


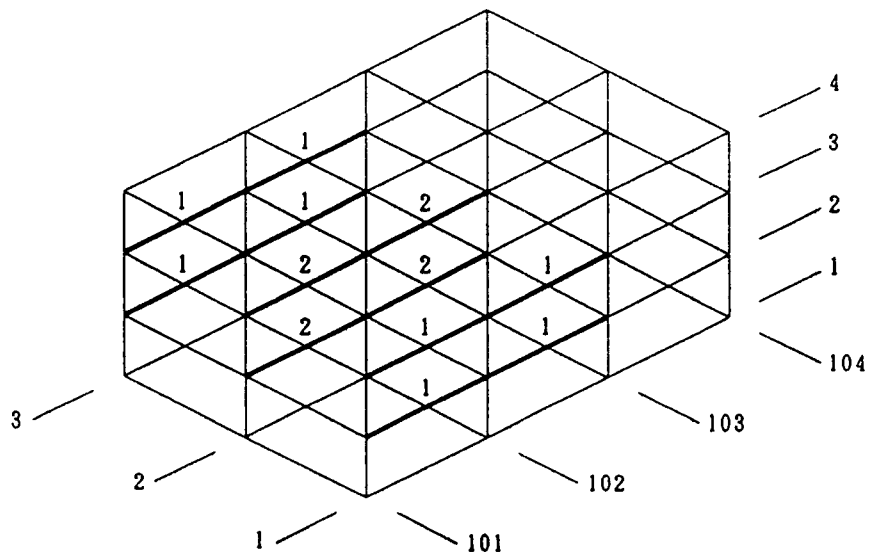
図 5.15 スラブ筋

M-25 スラブ筋配置 (RC)

「M-24 スラブ筋形状 (RC)」で入力したスラブ筋を配置します。

項 目		説 明	
1	層 (I1)	スラブ筋を配置する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	スラブ筋を配置するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	スラブ筋を配置する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 < K2)
7	形状NO	「M-24 スラブ筋形状 (RC)」で入力したスラブ筋形状番号	

- (1) 終局曲げモーメントにスラブ筋を考慮する箇所に配置します。
- (2) 多スパンに跨がるはりに、配置をする場合は、同一のデータを配置します。
- (3) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (4) 7項を「0」として配置をした場合は、既に配置されているスラブ筋を除く処理となります。



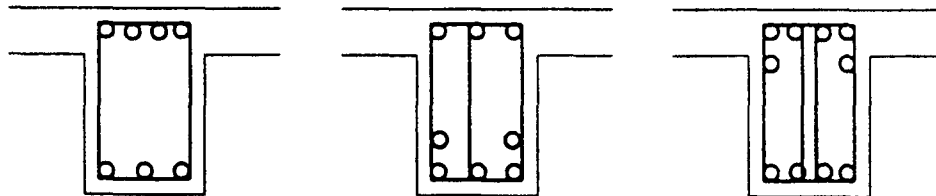
層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO
2	3	1	3	101	103	1
2	3	2	2	101	103	2

図 5 16 スラブ筋配置

M-26 はり鉄筋形状 (RC, SRC)

RC, SRC造はりの主筋本数および、あばら筋形状を入力します。

項目		説明	単位
1	形状NO.	はり鉄筋形状番号 (1~99)	
2	主筋	上端本数	はり上端主筋本数
3		下端本数	はり下端主筋本数
4	あばら筋	本数	あばら筋本数
5		ピッチ	あばら筋ピッチ



上端本数 : 4  
 下端本数 : 3  
 あばら筋本数 : 2

上端本数 : 3  
 下端本数 : 5  
 あばら筋本数 : 3

上端本数 : 6  
 下端本数 : 4  
 あばら筋本数 : 4

図 5.17 はり鉄筋形状

(1) 本項は、下記の様に処理されます。

○RCはり

- ・「M-18 断面計算条件」で算定計算が指定されている場合

主筋は、各荷重の応力により求められた主筋本数が、指定された本数よりも少ない場合は、本項で入力した本数となり、多い場合または指定無しの場合は、計算で求められた本数となります。

あばら筋は、各荷重の応力により求められたせん断補強筋が、指定されたあばら筋形状よりも少ない場合は、本項で入力した形状となり、多い場合または入力無しの場合は、計算で求められた形状となります。

- ・「M-18 断面計算条件」で検定計算(1)が指定されている場合

端部の主筋は、各荷重の応力に対して、指定されている主筋本数で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。

中央およびハンチ位置の主筋は、本数が指定されている場合は、指定本数で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。ただし、本数が指定されていない場合は、必要本数が求められます。

あばら筋は、各荷重の応力により求められたせん断補強筋が、指定されたあばら筋形状よりも少ない場合は、本項で入力した形状となり、多い場合または入力無しの場合は、計算で求められた形状となります。

- ・「M-18 断面計算条件」で検定計算(2)が指定されている場合

端部の主筋は、各荷重の応力に対して、指定されている主筋本数で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。

中央およびハンチ位置の主筋は、本数が指定されている場合は、指定本数で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。ただし、本数が指定されていない場合は、必要本数が求められます。

あばら筋は、各荷重の応力に対して、指定されているあばら筋形状で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。あばら筋が指定されていない場合は、計算で求められた形状となります。

#### ○SRCはり

- ・「M-18 断面計算条件」で算定計算が指定されている場合で鉄骨指定計算の場合

主筋は、各荷重の応力より鉄骨負担分を除いた応力により求められた主筋本数が、指定された本数よりも少ない場合は、本項で入力した本数となり、多い場合または指定無しの場合は、計算で求められた本数となります。

あばら筋は、せん断の決定方法により求められたせん断補強筋が、指定されたあばら筋形状よりも少ない場合は、本項で入力した形状となり、多い場合または入力無しの場合は、計算で求められた形状となります。

- ・「M-18 断面計算条件」で算定計算が指定されている場合で鉄筋指定計算の場合

主筋本数は、必ず指定し、各荷重の応力より鉄筋負担分を除いた応力により、鉄骨を逆算します。

あばら筋は、せん断の決定方法により求められたせん断補強筋が、指定されたあばら筋形状よりも少ない場合は、本項で入力した形状となり、多い場合または入力無しの場合は、計算で求められた形状となります。

- ・「M-18 断面計算条件」で検定計算(1)が指定されている場合

各荷重の応力に対して、指定されている鉄骨形状および主筋本数で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。

あばら筋は、せん断の決定方法により求められたせん断補強筋が、指定されたあばら筋形状よりも少ない場合は、本項で入力した形状となり、多い場合または入力無しの場合は、計算で求められた形状となります。

- ・「M-18 断面計算条件」で検定計算(2)が指定されている場合

各荷重の応力に対して、指定されている鉄骨形状および主筋本数で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。

あばら筋は、せん断の決定方法により求められたせん断補強筋が、指定されたあばら筋形状で、不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。あばら筋が指定されていない場合は、計算で求められた形状となります。

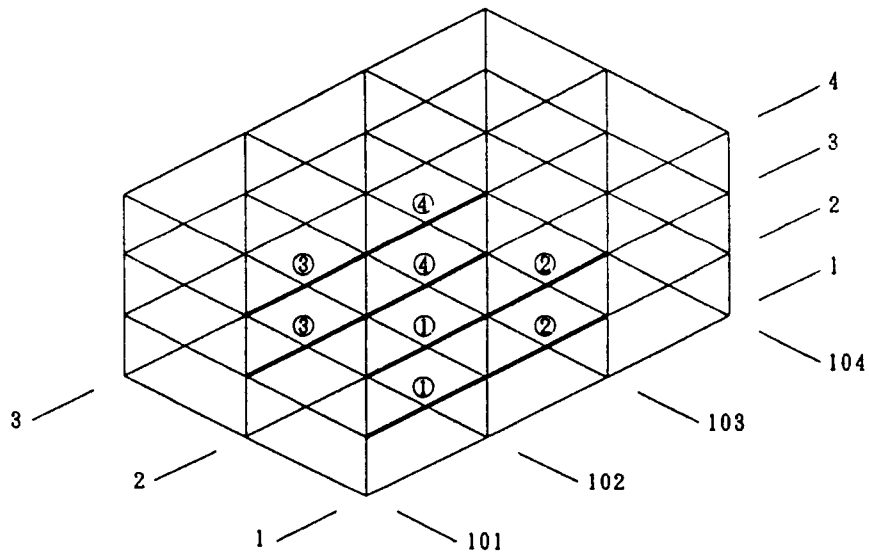
- (2) 主筋材種、径、 $d_l$ 、あばら筋材種および径については、「M-35 はり部材形状 (RC, SRC)」での入力値によります。また、あばら筋本数を入力した場合は、「M-35 はり部材形状 (RC, SRC)」でのあばら筋本数の入力値を無視します。

M-27 はり鉄筋配置 (RC, SRC)

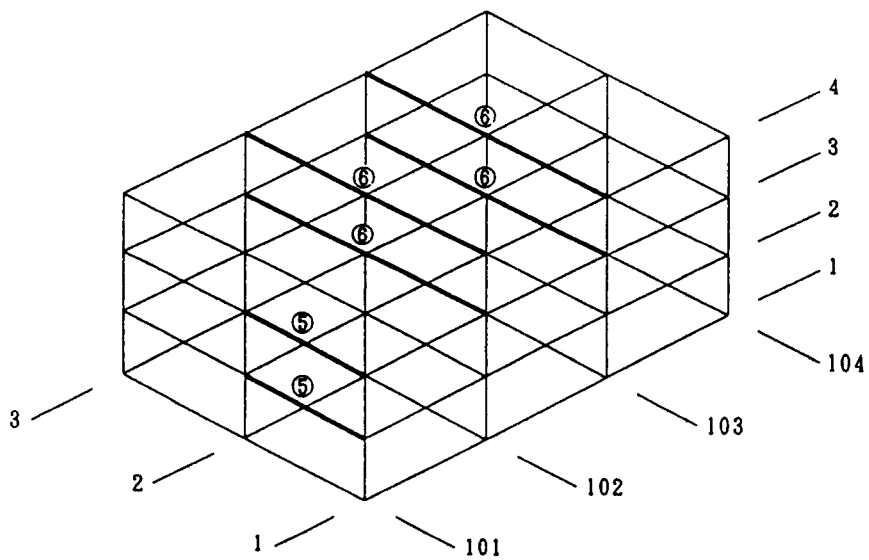
「M-26 はり鉄筋形状 (RC, SRC)」で入力した鉄筋形状を配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	鉄筋を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	鉄筋を配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	鉄筋を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	L NO	左端の「M-26 はり鉄筋形状 (RC, SRC)」で入力したはり鉄筋形状番号
8	LH NO	左ハンチ位置の「M-26 はり鉄筋形状 (RC, SRC)」で入力したはり鉄筋形状番号
9	C NO	中央の「M-26 はり鉄筋形状 (RC, SRC)」で入力したはり鉄筋形状番号
10	RH NO	右ハンチ位置の「M-25 はり鉄筋形状 (RC, SRC)」で入力したはり鉄筋形状番号
11	R NO	右端の「M-26 はり鉄筋形状 (RC, SRC)」で入力したはり鉄筋形状番号

- (1) 本項は、はり主筋本数およびあばら筋を直接指定する箇所に配置します。
- (2) 多スパンにまたがるはりに指定する場合は、同一データを配置します。
- (3) 重複配置をした場合は、後のデータが優先されます。
- (4) 7～11項を「0」として配置した場合は、既に配置されているデータを除く処理となります。



	層	層	7V-4	7V-4	軸	軸	L NO. ~
①	2	3	1	1	101	102	-
②	2	3	1	1	102	103	-
③	2	3	2	2	101	102	-
④	2	3	2	2	102	103	-



	層	層	7V-4	7V-4	軸	軸	L NO. ~
⑤	2	3	101	101	1	2	-
⑥	3	4	102	103	1	3	-

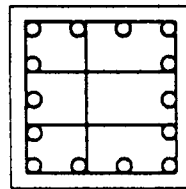
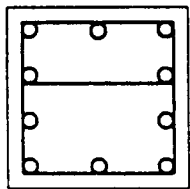
図 5 18 はり主筋配置



M-28 柱鉄筋形状 (RC, SRC)

RC, SRC造柱の主筋本数および帯筋形状を入力します。

項目		説明	単位
1	形状NO.	柱主筋形状番号 (1~99)	
2	X方向	主筋本数	X方向主筋本数
3		帯筋本数	X方向帯筋本数
4		帯筋ピッチ	X方向帯筋ピッチ
5	Y方向	主筋本数	Y方向主筋本数
6		帯筋本数	Y方向帯筋本数
7		帯筋ピッチ	Y方向帯筋ピッチ



X方向 主筋本数 : 4  
 帯筋本数 : 3  
 Y方向 主筋本数 : 3  
 帯筋本数 : 2

X方向 主筋本数 : 5  
 帯筋本数 : 4  
 Y方向 主筋本数 : 4  
 帯筋本数 : 3

図 5.19 柱鉄筋形状

(1) 本項は、下記の様に処理されます。

○RC柱

- ・「M-18 断面計算条件」で算定計算が指定されている場合

主筋は、各荷重の応力により求められた主筋本数が、指定された本数よりも少ない場合は、本項で入力した本数となり、多い場合または指定無しの場合は、計算で求められた本数となります。

帯筋は、各荷重の応力により求められたせん断補強筋か、指定された帯筋形状よりも少ない場合は、本項で入力した形状となり、多い場合または入力無しの場合は、計算で求められた形状となります。

- ・「M-18 断面計算条件」で検定計算(1)が指定されている場合

主筋は、各荷重の応力に対して、指定されている主筋本数で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。

帯筋は、各荷重の応力により求められたせん断補強筋が、指定された帯筋形状よりも少ない場合は、本項で入力した形状となり、多い場合または入力無しの場合は、計算で求められた形状となります。

- ・「M-18 断面計算条件」で検定計算(2)が指定されている場合

主筋は、各荷重の応力に対して、指定されている主筋本数で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。

帯筋は、各荷重の応力に対して、指定されている帯筋形状で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。帯筋が指定されていない場合は、計算で求められた形状となります。

## ○SRC柱

- ・「M-18 断面計算条件」で算定計算が指定されている場合で鉄骨指定計算の場合

主筋は、各荷重の応力より鉄骨負担分を除いた応力により求められた主筋本数が、指定された本数よりも少ない場合は、本項で入力した本数となり、多い場合または指定無しの場合は、計算で求められた本数となります。

帯筋は、せん断の決定方法により求められたせん断補強筋が、指定された帯筋形状よりも少ない場合は、本項で入力した形状となり、多い場合または入力無しの場合は、計算で求められた形状となります。

- ・「M-18 断面計算条件」で算定計算が指定されている場合で鉄筋指定計算の場合

主筋本数は、必ず指定し、各荷重の応力より鉄筋負担分を除いた応力により、鉄骨を逆算します。

帯筋は、せん断の決定方法により求められたせん断補強筋が、指定された帯筋形状よりも少ない場合は、本項で入力した形状となり、多い場合または入力無しの場合は、計算で求められた形状となります。

- ・「M-18 断面計算条件」で検定計算(1)が指定されている場合

各荷重の応力に対して、指定されている鉄骨形状および主筋本数で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。

帯筋は、せん断の決定方法により求められたせん断補強筋が、指定された帯筋形状よりも少ない場合は、本項で入力した形状となり、多い場合または入力無しの場合は、計算で求められた形状となります。

- ・「M-18 断面計算条件」で検定計算(2)が指定されている場合

各荷重の応力に対して、指定されている鉄骨形状および主筋本数で不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。

帯筋は、せん断の決定方法により求められたせん断補強筋が、指定された帯筋形状で、不足しないかが検討され、不足する場合は、メッセージが出力されます。帯筋が指定されていない場合は、計算で求められた形状となります。

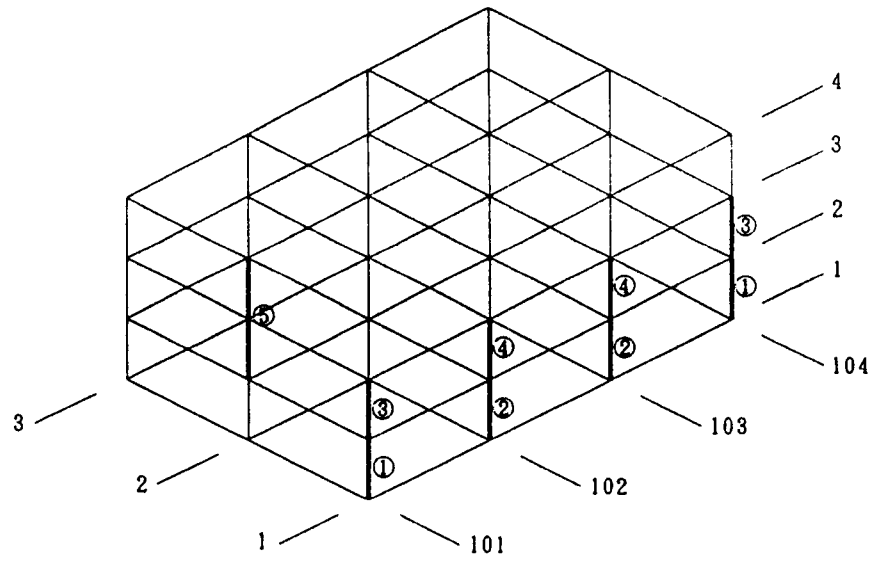
- (2) 主筋材種、径、 $d_l$ 、帯筋材種および径については、「M-39 柱部材形状 (RC, SRC)」での入力値によります。また、帯筋本数を入力した場合は、「M-39 柱部材形状 (RC, SRC)」での、帯筋本数の入力値を無視します。

M-29 柱主筋配置 (RC, SRC)

「M-28 柱主筋形状 (RC, SRC)」で入力した柱鉄筋を配置します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	主筋を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	ﾌﾚｰﾑ (J1)	主筋を配置するﾌﾚｰﾑ
4	ﾌﾚｰﾑ (J2)	J1ﾌﾚｰﾑからJ2ﾌﾚｰﾑまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	主筋を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)
7	柱脚	柱脚の「M-28 柱鉄筋形状 (RC, SRC)」で入力した柱鉄筋形状番号
8	柱頭	柱頭の「M-28 柱鉄筋形状 (RC, SRC)」で入力した柱鉄筋形状番号

- (1) 本項は、柱主筋本数および、帯筋を直接指定する箇所に配置します。
- (2) 多階にまたがる柱に指定する場合は、同一データを配置します。
- (3) 重複配置をした場合は、後のデータが優先されます。
- (4) 7,8 項を「0」として配置した場合は、既に配置されているデータを除く処理となります。



	層	層	7 $\nu$ - $\Delta$	7 $\nu$ - $\Delta$	軸	軸	柱脚~
①	1	2	1	1	101	104	-
②	1	2	1	1	102	103	-
③	2	3	1	1	101	104	-
④	2	3	1	1	102	103	-
⑤	2	4	2	2	101	101	-

図 5 20 柱鉄筋配置

M - 30 アンカー耐力 (SRC)

SRC 柱の断面計算で使用するアンカー耐力を入力します。

項 目		説 明	単 位
1	形状NO.	アンカー耐力形状番号 (1~99)	
2	sNX	アンカー X 方向許容軸方向力	t
3	sQX	アンカー X 方向許容せん断力	t
4	sMX	アンカー X 方向許容曲げモーメント	t $\cdot$ m
5	sNY	アンカー Y 方向許容軸方向力	t
6	sQY	アンカー Y 方向許容せん断力	t
7	sMY	アンカー Y 方向許容曲げモーメント	t $\cdot$ m

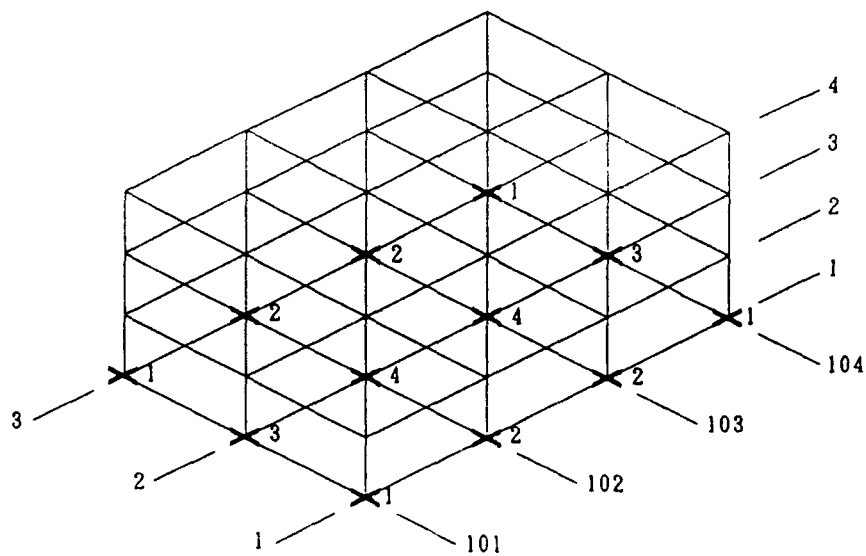
- (1) 本項は、SRC 柱の柱脚の断面計算時にアンカー耐力を使用する場合に入力します。入力値は、長期許容耐力として取り扱います。

M-31 アンカー耐力配置 (SRC)

「M-30 アンカー耐力 (SRC)」で入力したベースプレート形状を柱に配置します。

項目		説明
1	層	ベースプレートを配置する層
2	フレーム (J1)	ベースプレートを配置するフレーム
3	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
4	軸 (K1)	ベースプレートを配置する軸
5	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)
6	形状NO.	「M-30 アンカー耐力 (SRC)」で入力したアンカー耐力形状番号

- (1) 本項は、柱脚の断面計算にアンカー耐力を考慮する箇所に配置します。
- (2) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (3) 6項を「0」として配置をした場合は、既に配置されているデータを除く処理となります。



層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO.
1	1	3	101	104	1
1	1	3	102	103	2
1	2	2	101	104	3
1	2	2	102	103	4

図 5 21 アンカー耐力配置

M-32 鋼材形状 (SRC)

SRC 造で使用する鋼材形状を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位
1	鋼材NO.	鋼材テーブル番号 (4001~5000)	
2	A1	上側(左側)端空き	125 mm
3	A2	下側(右側)端空き	A1 mm
4	B	幅	200 mm
5	t1	ウェブ板厚	mm
6	t2	フランジ板厚	mm

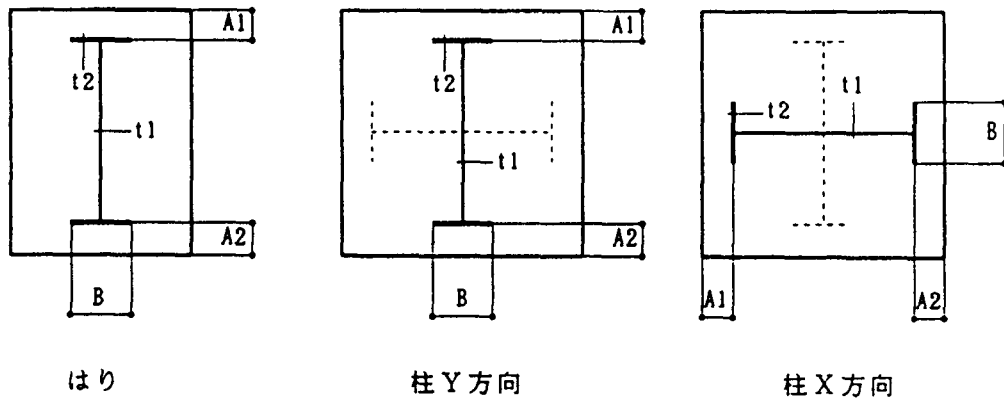


図 5.22 鋼材形状

- (1) 本項は、SRC で使用する鋼材で、端空きより部材せいを決定する鋼材を登録します。ただし、全てBHとします。
- (2) 2,3 項は、部材端からの空きとします。3 項を「0」とすると2 項と同一になります。
- (3) 「M-18 断面計算条件 (RC, SRC)」において、算定計算で鉄筋指定計算を選択している場合は、5,6 項を「0」と入力すると、必要厚さを求める計算となります。「0」以外の場合は、内部で求めた厚さと比較し、入力値の方が大きい場合は入力値となり、入力値の方が小さい場合は、計算値となります。  
鉄骨指定計算の場合は、5,6 項は必ず入力します。

M - 33 はり鉄骨形状 (SRC)

SRC はり鉄骨形状を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位								
1 形状NO.	はり鉄骨形状番号 (1 ~ 99)										
2 C TBL	中央の鋼材テーブル番号										
3 L TBL	左端の鋼材テーブル番号	C TBL									
4 R TBL	右端の鋼材テーブル番号	C TBL									
5 C MAT	中央の鋼材の材種を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>ラッダー ウェブ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SS400 - SS400</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SM490 - SS400</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SM490 - SM490</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	ラッダー ウェブ	1	SS400 - SS400	2	SM490 - SS400	3	SM490 - SM490	1	
入力値	ラッダー ウェブ										
1	SS400 - SS400										
2	SM490 - SS400										
3	SM490 - SM490										
6 L MAT	左端の鋼材の材種を表より選択 (5項に同じ)	C MAT									
7 R MAT	右端の鋼材の材種を表より選択 (5項に同じ)	C MAT									
8 LJ	柱心からのはり左継手位置までの距離		cm								
9 RJ	柱心からのはり右継手位置までの距離		cm								
10 継手	継手テーブル番号										

(1) 本項は、SRC はりの鉄骨形状を入力します。

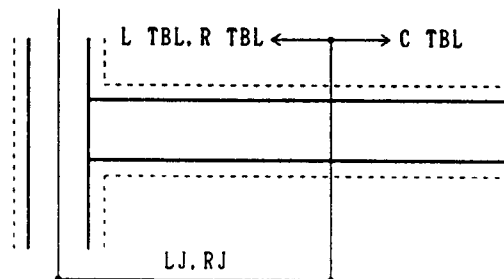


図 5.23 はり鉄骨形状

(2) 8, 9 項を入力すると継手位置での計算を行います。

(3) 10項を省略すると、継手の計算を省略します。



M-34 はりせん断計算方法 (RC, SRC)

RC, SRCはりのせん断計算方法を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位																								
1	条件NO.	はりせん断計算条件番号 (1~99)																									
2	計算方法	地震時設計せん断力の計算方法 2																									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">入力値</th> <th style="width: 85%;">計算方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td><math>QD = QL + n \cdot QE</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td><math>QD = Q_0 + \alpha \sum My / L_0</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>1と2を比較して小さい方</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">RCはりQDの計算方法</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">入力値</th> <th style="width: 85%;">計算方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td><math>rQD = rQL + \frac{rM1 + rM2}{L_0}</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td><math>rQD = 2(Q - sQD)</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>1と2を比較して小さい方</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td><math>rQD = \frac{rMD}{M} Q_0 + \frac{rM1 + rM2}{L_0}</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td><math>rQD = \frac{rMD}{M} (Q_0 + 2 \cdot QE)</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>4と5を比較して小さい方</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td><math>rQD = \frac{rMD}{M} Q</math></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">SRCはりQDの計算方法</p>				入力値	計算方法	1	$QD = QL + n \cdot QE$	2	$QD = Q_0 + \alpha \sum My / L_0$	3	1と2を比較して小さい方	入力値	計算方法	1	$rQD = rQL + \frac{rM1 + rM2}{L_0}$	2	$rQD = 2(Q - sQD)$	3	1と2を比較して小さい方	4	$rQD = \frac{rMD}{M} Q_0 + \frac{rM1 + rM2}{L_0}$	5	$rQD = \frac{rMD}{M} (Q_0 + 2 \cdot QE)$	6	4と5を比較して小さい方	7	$rQD = \frac{rMD}{M} Q$
入力値	計算方法																										
1	$QD = QL + n \cdot QE$																										
2	$QD = Q_0 + \alpha \sum My / L_0$																										
3	1と2を比較して小さい方																										
入力値	計算方法																										
1	$rQD = rQL + \frac{rM1 + rM2}{L_0}$																										
2	$rQD = 2(Q - sQD)$																										
3	1と2を比較して小さい方																										
4	$rQD = \frac{rMD}{M} Q_0 + \frac{rM1 + rM2}{L_0}$																										
5	$rQD = \frac{rMD}{M} (Q_0 + 2 \cdot QE)$																										
6	4と5を比較して小さい方																										
7	$rQD = \frac{rMD}{M} Q$																										
3	n	QEの割増し値	2 0																								
4	$\alpha$	QUの割増し値	下記(3)参照																								

5	処理方法	短期設計用せん断力計算用スパンの処理方法を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>処理内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「M-18 断面計算条件 (RC, SRC)」での入力による</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フェイスの内法長さ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>剛域の内法長さ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6項入力値による</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処理内容	1	「M-18 断面計算条件 (RC, SRC)」での入力による	2	フェイスの内法長さ	3	剛域の内法長さ	4	6項入力値による	1	
入力値	処理内容													
1	「M-18 断面計算条件 (RC, SRC)」での入力による													
2	フェイスの内法長さ													
3	剛域の内法長さ													
4	6項入力値による													
6	Lo	せん断力計算用スパン長さ		cm										
7	付着処理	RC造はりの付着の検討方法を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>付着処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>せん断力より必要周長を求め鉄筋本数により検討</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ld (算定断面位置から鉄筋端までの長さ)を算出</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	付着処理	1	せん断力より必要周長を求め鉄筋本数により検討	2	ld (算定断面位置から鉄筋端までの長さ)を算出	2					
入力値	付着処理													
1	せん断力より必要周長を求め鉄筋本数により検討													
2	ld (算定断面位置から鉄筋端までの長さ)を算出													

- (1) 本項は、RC, SRC造はりの短期計算用せん断力の計算方法を入力します。
- (2) 2項により地震時設計せん断力の計算方法 (RC部分) が決定されます。
- (3) 3, 4項は、RC造はりに対してのみ有効です。4項において「0」として入力した場合は、断面計算ルートが 2-3の場合は 1.1となり、それ以外の場合は 1.0となります。
- (4) 5項により、せん断計算用スパン長さが決まります。
- 1の場合 「M-18 断面計算条件 (RC, SRC)」の地震時計算モーメントの算定位置の内法長さとする。
- 2の場合：柱の内法長さとする。
- 3の場合：剛域の内法長さとする。ただし、剛性計算により剛域を無視した場合は、剛域長さは「0」となっているため、はり長さとなります。
- 4の場合：6項の入力値とする。6項が「0」の場合は、はり長さとなります。
- (5) 7項により、付着に対する検討方法がきまります。「1」を選択した場合は、モーメントより求めた本数が付着に対して不足する場合は、主筋本数を増やし付着検討を行います。

M-35 はり部材形状 (RC, SRC)

RC, SRCはりの部材形状を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位												
1	形状NO.	はり部材形状番号 (1~99)													
2	BC	中央はり幅	下記(2)参照 cm												
3	DC	中央はりせい	下記(2)参照 cm												
4	BL	左端はり幅	下記(2)参照 cm												
5	DL	左端はりせい	下記(2)参照 cm												
6	BR	右端はり幅	下記(2)参照 cm												
7	DR	右端はりせい	下記(2)参照 cm												
8	HL	柱面からの左ハンチの長さ	下記(2)参照 cm												
9	HR	柱面からの右ハンチの長さ	下記(2)参照 cm												
10	QLo	両端をピンとした時の左端せん断力	下記(3)参照 t												
11	QRo	両端をピンとした時の右端せん断力	下記(3)参照 t												
12	Mo	両端をピンとした時の中央曲げモーメント	下記(3)参照 tm												
13	計算	dtの計算方法 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>計算方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>直接入力</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>かぶりより計算</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	計算方法	1	直接入力	2	かぶりより計算	1						
入力値	計算方法														
1	直接入力														
2	かぶりより計算														
14	dt	かぶりまたは鉄筋重心位置	5.4 cm												
15	主筋材種	主筋の鉄筋材種を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SR235</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SD235</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SD295</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>SD345</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SD390</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	SR235	2	SD235	3	SD295	4	SD345	5	SD390	3
入力値	材種														
1	SR235														
2	SD235														
3	SD295														
4	SD345														
5	SD390														

16	主筋径	主筋の公称径	25	mm
17	STP 材種	スターラップの鉄筋材種を表より選択 (15項に同じ)	3	
18	STP 本数	スターラップの本数	2	
19	STP 径1	スターラップの公称径 1	13	mm
20	STP 径2	スターラップの公称径 2		mm

- (1) 多スパンに跨るはりの断面計算を行う場合は、本項では、1本の部材としてデータを入力し、「M-36 はり断面計算指定 (RC, SRC)」において、形状番号+1000として配置します。
- (2) 2～9項において、省略した場合は「P-29 はり形状 (RC, SRC)」で入力した値となります。

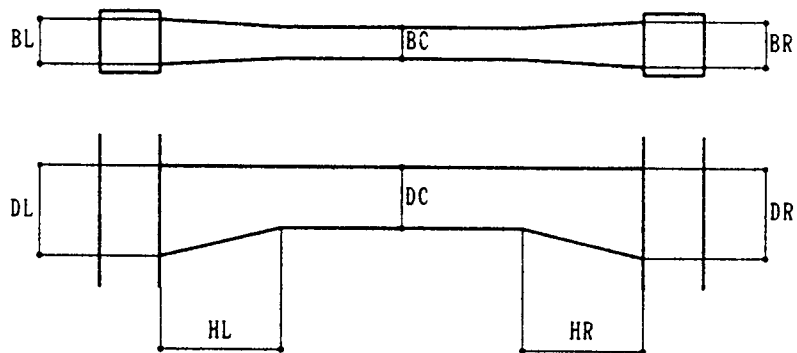


図 5.24 はり部材形状 (RC, SRC)

- (3) 10～12項は、設計せん断力の計算およびSRC はりの鉄骨の継手の計算の際に使用されます。省略した場合は、内部処理されます。
- (4) 13項で「1」を入力した場合は、14項での入力値を  $dt$  として計算に用い、「2」を入力した場合は、14項での入力値をかぶり厚さとし、下式により  $dt$  を求め計算に用います。
- $$dt = (\text{かぶり厚さ}) + [(\text{あばら筋径}) + 0.5 \times (\text{主筋径})] \times 1.1$$
- (5) 14項で「0」を入力した場合、13項が「1」の時は「5」とし、「2」の時は「4」となります。
- (6) 18項は、スターラップの間隔を計算する際に使用します。

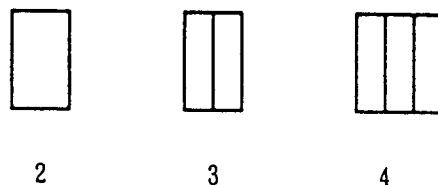


図 5.25 スターラップ本数

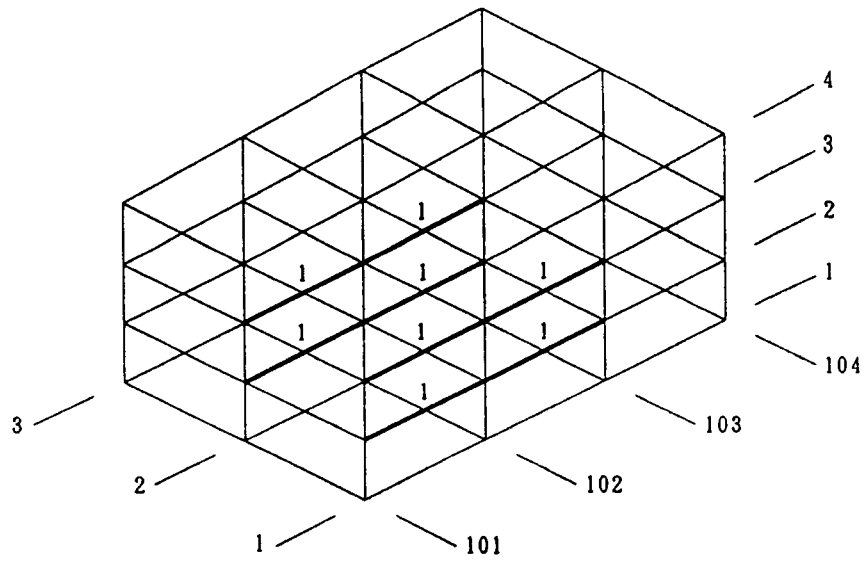
- (7) 19,20 項は、スターラップの径とし、スターラップの間隔を計算する際に使用します。1種類の径で配筋する場合は、19項に径を入力し、20項は「0」とします。2種類の径を交互に配筋する場合は、19,20 項にそれぞれの径を入力します。

M-36 はり断面計算指定 (RC, SRC)

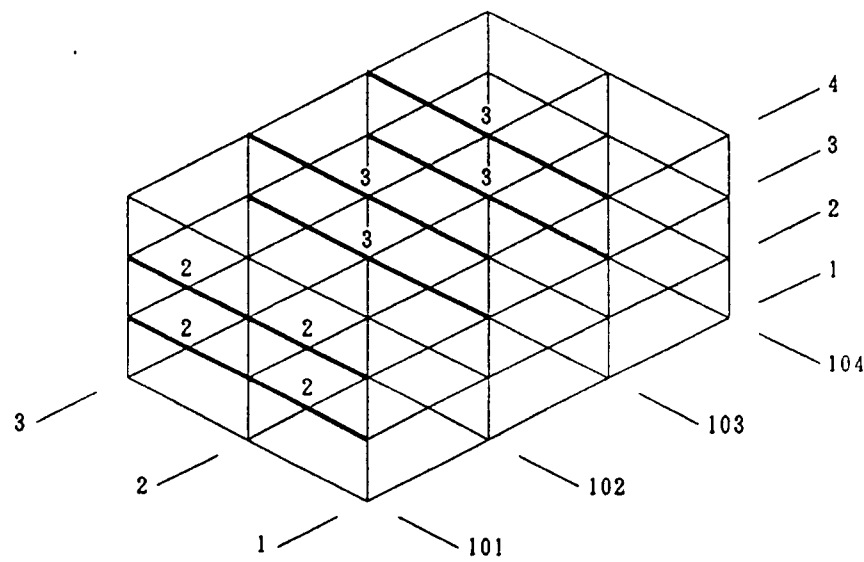
RC, SRCはりの断面計算の範囲を指定します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	断面計算条件を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	断面計算条件を配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	断面計算条件を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	形状NO	「M-35 はり部材形状 (RC, SRC)」で入力したはり部材形状番号
8	QDNO	「M-34 はりせん断計算方法 (RC, SRC)」で入力したはりせん断計算条件番号
9	鉄骨NO.	「M-33 はり鉄骨形状 (SRC)」で入力したはり鉄骨形状番号

- (1) 本項で指定されない箇所のはりは、断面計算を行いません。
- (2) 多スパンに跨がるはりを1本として、断面計算する場合は、「M-35 はり部材形状 (RC, SRC)」で入力した、はり部材形状番号+1000として、1本で計算する範囲毎に配置します。
- (3) RC部材の場合は、9項の入力は無視されます。
- (4) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (5) 7項を「0」として配置した場合は、既に配置されているデータを除く処理となります。



層	層	7レベル	7レベル	軸	軸	形状NO.	QDNO. ~
2	3	1	2	101	103	1	1 -



層	層	7レベル	7レベル	軸	軸	形状NO.	QDNO. ~
2	3	101	101	1	3	2	1 -
3	4	102	103	1	3	1003	2 -

図 5.26 はり断面計算指定 (RC. SRC)

M-37 柱鉄骨形状 (SRC)

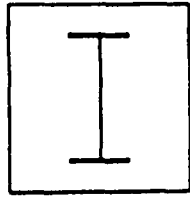
SRC 柱の鉄骨形状を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位								
1	形状NO.	柱鉄骨形状番号 (1~99)									
2	TYP	柱タイプ番号 (図 5.28 参照)									
3	形状指定	柱鉄骨形状を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>形状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>全て SRCとして計算</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>柱頭のみ SRCとして計算</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>柱脚のみ SRCとして計算</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	形状	1	全て SRCとして計算	2	柱頭のみ SRCとして計算	3	柱脚のみ SRCとして計算	1
入力値	形状										
1	全て SRCとして計算										
2	柱頭のみ SRCとして計算										
3	柱脚のみ SRCとして計算										
4	X TBL	X方向の鋼材テーブル番号									
5	Y TBL	Y方向の鋼材テーブル番号									
6	X MAT	X方向の鋼材材種を下表より選択 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>フランジ ケージ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SS400-SS400</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SM490-SS400</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SM490-SM490</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	フランジ ケージ	1	SS400-SS400	2	SM490-SS400	3	SM490-SM490	1
入力値	フランジ ケージ										
1	SS400-SS400										
2	SM490-SS400										
3	SM490-SM490										
7	Y MAT	Y方向の鋼材材種を表より選択 (6項に同じ)	1								
8	a	鉄骨位置 (図 5.27 参照)	mm								
9	b		mm								
10	c		mm								

- (1) 本項は、SRC 柱に使用する鉄骨形状を入力します。
- (2) 「M-18 断面計算条件」で鉄筋指定計算が指定されている場合は、2項は、1~3とします。
- (3) 3項が「2」の場合において、アンカー耐力が配置されている場合は、アンカー耐力を考慮した断面計算となります。
- (4) 2項か、13~15の場合は、X,Y 方向共全断面で断面係数を求めます。



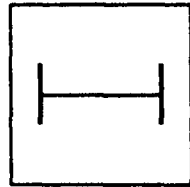
TYP : 1    a, b, c : 0    X 方向 : 0



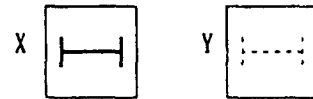
有効断面



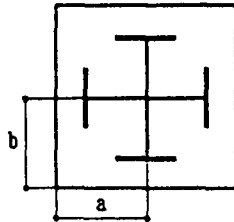
TYP : 2    a, b, c : 0    Y 方向 : 0



有効断面

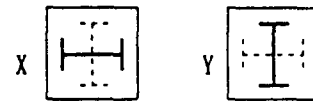


TYP : 3, 13    c : 0

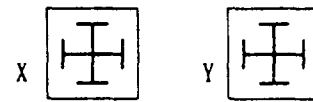


有効断面

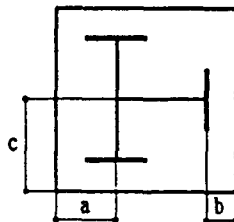
TYP : 3



TYP : 13

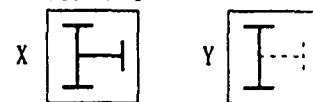


TYP : 4, 14

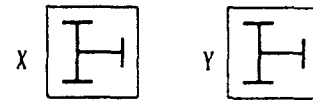


有効断面

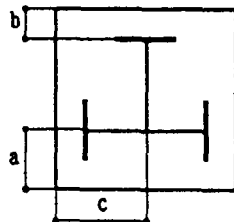
TYP : 4



TYP : 14

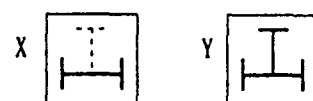


TYP : 5, 15



有効断面

TYP : 5



TYP : 15

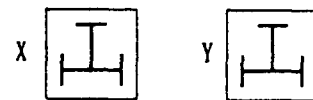


図 5.27 鉄骨タイプ

M-38 柱せん断計算方法 (RC, SRC)

RC, SRC造柱のせん断の計算方法を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位																								
1	条件NO.	柱せん断計算条件番号 (1~99)																									
2	計算方法	せん断の計算方法を下表より選択	3																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">入力値</th> <th style="width: 85%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td><math>QD = QL + n \cdot QE</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td><math>QD = \alpha \sum My / Ho</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>                     1端をはり <math>\sum My \times 0.5</math> 他端を柱 <math>My</math> により求めた <math>QD</math> と 2 を比較して小さい方                      ただし、柱頭または柱脚の上または下に柱が無い場合は、0.5 を 1.0 とする   <math>QD = \alpha \sum My / Ho</math> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>1 と 3 を比較して小さい方</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">RC の QD の計算方法</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">入力値</th> <th style="width: 85%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td><math>rQD = \sum rMy / Ho</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>                     柱頭のはりの <math>\sum My \times 0.5</math> から鉄骨部分の許容曲げモーメントを引いた値 (<math>rM1</math>) と柱脚 <math>My</math> により求めた <math>rQD</math> と 1 を比較して小さい方                      ただし、柱頭の上に柱が無い場合は、0.5 を 1.0 とする   <math display="block">rQD = \frac{rM1 + My}{Ho}</math> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td><math>rQD = 2(Q - sQD)</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>2 と 3 を比較して小さい方</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td><math>rQD = \frac{rMD}{M} (Q_0 + 2 \cdot QE)</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>2 と 5 を比較して小さい方</td> </tr> </tbody> </table>				入力値	内 容	1	$QD = QL + n \cdot QE$	2	$QD = \alpha \sum My / Ho$	3	1端をはり $\sum My \times 0.5$ 他端を柱 $My$ により求めた $QD$ と 2 を比較して小さい方 ただし、柱頭または柱脚の上または下に柱が無い場合は、0.5 を 1.0 とする  $QD = \alpha \sum My / Ho$	4	1 と 3 を比較して小さい方	入力値	内 容	1	$rQD = \sum rMy / Ho$	2	柱頭のはりの $\sum My \times 0.5$ から鉄骨部分の許容曲げモーメントを引いた値 ( $rM1$ ) と柱脚 $My$ により求めた $rQD$ と 1 を比較して小さい方 ただし、柱頭の上に柱が無い場合は、0.5 を 1.0 とする  $rQD = \frac{rM1 + My}{Ho}$	3	$rQD = 2(Q - sQD)$	4	2 と 3 を比較して小さい方	5	$rQD = \frac{rMD}{M} (Q_0 + 2 \cdot QE)$	6	2 と 5 を比較して小さい方
入力値	内 容																										
1	$QD = QL + n \cdot QE$																										
2	$QD = \alpha \sum My / Ho$																										
3	1端をはり $\sum My \times 0.5$ 他端を柱 $My$ により求めた $QD$ と 2 を比較して小さい方 ただし、柱頭または柱脚の上または下に柱が無い場合は、0.5 を 1.0 とする  $QD = \alpha \sum My / Ho$																										
4	1 と 3 を比較して小さい方																										
入力値	内 容																										
1	$rQD = \sum rMy / Ho$																										
2	柱頭のはりの $\sum My \times 0.5$ から鉄骨部分の許容曲げモーメントを引いた値 ( $rM1$ ) と柱脚 $My$ により求めた $rQD$ と 1 を比較して小さい方 ただし、柱頭の上に柱が無い場合は、0.5 を 1.0 とする  $rQD = \frac{rM1 + My}{Ho}$																										
3	$rQD = 2(Q - sQD)$																										
4	2 と 3 を比較して小さい方																										
5	$rQD = \frac{rMD}{M} (Q_0 + 2 \cdot QE)$																										
6	2 と 5 を比較して小さい方																										

		<table border="1"> <tr> <td>7</td> <td><math>r_{QD} = \frac{r_{MD}}{M} Q</math></td> </tr> </table> <p>SRC の QD の計算方法</p>	7	$r_{QD} = \frac{r_{MD}}{M} Q$										
7	$r_{QD} = \frac{r_{MD}}{M} Q$													
3	n	QEの割増し値	20											
4	$\alpha$	QUの割増し値	下記(3)参照											
5	処理方法	<p>短期設計用せん断力計算用階高の処理方法を下表より選択</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>処理内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「M-18 断面計算条件 (RC, SRC)」での入力による</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フェイスの内法長さ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>剛域の内法長さ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6項入力値による</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処理内容	1	「M-18 断面計算条件 (RC, SRC)」での入力による	2	フェイスの内法長さ	3	剛域の内法長さ	4	6項入力値による	1	
入力値	処理内容													
1	「M-18 断面計算条件 (RC, SRC)」での入力による													
2	フェイスの内法長さ													
3	剛域の内法長さ													
4	6項入力値による													
6	Ho	せん断力計算用階高		cm										

- (1) 本項は、RC, SRC造柱の短期計算用せん断力の計算方法を入力します。
- (2) 2項により地震時設計せん断力の計算方法が決定されます。
- (3) 3,4項は、RC造柱に対してのみ有効です。4項を「0」として入力した場合は、断面計算ルートが2-3の場合は1.1となり、それ以外の場合は1.0となります。
- (4) 5項により、せん断用スパン長さの決定方法が決まります。
- 1の場合：「M-18 断面計算条件 (RC, SRC)」の地震時計算モーメントの算定位置の内法高さとする。
- 2の場合 はりの内法高さとする。
- 3の場合：剛域の内法高さとする。ただし、剛性計算により剛域を無視した場合は、剛域高さは「0」となっているため、柱長さとなります。
- 4の場合 . 6項の入力値とする。6項が「0」の場合は、柱長さとなります。

M - 39 柱部材形状 (RC, SRC)

RC, SRC造柱の部材形状を入力します。

項目	説明	省略時解釈	単位												
1	形状NO 柱部材形状番号 (1~99)														
2	DX X方向柱幅	下記(2)参照	cm												
3	DY Y方向柱幅	下記(2)参照	cm												
4	pt 主筋全鉄筋比のチェックについて下表より選択 <table border="1" data-bbox="635 683 1038 880"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>チェックする</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>チェックしない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	処理方法	1	チェックする	2	チェックしない	1							
入力値	処理方法														
1	チェックする														
2	チェックしない														
5	計算 dtの計算方法 <table border="1" data-bbox="635 1008 1038 1205"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>計算方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>直接入力</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>かぶりより計算</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	計算方法	1	直接入力	2	かぶりより計算	1							
入力値	計算方法														
1	直接入力														
2	かぶりより計算														
6	dtX X方向かぶりまたは鉄筋重心位置	5.4	cm												
7	dtY Y方向かぶりまたは鉄筋重心位置	5.4	cm												
8	主筋材種 主筋の鉄筋材種を下表より選択 <table border="1" data-bbox="691 1458 951 1850"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SR235</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SD235</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SD295</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>SD345</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SD390</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	SR235	2	SD235	3	SD295	4	SD345	5	SD390	3	
入力値	材種														
1	SR235														
2	SD235														
3	SD295														
4	SD345														
5	SD390														
9	主筋径 主筋の公称径	25	mm												
10	HOOP材種 帯筋の鉄筋材種を表より選択 (8項に同じ)	3													

11	HOOP X本数	帯筋のX方向本数	2	
12	HOOP Y本数	帯筋のY方向本数	2	
13	HOOP径1	帯筋の公称径1	13	mm
14	HOOP径2	帯筋の公称径2		mm
15	NnX	X方向地震時軸力の割増し値	1 0	
16	NnY	Y方向地震時軸力の割増し値	1 0	

- (1) 多階に跨る柱の断面計算を行う場合は、本項では、1本の部材としてデータを入力し、「M-40 柱断面計算指定 (RC, SRC)」において、形状番号+1000として配置します。
- (2) 2,3項において、省略した場合は「P-32 柱形状 (RC, SRC)」で入力した値となります。

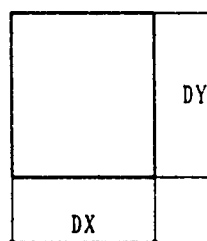


図 5.28 柱形状

- (3) 4項は、RC柱のみに有効です。  
4項において、全鉄筋比のチェックをするかしないか決定され、チェックを行う場合は、下記の pl によりチェックを行います。

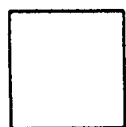
コンクリート断面積	2000cm <sup>2</sup> 以下の場合	...	0.8 %
	8000cm <sup>2</sup> 以上の場合	...	0.5 %
	2000~8000cm <sup>2</sup> の場合	...	直線補間

- (4) 5項で「1」を入力した場合は、6,7項での入力値を dt として計算に用い、「2」を入力した場合は、6,7項での入力値をかぶり厚さとし、下式により dt を求め計算に用います。

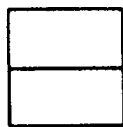
$$dt = (\text{かぶり}) + [(\text{帯筋径}) + 0.5 \times (\text{主筋径})] \times 1.1$$

- (5) 6,7項で「0」を入力した場合、5項が「1」の時は「5」とし、「2」の時は「4」となります。

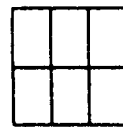
(6) 11.12 項は、帯筋の間隔を求める際に使用します。



X: 2 Y: 2



X: 3 Y: 2



X: 3 Y: 4

図 5.29 HOOP本数

(7) 13.14 項は、帯筋の径とし、帯筋の間隔を計算する際に使用します。1種類の径で配筋する場合は、13項に径を入力し、14項は「0」とします。2種類の径を交互に配筋する場合は、13.14 項にそれぞれの径を入力します。

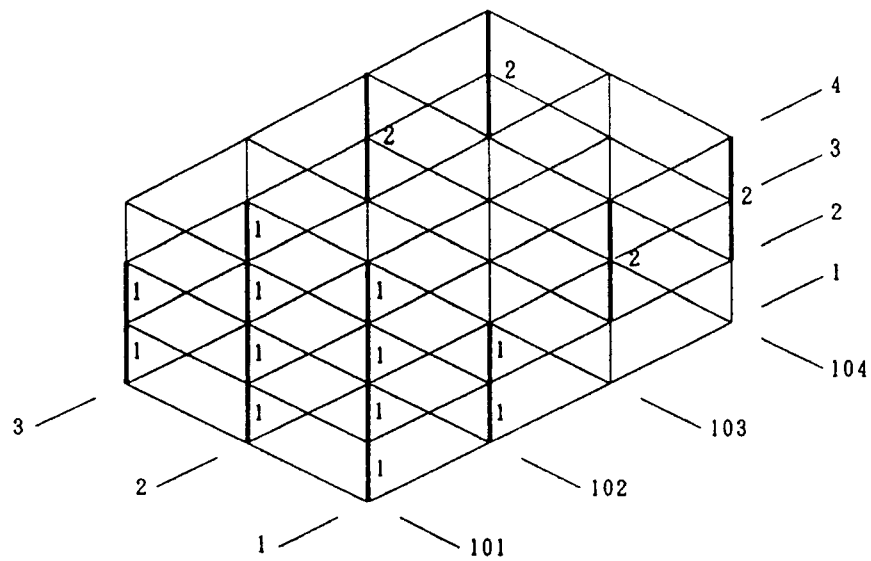
(8) 15.16 項は、終局曲げモーメント計算時に使用されます。

M-40 柱断面計算指定 (RC, SRC)

RC, SRC造柱の断面計算の範囲を指定します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	断面計算条件を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	断面計算条件を配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	断面計算条件を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)
7	形状NO.	「M-39 柱部材形状 (RC, SRC)」で入力した柱部材形状番号
8	QDX NO.	X方向の「M-38 柱せん断計算方法 (RC, SRC)」で入力した柱せん断計算条件番号
9	QDY NO.	Y方向の「M-38 柱せん断計算方法 (RC, SRC)」で入力した柱せん断計算条件番号
10	鉄骨NO.	「M-37 柱鉄骨形状 (SRC)」で入力した柱鉄骨形状番号

- (1) 本項で指定されない箇所の柱は、断面計算を行いません。
- (2) 多階に跨がる柱を1本として、断面計算する場合は、「M-39 柱部材形状 (RC, SRC)」で入力した、柱部材形状番号+1000として、1本で計算する範囲毎に配置します。
- (3) RC部材の場合は、10項の入力は無視されます。
- (4) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (5) 7項を「0」として配置を行った場合は、既に配置されているデータを除く処理となります。



層	層	7レベル	7レベル	軸	軸	形状NO.	QDX NO	～
1	3	1	3	101	102	1	-	
2	4	1	1	103	104	1002	-	
2	4	3	3	103	104	1002	-	

図 5.30 柱断面計算指定 (RC, SRC)



M-41 耐力壁部材形状 (RC)

耐力壁の部材形状を入力します。

項目		説明	省略時解釈	単位												
1	形状NO.	壁部材形状番号 (1~99)														
2	t	耐力壁壁厚	下記(2)参照	cm												
3	n	QEの割増値	2.0													
4	壁筋材種	壁筋の鉄筋材種を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SR235</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SD235</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>SD295</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>SD345</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SD390</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	材種	1	SR235	2	SD235	3	SD295	4	SD345	5	SD390	3	
入力値	材種															
1	SR235															
2	SD235															
3	SD295															
4	SD345															
5	SD390															
5	縦筋	径 1	壁縦筋径 1	13	mm											
6		径 2	壁縦筋径 2		mm											
7		配筋種別	縦筋の配筋種別を下表より選択  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>配筋種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シングル配筋</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>千鳥配筋</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ダブル配筋</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	配筋種別	1	シングル配筋	2	千鳥配筋	3	ダブル配筋	3				
入力値		配筋種別														
1	シングル配筋															
2	千鳥配筋															
3	ダブル配筋															
8	ピッチ	縦筋のピッチ			mm											
9	横筋	径 1	壁横筋径 1	縦筋径 1	mm											
10		径 2	壁横筋径 2		mm											
11		配筋種別	横筋の配筋種別を表より選択 (7項に同じ)	縦筋配筋種別												
12		ピッチ	横筋のピッチ			mm										

13	開口補強筋	縦筋径	開口補強筋の縦筋径	13	mm
14		縦筋 n	開口補強筋の縦筋本数		
15		横筋径	開口補強筋の横筋径	縦筋径	mm
16		横筋 n	開口補強筋の横筋本数		
17		斜筋径	開口補強筋の斜筋径	縦筋径	mm
18		斜筋 n	開口補強筋の斜筋本数		

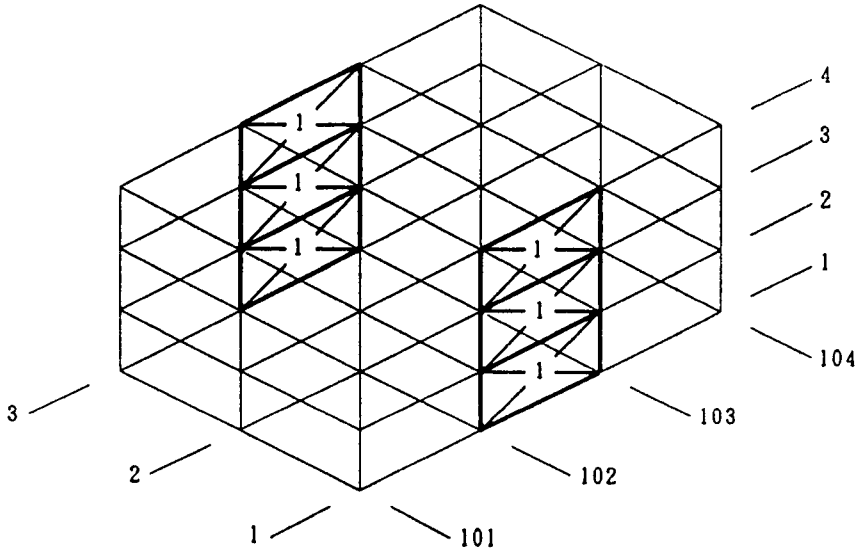
- (1) 本項は、耐力壁の断面計算の条件を入力します。
- (2) 2項において、省略した場合は、「P-34 壁形状 (RC)」で入力した値となります。
- (3) 3項は、設計用せん断力を求める際に使用されます。
- (4) 5,6,9,10項は、壁筋のピッチを求める際に、使用されます。1種類の径で配筋をする場合は、5,9項に径を入力し、2種類の径を交互に配筋する場合は、5,6,9,10項にそれぞれの径を入力します。
- (5) 7,11項は、壁筋のピッチを求める際に、使用されます。
- (6) 8,12項を「0」とすると、設計用せん断力により求めたピッチとなり、0以外の場合は、内部で求めたピッチと比較し、入力値の方が小さい場合は、入力となり、内部処理されたピッチの方が小さい場合は、計算値となります。
- (7) 13~18項は、開口がある場合の開口補強筋として、使用されます。  
14,16,18項において、「0」を入力すると、内部で求めた本数となり、0以外の場合は、内部で求めた本数と入力値を比較して、多い方とします。

M-42 耐力壁断面計算指定 (RC)

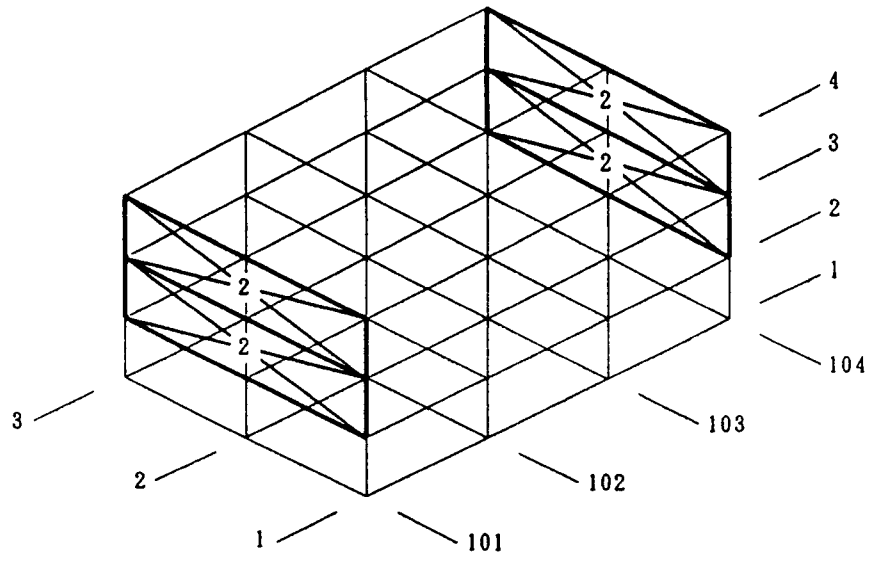
耐力壁の断面計算の範囲を入力します。

項目		説明
1	層 (I1)	断面計算条件を配置する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	断面計算条件を配置するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	断面計算条件を配置する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	形状NO.	「M-41 耐力壁部材形状 (RC)」で入力した耐力壁部材番号

- (1) 本項で指定されない耐力壁は、断面計算を行いません。
- (2) 多スパンに跨がる耐力壁を指定する場合は、同一のデータを配置します。
- (3) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。
- (4) 7項を「0」として配置を行った場合は、既に配置されているデータを除く処理となります。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO
1	4	1	1	102	103	1
1	4	3	3	102	103	1



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	形状NO
2	4	101	101	1	3	2
2	4	104	104	1	3	2

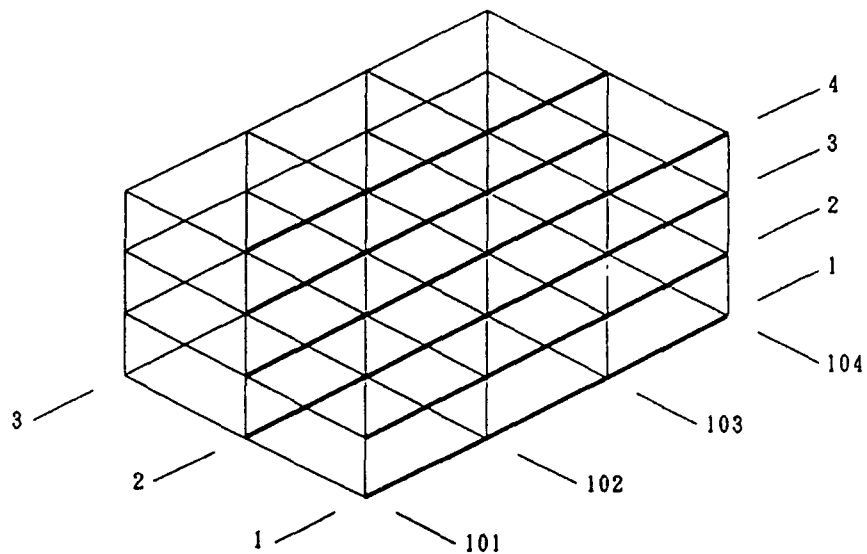
図 5.31 耐力壁断面計算指定

M - 43 はり断面計算出力指定

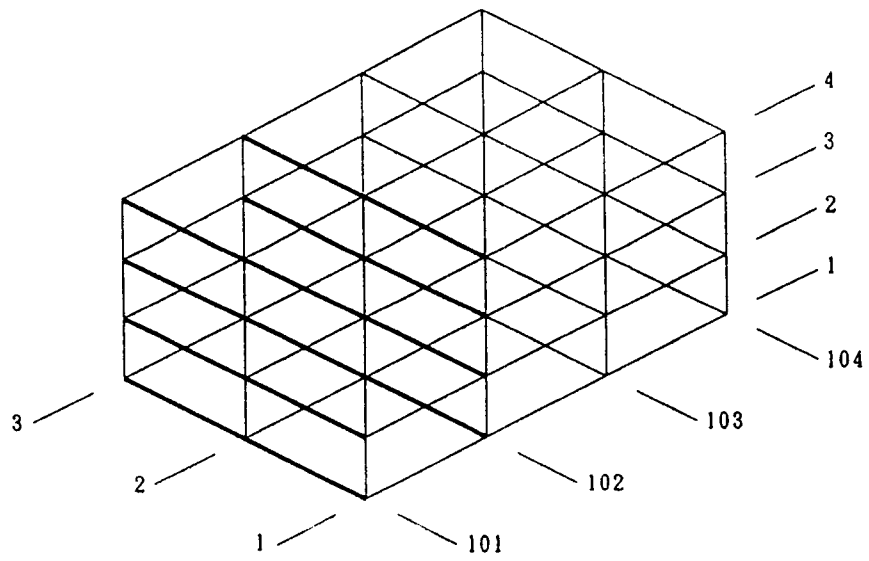
はり断面計算結果の出力範囲を指定します。

項 目		説 明	
1	層 (I1)	出力する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	出力するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	出力する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 < K2)

(1) 本項で指定された範囲のみ、断面計算結果をプリンタに出力します。ただし、なにも指定されていない場合は、全て出力します。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸
1	4	1	2	101	104



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸
1	4	101	102	1	3

図 5.32 はり断面計算出力指定

M-44 柱断面計算出力指定

柱断面計算結果の出力範囲を指定します。

項目		説明
1	層 (I1)	出力する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	出力するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	出力する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)

(1) 本項で指定された範囲のみ、断面計算結果をプリンタに出力します。ただし、なにも指定されていない場合は、全て出力します。

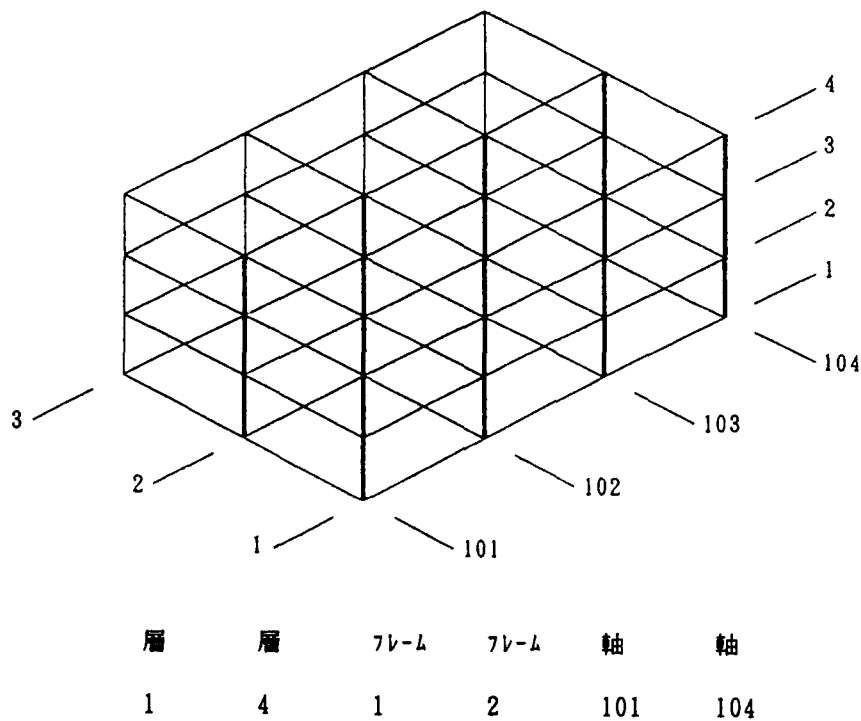


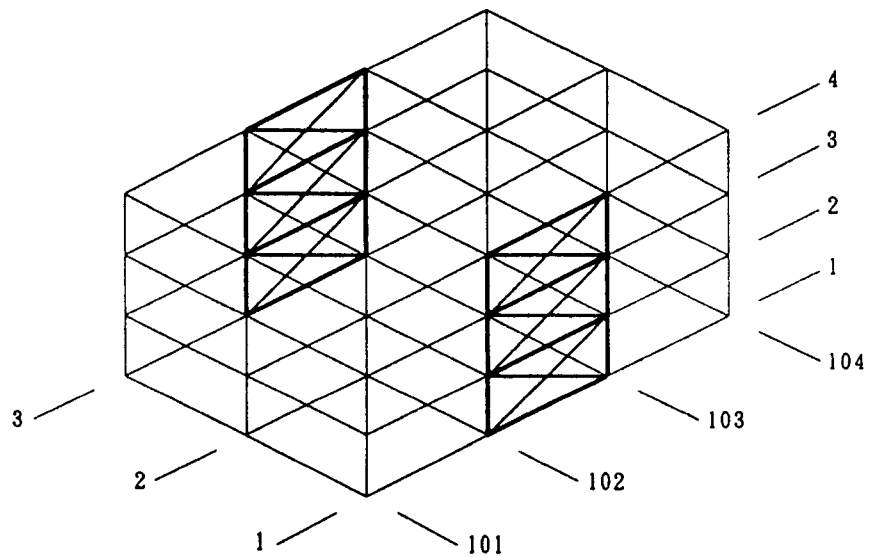
図 5.33 柱断面計算出力指定

M - 45 壁断面計算出力範囲

鉄骨ブレースおよび耐力壁断面計算結果の出力範囲指定を指定します。

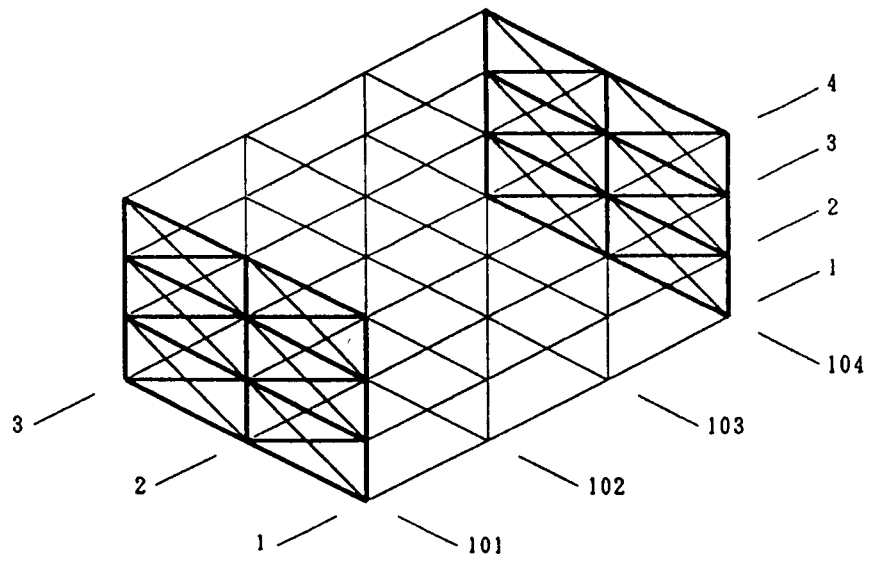
項 目		説 明	
1	層 (I1)	出力する層	
2	層 (I2)	I1層からI2層まで	(I1 < I2)
3	フレーム (J1)	出力するフレーム	
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで	(J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	出力する軸	
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで	(K1 < K2)

(1) 本項で指定された範囲のみ、断面計算結果をプリンタに出力します。ただし、なにも指定されていない場合は、全て出力します。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸
1	4	1	1	102	103
1	4	3	3	102	103





層	層	7v-L	7v-L	軸	軸
1	4	101	101	1	3
1	4	104	104	1	3

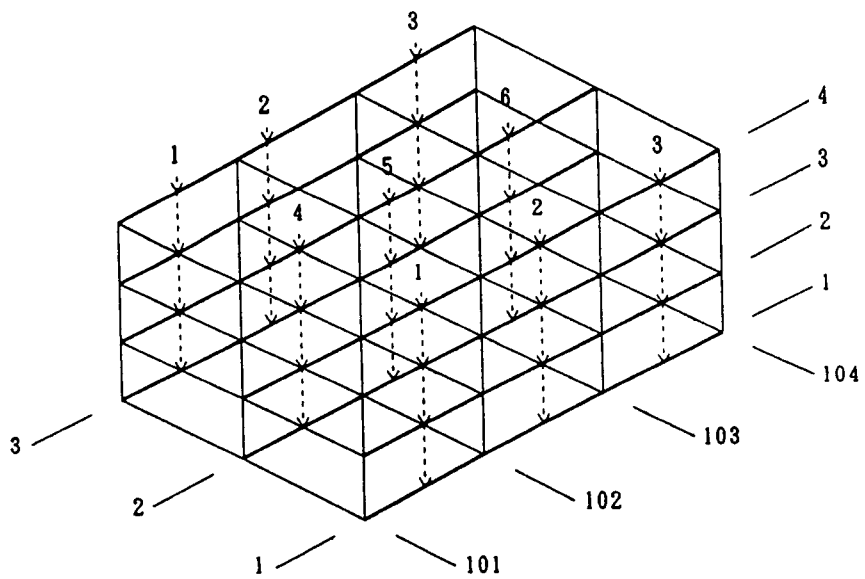
图 5.34 壁断面計算出力指定

M-46 はりグループ指定

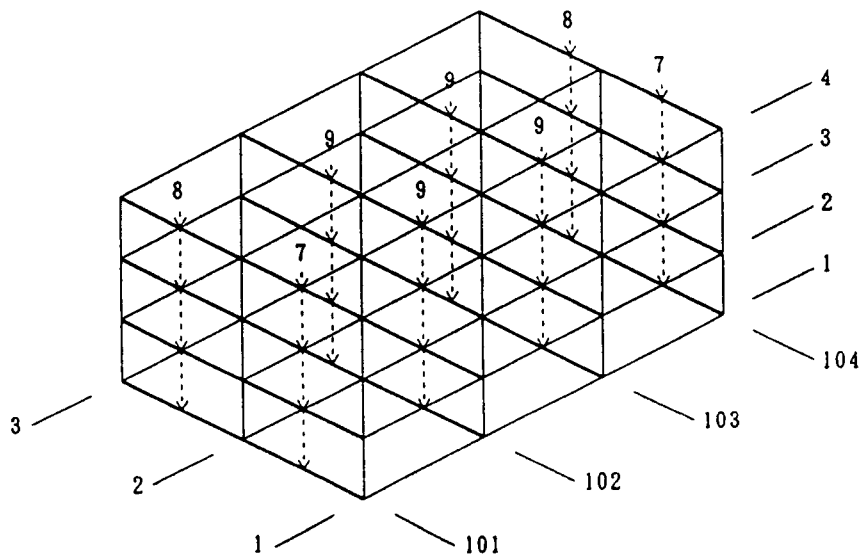
はりのグループ番号を指定します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	グループを指定する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 ≤ I2)
3	フレーム (J1)	グループを指定するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	グループを指定する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	G NO.	はりグループ番号 (1 ~ 50)

- (1) 本項は、断面計算結果をグループ毎にまとめる際に指定します。S造とその他の構造(RC, SRC造)は別々にまとめられますので、各層毎にS造で50種類、その他の構造で50種類までのグループ指定が可能です。
- (2) 指定されたグループ番号毎に、それぞれの各層別に最も不利な結果を出力します。
- (3) 多スパンに跨がるはりを指定する場合は、同一のグループ番号を指定します。
- (4) 部材寸法が異なるものは、必ず異なるグループ番号とします。
- (5) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。



層	層	レベル	レベル	軸	軸	G NO
1	4	1	3	101	102	1
1	4	1	3	102	103	2
1	4	1	3	103	104	3
1	4	2	2	101	102	4
1	4	2	2	102	103	5
1	4	2	2	103	104	6



層	層	レベル	レベル	軸	軸	G NO
1	4	101	104	1	2	7
1	4	101	104	2	3	8
1	4	102	103	1	3	9

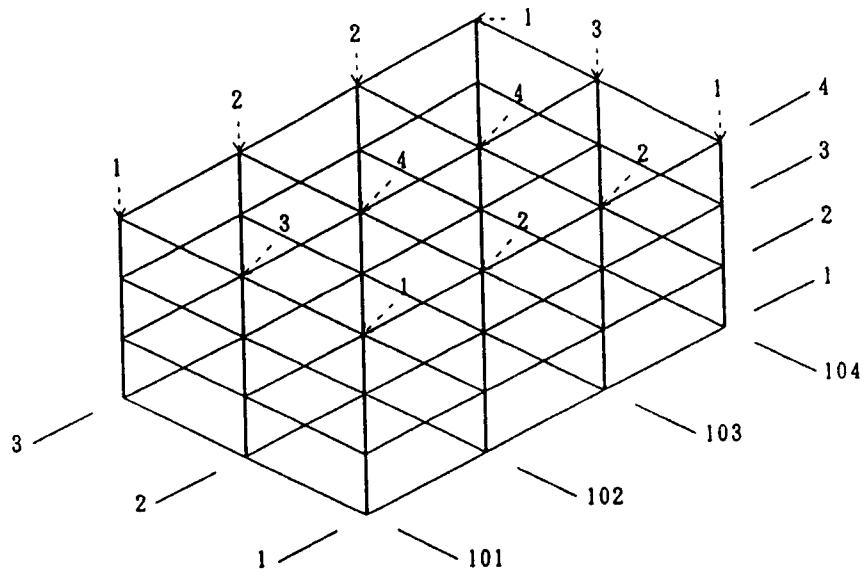
図 5.35 はりグループ指定

M-47 柱グループ指定

柱のグループ番号を指定します。

項 目		説 明
1	層 (I1)	グループを指定する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	グループを指定するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	グループを指定する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 ≤ K2)
7	C NO.	柱グループ番号 (1 ~ 50)

- (1) 本項は、断面計算結果をグループ毎にまとめる際に指定します。S造とその他の構造(RC, SRC造)は別々にまとめられますので、各階毎にS造で50種類、その他の構造で50種類までのグループ指定が可能です。
- (2) 指定されたグループ番号毎に、それぞれの各階別に最も不利な結果を出力します。
- (3) 多階に跨る柱を指定する場合は、同一のグループ番号を指定します。
- (4) 部材寸法が異なるものは、必ず異なるグループ番号とします。
- (5) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。



層	層	7レベル	7レベル	軸	軸	C NO.
1	4	1	3	101	104	1
1	4	1	3	102	103	2
1	4	2	2	101	104	3
1	4	2	2	102	103	4

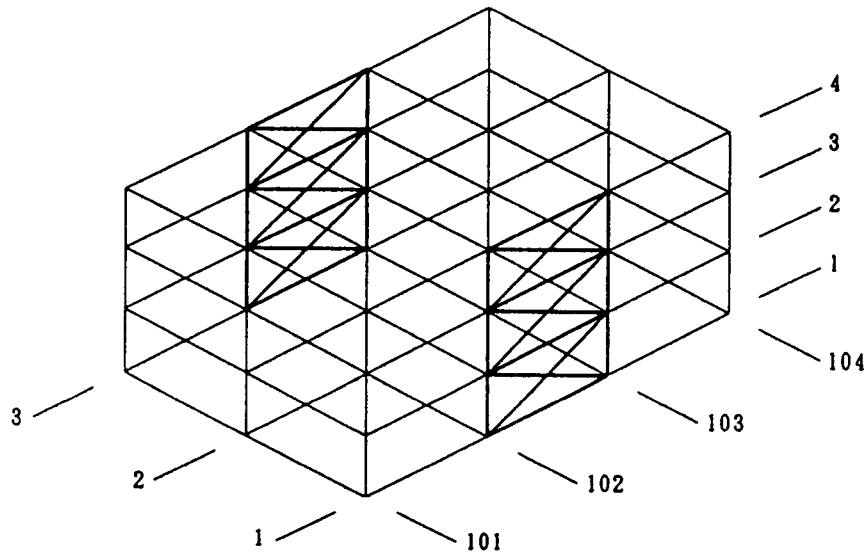
図 5.36 柱グループ指定

M-48 壁グループ指定

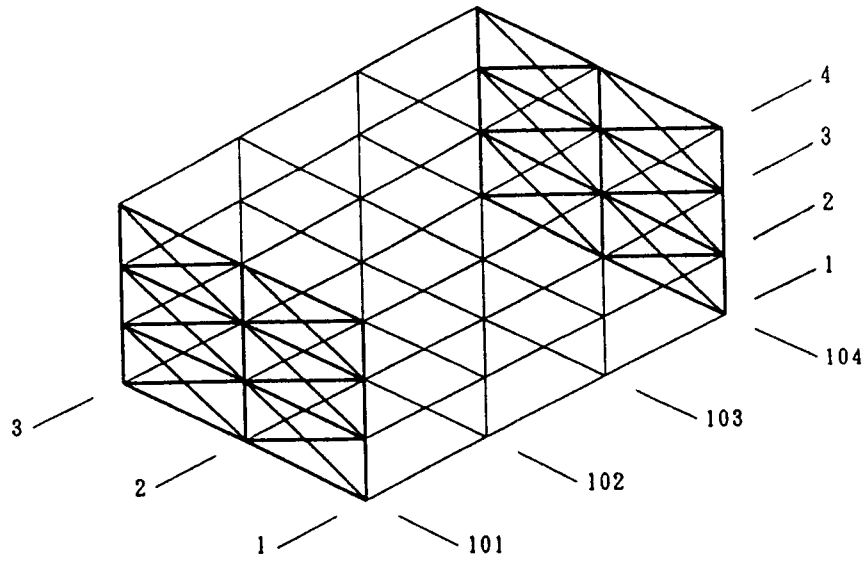
鉄骨ブレースおよび耐力壁のグループ番号を指定します。

項目		説明
1	層 (I1)	グループを指定する層
2	層 (I2)	I1層からI2層まで (I1 < I2)
3	フレーム (J1)	グループを指定するフレーム
4	フレーム (J2)	J1フレームからJ2フレームまで (J1 ≤ J2)
5	軸 (K1)	グループを指定する軸
6	軸 (K2)	K1軸からK2軸まで (K1 < K2)
7	W NO	壁グループ番号 (1~50)

- (1) 本項は、断面計算結果をグループ毎にまとめる際に指定します。ブレースと耐力壁は別々にまとめられますので、各階毎にブレースで50種類、耐力壁で50種類までのグループ指定が可能です。
- (2) 多スパンに跨がる壁を指定する場合は、同一のグループ番号を指定します。
- (3) 部材寸法が異なるものは、必ず異なるグループ番号とします。
- (4) 重複配置を行った場合は、後のデータが優先されます。



層	層	フレーム	フレーム	軸	軸	W NO.
1	4	1	1	102	103	1
1	4	3	3	102	103	1



層	層	7v-4	7v-4	軸	軸	W NO.
1	4	101	101	1	3	2
1	4	104	104	1	3	2

図 5.37 壁グループ指定

M - 49 出力省略指定

出力を省略するか、しないかを入力します。

項 目		説 明	省略時解釈										
1	指定	<p>出力を省略するか、しないかを下表より選択</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力値</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>出力する（記号説明有り）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>簡易出力（記号説明有り）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>簡易出力（記号説明無し）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>出力しない</td> </tr> </tbody> </table>	入力値	内 容	1	出力する（記号説明有り）	2	簡易出力（記号説明有り）	3	簡易出力（記号説明無し）	4	出力しない	下記(2)参照
入力値	内 容												
1	出力する（記号説明有り）												
2	簡易出力（記号説明有り）												
3	簡易出力（記号説明無し）												
4	出力しない												

- (1) 本項の指定によって、プリンタに出力するか、しないかが決定されます。
- (2) 「0」を入力した場合は、大項目は「1」となり、中項目は大項目と同一となり、小項目は中項目と同一となります。
- (3) 大項目を省略した場合は、中の小項目も省略されます。
- (4) 本項の指定を変更した場合は、再度実行する必要があります。





『BST-G89T』入力編

1999年10月 第1版 第2刷

版權所有 株式会社 エー・エス・ディー

〒350-0054 埼玉県川越市三久保町 5-1-404

TEL 049-229-5155